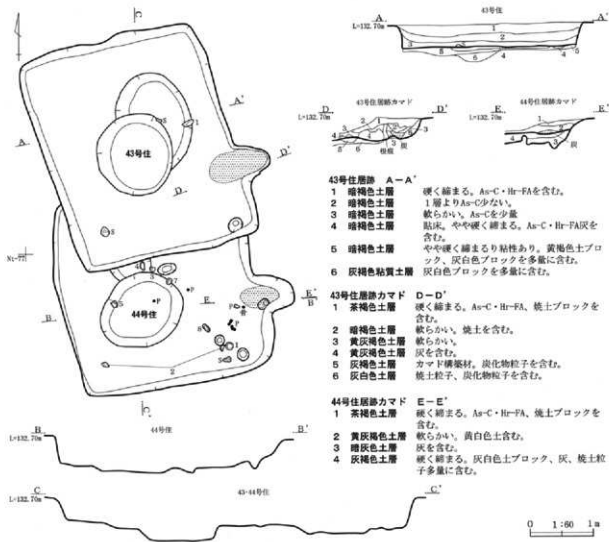


(1) 竪穴住居跡



第232図 43号住居跡・44号住居跡

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の坏や甕の破片が出土している。

時期 8世紀。

44号住居跡 (①第232図②第206・207図、P.L.229・282)

位置 Ns-76・77グリッドにかけて検出された。

43号住居跡と重複している。

形状 一辺約3.2mの正方形を呈するか。

方位 N-80°-E。

壁高 住居跡確認面より約30cmで床面に達する。

床面 やや凹凸がある。現状での面積は約6.1㎡。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の中央やや南に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は竈道方向86cm、両袖方向46cmである。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

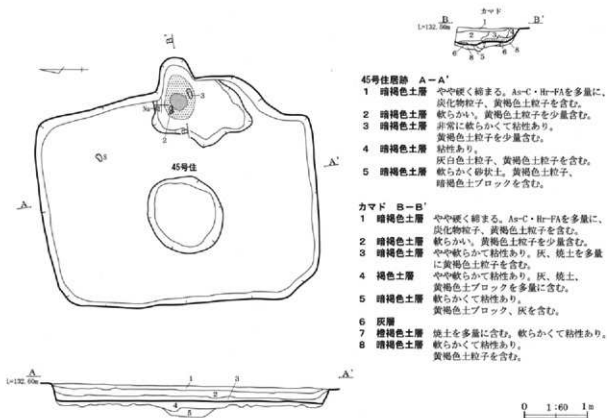
遺物 竈周辺や覆土中から土師器の坏や甕が出土している。

時期 7世紀前半。

45号住居跡 (①第233図③第208図、P.L.230・282)

位置 Nr・Ns-80・81グリッドにかけて検出された。47号住居跡と接している。

形状 長辺約4.4m、短辺約3.1~3.6mの方形を呈



第233図 45号住居跡

する。

方位 N-79°-E。

壁高 住居跡確認面より約20cmで床面に達する。

床面 ほぼ平坦である。面積は約12.8㎡。中央部に土坑。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の中央やや南に位置し、燃烧部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向100cm、両袖方向54cmである。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 竈周辺から少量の遺物が出土している。

時期 7世紀前半。

46号住居跡 (①第234図②第209図、P.L.231・282)

位置 Nr-80・81グリッドにかけて検出された。

57号溝によって壊されている。

形状 現状での長辺約3m、短辺約2.9mである。

方位 N-83°-E。

覆土 6層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約30cmで床面に達する。

床面 ほぼ平坦である。現状での面積は約7.3㎡。中央部の土坑は長径136cm、短径108cm、深さ14cm。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁に位置し、燃烧部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向84cm、両袖方向60cmである。

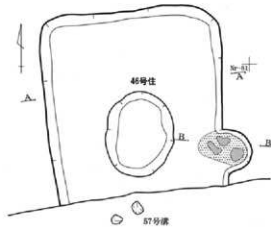
柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の破片が出土している。

時期 8世紀。

(1) 竪穴住居跡



46号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As・C・Hr-Faを多量に、黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 1層より軟らかい。黄褐色土粒子、炭化物粒子、焼土粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土ブロックを含む。
- 4 暗褐色土層 非常に軟らかい。黄褐色土粒子を含む。
- 5 暗褐色土層 粘性あり。
- 6 暗褐色土層 粘性あり。黄褐色土粒子、黄白色土ブロックを含む。

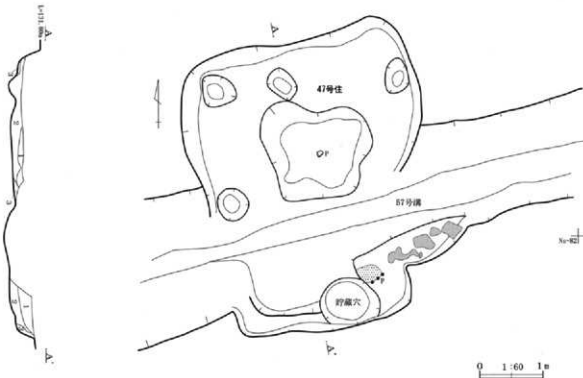
カマド B-B'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As・C・Hr-Faを多量に、黄褐色土粒子を含む。
- 2 灰褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子、黄褐色土粒子を含む。
- 3 灰色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、灰を多量に含む。
- 4 灰層



0 1:60 1m

第234図 46号住居跡



47号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。As・C・Hr-Faを含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄白色粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 粘性あり。黄白色土、赤色土粒子を含む。

57号溝

- 1 暗褐色土層 硬く締まる。As・C・Hr-Fa、焼土を含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかい。砂質土。
- 3 暗褐色土層 軟らかい。As・C・Hr-Faを含む。

0 1:60 1m

第235図 47号住居跡

47号住居跡 (①第235図②第209図、P.L.・282)

位置 Ns・Nt-81・82グリッドにかけて検出された。57号溝によって壊されている。

形状 長辺約4.6m、短辺約2.8～3.8mである。

方位 N-76° - E。

覆土 3層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約26～34cmで床面。

床面 やや凹凸がある。面積は約14.1㎡。中央部に土坑。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の中央やや南に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向138cm、両袖方向は不明である。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 南壁に接して検出。長径97cm、短径72cm、深さ9cmを測る。

遺物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の破片が出土している。

時期 8世紀。

48号住居跡 (①第236図②第209図、P.L.232・282)

位置 Oh-76・77グリッドにかけて検出された。34号溝によって壊されている。また完掘できなかった。

形状 不明。

方位 N-90° - E。

覆土 竈覆土は6層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約12cmで床面に達する。

床面 やや凹凸がある。現状での面積は約1.5㎡。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向134cm、両袖方向62cmである。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 長径44cm、短径42cm、深さ21cmを測る。

遺物 覆土中から少量の土器片が出土している。

時期 8世紀。

49号住居跡 (①第237図②第210図、P.L.232・283)

位置 Nt・Oa-79・80グリッドにかけて検出された。62号・41号・52号住居跡と重複している。

形状 長辺約4.2m、短辺約4.1mの方形を呈する。

方位 N-107° - W。

壁高 住居跡確認面より約30cmで床面に達する。

床面 ほほ平坦である。面積は約15.3㎡。

周溝 検出できなかった。

竈 西壁の中央から南に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向112cm、両袖方向46cmである。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の破片が出土している。

時期 6世紀後半。

62号住居跡 (①第237図、P.L.232)

位置 Nt・Oa-79・80グリッドにかけて検出された。49号住居跡と重複している。

形状 長辺約3.7～3.9m、短辺約2.9～3.2mの方形を呈する。

方位 N-87° - E。

壁高 住居跡確認面より約30～52cmで床面。

床面 やや凹凸がある。面積は約9.8㎡。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の中央から南に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向70cm、両袖方向30cmである。

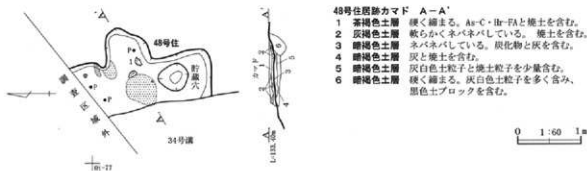
柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 長径56cm、短径46cm、深さ22cmを測る。

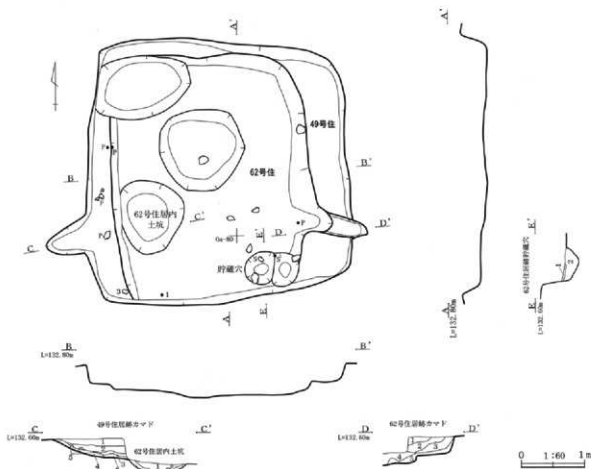
遺物 覆土中から土師器片が少量出土している。

時期 不明。

(1) 壑穴住居跡



第236図 48号住居跡



49号住居跡カマド・62号住居内土坑 C-C'

- 1 暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FA、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 灰、焼土粒子を多く含む。
- 3 褐灰色土層 軟らかくネバネバしている。焼土粒子を少量含む。
- 4 赤褐色土層 焼土、灰を多量に含む。
- 5 灰層 焼土を含む。
- 6 暗褐色土層 軟らかい。灰、焼土、灰白色土ブロックを多く含む。

62号住居内土坑

- 1 暗褐色粘質土層 灰白色土ブロックを含む。
- 2 暗褐色粘質土層 灰白色土ブロックを上層よりも多量に含む。

62号住居跡カマド D-D'

- 1 暗褐色土層 焼土を含む。
 - 2 暗褐色土層 As-C・Hr-FA、焼土を多く含む。
 - 3 褐色土層 焼土粒子を含む。
 - 4 灰褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。
 - 5 灰白色土層 やや硬く締まり粘性あり。
- 灰白色土ブロックを多量に含む。

62号住居跡貯蔵穴 E-E'

- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。炭化物、焼土粒子、黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土ブロックを含む。

第237図 49号住居跡・62号住居跡

50号住居跡 (①第238図②第211図、P.L.237・283)

位置 Oh-77グリッドにおいて検出された。59号住居跡と重複している。

形状 現状では竈部分のみ検出。

方位 N-115° -W。

壁高 住居跡確認面より約39cmで床面に達す。

床面 詳細は不明。

周溝 検出できなかった。

竈 西壁に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向90cm、両袖方向30cmである。支脚(石)が残る。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 竈周辺から少量の遺物が出土している。

時期 不明。

備考 59号住居跡よりも古い。

59号住居跡 (①第238図②第219・220図、P.L.237・284)

位置 Og-Oh-76・77グリッドにかけて検出された。50号住居跡と重複している。

形状 長辺約4.8m、短辺約3.4mの長方形。

方位 N-66° -E。

覆土 8層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約34cmで床面に達する。

床面 はほぼ平坦である。現状での面積は約14㎡。

周溝 北壁と西壁の一部で検出。幅10~22cm、深さ6cmである。

竈 東壁の中央やや南に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向74cm、両袖方向42cmである。構築材が散乱。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 覆土中や竈周辺から土師器の坏や壺、須恵器片が出土している。

時期 7世紀後半。

備考 50号住居跡よりも新しい。

53号住居跡 (①第239図②第213図、P.L.234・283)

位置 Oc-Od-76・77グリッドにかけて検出された。34号住居跡に近接している。

形状 長辺約4.1~4.4m、短辺約4~4.2mの隅丸方形を呈する。

方位 N-85° -E。

覆土 5層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約16~38cmで床面。

床面 凹凸がある。面積は約15.6㎡。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の中央やや南に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向98cm、両袖方向54cmである。

柱穴 4個のビッドが検出された。1は長径30cm、短径28cm、深さ14cm。2は長径28cm、短径18cm、深さ25cm。3は長径18cm、短径14cm、深さ37cm。4は長径26cm、短径24cm、深さ31cm。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 覆土中から土師器の坏や壺、須恵器の壺が出土している。

時期 7世紀。

54号住居跡 (①第240図②第214図、P.L.233・283)

位置 Nr-74・75グリッドにかけて検出された。50号溝によって壊されている。また完掘できなかった。

形状 現状では一辺約2.3mである。

方位 不明。

覆土 2層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約35cmで床面に達する。

床面 凹凸がある。現状での面積は約4.3㎡。

周溝 検出できなかった。

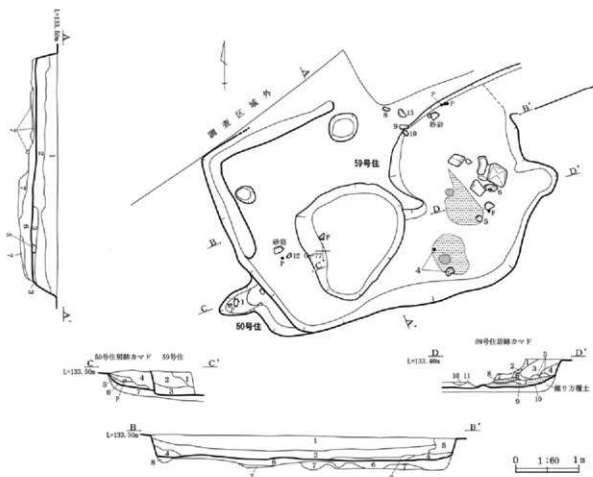
竈 検出できなかった。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 覆土中から少量の土師器片が出土している。

時期 7世紀。



59号住居跡 A-A' B-B'

- 1 暗褐色土層 黄褐色土ブロック、灰白色土ブロック、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。黄褐色土粒子を含む。
- 4 黒褐色土層 軟らかく粘性あり。黄褐色土粒子を含む。
- 5 暗褐色土層 軽石を多量に、黄褐色土粒子を含む。サラサラしている。
- 6 暗褐色土層 粘性あり。黄褐色土粒子を含む。
- 7 黄褐色土層 やや硬く締まり、粘性あり。黄褐色土ブロックを多量に含む。
- 8 暗褐色土層 やや硬く締まり、粘性あり。灰白色土ブロックを含む。

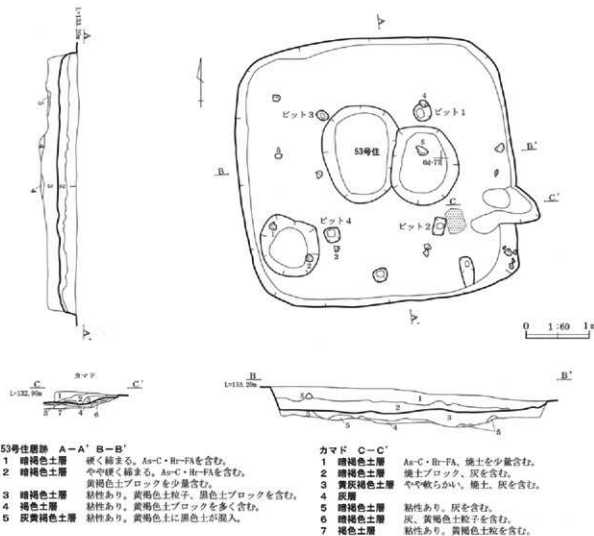
50-59号住居跡カマド C-C'

- 1 暗褐色土層 黄褐色土ブロック、灰白色土ブロック、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。黄褐色土粒子を含む。
- 4 灰褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子、炭化物粒子を含む。
- 5 灰褐色土層 灰白色土ブロック、焼土を多量に含む。
- 6 褐色土層 やや硬く締まる。焼土、炭化物、灰を含む。
- 7 茶褐色土層 焼土、灰を多量に含む。

59号住居跡カマド D-D'

- 1 暗褐色土層 硬く締まる。黄褐色土粒子、灰白色土ブロックを含む。
- 2 灰層 焼土を含む。
- 3 暗褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土ブロック、焼土、炭化物粒子を含む。
- 4 暗褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土粒子、焼土粒子を含む。
- 5 焼土層 やや硬く締まる。焼土、灰、灰白色土ブロックを含む。
- 6 暗褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土粒子、焼土粒子を含む。
- 7 暗褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土粒子、焼土粒子、灰を含む。
- 8 灰層
- 9 褐色土層 焼土を多量に灰を含む。
- 10 灰層 焼土を多量に含む。
- 11 暗褐色土層 褐色土粒子を含む。

第238図 50号住居跡・59号住居跡



第239図 53号住居跡

55号住居跡 (①240図②第215図、P.L.235・283)

位置 Of-78グリッドにおいて検出された。

形状 不明。

方位 N-71°-E。

覆土 竈覆土は3層に分かれた。

壁高 ほとんど検出できなかった。

床面 不明。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向98cm、両袖方向46cmである。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 覆土中から少量の遺物が出土している。

時期 8世紀。

56号住居跡 (①第240図②第215図、P.L.236・283)

位置 Ob・Oc-75・76グリッドにかけて検出された。42号溝によって壊されている。

形状 一辺約3.2mの正方形を呈する。

方位 不明。

覆土 2層に分かれた。

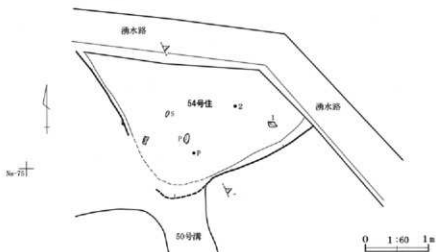
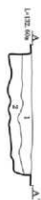
壁高 住居跡確認面より約20cmで床面に達する。

床面 やや凹凸がある。面積は約8.4m²。

周溝 検出できなかった。

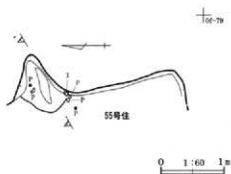
竈 検出できなかったが、袖石1個を確認。42

(1) 竪穴住居跡



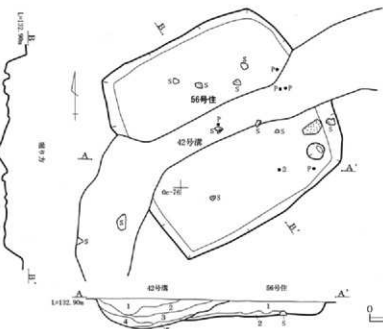
54号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土粒子、炭化物粒子を含む。



55号住居跡カマド A-A'

- 1 暗褐色土層 硬く締まる。灰白色土粒子、灰を含む。
- 2 暗褐色土層 硬く締まる。1層同様であるが、焼土粒子を少量含む。
- 3 褐色土層 焼土粒子を多量に含む。



56号住居跡 A-A'

- 56号住居跡
- 1 暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-F、黄白色土ブロックを含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まる
- 42号溝
- 1 暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-PAを含む。
- 2 暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-PAを含む。
- 3 暗褐色土層 1・2層とほぼ同じ
- 4 暗褐色砂質土層
- 5 暗褐色粘質土層

第240図 54号住居跡・55号住居跡カマド・56号住居跡

号溝によって壊されたものと思われる。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 長径28cm、短径25cm、深さ31cmを測る。

遺 物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器片が出土している。

時 期 7世紀。

57号住居跡 (①第241図第216・217図、P.L.235・283)

位 置 Oa-81、Ob-80~82グリッドにかけて検出された。42号溝・58号住居跡によって壊されている。

形 状 長辺約4.7m、短辺約4.5mの方形を呈する。

方 位 N-66°-E。

覆 土 6層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約50cmで床面に達する。

床 面 ほほ平坦である。現状での面積は約16㎡。

周 溝 検出できなかった。

竈 東壁の中央に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向74cm、両袖方向42cmである。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器片が出土している。

時 期 7世紀前半。

58号住居跡 (①第241図第218図、P.L.238・284)

位 置 Ob・Oc-81グリッドにかけて検出された。

57号住居跡を壊している。

形 状 長辺約3.5m、短辺約2.6mの長方形を呈する。

方 位 N-90°-E。

覆 土 4層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約10~20cmで床面。

床 面 やや凹凸がある。面積は約7.8㎡。長径150cm、短径100cm、深さ10cmの土坑を検出。

周 溝 検出できなかった。

竈 東壁の中央やや南に位置し、燃焼部の多く

は壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向90cm、両袖方向40cmである。袖石が残る。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器片が出土している。

時 期 7世紀後半。

備 考 住居上面の一部を39号溝によって壊されている。

60号住居跡 (①第242図第221図、P.L.239・284)

位 置 Oc-74グリッドにおいて検出された。61号・68号住居跡と重複している。

形 状 現状での長辺約3.7m、短辺約2.9~3.6mの方形を呈するものと思われる。

方 位 N-93°-E。

覆 土 7層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約32~50cmで床面。

床 面 やや凹凸がある。現状での面積は約11㎡。

周 溝 検出できなかった。

竈 東壁の中央やや南に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向66cm、両袖方向30cmである。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器片が出土している。

時 期 9世紀。

61号住居跡 (①第242図第222図、P.L.239・284)

位 置 Oc-74・75グリッドにかけて検出された。

60号住居跡と重複している。

形 状 一辺約3mの正方形を呈する。

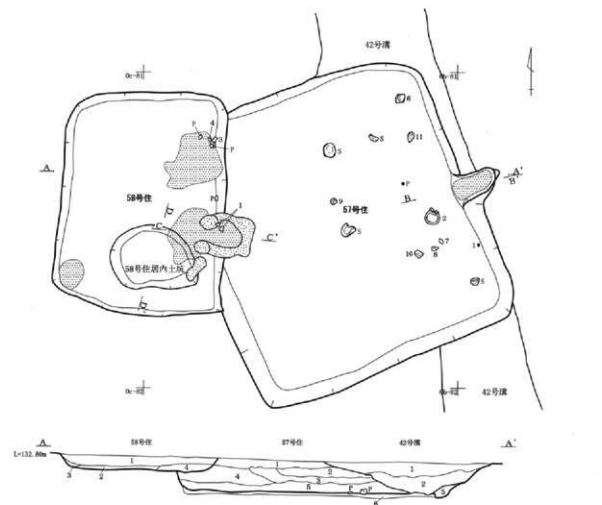
方 位 N-84°-E。

覆 土 2層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約12cmで床面に達する。

床 面 やや凹凸がある。面積は約7.4㎡。

周 溝 検出できなかった。



57・58号住居跡 A-A'

58号住居跡

- 1 暗褐色土層 硬く締まる。As・C・Hr-FA粒を多く含む。
- 2 暗褐色土層 1層と同様であるが、少し砂状。
- 3 暗褐色土層 硬く締まる。灰白色土粒子を含む。
- 4 暗褐色土層 硬く締まる。灰白色土粒子を含む。

57号住居跡

- 1 暗褐色土層 硬く締まる。As・C・Hr-FAを多く含む。
- 2 暗褐色土層 硬く締まる。As・C・Hr-FAを1層多く含む。
- 3 暗褐色土層 As・Hr-FAを含む。
- 4 暗褐色土層 硬く締まる。灰白色土粒子を多く含む。
- 5 暗褐色土層 軟らかい。黄白色土粒子、ブロック含む。
- 6 灰褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。黄褐色土ブロック、灰を多量に含む。

42号溝

- 1 暗褐色土層 硬く締まる。As・C・Hr-FAを含む。砂状土と粘質土の混じり。
- 2 暗褐色土層

58号住居内土坑 D-D'

L=132.80m



58号住居内土坑 D-D'

- 1 暗褐色土層 黄褐色土粒子を少量含む。

58号住居跡カマド C-C'

L=132.80m



58号住居跡カマド C-C'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土粒子を含む。
- 2 赤褐色土層 硬く締まる。焼土主体の層。
- 3 暗褐色土層 上層より軟らかい。焼土、黄褐色土ブロック、灰を含む。
- 4 灰層

57号住居跡カマド B-B'

L=132.80m

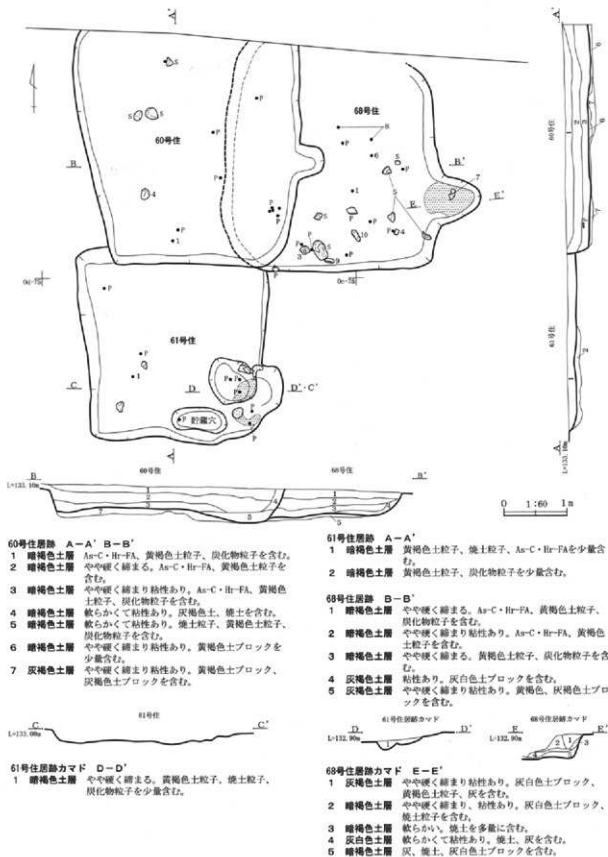


57号住居跡カマド B-B'

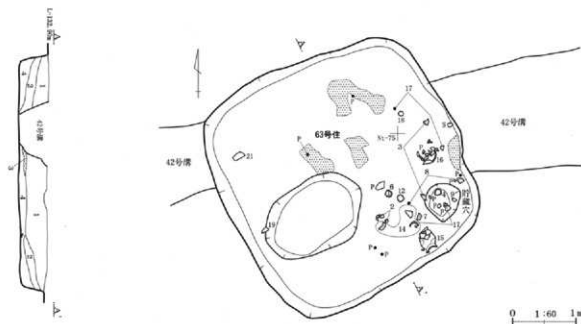
- 1 灰層 焼土を多量に含む。
- 2 灰褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰、焼土粒子を含む。焼土を含む。
- 3 灰層
- 4 暗褐色土層 黄褐色土ブロック、灰を含む。

0 1:60 1m

第241図 57号住居跡・58号住居跡



第242図 60号住居跡・61号住居跡・68号住居跡



63号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As・C・Iir-FA、黄褐色土粒子、炭化物粒子、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかく粘性あり。黄褐色土粒子、炭化物粒子、焼土粒子を含む。
- 3 反層
- 4 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。黄褐色土粒子、白色土ブロックを含む。

第243図 63号住居跡

竈 東壁の南に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向82cm、両軸方向42cmである。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 長径86cm、短径34cm、深さ13cmを測る。

遺 物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の坏や甕の破片が出土している。

時 期 9世紀。

竈 東壁のやや南に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向90cm、両軸方向56cmである。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の坏、埴や甕の破片が出土している。

時 期 8世紀前半。

68号住居跡 (①第242図②第229・230図、P.L.239・286)

位 置 Ob・Oc-74グリッドにかけて検出された。60号住居跡に壊されている。

形 状 現状での長辺約3.6m、短辺約3.5mの方形を呈する。

方 位 N-88° - E。

覆 土 5層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約40cmで床面に達する。

床 面 やや凹凸がある。現状での面積は約6.9㎡。

周 溝 検出できなかった。

63号住居跡 (①第243図②第223~225図、P.L.240・285)

位 置 Ns・Nt-74・75グリッドにかけて検出された。42号溝によって壊されている。

形 状 長辺約3.9m、短辺約3.7mの方形を呈する。

方 位 N-62° - E。

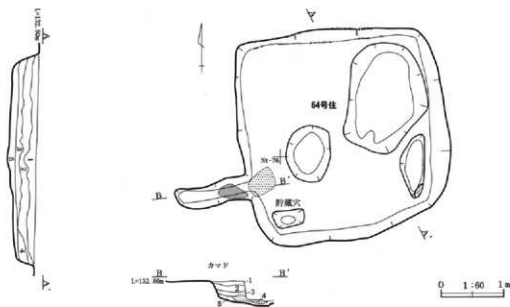
覆 土 4層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約46cmで床面に達する。

床 面 ほほ平坦である。面積は約11.8㎡。

周 溝 検出できなかった。

竈 東壁下に部分的に灰の分布が認められた。



64号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 硬く締まる。灰白色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 硬く締まる。灰白色土粒子、粘性のある黒色土を含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかく、ボソボソしている。黄褐色土ブロックを少量含む。
- 4 暗褐色土層 粘性あり。黄白色土粒子を多量に含む。
- 5 暗褐色土層 灰白色土ブロックを多量に含む。

カマド B-B'

- 1 暗褐色土層 硬く締まる。灰白色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 硬く締まる。灰白色土粒子、焼土を含む。
- 3 暗褐色土層 やや軟らかく、焼土粒子、灰を含む。
- 4 灰層
- 5 暗褐色土層 焼土、灰、黄褐色土ブロックを含む。

第244図 64号住居跡

42号溝によって壊されたものと思われる。東壁下に部分的に灰の分布が認められた。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 長径54cm、短径53cm、深さ7cmを測る。

遺 物 貯蔵穴周辺や南壁寄りから土師器の坏や甕、須恵器の坏、碗や甕の破片が出土している。

時 期 8世紀。

は壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向72cm、両袖方向26cmである。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 長径50cm、短径26cm、深さ15cmを測る。

遺 物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器片が少量出土している。

時 期 不明。

64号住居跡 (①第244図②第226図、P.L.241・286)

位 置 Ns・Nt-75・76グリッドにかけて検出された。43号住居跡に接している。

形 状 一辺約3.1~3.4mの方形を呈する。

方 位 N-95°-W。

覆 土 5層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約30cmで床面に達する。

床 面 やや凹凸がある。面積は約8.9m²。

周 溝 検出できなかった。

竈 西壁の中央やや南に位置し、燃焼部の多く

65号住居跡 (①第245図②第226図、P.L.241・286)

位 置 Oe-75・76グリッドにかけて検出された。

66号・80号住居跡と重複している。

形 状 現状での長辺約3.3m、短辺約2mである。

方 位 N-80°-E。

覆 土 3層確認できた。

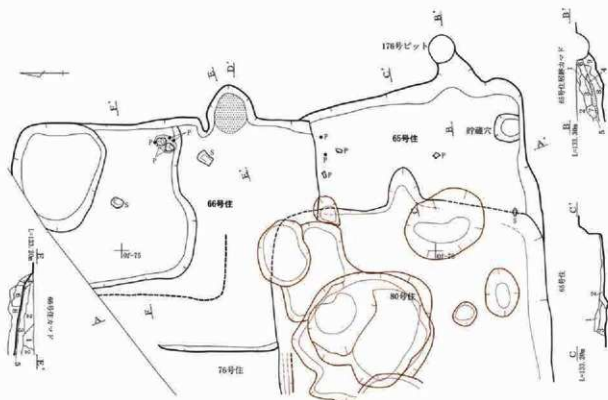
壁 高 住居跡確認面より約40cmで床面に達する。

床 面 やや凹凸がある。

周 溝 検出できなかった。

竈 東壁の南に位置し、燃焼部の一部は壁を掘

(1) 竪穴住居跡



66号住居跡カマド E-E'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、焼土粒子、炭化物を含む。
- 2 褐色土層 やや硬く締まる。焼土を多量に、灰白色土ブロック、黄褐色土粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 上層よりも軟らかくて粘性あり。焼土、灰白色土ブロックを含む。
- 4 焼土層
- 5 灰層
- 6 褐色土層 粘性あり。焼土を多量に含む。
- 7 褐色土層 砂状土。炭化物を少量含む。
- 8 黒色土層 粘性あり。黒色土ブロックを含む。

1:133.30m 66-66号住 A'-A

1:133.30m 66-76号住 D'-D

1:133.30m 66号住 F'-F

65号住居跡カマド B-B'

- 1 赤褐色土層 焼土を多量に含む。
- 2 暗褐色土層 焼土粒子を少量、黄褐色土粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。焼土、黄褐色土粒子、灰を含む。
- 4 焼土層
- 5 灰層
- 6 暗褐色土層 焼土を含む。
- 7 灰白色土層 カマド構築材。
- 8 暗褐色土層 やや軟らかい。焼土、炭化物を含む。
- 9 暗褐色粘質土層

65号住居跡 C-C'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を多量に含む。炭化物粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土層 灰白色土粒子、炭化物粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 炭化物粒子、焼土粒子、黄褐色土粒子を少量含む。

66号住居跡 F-F'

- 1 灰褐色粘質土層 灰白色土粒子を少量含む。
- 2 灰褐色粘質土層 灰白色土粒子を多量に含む。

0 1:60 1m

第245図 65号住居跡・66号住居跡

り込んで造られていたものと思われる。176号ピットによって壊されている。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 明瞭ではなかった。

遺 物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器片が少量出土している。

時 期 不明。

66号住居跡 (①第245図②第227図、P.L.242・266)

位 置 Oe・Of-74・75グリッドにかけて検出された。65号・80号住居跡と重複している。

形 状 現状での長辺約4.5m、短辺約3.7mの長方形を呈する。

方 位 N-93° -E。

覆 土 竈覆土は8層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約30cmで床面に達する。

床 面 やや凹凸がある。

周 溝 検出できなかった。

竈 東壁の中央やや南に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向90cm、両袖方向50cmである。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器片が出土している。

時 期 7世紀。

67号住居跡 (①第246図②第228図、P.L.242・266)

位 置 Oi・Oj-73・74グリッドにかけて検出された。98号住居跡と重複している。

形 状 長辺約6.1m、短辺約5.5mの方形を呈する。

方 位 N-91° -W。

覆 土 竈覆土は4層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約20cmで床面に達する。

床 面 凹凸がある。面積は約31.7㎡。

周 溝 幅12~24cm、深さ3~6cmの溝が全周。

竈 西壁の中央やや南に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向

92cm、両袖方向46cmである。

柱 穴 4個のピットが検出された。1は長径50cm、短径48cm、深さ49cm。2は長径56cm、短径48cm、深さ60cm。3は長径58cm、短径50cm、深さ40cm。4は長径50cm、短径33cm、深さ30cm。

貯蔵穴 長径106cm、短径80cm、深さ70cmを測る。

遺 物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器片が出土している。

時 期 7世紀前半。

98号住居跡 (①第246図、P.L.242)

位 置 Oi・Oj-73・74グリッドにかけて検出された。67号住居跡によって壊されている。

形 状 長辺約5.5m、短辺約5.1mの方形を呈するものと思われる。

方 位 N-90° -W。

壁 高 住居跡確認面より約20cmで床面に達する。

床 面 凹凸がある。

周 溝 幅14~34cm、深さ3cmの溝が部分的に検出できた。

竈 西壁の中央に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込んで造られている。

柱 穴 4個のピットが検出された。1は長径40cm、短径39cm、深さ20cm。2は長径58cm、短径34cm、深さ40cm。3は長径39cm、短径35cm、深さ52cm。4は長径37cm、短径30cm、深さ15cm。

貯蔵穴 不明。

遺 物 検出できなかった。

時 期 不明。

備 考 竈とピットの存在から67号住居跡と重複していることが判明した。

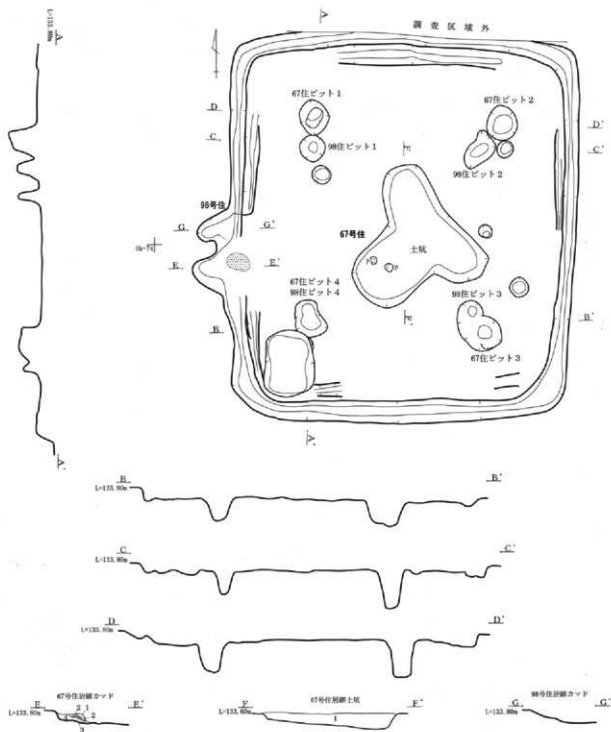
69号住居跡 (①第247図②第231図、P.L.287)

位 置 Oh-73、Oi-73・74グリッドにかけて検出された。67号住居跡に接している。

形 状 東西約3.4m、現状での南北約3.8mである。

方 位 N-66° -E。

覆 土 2層に分かれた。



67号住居跡カマド E-E'

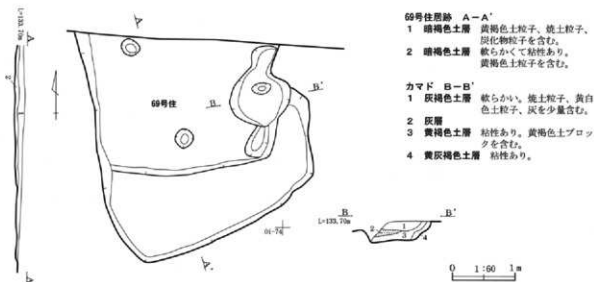
1 灰褐色土層 軟らかくて粘性あり。塵土粒子、灰を少量含む。
 2 焼土層
 3 灰層
 4 黄褐色土層 やや硬く細まり粘性あり。黄褐色土ブロックを少量含む。

67号住居跡土坑 F-F'

1 灰黄褐色土層 黄白色土粒子を多量に含む。

0 1:60 1m

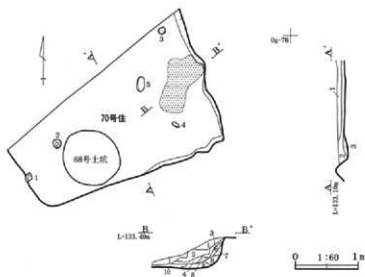
第246図 67号住居跡・98号住居跡



第247図 69号住居跡

壁高 住居跡確認面より約2~12cmで床面。
床面 やや凹凸がある。現状での面積は約9.3㎡。
周溝 検出できなかった。
竈 東壁に位置し、燃焼部の多くは床面を掘り込んで造られている。規模は煙道方向86cm、両袖方向54cmである。
柱穴 検出できなかった。
貯蔵穴 検出できなかった。
遺物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の坏や甕の破片が少量出土している。
時期 8世紀。

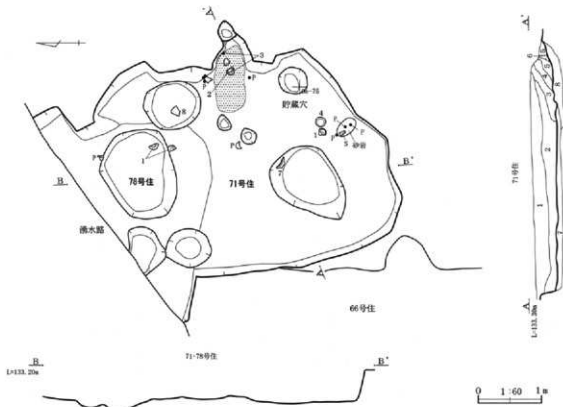
70号住居跡 (①第248図②第231・232図、P.L.243・287)
位置 Og-75・76グリッドにかけて検出された。68号土坑によって壊されている。完掘できなかった。
形状 東西約3.3m、現状での南北約2.2mである。
方位 N-70°-E。
覆土 3層に分かれた。
壁高 住居跡確認面より約10~16cmで床面。
床面 やや凹凸がある。現状での面積は約5.6㎡。
周溝 検出できなかった。
竈 東壁に位置し、燃焼部の多くは床面を掘り込んで造られている。規模は煙道方向60cm、両袖



第248図 70号住居跡

70号住居跡 A-A'
 1 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。黄褐色土ブロックを多量に含む。
 2 暗褐色土層 上層よりも軟らかい。黄褐色土ブロック、炭化物粒子を含む。
 3 暗褐色土層 黄褐色ブロックを含む。

カマド B-B'
 1 暗褐色土層 粘性あり。灰白色土ブロック、黄褐色ブロックを含む。
 2 灰白色土層 軟らかくて粘性あり。
 3 灰褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土を多量に含む。
 4 灰白色土層 軟らかくて粘性非常にあり。焼土を多量に含む。
 5 灰層
 6 黄褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土を多量に含む。
 7 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。黄褐色土粒子を含む。
 8 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、灰を含む。
 9 暗褐色土層 焼土、灰を含む。
 10 暗褐色土層 硬く締まる。焼土粒子、灰、黄褐色土粒子を含む。



71号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、灰白色土粒子、炭化物粒子を含む。
 2 暗褐色土層 上層よりも軟らかくて暗い色調。炭化物粒子、黄褐色土粒子を含む。
 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。炭化物粒子、黄褐色土粒子を含む。

- 4 灰白色土層 やや硬く締まり粘性あり。焼土粒子、灰白色土粒子を含む。
 5 褐色土層 やや硬く締まる。焼土を多量に含む。
 6 灰層
 7 暗褐色土層 黄褐色土粒子を含む。
 8 暗褐色土層 軟らかい。焼土、炭化物を含む。

第249図 71号住居跡・78号住居跡

方向40cmである。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 覆土中から土師器の坏や甕の破片が少量出土している。

時 期 7世紀後半。

71号住居跡 (①第249図②第233・234図、P.L.243・244・287)

位 置 Od-74・75、Oe-75・76グリッドにかけて検出された。78号住居跡と重複している。

形 状 長径約3.4m、短径約3.3mの方形を呈するものと思われる。

方 位 N-60°-E。

覆 土 8層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約38cmで床面に達する。

床 面 やや凹凸がある。現状での面積は約9.4㎡。

周 溝 検出できなかった。

竈 東壁の中央やや南に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向64cm、両袖方向42cmである。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 長径45cm、短径43cm、深さ12cmを測る。

遺 物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の坏、埴や甕が出土している。

時 期 8世紀前半。

78号住居跡 (①第249図②第242図、P.L.244・289)

位 置 Oe-75グリッドにおいて検出された。71号

住居跡と重複している。完掘できなかった。

形状 東西約3.1m、南北約2.8mを確認できた。

方位 不明。

壁高 住居跡確認面より約40cmで床面に達する。

床面 凹凸がある。現状での面積は約4.6㎡。

周溝 検出できなかった。

竈 不明。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の破片が少量出土している。

時期 8世紀前半。

72号住居跡 (①第250図②第255図、P.L.245・287)

位置 Nr-75・76グリッドにかけて検出された。

73号・74号住居跡と重複している。50号溝によって壊されている。

形状 長辺約3.5m、短辺約3mの方形を呈する。

方位 N-75°-E。

覆土 6層(3~8層)に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約40cmで床面に達する。

床面 やや凹凸がある。現状での面積は約9.8㎡。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の中央やや南に位置し、燃焼部の多くは床面に造られている。規模は煙道方向74cm、両袖方向46cmである。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の坏や甕が少量出土している。

時期 7世紀後半。

73号住居跡 (①第250図、P.L.245)

位置 Nr-75・76グリッドにかけて検出された。

72号住居跡によって壊されている。

形状 一辺約3mを確認できた。

方位 不明。

壁高 住居跡確認面より約30cmで床面に達する。

床面 はほぼ平坦である。

周溝 検出できなかった。

竈 不明。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 覆土中から遺物の出土はなかった。

時期 不明。

74号住居跡 (①第250図②第236~239図、P.L.245・246・287・288)

位置 Nq・Nr-76・77グリッドにかけて検出された。72号・82号住居跡と重複している。50号溝によって壊されている。

形状 長辺約6m、短辺約4.7mの長方形を呈する。

方位 N-89°-E。

覆土 6層(3~8層)に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約50cmで床面に達する。

床面 はほぼ平坦である。現状での面積は約18.2㎡。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の中央やや南に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向86cm、両袖方向70cmである。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 竈や覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の坏、埴や甕が出土している。14~17は50号溝の遺物。

時期 8世紀後半。

75号住居跡 (①第251図②第240図、P.L.246・289)

位置 Ns-75グリッドにおいて検出された。42号溝によって壊されている。完掘できなかった。

形状 東西約2.5mを確認できた。

方位 N-83°-E。

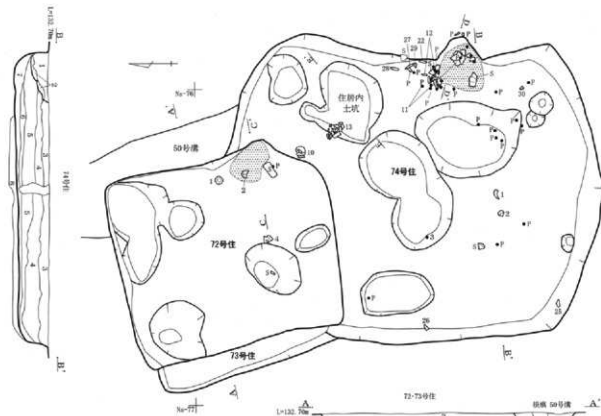
覆土 竈覆土は2層に分かれた。

壁高 はほとんど検出できなかった。

床面 やや凹凸がある。現状での面積は約2.6㎡。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込

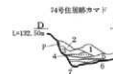


72・73号住居跡 A-A'

- | | |
|-----------|------------------------------|
| 1 暗褐色土層 | 硬く締まる。砂、灰白色土粒子を含む。 |
| 2 暗褐色粘質土層 | 50号溝埋土 |
| 3 暗褐色土層 | 硬く締まる。粘質土ブロック、As-C・Hr-FAを含む。 |
| 4 暗褐色土層 | やや軟らかい。As-C・Hr-FAを含む。 |
| 5 暗褐色土層 | 4層と同様であるが砂質。 |
| 6 暗褐色土層 | 硬く締まる。As-C・Hr-FAを少量含む。 |
| 7 暗褐色砂質土層 | |
| 8 黒褐色粘質土層 | 黄褐色土ブロックを含む。 |

74号住居跡 B-B'

- | | |
|-----------|-------------------------|
| 1 暗褐色土層 | 硬く締まる。灰白色土粒子を含む。 |
| 2 暗褐色粘質土層 | 50号溝埋土 |
| 3 暗褐色土層 | 硬く締まる。 |
| 4 暗褐色土層 | 粘質土ブロック、As-C・Hr-FAを含む。 |
| 5 暗褐色土層 | 軟らかい。As-C・Hr-FA、炭化物を含む。 |
| 6 暗褐色粘質土層 | As-C・Hr-FAを少量含む。 |
| 7 黒褐色粘質土層 | 硬く締まる。 |
| 8 黒褐色粘質土層 | 黄褐色土粒子を少量含む。 |
| 9 黒褐色粘質土層 | 黄褐色土ブロックを含む。 |



72号住居跡カマド C-C'

- | | |
|-----------|--------------------------|
| 1 暗褐色土層 | 硬く締まる。As-C・Hr-FA、炭化物を含む。 |
| 2 暗褐色土層 | 黄白色土とAs-C・Hr-FAを含む。 |
| 3 黄褐色土層 | 軟らかい。白色、黄白色土粒子を多く含む。 |
| 4 黄褐色粘質土層 | |
| 5 黄褐色粘質土層 | 炭化物を含む。 |
| 6 灰層 | |
| 7 暗褐色土層 | 硬く締まる。灰白色土粒子を少量含む。 |
| 8 黄褐色粘質土層 | 黄白色土ブロック混入。 |
| 9 暗褐色粘質土層 | As-C・Hr-FAを少量含む。 |

74号住居跡カマド D-D'

- | | |
|-----------|-----------------|
| 1 黄褐色粘質土層 | 黄白色土粒子、焼土粒子を含む。 |
| 2 黄褐色粘質土層 | |
| 3 黄褐色土層 | 焼土を多量に含む。 |
| 4 灰層 | |
| 5 黄褐色土層 | |
| 6 灰層 | |
| 7 褐色土層 | 焼土を少量含む。 |

74号住居跡内土坑 E-E'

- | | |
|-----------|------------|
| 1 暗褐色粘質土層 | 黄白色土粒子を含む。 |
|-----------|------------|

0 1:60 1m

第250図 72号住居跡・73号住居跡・74号住居跡



75号住居跡 A-A'
 1 褐色土層 やや軟らかい、焼土を含む。
 2 暗褐色土層 やや軟らかい、焼土、炭化物を含む。

第251図 75号住居跡

んで造られている。規模は煙道方向114cm、両袖方向62cmである。

柱穴 検出できなかつた。

貯蔵穴 検出できなかつた。

遺物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の坏や甕の破片が少量出土している。

時期 9世紀後半。

79号住居跡 (①第252・253図②第243-246図、P.L.246・247・289・290)

位置 Ns・Nt-78・79グリッドにかけて検出された。35号住居跡に近接している。

形状 長辺約5.2m、短辺約4.3mの方形を呈する

覆土 上層からHr-FA、床面上からAs-C層を検出。

壁高 住居跡確認面より約90cmで床面に達する。

床面 ほぼ平坦である。面積は約17.7㎡。

周溝 検出できなかつた。

炉 不明。

柱穴 4個のピットを検出した。1は長径35cm、短径33cm、深さ19cm。2は長径32cm、短径31cm、深さ16cm。3は長径40cm、短径35cm、深さ15cm。

4は長径46cm、短径38cm、深さ20cmである。

貯蔵穴 南壁下から長径53cm、短径39cm、深さ28cmのピットを検出。周囲に床面の高まりが認められる。

遺物 覆土中(5-6層)から多量の土器が出土した。

時期 3世紀終末-4世紀。

80号住居跡 (①第254図、P.L.248)

位置 Oe・Of-75・76グリッドにかけて検出された。65号・66号・76号住居跡と重複している。

形状 長辺約5.2m、短辺約4.4mの長方形。

方位 N-85°-E。

覆土 4層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約43cmで床面に達する。

床面 やや凹凸がある。面積は約19.7㎡。

周溝 北壁と西壁の一部で検出。幅10-16cm、深さ2-4cmである。

竈 東壁のほぼ中央に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向76cm、両袖方向38cmである。

柱穴 検出できなかつた。

貯蔵穴 不明。

遺物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の甕の破片が出土している。

時期 不明。

81号住居跡 (①第255図②第247図、P.L.246・291)

位置 Of・Og-76・77グリッドにかけて検出された。80号住居跡によって壊されている。

形状 長辺約6.2m、短辺約4.3mの長方形。

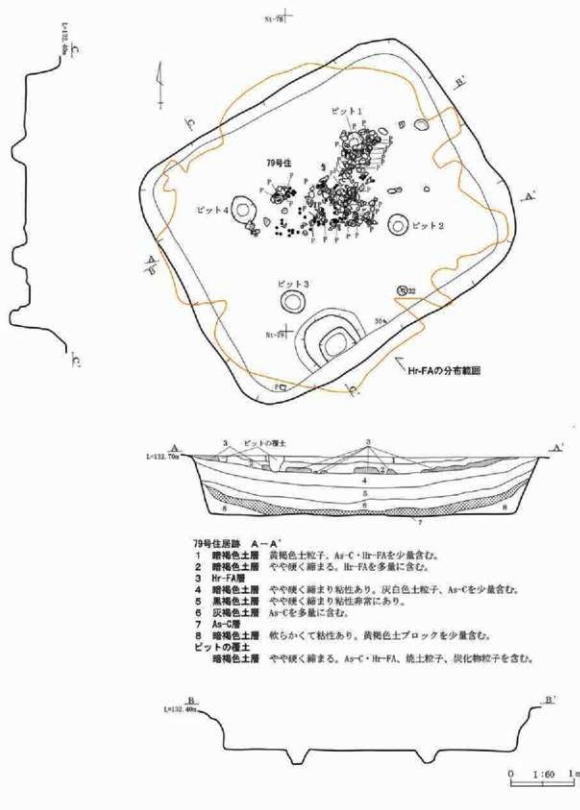
覆土 床面から約40cm上層にAs-C層を検出。厚さ3-10cm。

壁高 住居跡確認面より約70cmで床面に達する。

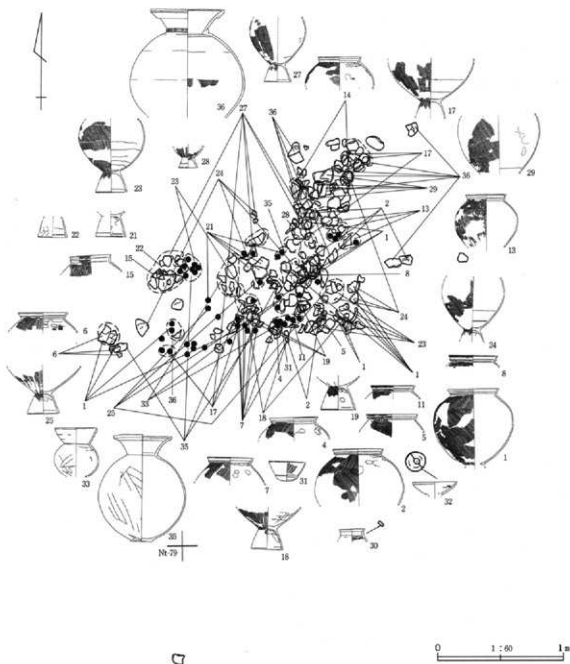
床面 ほぼ平坦である。面積は約23.7㎡。

周溝 全周していたものと思われる。幅5-15cm、深さ2-6cmである。

炉 ピット4の近くから検出。地床炉で長径64cm、短径37cm、深さ8cmである。



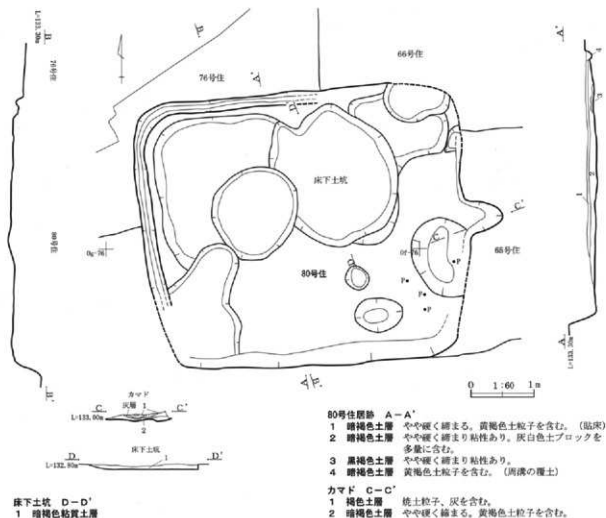
第252図 79号住居跡



第253図 79号住居跡遺物分布図

79号住居跡

番号	床面からの高さ	番号	床面からの高さ	番号	床面からの高さ
1	3~22.2cm	15	20.6cm	28	16cm
2	8~22.6cm	17	3~30.3cm	29	13~21.7cm
4	13.8cm	18	8~16.6cm	30	2.4cm
5	12.8cm	19	8~21.9cm	31	5.6cm
6	20.8~22.2cm	21	5~12.6cm	32	1.5cm
7	8~18.4cm	22	20.6cm	33	8.3~19cm
8	10.3cm	23	8~20.7cm	35	8~21cm
11	16cm	24	7.5~22.7cm	36	11.3~44.2cm
13	13.6~17.2cm	25	7.5~15.5cm		
14	20~22.7cm	27	10.2~18.8cm		



第254図 80号住居跡

柱 穴 4個のピットを検出した。1は長径53cm、短径38cm、深さ20cm。2は長径30cm、短径27cm、深さ50cm。3は長径30cm、短径28cm、深さ49cm。4は長径23cm、短径20cm、深さ30cmである。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 北壁下の床面上に焼土、炭化物が多量に出土。また、弥生土器が出土した。

時 期 弥生時代後期。

82号住居跡 (①第256図②第248図、P.L.250・291)

位 置 Nq-76・77、Nr-76グリッドにかけて検出された。74号住居跡と重複している。

形 状 長辺約4.6m、短辺約4.1mの方形を呈する。

方 位 N-36°-W。

覆 土 床面直上からAs-C層を検出。厚さ8～14cm。また、最上層にはFr-FA層が検出できた。

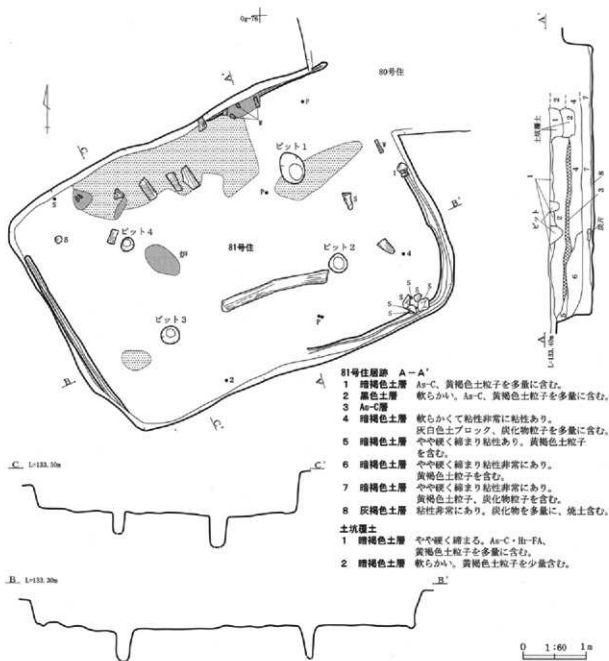
壁 高 住居跡確認面より約70cmで床面に達する。床 面 ほは平坦である。面積は約16.6㎡。南壁の隅から土坑が検出された。長径70cm、短径50cm、深さ44cmである。

周 溝 検出できなかった。

炉 ビット3とビット4の間からやや北に位置する石が、炉に配置されたものと思われる。

柱 穴 4個のピットを検出した。1は長径33cm、短径27cm、深さ61cm。2は長径40cm、短径37cm、深さ42cm。3は長径39cm、短径38cm、深さ35cm。4は長径26cm、短径25cm、深さ40cmである。

遺 物 2は床上約32.6cm、3は同じく約1.7cm、4



第256図 81号住居跡

は約15.1cm, 5は約34.2cmの所から出土している。

時期 3世紀終末～4世紀。

84号住居跡 (①第257図, P.L.251)

位置 Nr-74・75, Ns-74グリッドにかけて検出された。54号住居跡と重複し、50・42号溝によって壊されている。

形状 一辺約2.9mの正方形を呈する。

方位 不明。

壁高 住居跡確認面より約30～42cmで床面。

床面 やや凹凸がある。現状での面積は約6.2㎡。

周溝 検出できなかった。

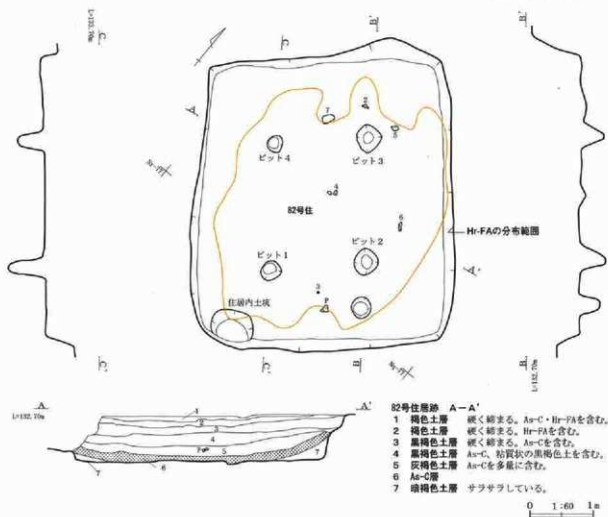
竈 検出できなかった。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 遺物の出土はほとんどなかった。

(1) 整穴住居跡



第256図 82号住居跡

時期 不明。

85号住居跡 (①第257図②第249図、P.L.251・291)

位置 Ng-80・81グリッドにかけて検出された。

50・57号溝や土坑によって壊されている。

形状 長辺約4.1m、短辺約3.7mの方形を呈する。

方位 N-87° - E。

覆土 7層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約42~60cmで床面。

床面 やや凹凸がある。面積は約13.3^m。住居内土坑が検出されている。長径107cm、短径105cm、深さ16.5cmである。

周溝 全周している。幅10~25cm、深さ0.8~4cmである。

竈 東壁の南に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向118cm、両袖方向40cmである。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の坏や甕の破片が出土している。

時期 7世紀。

86号住居跡 (①第258図②第250・251図、P.L.252・291・292)

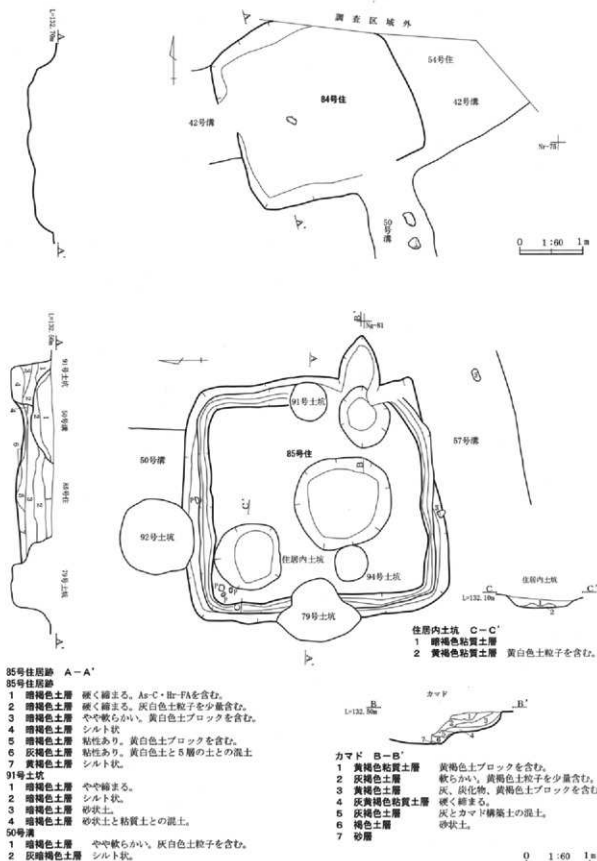
位置 Ns-83グリッドにおいて検出された。

形状 長辺約2.8m、短辺約2.7mの方形を呈する。

方位 N-76° - E。

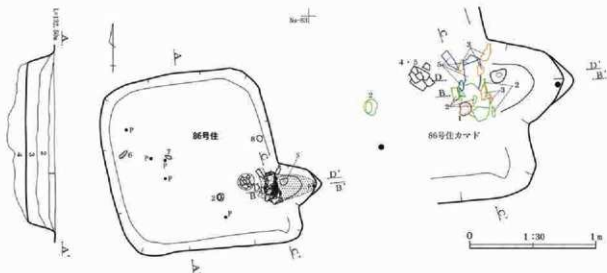
覆土 4層に分かれた。

第6章 VI区 検出の遺構



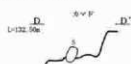
第257図 84号住居跡・85号住居跡

(1) 竪穴住居跡



86号住居跡 A-A'

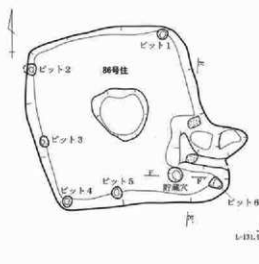
- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 1層よりも軟らかい。黄褐色土粒子、灰白色土ブロックを含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒子、灰白色土ブロック、炭化物粒子を含む。
- 4 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土ブロック、灰白色土ブロックを含む。



カマド B-B'

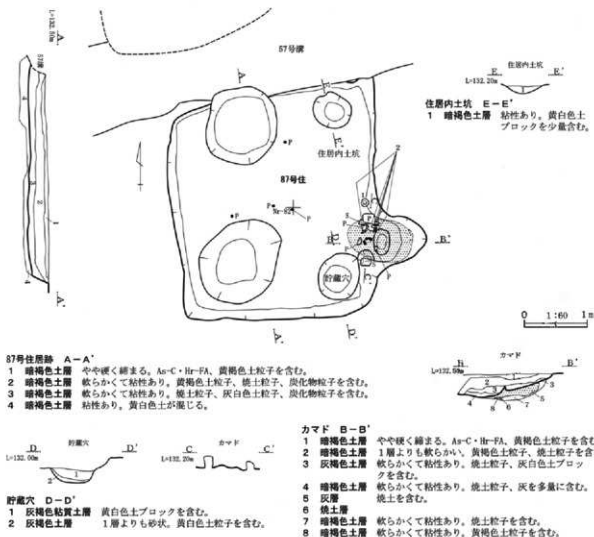
- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。
- 2 暗褐色土層 1層よりも軟らかい。黄褐色土粒子、灰白色土粒子、焼土粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土、炭を含む。
- 4 褐色土層 軟らかい。焼土粒子を含む。
- 5 反層
- 6 暗褐色土層 軟らかい。

0 1:60 1m



0 1:60 1m

第258図 86号住居跡・カマド・掘り方



第259図 87号住居跡

壁 高 住居跡確認面より約42cmで床面に達する。

床 面 ほぼ平坦である。面積は約6㎡。

周 溝 検出できなかった。

竈 東壁の南に位置し、燃烧部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向90cm、両袖方向46cmである。袖石が残り、堯が横たわっていた。

柱 穴 掘り方調査時に6個のピットを検出した。1は長径18cm、短径16cm、深さ9.4cm。2は長径20cm、短径17cm、深さ6.9cm。3は長径19cm、短径14cm、深さ4.6cm。4は長径19cm、短径15cm、深さ9.7cm。5は長径18cm、短径16cm、深さ3.1cm。6は長径20cm、短径17cm、深さ9cmである。

貯蔵穴 掘り方調査時に検出。長径24cm、短径

23cm、深さ36cmである。

遺 物 竈を中心に土師器の坏や堯、須恵器の坏や堯の破片が出土している。

時 期 6世紀後半。

87号住居跡 (①第259図②第252図、P.L.253・292)

位 置 Nq・Nr-81・82グリッドにかけて検出された。57号溝に接している。

形 状 長辺約3.7m、短辺約3.1~3.3mの方形。

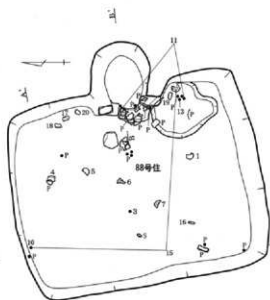
方 位 N-89° - E。

覆 土 4層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約24~30cmで床面。

床 面 やや凹凸がある。面積は約10.2㎡。住居内土

(1) 竪穴住居跡



- 88号住居跡 A-A'
- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子、炭化物粒子を含む。
 - 2 暗褐色土層 1層よりも軟らかくて粘性あり。炭化物粒子、焼土粒子、黄褐色土粒子を含む。
 - 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。炭化物粒子、焼土粒子、黄褐色土粒子を含む。
 - 4 暗褐色土層 粘性あり。赤褐色土粒子を含む。



- カマド B-B'
- 1 灰褐色土層 やや硬く締まる。焼土粒子、As-C・Hr-FAを含む。軟らかくて粘性あり。焼土、灰白色土ブロックを含む。
 - 2 灰褐色土層
 - 3 焼土層
 - 4 灰褐色土層 非常に軟らかくて粘性あり。焼土、灰を含む。
 - 5 褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土、灰を多量を含む。
 - 6 黄褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土、灰を含む。
 - 7 灰層
 - 8 赤褐色土層 焼土層
 - 9 灰層
 - 10 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土、灰、炭化物を含む。
 - 11 暗褐色土層 硬く締まる。焼土を含む。

0 1:600 1m



- 89号住居跡 A-A'
- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、炭化物粒子、黄褐色土粒子を含む。
 - 2 暗褐色土層 上層より軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒子、灰白色土ブロックを含む。
 - 3 暗褐色土層 軟らかくて非常に粘性あり。灰白色土ブロックを含む。
 - 4 黄褐色土層 軟らかくて粘性あり。硬のくずれ。
 - 5 灰褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロック、灰白色土粒子を含む。
 - 6 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。
 - 7 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。炭化物、焼土を含む。
 - 8 暗褐色土層 粘性あり。灰白色土ブロック、黄褐色土粒子を含む。
 - 9 暗褐色土層 粘性あり。灰白色土ブロック、灰白色土粒子を多量を含む。

第260図 88号住居跡・89号住居跡 方位 N-77°-E。

坑の規模は長径61cm、短径52cm、深さ11cmである。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の中央やや南に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向116cm、両袖方向64cmである。袖石が残る。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 長径80cm、短径62cm、深さ20cmを測る。

遺物 竈や覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の坏や甕の破片が出土している。

時期 8世紀。

88号住居跡 (①第260図②第253・254図、

P.L.254・252)

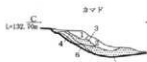
位置 Nn・No-81グリッドにかけ検出された。93号住居跡に近接している。

形状 長辺約4.5m、短辺約3.2mの長方形。

第6章 VI区 検出の遺構

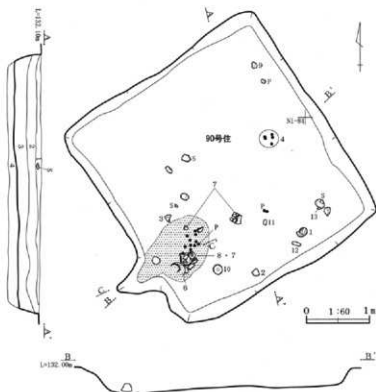
90号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Br-Fa、黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。黄褐色土粒子、炭化物粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。黄褐色土粒子、灰白色土ブロックを含む。
- 4 暗褐色土層 粘性あり。黄褐色土粒子、灰白色土ブロックを含む。



カマド C-C'

- 1 赤褐色土層 粘性あり。焼土を多量に含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土を含む。焼土を多量に含む。
- 3 灰層 やや硬く締まる。焼土粒子、黄褐色土粒子を含む。
- 4 暗褐色土層 軟らかい。炭化物、焼土を含む。
- 5 灰層 粘性あり。



第261図 90号住居跡

覆土 4層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約30cmで床面に達する。

床面 ほぼ平坦である。面積は約11.8㎡。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の中央やや南に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向120cm、両袖方向80cmである。袖石が残る。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 竈や覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の坏や甕の破片が出土している。

時期 8世紀前半。

覆土 9層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約44cmで床面に達する。

床面 やや凹凸がある。面積は約8.5㎡。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の中央やや南に位置し、燃焼部の一部は壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向52cm、両袖方向30cmである。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の坏や甕の破片が出土している。

時期 6世紀後半。

89号住居跡 (①第260図②第255図、P.L.255・292)

位置 Nm-83・84、Na-83グリッドにかけて検出された。90号住居跡の北西約3mの所に位置する。

形状 一辺約3.3~3.4mの正方形を呈する。

方位 N-81°-E。

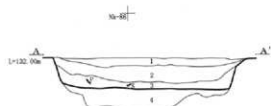
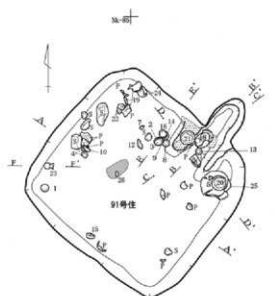
90号住居跡 (①第261図②第256・257図、P.L.256・292)

位置 Nk-Nl-83・84グリッドにかけて検出された。101号住居跡の西約3mの所に位置する。

形状 長辺約3.9m、短辺約3.6mの方形を呈する。

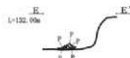
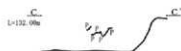
方位 N-124°-W。

(1) 竪穴住居跡

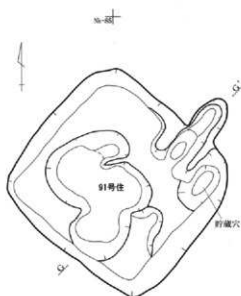


91号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まり。As-C・Hr-F/A、黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。黄褐色土粒子、炭化物粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。炭化物を多量に含む。
- 4 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄白色土ブロックを含む。



0 1:60 1m



カマド B-B'

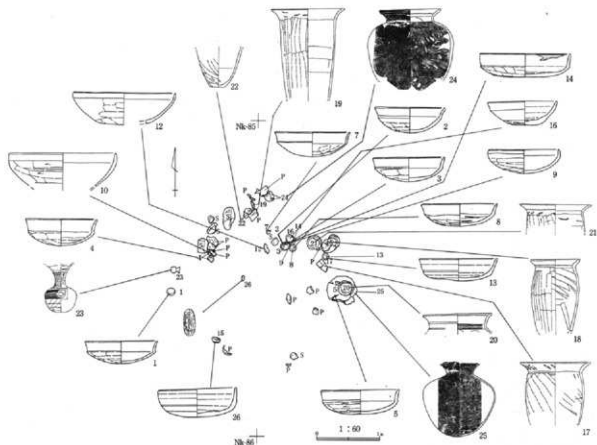
- 1 灰褐色土層 軟らかくて粘性あり。カマドの天井の崩落土。
- 2 灰層
- 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、炭化物を含む。



91号住居跡

番号	床面からの高さ	番号	床面からの高さ	番号	床面からの高さ
1	1cm	10	14.5cm	19	4.6~20.4cm
2	2.2cm	12	16cm	20	10cm
3	12cm	13	1.6cm	21	19.8cm
4	10~14.5cm	14	1.2cm	22	4.7cm
5	36.5cm	15	17cm	23	0.8cm
7	17.7cm	16	14cm	24	17.8~44.5cm
8	2.6cm	17	15.8cm	25	2.8cm
9	0.2cm	18	13.8~14.5cm	26	9.3~13.4cm

第262図 91号住居跡・掘り方



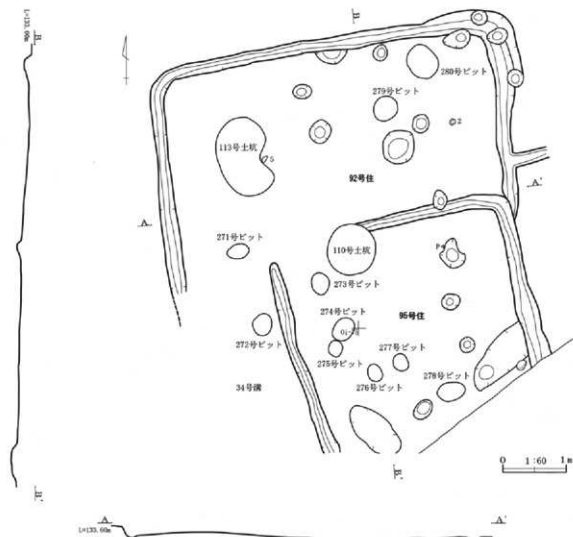
第263図 91号住居跡遺物分布図

覆土 4層に分かれた。
 壁高 住居跡確認面より約34~43cmで床面。
 床面 やや凹凸がある。面積は約11.9㎡。
 周溝 検出できなかった。
 電 西壁の中央やや南に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向80cm、両袖方向30cmである。支脚(石)が残る。
 柱穴 検出できなかった。
 貯蔵穴 検出できなかった。
 遺物 竈周辺や覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の坏や甕が出土している。
 時期 6世紀後半。

91号住居跡 (①東262・263図②第258~260図、P.L.256・257・293・294)

位置 Nj・Nk-85グリッドにかけて検出された。

96号住居跡の北西約3.5mの所に位置する。
 形状 長辺約3m、短辺約2.8mの方形を呈する。
 方位 N-38°-E。
 覆土 4層に分かれた。
 壁高 住居跡確認面より約44~50cmで床面。
 床面 ほほ平坦である。面積は約6.4㎡。
 周溝 検出できなかった。
 電 北壁の中央やや東に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向96cm、両袖方向34cmである。
 柱穴 検出できなかった。
 貯蔵穴 長径80cm、短径40cm、深さ12cmを測る。
 遺物 竈や貯蔵穴、壁際や覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の坏や甕が出土している。
 時期 7世紀後半。



第264図 92号住居跡-95号住居跡

92号住居跡 (①第264図②第261図, P.L.258・294)

位置 Oh・Oi-74グリッドにかけて検出された。

95号住居跡と重複している。

形状 長辺約5.8m、現状での短辺約3.4mの長方形。

方位 不明。

覆土 暗褐色砂質土層である。

壁高 住居跡確認面より約15cmで床面に達する。

床面 ほぼ平坦である。面積は約17.6㎡。

周溝 全周していたものと思われる。幅13～36cm、深さ6cmである。

柱穴 ビットは検出されているが、住居に伴うものかどうかは不明である。

貯蔵穴 不明。

遺物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の坏や甕の破片が出土している。

時期 8世紀。

95号住居跡 (①第264図, P.L.258)

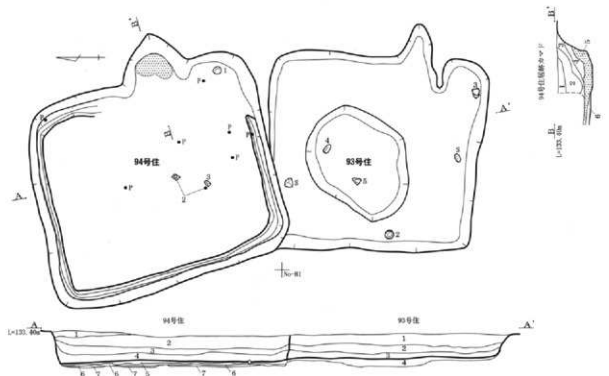
位置 Oh・Oi-74・75グリッドにかけて検出された。92号住居跡と重複している。

形状 東西約4m、現状での南北約3.7mである。

方位 不明。

覆土 暗褐色砂質土層である。

壁高 ほとんど検出できなかった。



93・94号住居跡 A-A'

93号住居跡

- 1 暗褐色土層 硬く締まる。As・C・Hr-FA、赤褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや軟らかい。As・C・Hr-FAを含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかい。粘性あり。赤色土粒子を含む。
- 4 暗褐色土層 硬く締まり粘性あり。灰白色土粒子、黄褐色土粒子を含む。

94号住居跡

- 1 暗褐色土層 硬く締まる。As・C・Hr-FAを多く含む。
- 2 暗褐色土層 硬く締まる。As・C・Hr-FA、炭化物、赤色土粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 やや軟らかい。As・C・Hr-FAを含む。
- 4 暗褐色土層 軟らかい。粘性あり。
- 5 暗褐色土層 やや硬く締まる。粘性あり。赤色土粒子を含む。
- 6 明褐色土層 硬く締まる。赤褐色土粒子を含む。
- 7 黒褐色土層 粘性あり。

94号住居跡力マド B-B'

- 1 暗褐色土層 硬く締まる。As・C・Hr-FA、白色粘土を含む。
- 2 灰褐色土層 粘性あり。As・C・Hr-FA、焼土、白色粘土粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかい。焼土、炭化物を含む。
- 4 赤褐色土層 軟らかい。焼土粒子を多量に、灰、炭化物を含む。
- 5 灰層
- 6 明黄褐色土層 硬く締まる。赤褐色土粒子、黄褐色土粒子の混じり。

0 1.60 1m

第265図 93号住居跡・94号住居跡

床面 やや凹凸がある。現状での面積は約12.6㎡。

周溝 全周しているものと思われる。幅12～26cm、深さ1.2～3.9cmである。

竈 不明。

柱穴 ビットは検出されているが、住居に伴うものかどうかは不明である。

貯蔵穴 不明。

遺物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の坏や甕の破片が少量出土している。

時期 不明。

93号住居跡 (①第265図②第262図、P.L.258・294)

位置 Nn-80・81グリッドにかけて検出された。

94号住居跡と重複している。

形状 長辺約3.5m、短辺約3.2mの方形を呈する。

方位 N-95°-E。

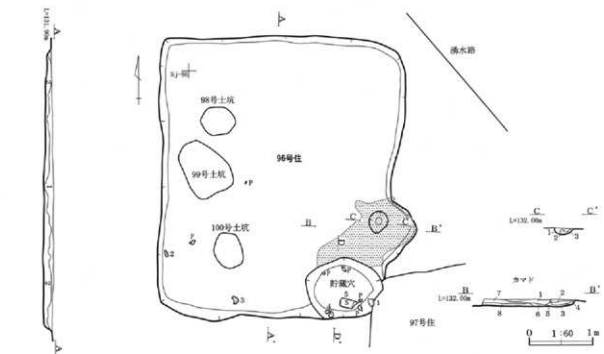
覆土 4層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約38cmで床面に達する。

床面 やや凹凸がある。面積は約8.5㎡。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の中央やや南に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向



96号住居跡 A-A'

- 1 灰褐色土層 軟らかい、粘性あり、黄褐色土を含む。
2 黒褐色土層 As=C・Hr-FAを含む。

貯蔵穴 D-D'

- 1 灰褐色土層 軟らかい、粘性あり、黄褐色土、炭化物を少量含む。

カマド B-B'

- 1 暗褐色土層 軟らかい、灰を多量に含む。
2 褐色土層 軟らかい、灰、炭土を含む。
3 焼土層
4 褐色土層 軟らかい焼土を含む。
5 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり、炭土粒子を含む。
6 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり、灰を含む。
7 暗褐色土層 やや硬く締まる。As=C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。
8 黒褐色土層 As=Cを含む。

C-C'

- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり、灰、炭土粒子を含む。
2 灰層
3 褐色土層 軟らかくて粘性あり、炭土粒子を含む。

第266図 96号住居跡

80cm、両袖方向30cmである。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の坏や甕の破片が出土している。

時 期 8世紀後半。

94号住居跡 (①第265図②第263図、P.L.259・294)

位 置 Nn・No-80グリッドにかけて検出された。

93号住居跡と重複している。

形 状 長辺約3.8m、短辺約3.3mの方形を呈する。

方 位 N-75°-E。

覆 土 7層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約38~48cmで床面。

床 面 ほほ平坦である。面積は約10.8㎡。

周 溝 全周していたものと思われる。幅9~17cm、深さ約2cmである。

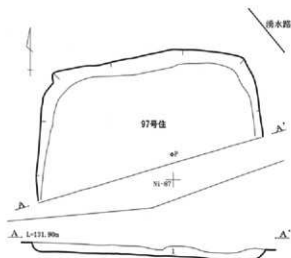
竈 東壁の中央やや南に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向96cm、両袖方向66cmである。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の坏や甕の破片が出土している。

時 期 8世紀前半



97号住居跡 A-A'

1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色ブロックを少量、灰白色土粒子を含む。

96号住居跡 (①第296図②第294・295図、P.L.259・294)

位置 Ni-Nj-85・86グリッドにかけて検出された。97号住居跡と接している。

形状 長辺約4.5m、短辺約3.7~3.9mの方形。

方位 N-90°-E。

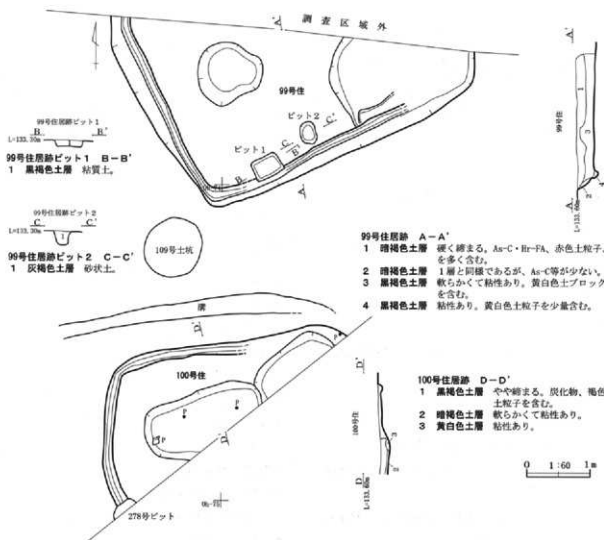
覆土 2層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約8~18cmで床面。

床面 ほほ平坦である。面積は約15.4㎡。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の中央やや南に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向110cm、両袖方向70cmである。竈内ピットは支脚跡である。



99号住居跡ピット1 B-B'

99号住居跡ピット1 B-B'

1 黒褐色土層 粘質土。

99号住居跡ピット2 C-C'

99号住居跡ピット2 C-C'

1 灰褐色土層 砂状土。

99号住居跡 A-A'

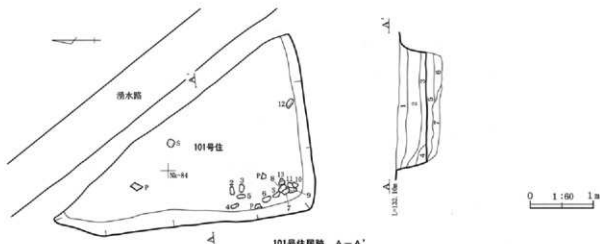
- 1 暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FA、赤色土粒子を多く含む。
- 2 暗褐色土層 1層と同様であるが、As-C等が少ない。
- 3 黒褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロックを含む。
- 4 黒褐色土層 粘性あり。灰白色土粒子を少量含む。

100号住居跡 D-D'

- 1 黒褐色土層 やや締まる。炭化物、褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。
- 3 灰白色土層 粘性あり。

0 1:60 1m

第267図 97号住居跡・99号住居跡・100号住居跡



101号住居跡 A-A'

- | | | |
|---|-------|------------------------------|
| 1 | 暗褐色土層 | やや硬く締まる。As-C・Hr-FAを含む。 |
| 2 | 暗褐色土層 | やや軟らかい。炭化物、As-C・Hr-FAを少量含む。 |
| 3 | 暗褐色土層 | 軟らかくて粘性あり。 |
| 4 | 暗褐色土層 | 粘性あり。黄白色粘土ブロック含む。 |
| 5 | 暗褐色土層 | 硬く締まり粘性あり。黒褐色粘土、黄白色土ブロックを含む。 |
| 6 | 暗褐色土層 | 粘性あり。黄白色土ブロックを含む。 |
| 7 | 黒褐色土層 | 粘性あり。黄白色土ブロックを多量に含む。 |

第268図 101号住居跡

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 長径120cm、短径90cm、深さ14cmを測る。

遺 物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の坏・埴や甕の破片が出土している。

時 期 8世紀後半。

97号住居跡 (①第267図、P.L.259)

位 置 Nh-86、Ni-86・87グリッドにかけて検出された。完掘できなかった。

形 状 現状での長辺約3.6m、短辺約1.9mである。

方 位 不明。

覆 土 1層確認できた。

壁 高 住居跡確認面より約10~16cmで床面。

床 面 ほぼ平坦である。現状の面積は約4.9m²。

周 溝 検出できなかった。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の坏の破片が少量出土している。

時 期 不明。

99号住居跡 (①第267図②第268図、P.L.260・295)

位 置 Og・Oh-73・74グリッドにかけて検出された。完掘できなかった。

形 状 現状での長辺約5.9m、短辺約3.3mである。

方 位 不明。

覆 土 4層確認できた。

壁 高 住居跡確認面より約24~30cmで床面。

床 面 ほぼ平坦である。現状の面積は約9.5m²。

周 溝 幅12~18cm、深さ6cmを測る。

柱 穴 2個のビットを検出した。1は長辺48cm、短辺33cm、深さ9cm。2は長径35cm、短径25cm、深さ13cmである。柱穴になるかどうかは不明。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の甕の破片が少量出土している。

時 期 不明。

100号住居跡 (①第267図②第267図、P.L.295)

位 置 Og・Oh-74グリッドにかけて検出された。完掘できなかった。

形 状 現状での長辺約3.9m、短辺約2.1mである。

方 位 不明。

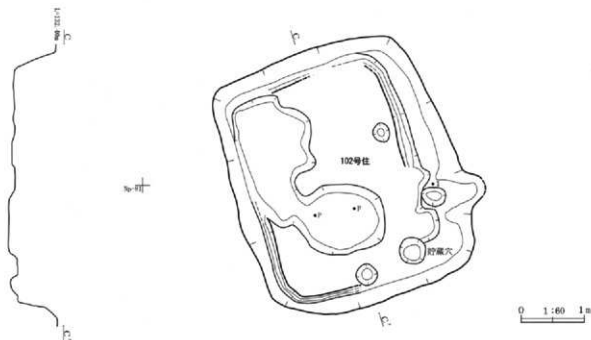


102号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-PA。炭化物を含む。
- 2 暗褐色土層 やや軟らかい。As-C・Hr-PA。赤褐色土粒子、黄白色土粒を含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。砂状土、黄白色ブロックを含む。
- 4 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、黄白色ブロックを含む。
- 5 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄白色ブロックを多量を含む。

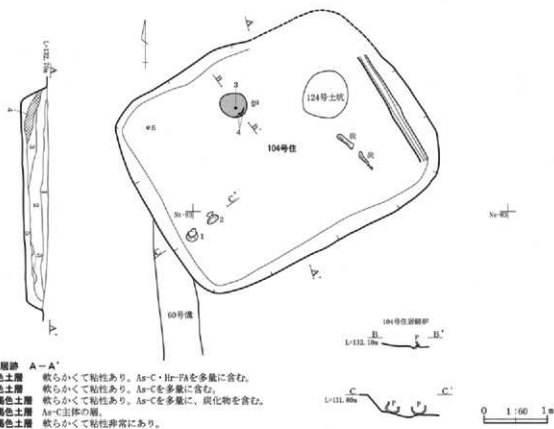
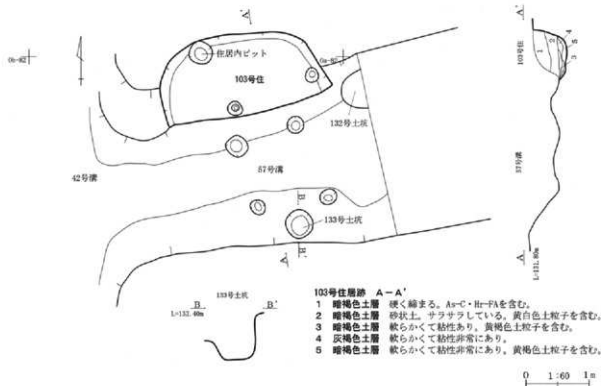
カマド B-B'

- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 灰褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、炭化物、カマド構築材を含む。
- 3 褐灰色土層 軟らかくて粘性あり。カマド構築材を含む。
- 4 褐灰色土層 軟らかくて粘性あり。カマド構築材、炭化物を含む。
- 5 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰、塵土を多量を含む。
- 6 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土ブロックを多量を含む。



第269図 102号住居跡・掘り方

(1) 竪穴住居跡



第270図 103号住居跡・104号住居跡

覆土 3層確認できた。
 壁高 住居跡確認面より約6~14cmで床面。
 床面 やや凹凸がある。現状の面積は約5.1㎡。
 周溝 幅約10cm、深さ3cmを測る。
 柱穴 検出できなかった。
 貯蔵穴 検出できなかった。
 遺物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の坏や甕の破片が出土している。
 時期 7世紀。

101号住居跡 (①第268図②第268・269図、P.L.260・295)

位置 Nj・Nk-83・84グリッドにかけて検出された。完掘できなかった。
 形状 現状での長辺約4.1m、短辺約2.8mである。
 方位 不明。
 覆土 7層確認できた。
 壁高 住居跡確認面より約40~48cmで床面。
 床面 ほぼ平坦である。現状の面積は約5.9㎡。
 周溝 検出できなかった。
 柱穴 検出できなかった。
 貯蔵穴 検出できなかった。
 遺物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の坏や甕の破片が少量出土している。また、こも礪石が南西コーナー付近から出土した。
 時期 7世紀。

102号住居跡 (①第269図②第270図、P.L.261・295)

位置 Nn・No-80・81グリッドにかけて検出された。93号・94号住居跡と接している。
 形状 長辺約4m、短辺約3.5mの方形を呈する。
 方位 N-71°-E。
 覆土 5層に分かれた。
 壁高 住居跡確認面より約60cmで床面に達する。
 床面 やや凹凸がある。面積は約10.8㎡。
 周溝 掘り方調査時に検出。幅10~22cm、深さ1~4cm。
 竈 東壁の中央やや南に位置し、燃焼部の多くは壁を掘り込んで造られている。規模は煙道方向

100cm、両袖方向46cmである。
 柱穴 検出できなかった。
 貯蔵穴 掘り方調査時に検出。長径42cm、短径40cm、深さ20cmを測る。
 遺物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の坏や甕の破片が出土している。
 時期 6世紀後半。

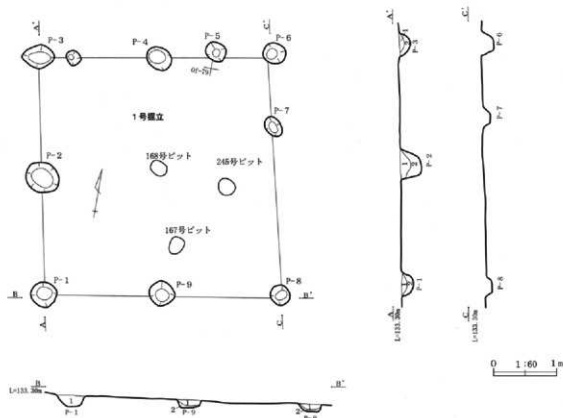
103号住居跡 (①第270図②第271図、P.L.262・295)

位置 Oa-81・82グリッドにかけて検出された。57号溝によって壊されている。
 形状 現状での長辺約2.6m、短辺約1.3m。
 覆土 5層に分かれた。
 壁高 住居跡確認面より約53cmで床面に達する。
 床面 やや凹凸がある。現状での面積は約2.4㎡。
 周溝 検出できなかった。
 竈 検出できなかった。
 柱穴 1個のビットを検出した。長径35cm、短径34cm、深さ40cmである。他のビットは住居跡に伴うものかどうか不明である。
 遺物 覆土中から土師器の坏や甕、須恵器の甕の破片が少量出土している。
 時期 不明。

104号住居跡 (①第270図②第272図、P.L.263・295)

位置 Ns・Nt-82・83グリッドにかけて検出された。47号住居跡によって壊されている。
 形状 長辺約4.5m、短辺約3.5mの長方形を呈する。
 覆土 5層に分かれた。4層はAs-C層である。
 壁高 住居跡確認面より約18~34cmで床面。
 床面 ほぼ平坦である。面積は約12.3㎡。
 周溝 東壁下で部分的に検出できた。幅13~18cm、深さ約3cmである。
 炉 長径43cm、短径37cm、深さ2cmの地床炉で、土器片を設置していた。
 柱穴 検出できなかった。
 遺物 西壁寄りの床面から台付甕と高坏が出土。
 時期 弥生時代後期。

(2) 掘立柱建物跡



1号掘立柱建物跡 A-A' B-B'

1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As・C・It-FA、黄褐色土粒子を含む。

2 暗褐色土層 1層より暗い色調。やや硬く締まり粘性あり。As・C・It-FA、黄褐色土粒子を含む。

第271図 1号掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡 (①第271図、P.L.270)

位置 Oe・Of-78・79グリッドにかけて検出。

形状 2間×2間の方形を呈する。

規模 柱間は約1.9mである。P1は長径40cm、短径38cm、深さ18cmである。以下順にP2は長径56cm、短径49cm、深さ34cm。P3は長径50cm、短径36cm、深さ17cm。P4は長径42cm、短径33cm、深さ21cm。P5は長径34cm、短径29cm、深さ33cm。P6は長径36cm、短径34cm、深さ20cm。P7は長径34cm、短径23cm、深さ15cm。P8は長径32cm、短

径30cm、深さ10cm。P9は長径37cm、短径36cm、深さ14cmである。

所見 覆土は2層に分かれた。出土遺物はない。

(3) 土坑・ピット

(a) 土坑 (①第272～280回②第273～279回、P.L.263～270・286・287)

VI区から検出した土坑は、計80基である。この中で火葬墓と考えられる土坑は3基(55～57号)、その可能性のあるものが1基(60号)である。土塚墓は1基(99号)、その可能性のあるもの1基(73号)である。

覆土中に石を伴う土坑は、10基(62・69・71・72・73・79・83・90・112・124号)である。また、円筒形の土坑が比較的多く検出されている。

(b) ピット (①第275・280～296回②第280回、P.L.263・268・270・271・287)

ピットは総計250基を検出した。詳細は一覧表を参照されたい。

土坑一覧表

番号	位置	形状	長さ×幅×高さ(cm)	出土遺物(未掲載遺物の点数)	備考	遺構図版	遺物図版	写真図版
55	Od・Oe-77	隅丸長方形	102×57×10～15	土師器片6・須恵器片1	火葬墓	第272回	第273回	264・296
56	Ni・Nk-83	楕円形	150×83×17～24	土師器片8・須恵器片3	火葬墓	272	273	264・296
57	Nk-84	隅丸長方形	107×45×7	土師器片5	火葬墓	272		265
58	Ni-82	円形	135×128×105		36号溝と重複	272		265
60	Nm-83	楕円形	68×60×8	炭化物	覆土中にAs-B	273		265
61	Od・Oe-80	楕円形	95×86×55		25号住居と重複	273		265
62	Of-80	楕円形	94×80×47	礎		273		265
63	Oe-81	楕円形	71×66×52	土師器片13・須恵器片6		273		265
64	Of-76	楕円形	158×156×98	土師器片9・須恵器片10		273		265
65	Od-79・80	楕円形	58×52×11			273		271
66	Od-80	楕円形	57×56×15			273		266
67	Od-78	楕円形	90×80×10	土師器片5・須恵器片2		273		266
68	Og-76	円形	90×88×94	土師器片11・須恵器片5		273	274	296
69	Og-76	円形	49×47×47	土師器片2		274		
70	Oe-76	楕円形	62×53×22			274		266
71	Ns・Nt-61	楕円形	74×67×(75)	土師器片12		274		266
72	Ns・Nt-80	隅丸方形	70×68×19	土師器片1		274		266
73	Ns-79	楕円形	116×49×28			274		266
74	Ns-77	隅丸方形	48×41×45	土師器片4・須恵器片1		274		246
75	Nr-78	楕円形	55×50×22			274		226
76	Nr-78	楕円形	69×(69)×37	土師器片6	35号住居と重複	274		226
77	Nf-79	楕円形	63×60×58			274		266
78	Nf-79	楕円形	58×56×67			274		266
79	Nq-80・81	楕円形	130×137×64	土師器片2・須恵器片1		274	274	267
80	Nq-78・79	円形	68×68×53	土師器片2		275		267
81	Nt・Oa-76	隅丸方形	62×60×129		264号ピットに近接	275		
82	Of-77	隅丸長方形	125×61×14			275		
83	Og-78・79	円形	120×120×70	土師器片8・須恵器片8		275	274	267
84	Nr-77	円形	80×76×38	土師器片10・須恵器片1	85号土坑に近接	275		267
85	Nr-77	不整形	113×70×39	土師器片14・須恵器片1	86号土坑に近接	275		267
86	Nr-77	不整形	83×76×38	土師器片25・須恵器片4	88号土坑と重複	275		267
87	Oh-78	楕円形	65×61×18	土師器片7		276		267
88	Nr-77・78	不整形	(52)×50×13		86号土坑と重複	275		267
89	Ng・Nh-78	楕円形	210×178×15			275		267
90	Nq-77	円形	90×84×49		50号溝と重複	276		268
91	Ng-80	楕円形	61×56×17			276		
92	Ng-80	円形	120×118×103	土師器片1		276		268
93	Nq-79	楕円形	73×63×26			276	275	296
94	Ng-80・81	円形	57×52×41			276		
95	Nr-83	隅丸方形	75×75×10			276		268・271
96	Nq・Nr-83	楕円形	72×68×8			276		268・271
97	Nq-83	円形	105×101×98			276		268
98	Ni-86	楕円形	70×60×16	土師器片4	99号土坑に近接	277		268
99	Ni-86	楕円形	109×83×15	土師器片12・須恵器片2	100号土坑に近接	277	280	268
100	Ni-86	楕円形	56×47×12			277		268
101	Ni-86・87	楕円形	72×60×15		102号土坑に近接	277		268
102	Ni-87	楕円形	43×36×19			277		268
103	Ni-86	楕円形	44×38×14	土師器小片7	104号土坑に近接	277		268
104	Ni-86	楕円形	56×56×12	土師器片2		277		268
105	Ni・Ni-86	不整形	41×(42)×9		106号土坑と重複	277		268
106	Ni・Ni-86	不整形	50×(50)×12		105号土坑と重複	277		268
107	Ni-86	楕円形	49×40×14			277		268

(3) 土坑・ピット

土坑一覧表

番号	位置	形状	長径×短径×深さ(cm)	出土遺物(未掲載遺物の点数)	備考	遺構図版	遺物図版	写真図版
108	Nj・Nk-86	楕円形	58×50×29			第277図		268
109	Oh-74	円形	94×92×32	土師器片2		278		
110	Oh・Oj-74	円形	80×78×91			278		258
111	Na-86	楕円形	49×45×27		53号溝と重複	278		
112	Na-No-87	楕円形	189×120×80	土師器片43・須恵器片11・灰釉片2		278	第276・278図	296・297
113	Oj-74	楕円形	125×70×25			278		258
114	Nr-84	楕円形	129×116×24		36号溝と重複	278		269
115	Nq-85・86	楕円形	72×64×35			278		269
116	Nr・Ns-87	楕円形	100×98×100		117号土坑に近接	279		
117	Nr-87	円形	85×85×94			279		
118	No-86	楕円形	115×105×118	土師器杯片1・須恵器片9		279	278	269・297
119	No-85・86	円形	107×104×133			279		269
120	Nr-86	楕円形	53×43×57	土師器残片1		279		269
121	Nq-85	円形	45×45×68	土師器片2・須恵器片2		279		269
122	Nr-84	楕円形	89×79×53			279		269
123	Na-83	円形	80×79×87	土師器片4・須恵器片1		279		269
124	Ns-82	楕円形	89×78×58	土師器片4・須恵器片2	280号ピットに近接	280		263
125	Nt-84	楕円形	138×130×107		304号ピットと重複	280		270
126	Nj-86	円形	92×92×58			280	279	297
127	Nm-85	円形	55×53×47			280		
128	Ni・Nm-86	楕円形	94×90×48			280		
129	Nk-86	楕円形	49×49×30	須恵器残片1		280		
130	Nk-87	楕円形	48×40×41			280		
131	Ns-84	円形	95×95×129	土師器片2・縄文片1		280		270
132	Nt・Oa-82	不整形	(60)×(62)×-					
133	Oa-82	円形	43×42×45			280		
134	Nr-82	楕円形	90×84×71	土師器片1	341号ピットと重複	280		270
135	Nk-83	楕円形	61×53×77	土師器残片1		280		270

ピット一覧表

番号	位置	形状	長径×短径×深さ(cm)	出土遺物(未掲載遺物の点数)	備考	遺構図版	遺物図版	写真図版
124	Og-78・79	円形	30×28×12			第281図		271
125	Og-79	楕円形	30×22×9			281		271
126	Oj-79	楕円形	35×35×10			281		271
127	Oj-79	円形	20×20×12			281		271
128	Oj-79	楕円形	32×27×7	土師器片3		281		271
129	Oj・Og-79	不整形	(36)×36×13		130号ピットと重複	281		271
130	Og-79	不整形	38×(36)×15		129号ピットと重複	281		271
131	Og-79	円形	42×41×7			281		271
132	Og-79	楕円形	21×20×16			281		271
133	Og-79	円形	28×26×14			281		271
134	Oj-79	楕円形	38×32×17	土師器片1・須恵器残片1		281		271
135	Oj-80	楕円形	28×27×13			281		271
136	Oj-78	楕円形	30×28×15			282		271
137	Oh-76	ほぼ円形	32×28×25	土師器片5		282		271
138	Oh-76	楕円形	30×26×37	土師器残片1		282		271
139	Oh-77	楕円形	31×24×8			282		271
140	Oj-77	楕円形	22×21×11			282		271
141	Oj-77	楕円形	25×23×12	土師器片3		282		271
142	Oj-77	楕円形	28×20×17	土師器片3		282		271
143	Oe-79	楕円形	29×27×27			283		270
144	Od-80	楕円形	26×22×9					
145	Od-80	楕円形	25×23×9	土師器片1・須恵器残片1	66号土坑に近接	283		271
146	Od-80	円形	38×38×27			283		271
147	Oj-80	楕円形	29×25×6			281		271
148	Oj-80	楕円形	35×32×12			281		271
149	Oj-80	楕円形	32×24×11		62号土坑に近接	281		271
150	Oj-80	楕円形	23×25×11			283		271
151	Oj-80	楕円形	27×22×8			283		271
152	Oj-80	楕円形	29×24×12			283		271
153	Oj-80	楕円形	27×25×9			283		271
154	Oj-81	楕円形	26×26×11			283		271
155	Oe・Of-80	楕円形	40×32×15			283		271
156	Oe-81	楕円形	31×26×15			283		271
157	Oe-77	楕円形	28×20×16			283		271
158	Oe-78	円形	26×25×6			284		271

第6章 VI区 検出の遺構

ビット一覧表

番号	位置	形状	長さ×幅×高さ(cm)	出土遺物(未掲載遺物の点数)	備考	遺構図取	遺物図取	写真図取
159	0d-76	楕円形	30×29×20	土師器壺片5	67号土坑に近接	移284図		271
160	0d-76	楕円形	30×29×12	土師器壺片2		284		271
161	0d-77	楕円形	45×36×13			283		271
162	0d-79	楕円形	31×29×16			284		271
163	0d-79	楕円形	39×35×13			284		271
164	0d-79	楕円形	37×34×25			284		271
165	0h-77	円形	29×29×14	土師器壺片1	34号溝と重複	284		
166	0h-77	楕円形	31×25×20		34号溝と重複	284		
167	0e・0f-79	楕円形	29×22×11			285		270
168	0f-79	楕円形	27×21×9			285		270
169	0e・0f-78	楕円形	32×29×16			285		270
170	0e-78	楕円形	25×25×10			285		270
171	0e-78	楕円形	20×19×10			285		271
172	0e-78	楕円形	27×26×9	土師器片3		285		271
173	0f-78	楕円形	22×21×7			285		271
174	0f-78	楕円形	27×24×20			285		271
175	0e-78	楕円形	35×25×11			285		271
176	0e-75・76	楕円形	44×40×14	土師器杯片1・壺片3・須恵器片1		286		271
177	0d-75	方形	31×30×4			286		271
178	0e-75	楕円形	30×23×15	須恵器杯片1		285		271
179	0d-78	楕円形	36×29×10			284		271
180	0d-77	楕円形	37×32×9	土師器壺片3		286		271
181	0d-77	楕円形	27×23×9			286		271
182	0d-77	円形	34×33×8			286		271
183	0d-77	楕円形	38×37×5			286		271
184	0d-76	楕円形	57×41×28		185号ビットと重複	286		
185	0d-76	不整形	47×(29)×7		184号ビットと重複	286		271
186	0e-76	円形	46×45×10			287		271
187	0e-76	楕円形	35×32×13			287		271
188	0d-76	楕円形	60×59×60	土師器片1・須恵器片1		286		271
189	0e-76	円形	25×22×10			287		271
190	0f-76	楕円形	43×31×19			287		271
191	0f-77	楕円形	25×24×17			287		271
192	0f-76・77	楕円形	33×27×10			287		271
193	0f-76	楕円形	31×29×30		191号ビットと重複	287		271
194	0f-76	不整形	52×40×16		193号ビットと重複	287		271
195	0g-76	円形	24×23×33			287		271
196	0e-76	円形	55×49×9			287		271
197	0e-76	楕円形	41×29×9			287		271
198	0e-76	楕円形	30×23×14	土師器片5・須恵器片1		287		271
199	0e-76	円形	27×25×15			287		271
200	0e-76	長方形	28×17×10			286		271
201	0e-76	円形	28×28×11			286		271
202	0e-76	楕円形	48×47×28	土師器片7		286		271
203	0e-75	楕円形	47×44×25	土師器杯片3・壺片8		286		271
204	0d-76	円形	35×34×8			287		271
205	0g-77	円形	40×36×48			288		271
206	0h-77	楕円形	28×23×13			282		
207	0h-77	楕円形	28×25×43	土師器片2・須恵器杯片3		282		271
208	0h-77	楕円形	20×20×14	土師器片3		282		271
209	Nr-77	楕円形	23×22×14		35号住居と重複	288		
210	Ns-77	楕円形	22×21×9		35号住居と重複	288		
211	Nv-77	方形	29×29×26		35号住居と重複	288		
212	0b-76	ほぼ円形	21×19×13	土師器小片1		288		
213	0b-76	円形	29×29×22			288		
214	0a・0b-76	楕円形	30×24×42	土師器小片5		288		
215	0a・0b-76	楕円形	48×35×26	土師器片3・須恵器片3		288		
216	0b-76	円形	16×16×16			288		
217	0a・0b-76	楕円形	30×29×30	土師器小片1		288		
218	0a-76	円形	26×(21)×19		219号ビットと重複	288		
219	0a-76	方形	29×(27)×21	土師器片2・須恵器片2	218号ビットと重複	288		
220	0a-76	方形	44×40×20	土師器片4		288		

(3) 土坑・ピット

ピット一覧表

番号	位置	形状	長径×短径×深さ(cm)	出土遺物(糸衝軌遺物の点数)	備考	遺構図版	遺物図版	写真図版
221	Qa-76	楕円形	28×26×24	土師器片1		第268図		
222	Qa-76	方形	22×21×15			268		
223	Qa-76	円形	40×39×23	土師器片10		268		
224	Nc-78	楕円形	37×30×51	土師器片2		269		246
225	Nc-78	楕円形	44×36×51	土師器片2・須恵器片4		269		246
226	Nc-78	楕円形	43×42×54	土師器片2・須恵器片1		269		246
227	Nc-78	円形	36×34×47	土師器片1		269		246
228	Nc-77・78	円形	25×25×16	土師器小片1		269		246
229	Nc-77	楕円形	35×34×49	土師器片1		269		
230	Nc・Qa-78	円形	33×32×40	土師器片1・須恵器小片1		269		
231	Nc-78	楕円形	34×32×60	土師器片1		269		246
232	Nc-78	楕円形	39×34×67			269		246
233	Nc-77	円形	22×21×19			269		246
234	Nc-77	円形	23×23×24	土師器片1		269		
235	Nc-77	円形	33×31×37	土師器片1		269		
236	Nc-77	楕円形	45×31×8			275		
237	Nc-77	楕円形	28×27×28		35号住居と重複	288		
238	Nc-80	楕円形	54×37×34	土師器杯片6・樂片16・須恵器片1		269	第280図	
239	Nc-80	楕円形	27×25×10			269		228
240	Nc-80	楕円形	31×28×24	土師器片1		269		228
242	Of-77・78	楕円形	31×28×15			285		
243	Of-78	円形	27×27×7			282		
244	Of-78	楕円形	26×23×18			282		
245	Qe-79	楕円形	27×25×8			285		270
246	Nq-77	楕円形	61×49×19			290		
247	Nq-77	楕円形	18×18×10			290		268
248	Np-78	円形	27×27×17			290		
249	Na・Np-78	方形	44×40×31	土師器片1・縄文土器片1		290		
250	Od-78	楕円形	29×27×16			284		271
251	Qe-77	楕円形	30×30×19			283		271
252	Od-77	円形	16×15×8			283		271
253	Od-77	楕円形	17×17×9			283		271
254	Nc-76	楕円形	27×25×34	土師器片4		275		
255	Ob-78	楕円形	32×28×27			290		
256	Ob-77	楕円形	30×28×36	須恵器片1		290		
257	Ob-77	楕円形	33×25×35		34号溝と重複	290		271
258	Of-80	楕円形	46×43×11	土師器片3		281		
259	Of-80	楕円形	53×50×41	土師器片10・須恵器片1		281		271
260	Qa-74	楕円形	30×26×19			290		271
261	Nc-74	楕円形	27×27×9	土師器片1		290		271
262	Nc・Qa-74	楕円形	29×28×39			290		271
263	Nc-74	楕円形	30×25×44			290		271
267	Nq-77	楕円形	77×66×22	土師器片1		290		271
268	Nq-78	楕円形	52×49×22	須恵器片1		290		271
269	Nq-79	ほぼ円形	63×62×12	土師器片1		291		271
270	Nq-83	楕円形	41×36×10	土師器杯片1・須恵器杯片1		291		271・268
271	Ob-74	楕円形	35×23×18			291		258
272	Ob-74・75	楕円形	35×30×31			291		258
273	Ob-74	楕円形	31×30×36			291		258
274	Ob-75	楕円形	39×30×25			291		258
275	Ob-75	円形	25×22×11			291		258
276	Ob-75	楕円形	29×22×13			291		258
277	Ob-75	楕円形	27×23×16			291		258
278	(A)Ob-75	楕円形	45×30×20			291		258
279	(B)Ob-74・75	不明	43×(14)×24			291		258
279	Ob-74	楕円形	39×37×25		100号住居と重複	291		258
280	Ob-74	楕円形	53×45×20			291		258
281	Nc-86	円形	25×25×13			292		
282	Nc-86	円形	22×21×13			292		
283	Nc-86	円形	20×20×9			292		
284	Nc-85	円形	29×26×23			292		
285	Nc-85	楕円形	30×25×22			292		

第6章 VI区 検出の遺構

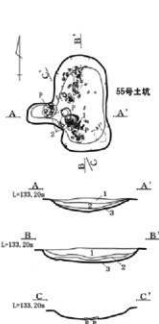
ピット一覧表

番号	位置	形状	長さ×幅×深さ(cm)	出土遺物(未掲載遺物の点数)	備考	遺構図版	遺物図版	写真図版
286	Ns-85	円形	28×28×20			第292図		
287	Ns-86	円形	37×37×28			292		
288	Ns-82	楕円形	48×46×34			292	263	
289	Ns-82	方形	50×50×20			292		
290	Ns-82	楕円形	47×42×36		124号土坑に近接	290		
291	Ns-82・83	楕円形	36×32×16			290	263	
292	Ns・Nt-85	円形	36×33×4			292		
293	Ns-84	円形	25×23×12			292		
294	Ns-84	楕円形	31×30×23			292		
295	Nr-85	円形	28×27×43		55号溝と重複	292		
296	Nr-84・85	円形	25×23×48			292		
297	Nr-84	楕円形	36×26×13			293		
298	Nr-84	楕円形	28×26×12			293		
299	Np-84	楕円形	40×39×21			293		
300	Nq-86	円形	36×34×27			293		
301	Nr-84	楕円形	24×22×20		129号土坑と重複	290	270	
302	Ns-84	楕円形	36×32×25			293		
303	Ns-84・85	楕円形	58×53×30			293	第280図	297
304	(A)Ns-84-85	楕円形	44×43×27			293		
304	(B)Nm-84	円形	33×31×35			293		
305	Nm-84・85	円形	47×47×45			293		
306	Nm-85	円形	32×30×35	土師器片2・須恵器片5	55号溝と重複	293		
307	Nm-85	楕円形	55×45×45		55号溝と重複	293		
308	Nm-84	楕円形	40×35×38	須恵器杯片1		293		
309	Nm-84	円形	38×36×19	土師器片2・須恵器片1・縄文土器片1		293		
310	Nk-85・86	不整形	34×(33)×34		311号ピットと重複	294		
311	Nk-86	不整形	42×(29)×34		310号ピットと重複	294		
312	Nk-86	楕円形	32×23×14			294		
313	Nj-86	楕円形	31×29×33			294		
314	Nk-85	楕円形	25×23×11			294		
315	Nk-85	楕円形	26×26×13			294		
316	Nk-86	円形	34×33×26			294		
317	Nk-86	楕円形	57×34×26			294		
318	Nk-86	楕円形	30×26×21			294		
319	Nj-86	円形	25×24×26			294		
320	Nk-84	楕円形	38×32×32			294		
321	Nk-84	楕円形	33×28×20	土師器片4		294		
322	Nk-83	楕円形	37×37×35	土師器小片13		294		
323	Nt-83	楕円形	28×27×8			295		
324	Nt-84	円形	30×28×17			295		
325	Ns-84	楕円形	34×31×32			295		
326	Ns-83	楕円形	26×21×12			294		
327	Ns-83	円形	36×35×25		123号土坑に近接	294	263	
328	Ns-83	楕円形	36×32×10			294	263	
329	Nt-83	円形	29×28×26			295		
330	Os-83	円形	31×28×30			295		
331	Nt・Os-83	楕円形	33×32×41			295		
332	Nt-83	楕円形	40×37×29			295		
333	Ns-85	円形	41×41×25		55号溝と重複	293		
334	Nt-83	円形	20×20×7			295		
335	Nt-83	楕円形	24×21×11			295		
336	Nt-83	楕円形	20×16×10			295		
337	Nt-83	楕円形	26×22×17			295		
338	Ns-83	楕円形	25×23×12		123号土坑に近接	294	269	
339	Ns-83	円形	24×23×10		123号土坑に近接	294	269	
340	Ns-83	楕円形	36×21×11			294		
341	Nt-82	楕円形	22×19×70		134号土坑と重複	280	270	
342	Nt-82	楕円形	18×15×11			280	270	
343	Nr-82	円形	19×19×17			280	270	
344	Nr-82	方形	30×28×16			295	270	
345	Nr-82	円形	23×22×14			295		
346	Nr-82	楕円形	31×28×24			295		

(3) 土坑・ピット

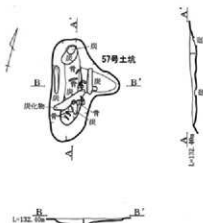
ピット一覧表

番号	位置	形状	長さ×幅×深さ(cm)	出土遺物(未掲載遺物の点数)	備考	遺構図版	遺物図版	写真図版
347	Nr-82	楕円形	24×19×24			第295図		
348	Nr-83	楕円形	30×24×23		92号土坑に法接	295		
349	Nr-83	楕円形	39×34×15		92号土坑に法接	295		
350	Nr-83	円形	22×21×10			295		
351	Nr-82・83	楕円形	32×23×16			295		
352	Nq-82	楕円形	56×22×11			296		
353	Nq-83	楕円形	46×29×16			296		
354	Np-82	円形	34×33×17			296		
355	No-82	円形	45×42×15			296		
356	Nm-82	円形	23×23×8			296		
357	Nm-81	円形	27×27×5			296		
358	Ni・Nm-81	円形	35×35×5			296		
359	Ni-82	円形	35×35×4			296		
360	Ni-82	楕円形	41×35×5			296		
361	Nm-82	方形	21×20×7			296		
362	Ni-83	円形	27×27×10			296		
363	Ni-84	円形	30×29×20			293		
365	Nk-84	楕円形	31×30×16		52号溝と重複	296		
366	Nk-84・85	円形	28×27×34		52号溝と重複	296		
367	Nj-84	円形	32×30×40			296	260	
368	Nj-84	楕円形	26×25×13		52号溝と重複	296		
369	Nj-84	楕円形	25×23×13		52号溝と重複	296		
370	Nj-84	円形	23×23×12		52号溝と重複	296		
371	Nj-84	楕円形	30×25×15			296		
372	Nj-84	円形	24×23×27			296		
373	Ni-85	楕円形	23×20×15			294		
374	Ni-86	楕円形	24×24×19			294		
375	Ni-86	円形	24×24×16		53号溝と重複	294		
376	Ns-85	ほぼ円形	35×34×37			296		



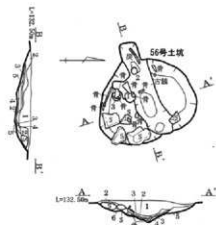
55号土坑 A-A' B-B'

- 1 暗褐色土層 軟らかい。炭化物・骨片を多量に含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかい。炭化物・焼土粒子を少量含む。
- 3 炭化物層



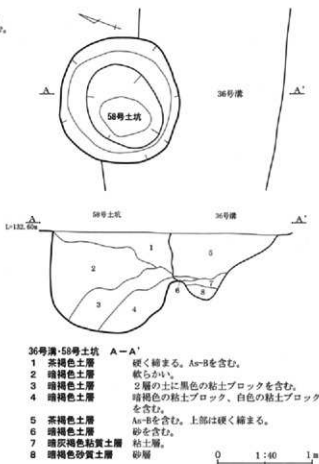
57号土坑 A-A' B-B'

- 1 黄褐色土層 As-Bを含む。



56号土坑 A-A' B-B'

- 1 黄褐色土層 As-Bを含む。
- 2 黄褐色土層 As-B、炭、焼土を含む。
- 3 暗褐色土層 炭化物を含む。
- 4 暗褐色土層 軟らかい骨片主体で炭化物を含む。
- 5 暗褐色土層 炭を含む。軟らかい。
- 6 赤褐色土層 As-Bを少量含む。

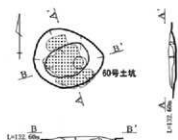


36号溝・58号土坑 A-A'

- 1 赤褐色土層 硬く締まる。As-Bを含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかい。
- 3 暗褐色土層 2層の土に黒色の粘土ブロックを含む。
- 4 暗褐色土層 暗褐色の粘土ブロック、白色の粘土ブロックを含む。
- 5 赤褐色土層 As-Bを含む。上部は硬く締まる。
- 6 暗褐色土層 砂を含む。
- 7 暗灰褐色粘質土層 粘土層。
- 8 暗褐色砂質土層 砂層。

0 1:40 1m

第272図 55~58号土坑



60号土坑 A-A' B-B'

- 1 暗褐色土層 炭化物、As-Bを含む。
- 2 明褐色土層 硬く締まる。As-Bを少量含む。



62号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土層 As-Bを含む。
- 2 暗褐色土層 断片色土ブロックを含む。

66号土坑



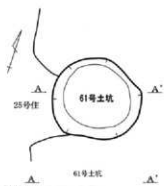
66号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FA、As-Bを含む。
- 2 暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FA、As-Bを含む。



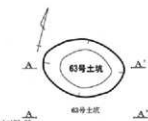
67号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FA、As-Bを含む。



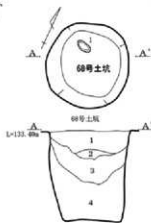
61号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土層 As-Bを含む。
- 2 暗褐色土層 暗褐色土ブロックを含む。



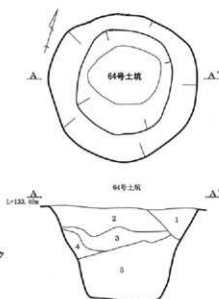
63号土坑 A-A'

- 1 黄褐色土層 黄灰褐色の粘土ブロックと暗褐色土の混土。
- 2 灰褐色砂質土層



68号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土層 硬く締まる。As-Bを含む。
- 2 暗褐色土層 1層の中に黄白色土ブロックを含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。
- 4 暗褐色砂質土層



64号土坑 A-A'

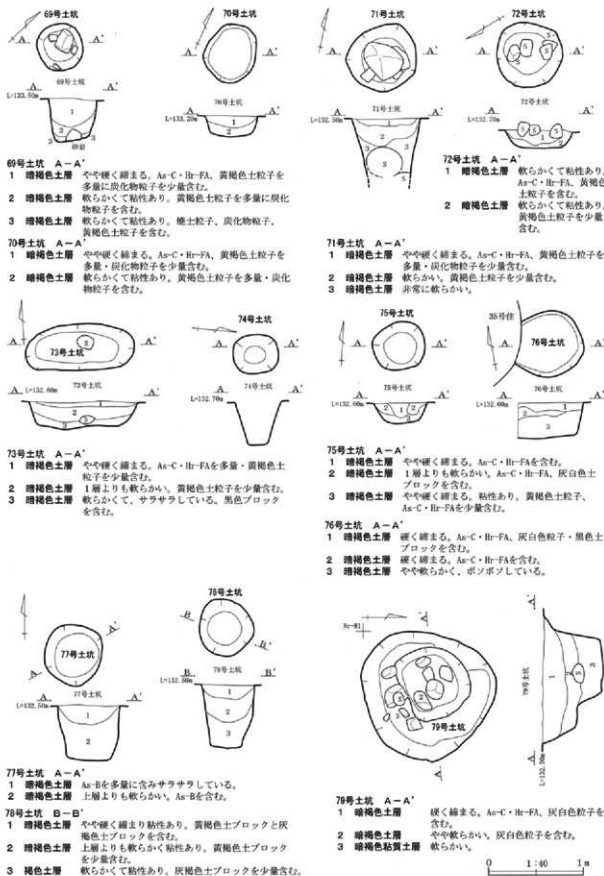
- 1 暗褐色土層 As-Bを含む。
- 2 明褐色土層 As-Bの混土と赤褐色土の混土。
- 3 暗褐色土層 As-Bを含む。
- 4 暗褐色土層 白色の粘土ブロックを含む。
- 5 暗褐色砂質土層



65号土坑 A-A'

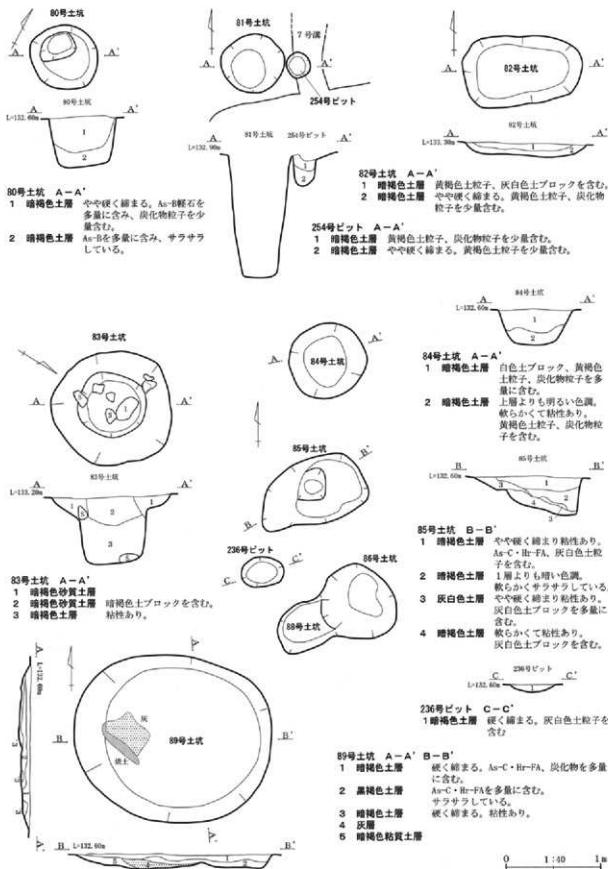
- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。黒色ブロック、As-C・Hr-FAを含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まり、粘性あり。黄褐色土粒子を少量含む。

0 1:40 1m



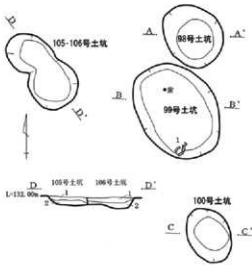
第274図 69～79号土坑

(3) 土坑・ピット



第275図 80~86-88-89号土坑、236-254号ピット

(3) 土坑・ピット

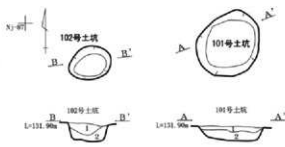


- 98号土坑 A-A'
- 1 褐色土層 軟らかい。黄褐色土ブロック、炭化物粒子を少量含む。
 - 2 黒褐色土層 軟らかくて粘性あり。

- 99号土坑 B-B'
- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄白色粒子、炭化物粒子、焼土粒子を少量含む。
 - 2 灰褐色土層 軟らかくて、サクラクしている。

- 100号土坑 C-C'
- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒子、炭化物粒子を含む。
 - 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロックを多量に含む。

- 105-106号土坑 D-D'
- 1 褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土を含む。
 - 2 暗褐色土層 硬く締まり、粘性あり。



- 101号土坑 A-A'
- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土ブロックを含む。
 - 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。

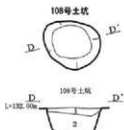
- 102号土坑 B-B'
- 1 黄褐色土層 軟らかくて粘性あり。
 - 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。



- 107号土坑 C-C'
- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子、炭化物粒子を含む。
 - 2 暗褐色土層 上層よりも軟らかい。黄褐色土粒子を含む。
 - 3 黒褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。黄褐色土粒子を含む。

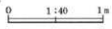
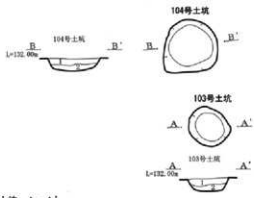


- 104号土坑 B-B'
- 1 褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土を含む。
 - 2 暗褐色土層 硬くしまり粘性あり。



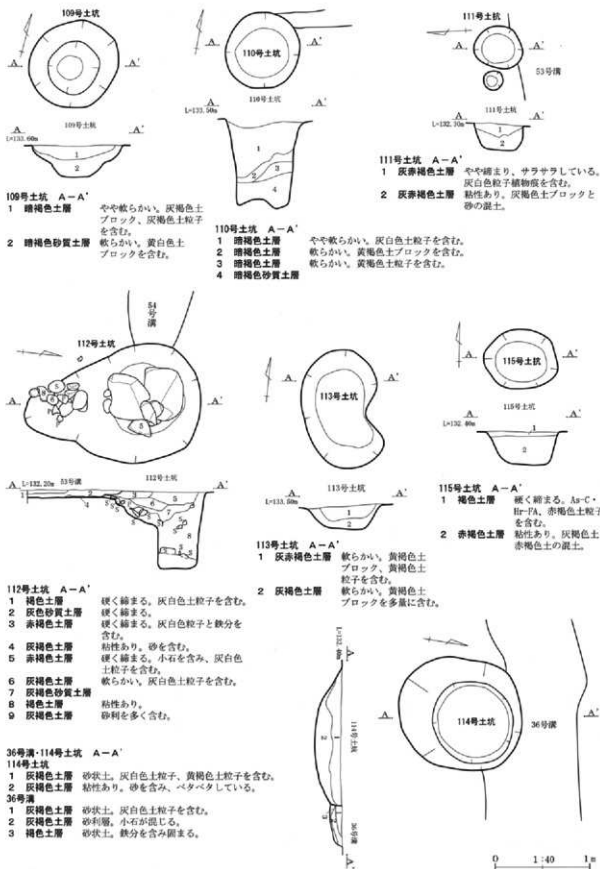
- 108号土坑 D-D'
- 1 灰褐色土層 As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。
 - 2 灰褐色土層 軟らかくて粘性あり。

- 103号土坑 A-A'
- 1 褐色土層 軟らかくて粘性あり。赤褐色土を含む。
 - 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。



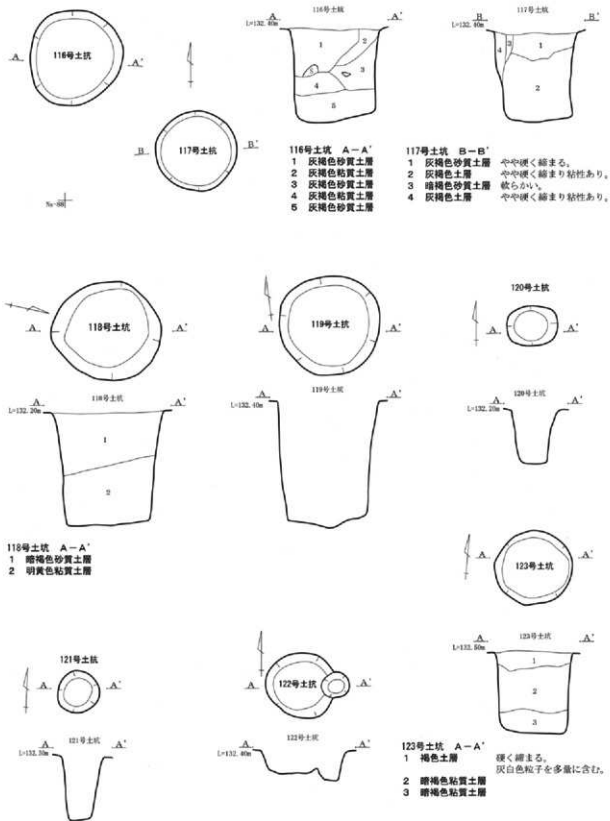
第277図 98-108号土坑

第6章 VI区 検出の遺構



第278図 109~115号土坑

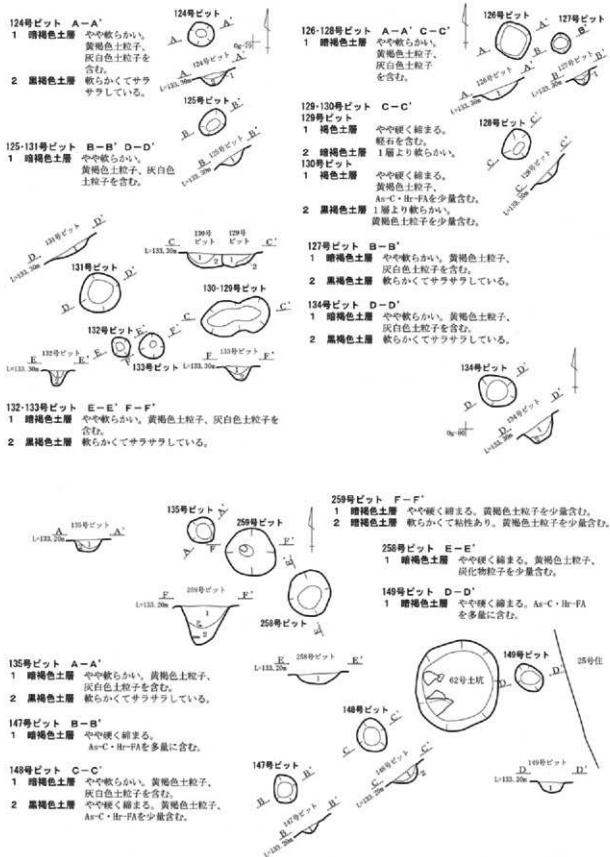
(3) 土坑・ピット



0 1:40 1m

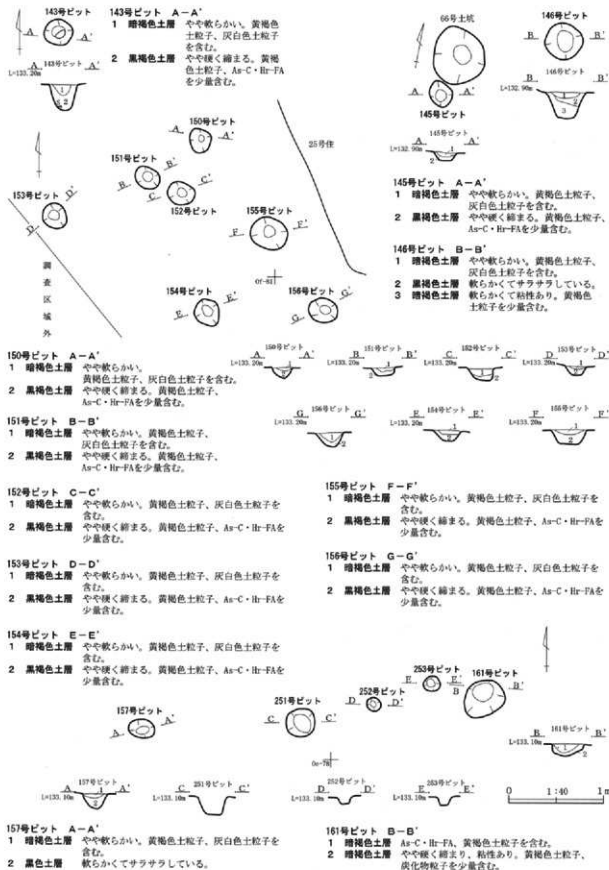
第279図 116～123号土坑

(3) 土坑・ピット



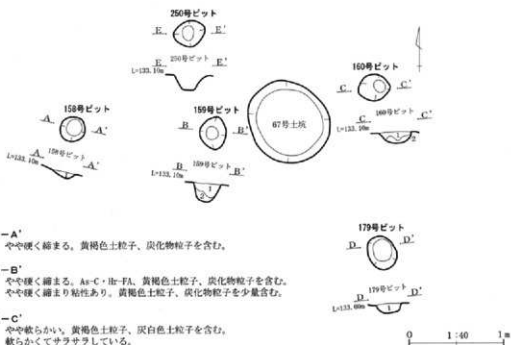
第281図 124~135・147~149・258・259号ピット

(3) 土坑・ピット



第283図 143・145・146・150～157・161・251～253号ピット

α-24



158号ビット A-A'

1 暗褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土粒子、炭化物粒子を含む。

159号ビット B-B'

1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子、炭化物粒子を含む。

2 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。黄褐色土粒子、炭化物粒子を少量含む。

160号ビット C-C'

1 暗褐色土層 やや軟らかい。黄褐色土粒子、灰白色土粒子を含む。

2 黒褐色土層 軟らかくてサラサラしている。

179号ビット D-D'

1 暗褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土粒子、炭化物粒子を少量含む。

162号ビット A-A'

1 暗褐色土層 やや軟らかい。黄褐色土粒子、灰白色土粒子を含む。

2 黒褐色土層 軟らかくてサラサラしている。

163号ビット B-B'

162号ビット A-A'

162号ビット A-A'

162号ビット A-A'

162号ビット A-A'

162号ビット A-A'

162号ビット A-A'

162号ビット A-A'

162号ビット A-A'

162号ビット A-A'

162号ビット A-A'

162号ビット A-A'

162号ビット A-A'

162号ビット A-A'

162号ビット A-A'

162号ビット A-A'

162号ビット A-A'

162号ビット A-A'

162号ビット A-A'

162号ビット A-A'

162号ビット A-A'

162号ビット A-A'

162号ビット A-A'

162号ビット A-A'

162号ビット A-A'

162号ビット A-A'

162号ビット A-A'

162号ビット A-A'

162号ビット A-A'

162号ビット A-A'

162号ビット A-A'

162号ビット A-A'

162号ビット A-A'

162号ビット A-A'

162号ビット A-A'

162号ビット A-A'

162号ビット A-A'

162号ビット A-A'

162号ビット A-A'

162号ビット A-A'

162号ビット A-A'

1 暗褐色土層 やや軟らかい。黄褐色土粒子、灰白色土粒子を含む。

2 黒褐色土層 軟らかくてサラサラしている。

163号ビット B-B'

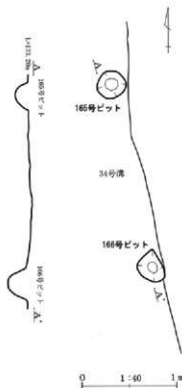
1 暗褐色土層 やや軟らかい。黄褐色土粒子、灰白色土粒子を含む。

2 黒褐色土層 軟らかくてサラサラしている。

164号ビット C-C'

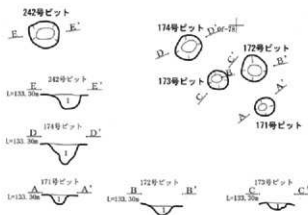
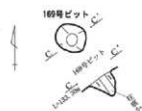
1 暗褐色土層 やや軟らかい。黄褐色土粒子、灰白色土粒子を含む。

2 黒褐色土層 軟らかくてサラサラしている。



第284図 158~180・162~166・179・250号ビット

(3) 土坑・ピット



175号ピット A-A'

- 1 暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FA、灰褐色土粒子、黄褐色土粒子を含む。



167号ピット A-A'

- 1 暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。

168号ピット B-B'

- 1 暗褐色土層 硬く締まる。灰白色土粒子を含む。

169号ピット C-C'

- 1 暗褐色土層 硬く締まる。灰白色土粒子を含む。

245号ピット D-D'

- 1 暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FA、灰白色土粒子を含む。

170号ピット A-A'

- 1 暗褐色土層 灰白色土粒子を含む。ボソボソした土。
2 暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FA、灰白色土粒子を含む。

171号ピット A-A'

- 1 暗褐色土層 硬く締まっているが、ボソボソしている。灰白色土粒子、褐色土ブロックを含む。

172号ピット B-B'

- 1 暗褐色土層 硬く締まっているが、ボソボソしている。灰白色土粒子、褐色土ブロックを含む。

173号ピット C-C'

- 1 暗褐色土層 硬く締まっているが、ボソボソしている。灰白色土粒子、褐色土ブロックを含む。

174号ピット D-D'

- 1 暗褐色土層 砂状土。灰白色土粒子を含む。

242号ピット E-E'

- 1 暗褐色土層 硬く締まる。灰白色土粒子を含む。砂状。

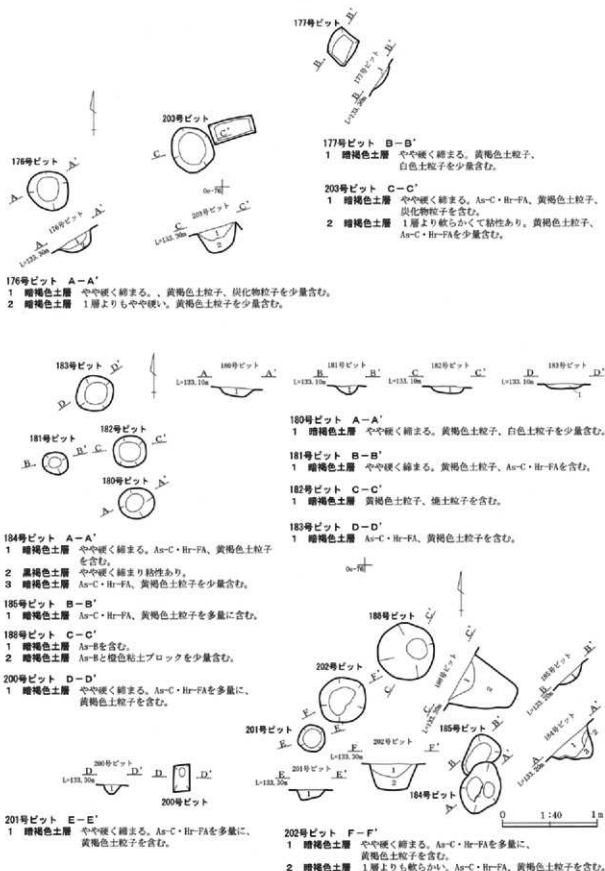


178号ピット A-A'

- 1 暗褐色土層 軽石を含みザラザラしている。

0 1:40 1m

第285図 167~175・178・242・245号ピット



第286図 176-177-180~185-188-200~203号ピット

(3) 土坑・ピット

186号ピット A-A'

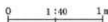
1 暗褐色土層 As-C・Hr-FA, 黄褐色土粒子を含む。



187号ピット B-B'

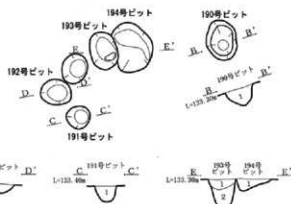
1 暗褐色土層 やや硬く締まる, 黄褐色土粒子, As-C・Hr-FAを含む。

204号ピット



204号ピット C-C'

1 暗褐色土層 やや硬く締まる, As-C・Hr-FAを多量に, 黄褐色土粒子を含む。

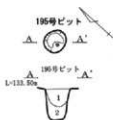


189~192号ピット A-E~A'-E'

1 暗褐色土層 やや硬く締まる, As-C・Hr-FAを多量に, 黄褐色土粒子を含む。

193・194号ピット E-E'

1 暗褐色土層 やや硬く締まる, As-C・Hr-FAを多量に, 黄褐色土粒子を含む。
2 暗褐色土層 1層よりも軟らかい, As-C・Hr-FA, 黄褐色土粒子を含む。



195号ピット A-A'

1 暗褐色土層 やや硬く締まる, As-C・Hr-FA, 黄褐色土粒子を含む。

2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり, 黄褐色土粒子を含む。

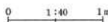
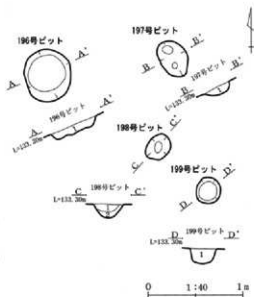
196・197・199号ピット A-A' B-B' D-D'

1 暗褐色土層 やや硬く締まる, As-C・Hr-FAを多量に, 黄褐色土粒子を含む。

198号ピット C-C'

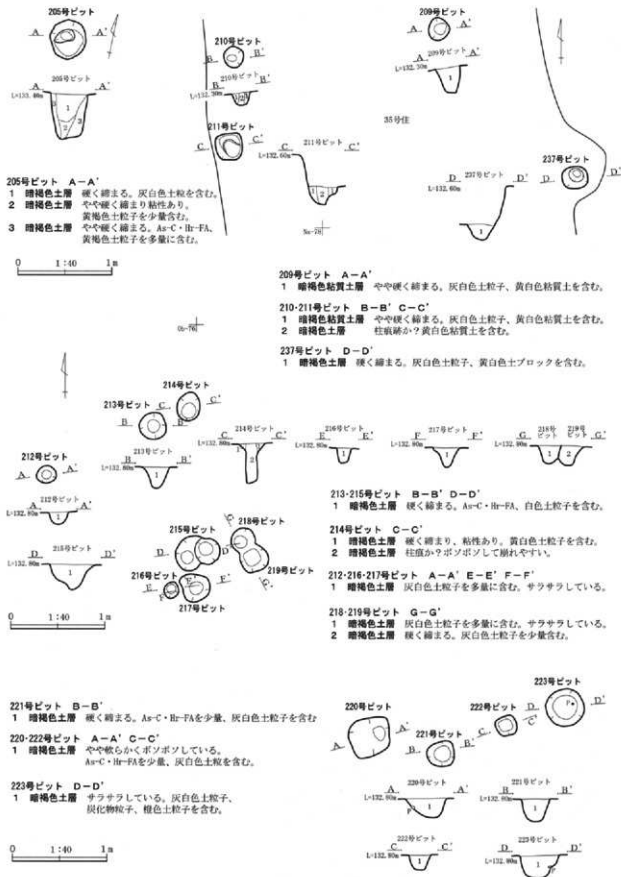
1 暗褐色土層 やや硬く締まる, As-C・Hr-FAを多量に, 黄褐色土粒子を含む。

2 暗褐色土層 1層よりも軟らかい, As-C・Hr-FA, 黄褐色土粒子を含む。



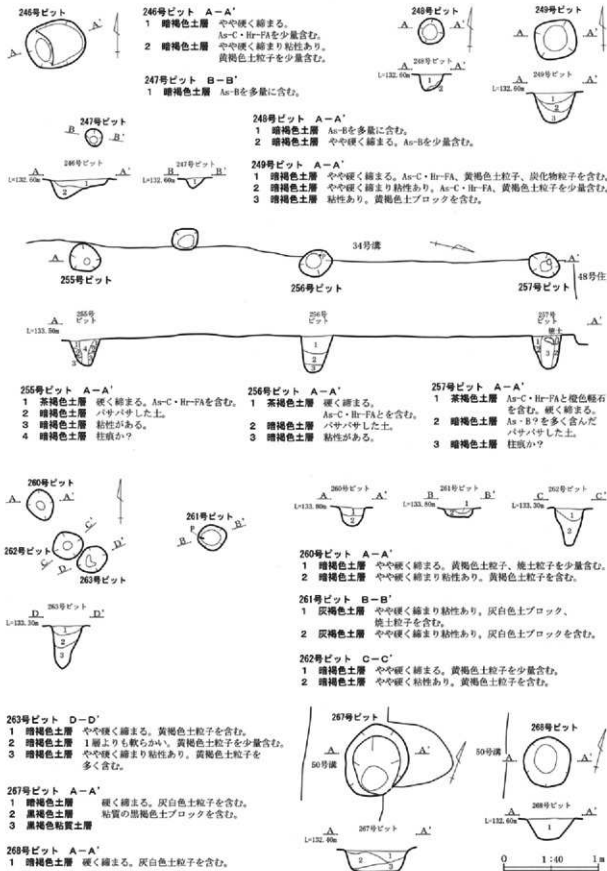
第287図 186・187・189~199・204号ピット

第6章 VI区 検出の遺構



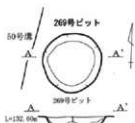
第288図 205-209～223-237号ビット

第6章 VI区 検出の遺構



第290図 246～249・255～257・260～263・267・268号ピット

(3) 土坑・ピット



- 269号ピット A-A'
- 1 褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FAを多量に含む。
 - 2 暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FAを少量含む。



- 270号ピット A-A'
- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を少量含む。
 - 2 黒褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土粒子を少量含む。



- 271号ピット
- 272号ピット
- 272号ピット



- 271-272号ピット A-A' B-B'
- 1 黒褐色土層 硬く締まる。灰白色土粒子、黄白色土粒子を含む。
 - 2 黒褐色土層 軟らかい。



- 273-275号ピット A-A' C-C'
- 1 黒褐色土層 硬く締まる。灰白色土粒子、黄白色土粒子を含む。
 - 2 黒褐色土層 軟らかい。



- 274号ピット B-B'
- 1 黒褐色土層 硬く締まる。灰白色土粒子、黄白色土粒子を含む。
 - 2 黄褐色土層 砂状土。
 - 3 暗褐色土層 砂状土。
 - 4 暗褐色土層 やや軟らかい。
 - 5 暗褐色土層 砂状土。

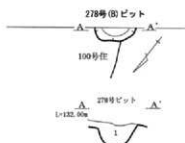
- 276-277号ピット D-D' E-E'
- 1 黒褐色土層 軟らかい。焼土、炭化物粒子、黄白色土粒子を含む。
 - 2 褐色土層 砂状土。

- 278号(A)ピット F-F'
- 1 暗褐色土層 軟らかい。灰白色土粒子、黄白色土粒子を含む。

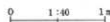


- 279号ピット A-A'
- 1 黒褐色土層 硬く締まる。灰白色土粒子、黄白色粒を含む。
 - 2 黒褐色土層 軟らかい。

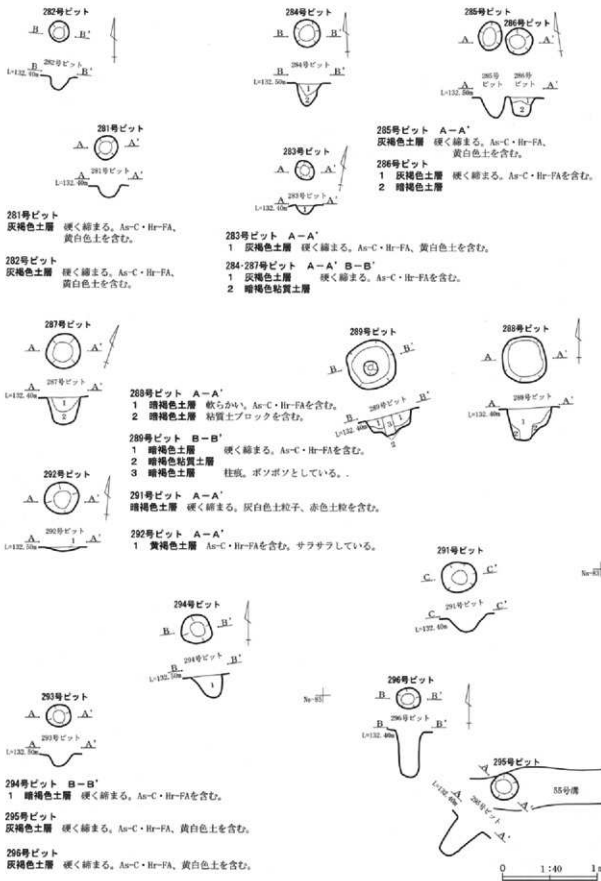
- 280号ピット B-B'
- 1 暗褐色土層 軟らかい。灰白色土粒子、黄白色土粒子を含む。
 - 2 暗褐色土層 軟らかい。黄褐色土ブロック、黄褐色土粒子を含む。



- 278号(B)ピット A-A'
- 1 暗褐色土層 軟らかい。灰白色土粒子、黄褐色土粒子を含む。

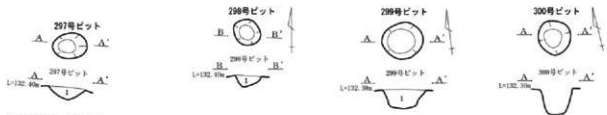


第291図 269~280号ピット



第292図 281~289・291~296号ピット

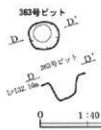
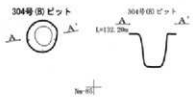
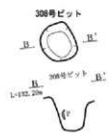
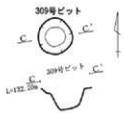
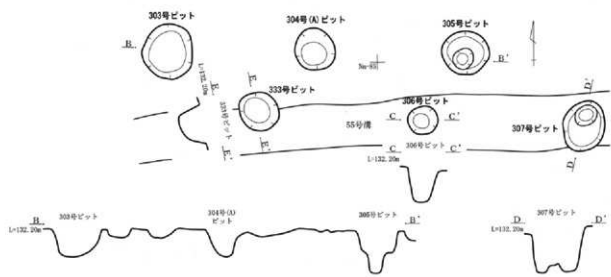
(3) 土坑・ピット



297号ピット A-A'
 1 灰褐色土層 サラサラしている。As-C・Hr-FA、黒色土粒子を含む。

298号ピット B-B'
 1 灰褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄白色土粒子を含む。

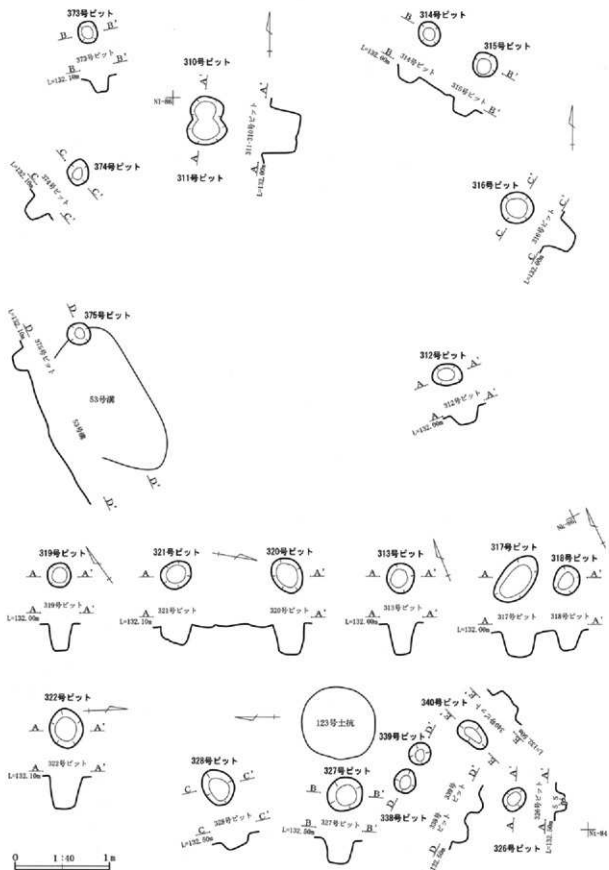
299号ピット A-A'
 1 灰褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄白色土粒子を含む。



第293図 297~300-302~309-333-363号ピット

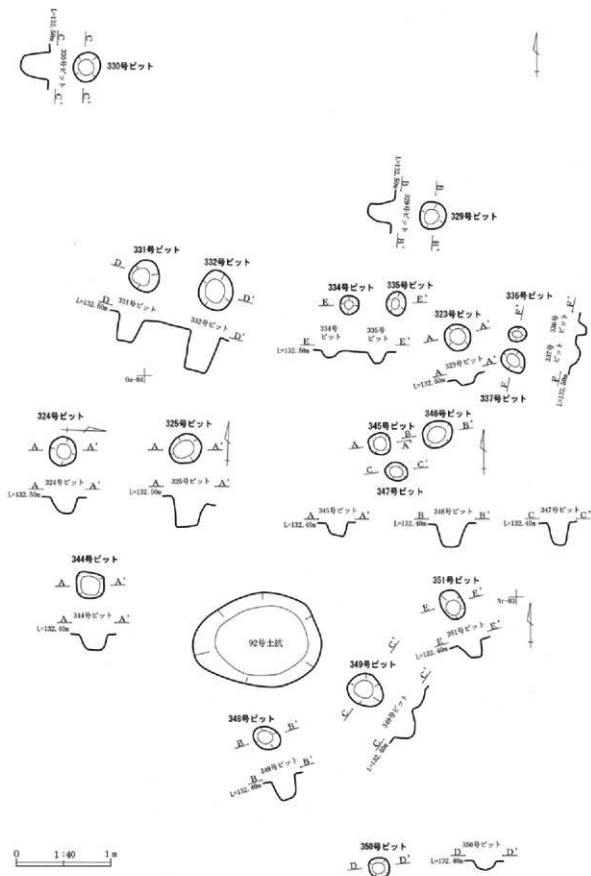


第6章 VI区 検出の遺構



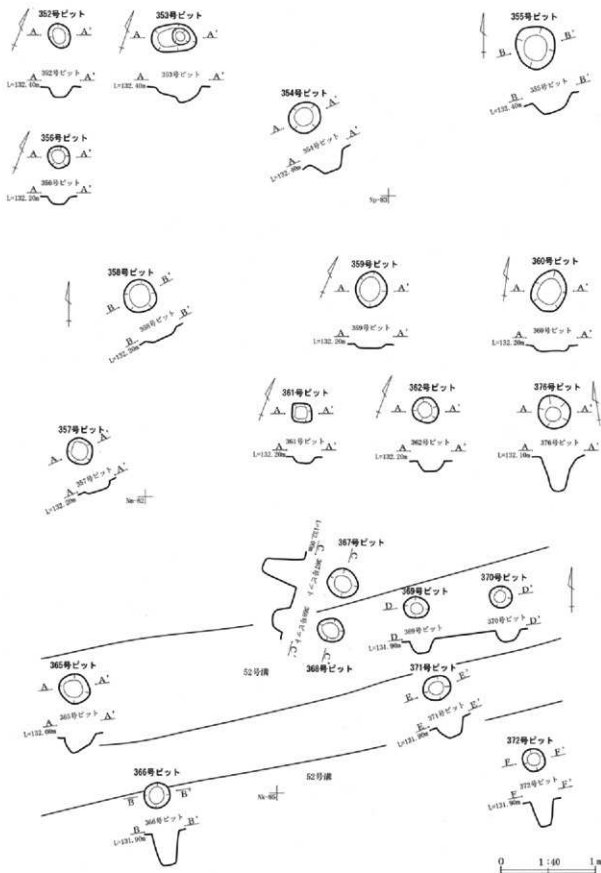
第294図 310～322・326～328・338～340・373～375号ビット

(3) 土坑・ピット



第295図 323~325・329~332・334~337・344~351号ピット

第6章 VI区 検出の遺構



第296図 352~363・365~372・376号ピット

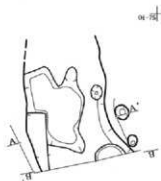
(4) 溝

(1) N-10° ~ 20° -W 走向の溝

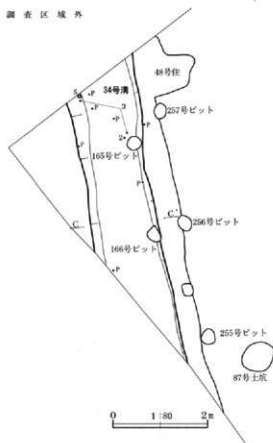
37号溝 (①第299図、P.L.273) は、調査区南東で検出された。幅60cm、深さ40cm、検出された長さ6.3mである。出土遺物は無いが36号溝につながることから、36号溝と同時期と思われる。また、As-B (浅間B軽石) の上面から掘り込まれていることから時期は中世と考えられる。

39号溝 (①第300・302図②第285図、P.L.274・298) は、調査区北西で検出された。幅130~300cm、深さ10~30cmである。全体的に浅く、溝は2条になるところもあり、掘り直しの可能性も伺える。全体に石が散らばることから水路と考えられる。52号溝に流れ込むように直角につながっている。検出された長さは25mほどであったが、北方向に延びていたと推測される。52号溝と同時期と考えられることから、時期は中世といえよう。

43号溝 (①第301図②第292・293図、P.L.275・300) は、調査区中央で検出された。幅50cm、深さ120cmであり、42号溝から分かれて平行に南下するが、検出された長さは5mである。出土遺物は茶臼・石鉢・砥石・敲石であり、42号溝と同時期と考えられることから、時期は15世紀である。

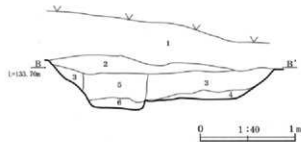


調査区域界

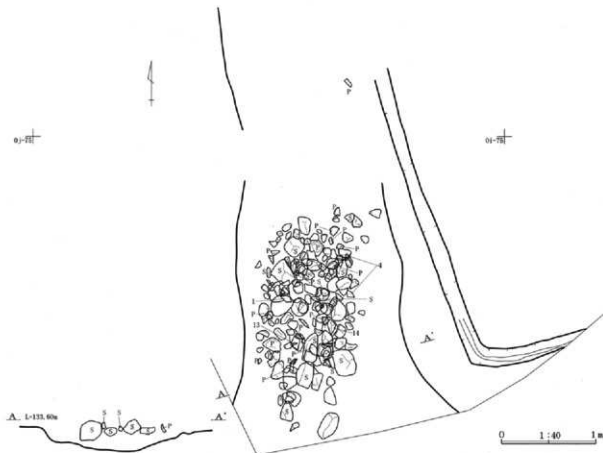


34号溝 B-B' C-C'

- 1 黄土
- 2 明褐色土層 やや軟らかい、炭化物、灰白色土粒子、鉄分を含む。
- 3 暗褐色土層 砂状、小石を含む。
- 4 暗褐色土層 砂状、小石を3層よりも多く含む。
- 5 暗褐色土層 3層に似る。より砂状土。
- 6 黒褐色土層 粘性あり。砂を含む。



第297図 34号溝(1)



第298図 34号溝(2)

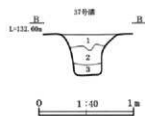
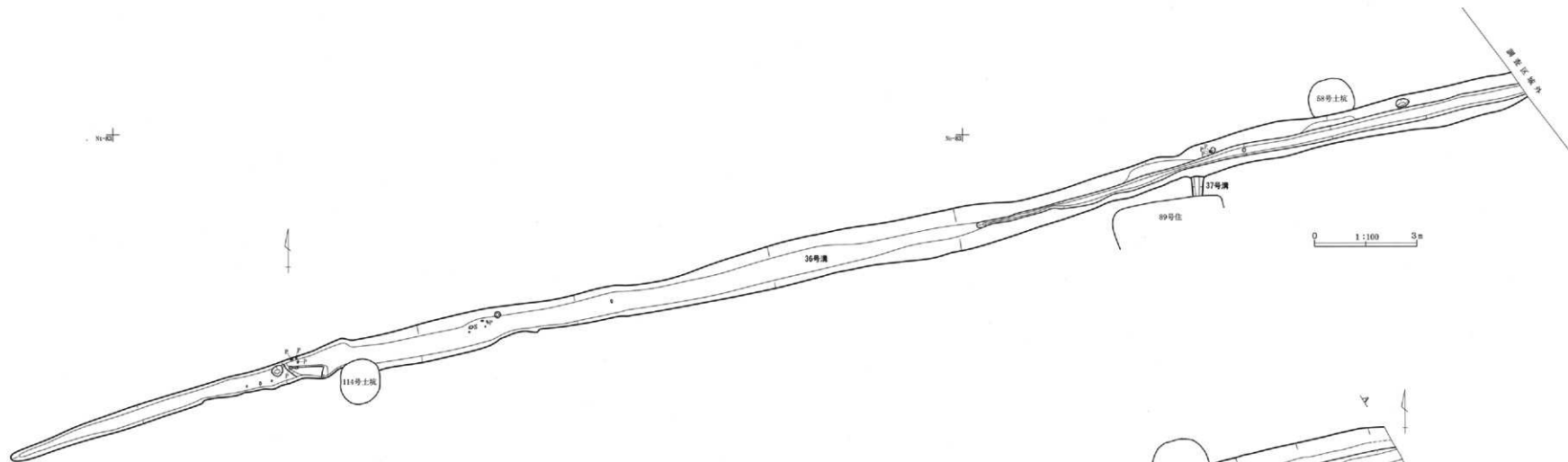
45号溝 (①第304図) は、調査区北で検出された。幅60cm、深さ20cm、検出した長さ12mである。北側に石の集積する部分があり、水路と考えられる。出土遺物は無く、時期は不明である。

49号溝 (①第305図) は、調査区北西で検出された。幅30cm、深さ20cm、検出した長さ5.4mである。出土遺物は無く、時期は不明である。

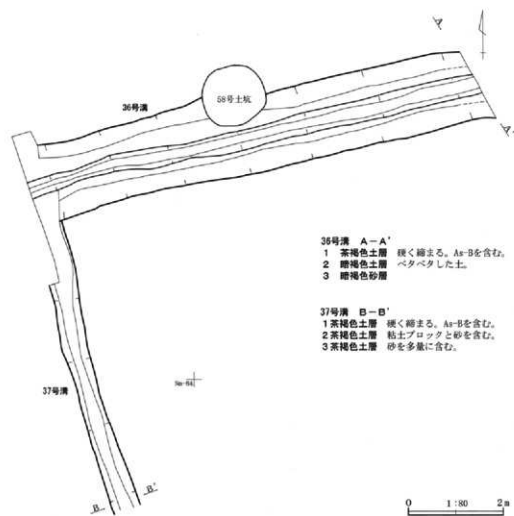
50号溝 (①第305図②第295・296図、P L.276・301) は、調査区北東で検出された。幅100～200cm、深さ30cmであり、北東隅で42号溝にほぼ直角につながる。長さは30mであり、南の端で止まる。57号溝との間が1.5mあいている。区画溝と考えられる。出土遺物はカワラケ・軟質陶器内耳鍋・掘り鉢、砥石・石臼であり、時期は15世紀と考えられる。51号溝が接続している。42号溝、57号溝とで方形の区画を構成する。

56号溝 (①第302図) は、調査区南西で検出された。幅60cm、深さ120cm、検出された長さ7mである。52号溝につながる。砂層があり水路と考えられる。出土遺物は無いが52号溝につながることから、時期は同時代の15世紀と考えられる。

60号溝 (①第308図、P L.263) は、調査区南中央で検出された。幅80cm、深さ10cm、検出された長さ8mである。出土遺物は無く、時期は不明である。



第299図 36号溝・37号溝



36号溝 A-A'
 1 茶褐色土層 緩く締まる。As-Bを含む。
 2 暗褐色土層 ベタベタした土。
 3 暗褐色砂層

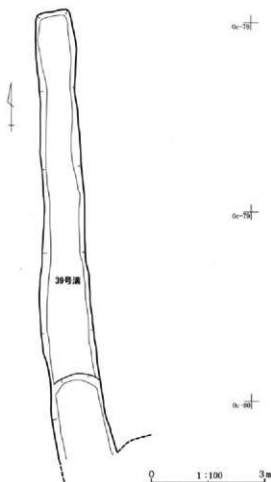
37号溝 B-B'
 1 茶褐色土層 緩く締まる。As-Bを含む。
 2 茶褐色土層 粘土ブロックと砂を含む。
 3 茶褐色土層 砂を多量に含む。

(2) N-70° ~ 80° - E 走向の溝

36号溝 (①第299図②第284図、P.L.273・298) は、調査区南側で検出された。幅160cm、深さ120cm、断面形状は葉研堀である。幅55mの調査区を東西に横切る。Ⅵ-2区の11号溝につながる。埋没土より水路と考えられる。出土遺物は、須恵器坏・土師器坏、北宋銭であり、Ⅵ-2区11号溝と同一と思われることから、時期は15世紀と考えられる。また、この溝は調査区東側においてAs-B(浅間B軽石)面より掘り込まれていたことや、周辺に北宋銭とカワラケを伴う中世の火葬施設が検出されていることより上記のことを裏付けられよう。37号溝が直交し、39号溝と42号溝と重複している。V区では、66号溝とつながる。11号溝の項で述べたように、この溝はⅥ区だけでなく、Ⅶ区、Ⅴ区を貫いている幹線的な水路である。

52A・52B号溝 (①第306図②第297~300図、P.L.276・301・302) は、調査区南側で検出された。幅350cm、深さ50~60cmであり、36号溝と同走向で幅25mの調査区を東西に一直線に横切る。この溝は、36号溝より南側に位置する。出土遺物はカワラケ・軟質陶器内耳鍋・掘り鉢、茶臼・石鉢・砥石・凹石であり、また、埋没土最下層に鉄分を含んだ堅く締まった砂層があることから、36号溝と同じく15世紀の水路と考えられる。ただ、この溝は新旧2条の溝からなり南側52B号溝が新しい。2条の溝は、ほとんど重なり合い、近い時期の掘り直しと思われる。北側から39号溝・42号溝・56号溝が垂直方向に流れ込んでおり、その交点部分は砂礫が多く散乱していて、新旧2条の溝の区別もつかない。また、西から15mほどのところで54号溝が接続する。この溝も36号溝と同じ役割を持つものと考えられる。つまり、この地区の幹線的な水路ということである。ただし、時期が多少異なるものといえよう。この溝に流れ込んでいる42号溝と39号溝が36号溝を壊していることから、36号溝より52A・B号溝が新しいといえる。

53号溝 (①第306図②第301図、P.L.303) は、調



第300図 39号溝

査区南側で検出された。幅200cm、深さ50cm、検出された長さ16mである。井戸を伴う。出土遺物は軟質陶器掘り鉢であり、時期は中世と考えられる。54号溝を壊している。

57号溝 (①第307図②第301図、P.L.276・303) は、調査区中央で検出された。幅150~300cm、深さ50cm、検出された長さ25mである。42号溝に垂直に接続する。接続部に木杭跡があり、石が散見する。埋没土等からも水が流れていたと思われる。交点部分は2mであるが東方向に5mほどのところでやや幅が狭くなり、交点から25mのところまで止まってしまう。50号溝とはつながらず1.5mあいている。42号溝、50号溝とで方形区画を構成する。時期は、42号溝と同時代と考えられる。

第6章 VI区 検出の遺構

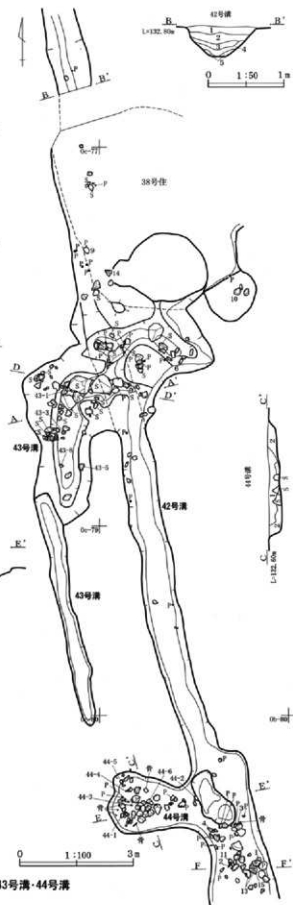
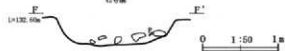
42号溝 B-B'

- 1 暗褐色土層 硬く締まる。灰白色土粒子を多量に含む。
- 2 暗褐色土層 As-C・Hr-FA, 灰白色土粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 灰白色土粒子を少量含む。
- 4 暗褐色粘質土層
- 5 暗褐色砂質土層

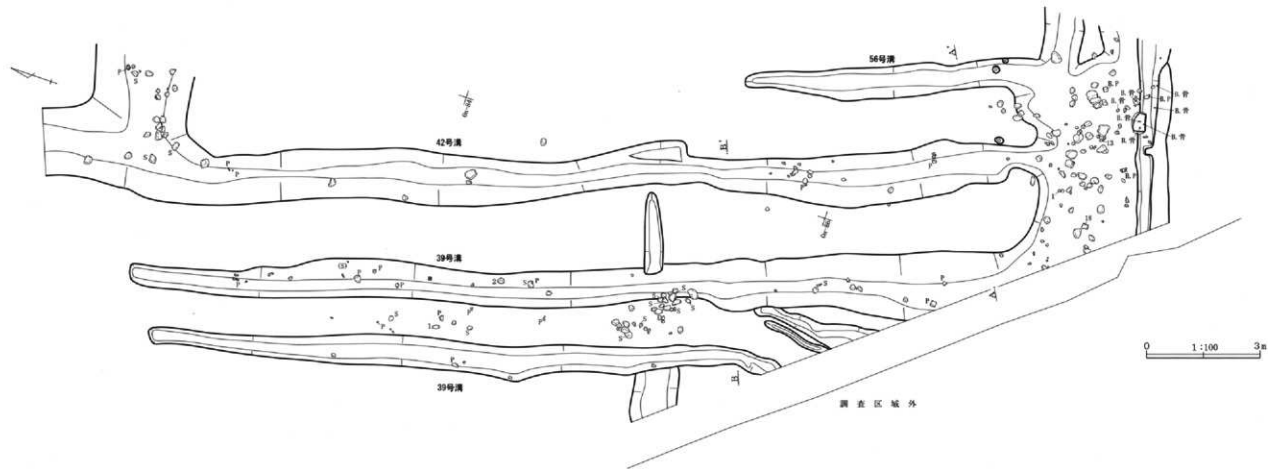


42-43号溝 A-A'

- 1 暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FA, As-Bを多量に含む。
- 2 暗褐色土層 1層と同様であるが、粘りのある褐色の土を含む。軟らかい。1層と同様であるが、
- 3 暗褐色土層 黒色粘土ブロックを含む。
- 4 暗褐色土層 黒色粘土ブロック、As-C・Hr-FAを含む。
- 5 暗褐色質土層
- 6 暗褐色砂質土層



第301図 42号溝・43号溝・44号溝



調査区域外

0 1:100 3m



39-42-56号溝 A-A'

- a溝
- 1 灰褐色砂粘層
 - 2 灰褐色土層
 - 3 灰褐色土層 砂状に黒褐色土ブロックを含む。
- b溝
- 1 粉黄褐色土層
 - 2 灰褐色砂粘層
 - 3 灰褐色砂粘層

42号溝

- 1 褐灰色土層 糖く縮まじり、灰白色粒子を含む。
- 2 灰褐色粘質土層

56号溝

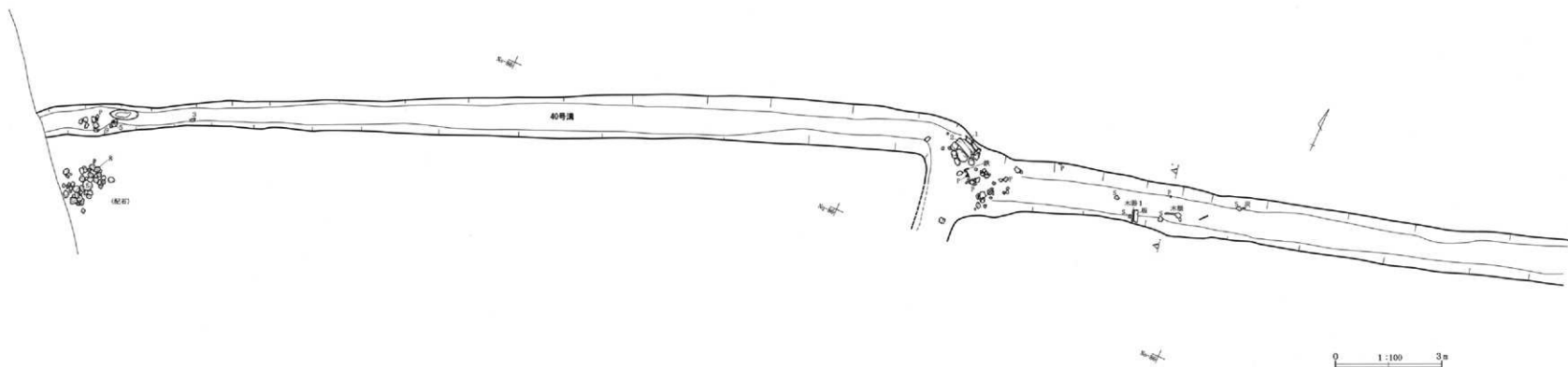
- 1 黄褐色土層 Al=C・Hr=FAを多量に含む。

39-42号溝 B-B'

- 1 褐色土層 明黄褐色土、As=C・Hr=FAを含む。

0 1:50 3m

第302図 39号溝・42号溝・56号溝



溝一覧表

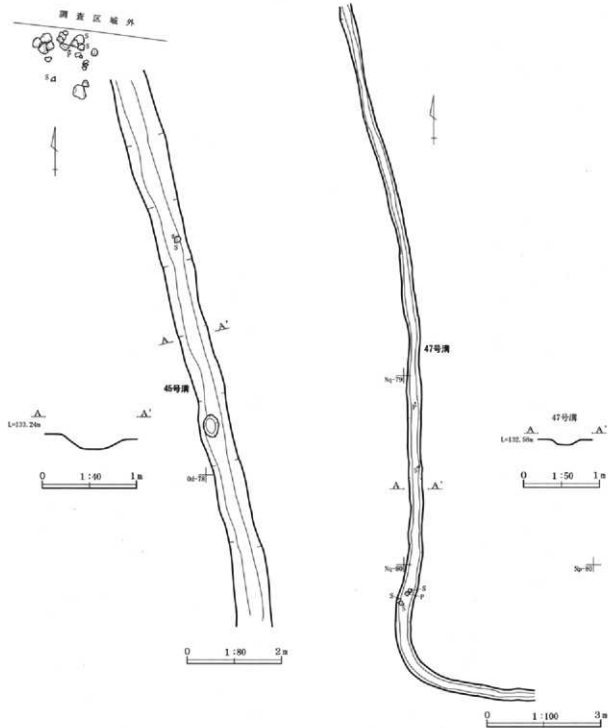
番号	位置	長さ×幅×深さ(m)	出土遺物(本視観遺物の点数)	備考	遺構図版	遺物図版	写真図版
34	Df-74-Nr-78	16×1.6-2.5×0.24-0.38			82F-268	83A-303B	272-297-298
36	Nk-82-Ob-85	54.6×0.3-1.3×0.64			299	284	273・298
37	Nt-85-Nm-83	10×0.4-0.5×0.42			299		273
39	Oc-77-Nt-86	(46)×0.9-1.4×-			300-302	285	274・296
40	Om-84-Oc-87	54.2×0.8-1.2×0.4			303	286-291	273・299
42	Or-75-Nt-86	89×0.8-1.9×0.3-0.4			301-302	288-291	275-299-300
43	Oc-77-Oc-80	10×0.5-1.2×0.6			301	292-293	275・300
44	Ob-80-Oc-80	2.8×0.9-1.7×0.18			301	294	301
45	Od-74-Oc-76	14×0.6-0.9×0.14			304		
47	Nq-75-No-80	32.5×0.3×0.4			304		
48	Nr-74-Nr-76	9.5×0.3×-					
49	Df-75-Of-77	6.8×0.3×0.1			305		
50	Nr-74-Nq-80	28.5×0.3-1.5×0.24			305	295-296	276・301
51	Nq-80	1.8×0.3×0.14			305		
52	Nj-84-Nt-87	54.5×2.4-3.5×0.1-0.3			306	297-300	276-301-302
53	Nk-86-No-87	17.2×0.9-2.3×0.22			306	301	303
54	Nt-87-Nr-87	38×0.4-0.8×0.1			306	301	303
55	Nm-85-Nt-85	36.5×0.3-0.4×0.1					
56	Nt-85-Nt-86	7.9×0.5-0.8×0.12			302		
57	Nq-81-Or-82	24×1.5-2×0.2-0.5			307	301	276・303
58	Nm-87	2.5×0.2×-					
59	Nk-82-Nm-83	10×0.8-1×0.17					
60	Nt-82-Nr-84	8.3×0.7×0.1			308		263
61	Nr-87-Nt-87	5.5×0.4×-				301	303



40号溝 A-A'

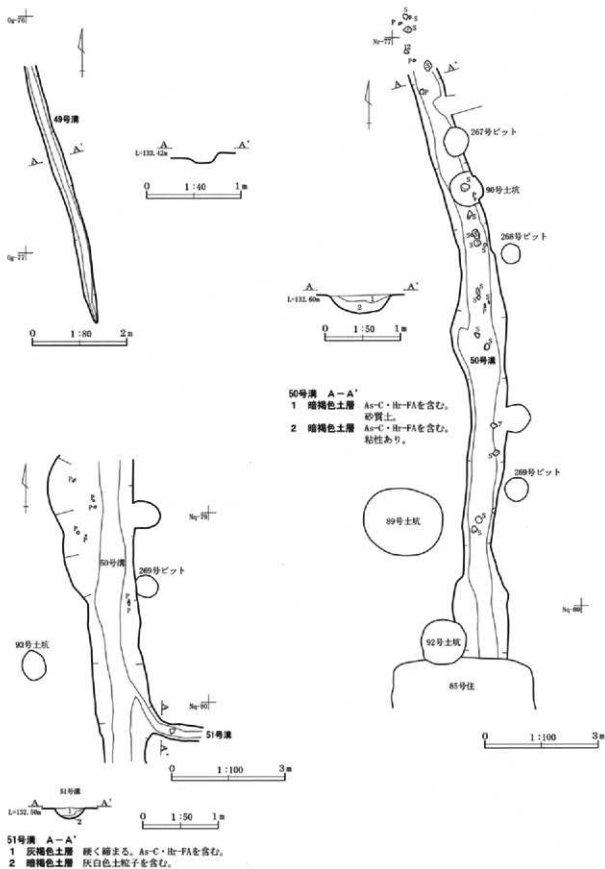
- 1 灰褐色土層 砂を含む。
- 2 灰色土層 1層より多砂を多く含む。
- 3 砂層 砂を多量に含む。
- 4 灰褐色土層 砂は殆ど含まない。

第303図 40号溝

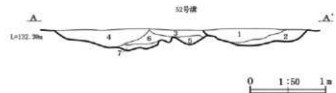
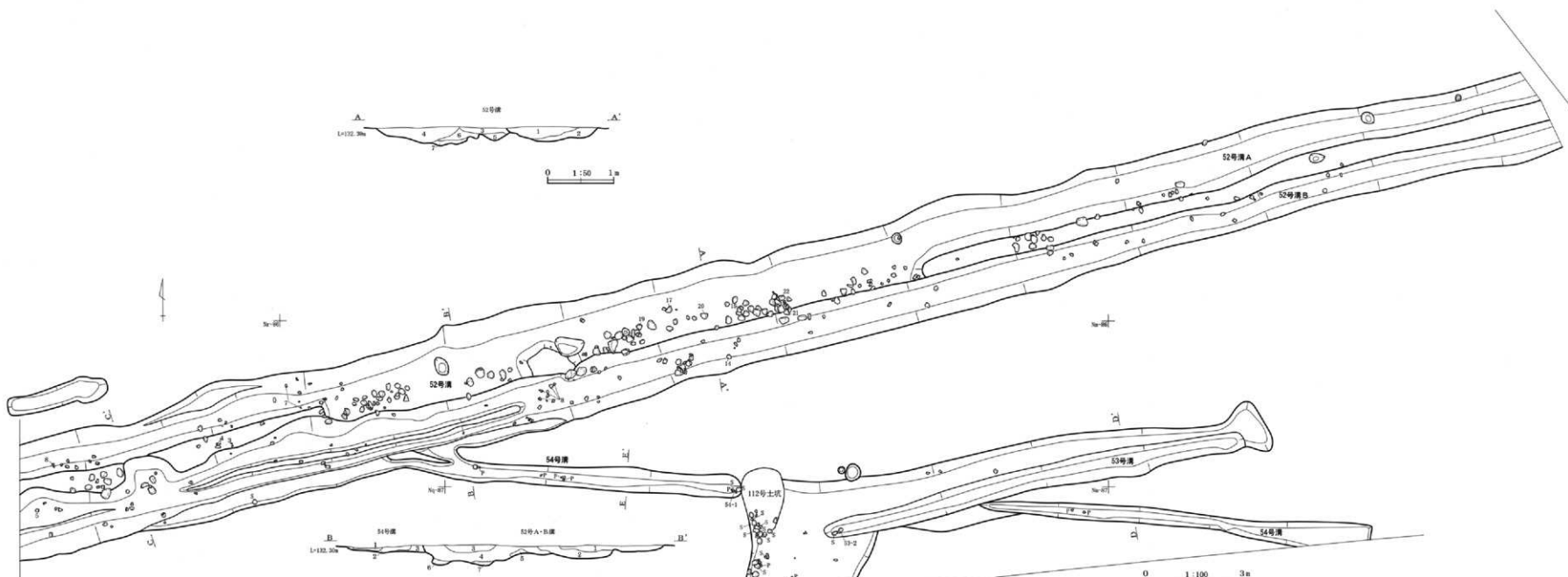


第304图 45号溝-47号溝

第6章 VI区 検出の遺構



第305図 49号溝・50号溝・51号溝



- 52号溝 A-A' B-B'
- 1 灰褐色土層 やや硬く締まる。As・C・Hr・FA、赤褐色土粒子を含む。
 - 2 灰褐色粘質土層 細かい砂状土を含む。
 - 3 灰褐色土層 やや軟らかい。As・C・Hr・FAを含む。
 - 4 灰褐色土層 粘質土と砂状土を含む。
 - 5 灰褐色土層 硬く締まる。鉄分を含む。As・C・Hr・FAを含む。
 - 6 灰褐色土層 砂利を含み、ササガラしている。
 - 7 灰褐色砂利層 硬く締まる。鉄分を含む。

- 54号溝 B-B'
- 1 灰褐色土層 小石を多量に含む。
 - 2 赤褐色土層 鉄分を含み、小石を少量含む。
 - 3 灰褐色土層 やや硬く締まる。



- 54号溝 E-E'
- 1 灰褐色土層 やや硬く締まる。砂状土。
 - 2 赤灰褐色土層 硬く締まる。鉄分を含み、As・C・Hr・FAを含む。

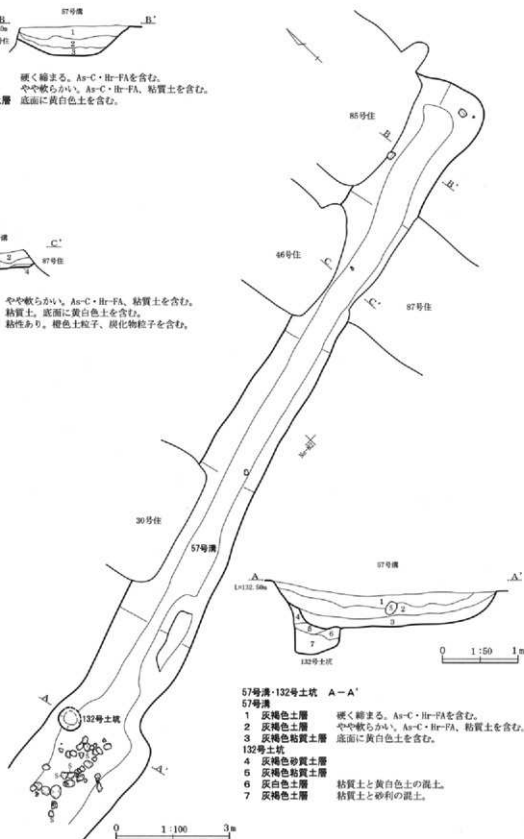


- 53-54号溝 D-D'
- 53号溝
- 1 灰褐色土層 やや硬く締まる。砂状土。
 - 2 赤灰褐色土層 硬く締まる。鉄分を含み、As・C・Hr・FAを含む。
- 54号溝
- 1 灰褐色砂利層

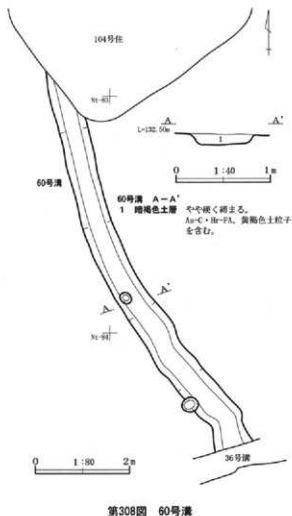


- 52号溝 C-C'
- 1 灰褐色土層 やや硬く締まる。As・C・Hr・FA、黄褐色土粒子を含む。
 - 2 灰褐色土層 軟らかくて粘性あり。下層はササガラしている。
 - 3 灰褐色土層 やや硬く締まる。As・C・Hr・FA、黄褐色土粒子、砂利を含む。
 - 4 灰褐色土層 砂利を含み、ササガラしている。
 - 5 灰褐色土層 やや硬く締まる。As・C・Hr・FA、黄褐色土粒子、炭化物粒子を含む。
 - 6 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。

第306図 52~54号溝



第307図 57号溝



第308図 60号溝

(3) 直角方向に曲がる溝

42号溝 (①第301・302図②第288～291図、P.L.275・299・300) は、調査区中央から北で検出された。幅100～170cm、深さ70cmであり、調査区北東隅より $N-75^{\circ}-E$ の走向で25m地点ではほぼ直角に曲がり ($N-15^{\circ}-W$) 南下する。10m南下した地点に直径約30～50cmの川原石が多く積み重なる場所があり、そこが43号溝との分岐点である。その石の集積場から北東側に井戸があり、その付近一帯が水に関する施設の存在を伺わせる。洗い場のような場所と思われる。そこからさらに10m南下したところで44号溝との交点がある。溝の幅は170cmとや

や広くなる。またさらに10m南下したところで57号溝と直交する。この部分では、多くの石の散乱が見られ、木杭の痕跡も認められた。ここも分岐点であろう。そして、この溝はさらに南下して52号溝に至る。52号溝との交点部分にはさらに多くの石の散乱が見られた。

また、調査区の北東隅では $N-15^{\circ}-W$ 走向の50号溝とつながる。42号溝は、57号溝と50号溝とで方形に囲む区画を構成する。その内部には多くのピットのあり方から屋敷跡の存在が伺える。本溝からの出土遺物は、土質灯明皿、軟質陶器内耳鍋、茶臼・砥石・磨石・台石・北宋銭等であり、時期は15世紀と考えられる。屋敷の区画と水路を兼ねた溝と考えられる。重複関係は、36号溝を壊している。

(4) その他の 方向の溝

54号溝 (①第306図②第301図、P.L.303) 位置：調査区南。幅100cm。深さ20cm。検出された長さ30m。出土遺物：無し。重複：52B号溝につながり、53号溝に壊される。時期：中世。走向： $N-80^{\circ}-W$ 。

44号溝 (①第301図②第294図、P.L.301) 位置：調査区中央。幅150cm。深さ20cm。検出された長さ：3m。出土遺物：軟質陶器内耳鍋・掘り鉢、凹石。42号溝との交点部分に石の集積場あり。42号溝とつながる。時期：15世紀。走向： $N-90^{\circ}-E$ 。

40号溝 (①第303図②第286・287図、P.L.273・299) 位置：調査区中央。幅120cm。深さ30cm。検出された長さ38m。出土遺物：土管・掘り鉢。時期：近代。走向： $N-90^{\circ}-E$ 。

VI区 昭和18年田畑

番号	面積 (m ²)
①	424.5
②	164.8
③	276.3
④	150.4
⑤	49.1
⑥	115.7
⑦	118.4
⑧	292.8
⑨	394.7
⑩	320.5
⑪	404.3
⑫	224.0
⑬	32.0
⑭	152.5
⑮	477.3
⑯	549.9



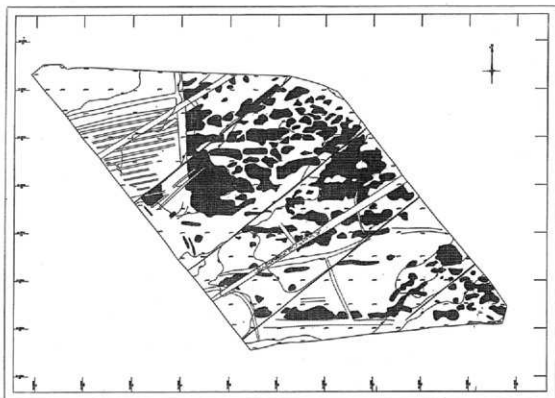
第7章 V区 検出の遺構

V区の調査面積は3,515㎡である。現水田面を掘削し、新たに検出した面を1面(①第311図、P.L.305)として調査を始めた。その主要な調査は、飛行場造成土の平面的分布の図化作業である。

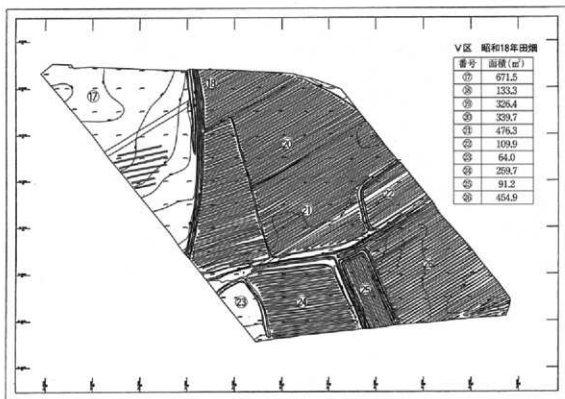
1面の図化終了後、2面(昭和18年)(①第312図、P.L.306・367)の調査に入った。この面の調査もまた、田畑の図化を中心としたものである。

2面掘削後、住居跡(①第310図)などの調査に入ったが、思わぬ湧水に悩まされ常時排水ポンプを設置しながらの発掘となった。さらに工事行程に追われた結果、住居跡床面の確認や遺物出土状況の確認作業に困難をきたした。





第311図 1面全体図 (1/800)



第312図 2面全体図 (1/800)

(1) 竪穴住居跡

105号住居跡 (①第313図②第304図, P.L.307・352)

位置 Nf-81・82グリッドにかけて検出。

形状 長辺約4.6m、短辺約3.1mの隅丸長方形。

方位 N-94° - E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約25~30cmで床面。

床面 ほぼ平坦である。粘性のある土壌で床面を貼る。面積は12.1m²。中央部に床上から確認できる土坑1基を検出した。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁のやや南寄りに構築されていた。左右の袖から構築材として使われた礫が出土した。燃焼部の幅は50cm、奥行きまでの長さは140cmである。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 遺物の出土はほとんどない。

時期 150号住居を壊していることにより、9世紀以降と考えられる。

備考 150号住、66号溝、169号土坑を壊している。

106号住居跡 (①第314図②第305・306図, P.L.308・352)

位置 Ng・Nh-83・84グリッドにかけて検出。

形状 長辺約4.1m、短辺(検出範囲)で、約3.4mの方形を呈するものと思われる。南西側は調査区外になり、北側は土坑によって壊されているため、全容は不明である。

方位 N-87° - E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約30cmで床面に達する。

床面 ほぼ平坦である。現状での面積は、13.4m²。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の南寄りに構築されていた。燃焼部の幅は60cm、奥行きまでの長さは80cm。先端の一部は480号ピットによって壊されていた。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 南壁付近から須恵器の塊・羽釜が出土している。

時期 10世紀前半。

備考 197号土坑を壊していた。

107号住居跡 (①第315図②第307・308, P.L.309・352)

位置 Ng・Nh-83グリッドにかけて検出。

形状 110号住居に壊されており、全容は不明であるが、長方形を呈すると思われる。

方位 N-88° - E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約28cmで床面。

床面 ほぼ平坦である。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁を掘り込んで構築されていた。燃焼部の幅は34cm、奥行きまでの長さは112cm。

柱穴 掘り方の段階で、ピット4基を検出した。ピット1の深さ16cm、2は60cm、3は33cm、4は35cmである。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 南壁付近から土師器の坏、須恵器の蓋が出土した。覆土からは土師器の坏が出土している。

時期 7世紀後半。

備考 110号住に壊されている。

110号住居跡 (①第315図②第312図, P.L.309・353)

位置 Ng・Nh-82・83グリッドにかけて検出。

形状 107号住居、111号住居と重複しており、本住居が一番新しい。形状は方形と考えられる。

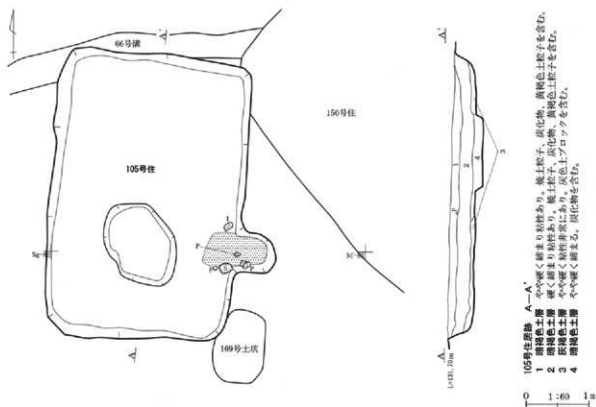
方位 N-88° - E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は6層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約30~36cmで床面。

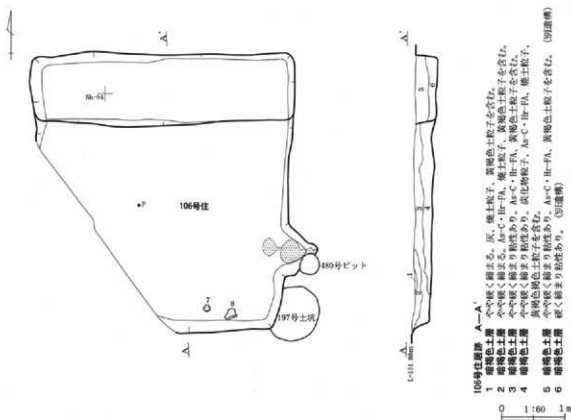
床面 平坦である。床下土坑1基を検出した。

周溝 検出できなかった。



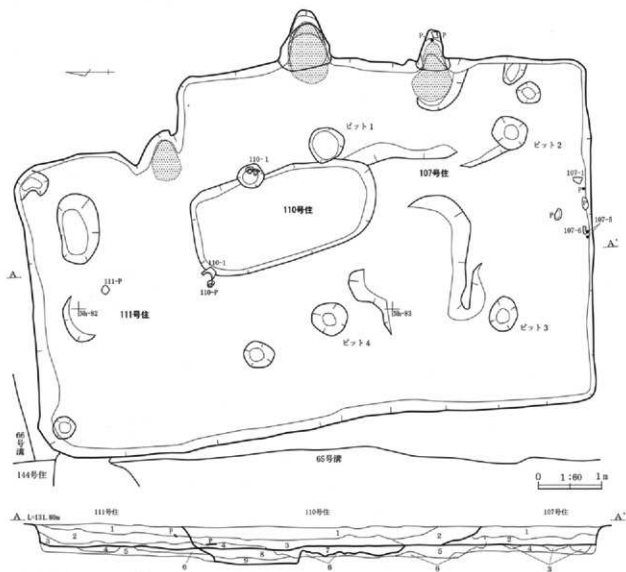
第313図 105号住居跡

- 105号住居跡 A-A'
- 1 暗緑色土層 やや硬く締まり粘性あり、焼土粒子、炭化物、黄褐色土粒子を含む。
 - 2 暗褐色土層 硬く締まり粘性あり、焼土粒子、炭化物、黄褐色土粒子を含む。
 - 3 灰緑色土層 やや硬く粘性非固にあり、灰色土プロックを含む。
 - 4 暗褐色土層 やや硬く締まる、炭化物を含む。



第314図 106号住居跡

- 106号住居跡 A-A'
- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる、灰、焼土粒子、黄褐色土粒子を含む。
 - 2 暗褐色土層 硬く締まる、焼土粒子、黄褐色土粒子を含む。
 - 3 暗褐色土層 やや硬く締まる、焼土粒子、黄褐色土粒子を含む。
 - 4 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり、炭化物粒子、As-C・Hr-Fh、焼土粒子、黄褐色土粒子を含む。
 - 5 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり、As-C・Hr-Fh、黄褐色土粒子を含む。
 - 6 暗褐色土層 硬く締まり粘性あり。(3)遺構



107-110-111号住居跡 A-A'

107号住居跡

- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロックを含む。
- 2 暗褐色土層 やや軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロック土粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土粒子、焼土粒子を含む。
- 4 暗褐色土層 硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロックを含む。

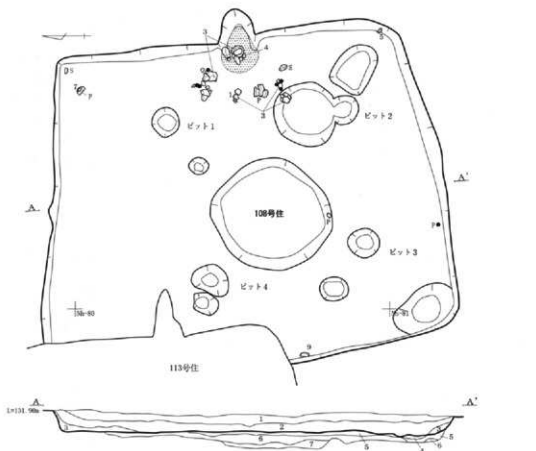
110号住居跡

- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロック、As-C・Hr-FAを含む。
- 2 黒褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロックを少量含む。
- 3 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性非常にあり。焼土粒子、灰白色土粒子を含む。
- 4 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。
- 5 暗褐色土層 炭化物、灰白色土ブロックを含む。
- 6 灰褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロック多量を含む。
- 7 灰褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土を多量を含む。
- 8 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロックを含む。
- 9 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロック、炭化物粒子を少量含む。
- 軟らかくて粘性非常にあり。炭化物粒子を少量含む。

111号住居跡

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土粒子、黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土粒子を大量に含む。
- 3 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。炭化物、灰白色土ブロックを含む。
- 4 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロックを大量に焼土粒子を含む。
- 5 灰褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロックを大量に含む。
- 6 灰褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロックを多量に含む。

第315図 107号住居跡・110号住居跡・111号住居跡



108号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。黄褐色土粒子、灰白色土ブロックを少量含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。黄褐色土粒子、灰白色土粒子、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 3 黒褐色土層 やや硬く締まり粘性非常にあり。灰白色土ブロックを含む。
- 4 灰白色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロックを多量に含む。
- 5 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロック、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 6 灰白色土層 やや硬く締まり粘性非常にあり。灰白色土ブロックを多量に含む。
- 7 灰褐色土層 やや硬く締まり粘性非常にあり。黒色土と灰白色土の混土。



第316図 108号住居跡

竈 東壁を掘り込んで構築されていた。燃焼部の幅は64cm、奥行きまでの長さは116cm。
柱穴 検出できなかった。
貯蔵穴 検出できなかった。
遺物 中央部より土師器の甕を出土した。
時期 不明。
備考 107号住と111号住を壊している。

111号住居跡 (①第315図、P.L.309)

位置 Ng・Nh-81・82グリッドにかけて検出。
形状 110号住居に壊されており、全容は不明であるが、方形を呈すると思われる。

方位 N-83°-E。
覆土 暗褐色土層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は6層に分かれた。
髣高 住居跡確認面より約32cmで床面。
床面 はほぼ平坦である。
周溝 検出できなかった。
竈 東壁を掘り込んで構築されていた。燃焼部の幅は40cm、奥行きまでの長さは80cm。
柱穴 検出できなかった。
貯蔵穴 検出できなかった。
遺物 遺物の出土はほとんどなかった。
時期 不明。

備考 110号住に壊される。

108号住居跡 (①第316図②第309・310図、P.L.310・352・353)

位置 Ng・Nh-79～81グリッドにかけて検出。
形状 長辺約5.8～6.7m、短辺約5.3mの東壁より西壁が広い台形を呈する。113号住居により西壁の一部が壊されている。

方位 N-76°-E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は7層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約30cmで床面に達する。

床面 やや堅く締まる。粘性のある土壌により床面を貼る。床面積27.8㎡。床下土坑2基検出した。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の中央部に構築されている。燃焼部の幅は70cm、奥行きまでの長さは100cm。

柱穴 ビット7基を検出、そのうちビット4基(ビット1～4)は主柱穴と考えられる。ビット1の深さ32cm、2は18cm、3は30cm、4は26cmである。

貯蔵穴 南東隅に検出した。形状は直径90cm、短径80cmの楕円形を呈する。

遺物 竈から土師器の甕、床面からは土師器の甕、須恵器の埴を出土した。

時期 8世紀前半。

備考 113号住に壊されている。

109号住居跡 (①第317図②第311図、P.L.311・353)

位置 Nf・Ng-78・79グリッドにかけて検出。

形状 長辺約4.4～4.6m、短辺約4.0mの隅丸方形を呈する。114号住居に北西コーナーが壊されている。

方位 N-91°-E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約30cmで床面。床面からはほぼ垂直に立ち上がる。

床面 ほぼ平坦であり、堅く締まる。粘性のある

土壌で床面を貼る。面積は15.1㎡。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の中央部に構築されていた。燃焼部の幅は60cm、奥行きまでの長さは110cm。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 竈周辺に土師器の甕・坏が、その南側の東壁に土師器の坏が出土した。

時期 7世紀後半。

備考 114号住に壊されている。

112号住居跡 (①318図②第313図、P.L.312・353)

位置 Nd-77グリッドにおいて検出。

形状 長辺約3.0m、短辺約2.9mの方形を呈する。

方位 N-112°-E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は2層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約10～18cmで床面。

床面 やや凹凸はあるが、堅く締まる。面積は7.9㎡。床下土坑2基を検出した。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の南寄りに構築されていた。燃焼部の幅は50cm、奥行きまでの長さは110cmであった。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 覆土から土師器の甕・高坏、須恵器の埴を出土している。

時期 8世紀前半。

備考 128号住に壊されている。

128号住居跡 (①318図②第328・329図、P.L.319・356)

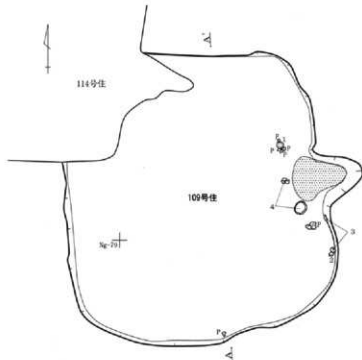
位置 Ne-77グリッドにおいて検出。

形状 長辺約3.9～4.1m、短辺約3.2～3.4mの北側が丸く張り出した隅丸方形を呈する。

方位 N-100°-E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は7層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約30～44cmで床面に達

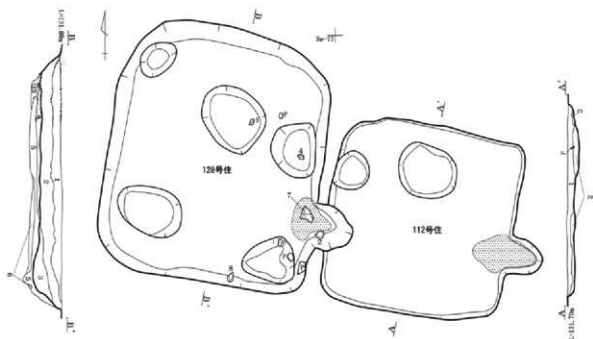


第317図 109号住居跡



- 109号住居跡 A-A'
- 1 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。黄褐色土粒子、焼土粒子を含む。
 - 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロックを少量含む。
 - 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロックを含む。
 - 4 暗褐色土層 硬く締まり、灰白色土ブロックを多量に含む。

0 1:60 1m



第318図 112号住居跡・128号住居跡

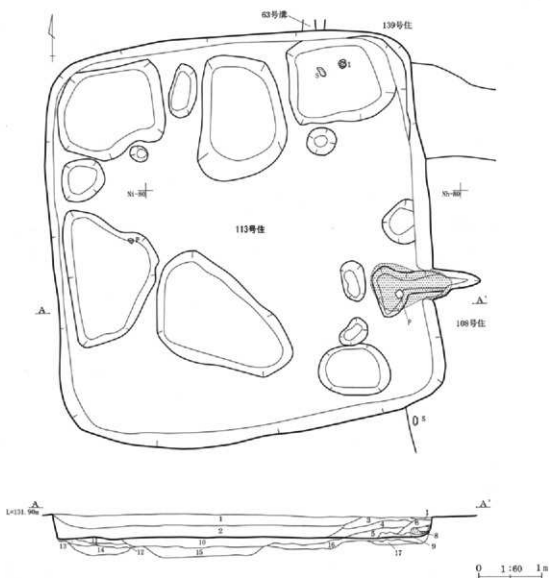
128号住居跡 B-B'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。黄褐色土粒子、炭化物粒子、灰白色土粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土粒子、黄褐色土粒子を含む。
- 4 暗褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土粒子、灰白色土粒子、炭化物粒子を含む。
- 5 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土粒子を含む。
- 6 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロックを多量に含む。
- 7 灰褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。黄褐色土粒子を含む。

112号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く粘性あり。焼土粒子、灰褐色土粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性非常にあり。炭化物粒子、灰白色土粒子を含む。

0 1:60 1m



113号住居跡 A-A'

- | | | |
|----|---------|---|
| 1 | 暗褐色土層 | やや硬く締まり粘性あり。黄褐色土粒子、炭化物粒子、As-C・Hr-FAを含む。 |
| 2 | 暗褐色土層 | 上層より暗い色調。やや硬く締まり粘性非常にあり。灰白色土ブロック、焼土粒子を含む。 |
| 3 | 暗褐色土層 | やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロック、焼土粒子、炭化物粒子を含む。 |
| 4 | 暗褐色土層 | 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロック、黄褐色土粒子、焼土粒子を含む。 |
| 5 | 暗褐色土層 | 軟らかくて粘性非常にあり。焼土粒子、炭化物、灰白色土粒子を含む。 |
| 6 | 灰褐色粘質土層 | 炭化物、焼土を含む。カマド粘土層跡土。 |
| 7 | 灰褐色土層 | 粘性非常にあり。焼土、炭化物を含む。 |
| 8 | 灰層 | |
| 9 | 灰褐色粘質土層 | 焼土粒子、炭化物を少量含む。カマド粘土層跡土。 |
| 10 | 暗褐色土層 | やや硬く締まり粘性あり。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子、炭化物粒子を含む。 |
| 11 | 暗褐色土層 | 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロック、炭化物粒子を含む。 |
| 12 | 暗褐色土層 | やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロック、黄褐色土ブロックを多量に含む。 |
| 13 | 暗褐色土層 | 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロックを少量含む。 |
| 14 | 暗褐色土層 | 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロック、炭化物粒子を含む。 |
| 15 | 暗褐色土層 | 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロック、炭化物粒子を少量含む。 |
| 16 | 暗褐色土層 | 軟らかくて粘性あり。灰を多量に、灰白色土ブロックを含む。 |
| 17 | 暗褐色土層 | 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロックを含む。 |

第319図 113号住居跡

する。床面から緩やかに立ち上がる。

床面 ほほ平坦である。面積は10.9㎡。床下土坑4基を検出した。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の南寄りに構築されていた。燃焼部の幅は60cm、奥行きまでの長さは100cm。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 南東コーナー部に検出した。形状は長径84cm、短径74cmの楕円形を呈する。

遺物 竈から土師器の坏・甕、東壁付近から土師器の坏、南壁から土師器の甕が出土している。

時期 8世紀後半。

備考 112号住を壊している。

113号住居跡 (①319②第314・315②、P.L.312・353)

位置 Nh・Ni-79・80グリッドにかけて検出。

形状 長辺約6.4m、短辺約6.1mの隅丸長方形。

方位 N-79°-E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竈穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は17層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約32~38cmで床面。

床面 ほほ平坦であり、やや堅く締まる。粘性のある土壌で床面を貼る。床下土坑5基を検出した。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の南寄りに構築されていた。燃焼部の幅は60cm、奥行きまでの長さは170cm。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 南東隅に検出した。長径102cm、短径80cmの楕円形を呈する。

遺物 北東コーナーから土師器の台付甕、こも編み石を出土した。覆土からは須恵器の埴を出土している。

時期 9世紀前半。

備考 108号住と139号住、63号溝を壊している。

114号住居跡 (①320②第316②、P.L.313・354)

位置 Nf・Ng-78グリッドにかけて検出。

形状 116号住居と重複しており、本住居が新し

い。方形を呈すると思われる。

方位 N-90°-E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竈穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は9層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約30~36cmで床面。

床面 ほほ平坦である。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁を掘り込んで構築されていた。燃焼部の幅は42cm、奥行きまでの長さは150cm。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 覆土からは土師器の坏、須恵器の坏、灰軸陶器の皿を出土している。

時期 9世紀後半。

備考 116号住より新しい。

116号住居跡 (①第320②第318・319②、P.L.313・354)

位置 Nf・Ng-77グリッドにかけて検出。

形状 114号住居と重複しており、本住居が古い。方形を呈すると思われる。

方位 N-61°-E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竈穴住居は構築され、そこに堆積した覆土を114号住と明瞭に分層することはできなかった。

壁高 住居跡確認面より約30~38cmで床面。

床面 ほほ平坦である。床下土坑1基を検出した。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁を掘り込んで構築されていた。燃焼部の幅は36cm、奥行きまでの長さは92cm。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 覆土からは土師器の坏・甕、須恵器の坏・埴、磁石が出土している。

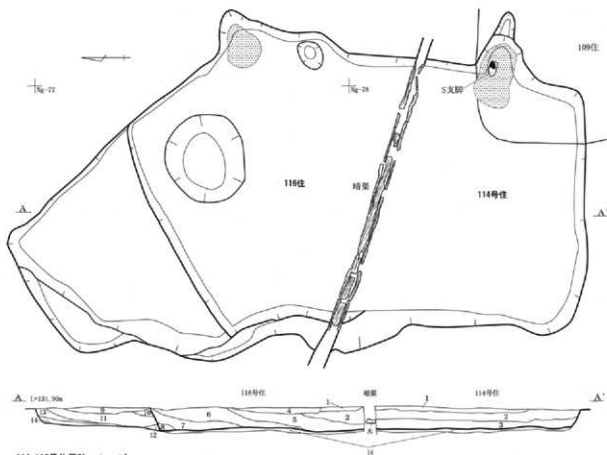
時期 9世紀前半。

備考 114号住より古い。

115号住居跡 (①第321②第317②、P.L.313・354)

位置 Nf-77グリッドにおいて検出。

(1) 竪穴住居跡



114・116号住居跡 A-A'

- | | |
|------------|--|
| 1 暗褐色土層 | やや硬く締まる。As-C・Hr-PA、黄褐色土粒子を含む。 |
| 2 暗褐色土層 | やや硬く締まり粘性あり。黄褐色土粒子、焼土粒子を含む。 |
| 3 暗褐色土層 | 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロック、焼土粒子を少量含む。 |
| 4 茶褐色土層 | やや硬く締まる。 |
| 5 暗褐色土層 | やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロックを少量含む。 |
| 6 暗褐色土層 | 軟らかくて粘性非常にあり。As-C・Hr-PA、黄褐色土粒子、炭化物粒子を含む。 |
| 7 暗褐色土層 | 軟らかくて粘性非常にあり。黄褐色土粒子、焼土粒子を含む。 |
| 8 黒褐色粘質土層 | |
| 9 暗褐色土層 | やや硬く締まる。灰白色土粒子、灰を含む。 |
| 10 暗褐色土層 | 焼土粒子を含む。 |
| 11 灰褐色粘質土層 | 焼土粒子を含む。 |
| 12 灰白色粘質土層 | |
| 13 暗褐色粘質土層 | |
| 14 暗褐色土層 | 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロックを含む。 |

0 1:60 1m

第320図 114号住居跡・116号住居跡

形状 長辺約3.6～3.8m、短辺約2.4～2.6mの東壁と南壁の張り出した隅丸長方形を呈する。

方位 N-89°-E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は2層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約20～24cmで床面。

床面 ほほ平坦である。面積は8.7㎡。床下土坑を1基検出した。

周溝 検出できなかった。

電 東壁の南寄りに壁を掘り込んで構築されて

いた。焼燃部の幅は60cm、奥行きまでの長さは110cm。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 竈周辺より須臾器の坏2点を出土した。

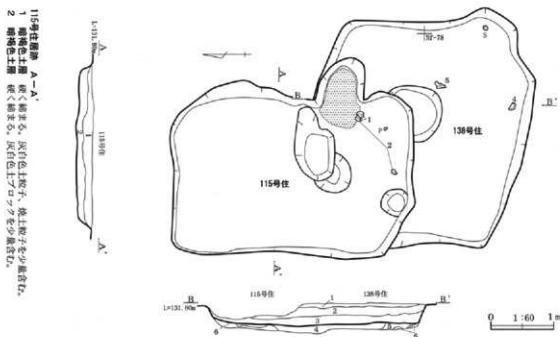
時期 9世紀。

備考 138号住を壊している。

138号住居跡 (①第321図②第340図、P.L.324・358)

位置 Ne・Nf-77・78グリッドにかけて検出。

第7章 V区 検出の遺構



第321図 115号住居跡・138号住居跡

形状 長辺約3.5m、短辺約3.2m方形を呈すると思われる。北西部を115号住に壊されているため全容は不明である。

方位 N-102°-E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は6層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約8~32cmで床面。

床面 ほぼ平坦である。面積は現状で6.4㎡。床下土坑1基を検出した。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の南寄りに検出された。燃焼部の幅は60cm、奥行きまでの長さは40cm。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 床面より土師器の甕、須臾器の坏を出土した。覆土からは土師器の坏が3点出土している。

時期 8世紀前半。

備考 138号住に壊されている。

117号住居跡 (①第322図②第320図, P.L.314・354)

位置 Nm・Nn-76・77グリッドにかけて検出。

形状 長辺約4.6m、短辺(検出範囲)約3.0mの方形を呈すると思われる。西側半分が調査区外となるため全容は不明である。

方位 N-87°-E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は3層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約30~34cmで床面。床面からは垂直に立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。面積は現状で8.8㎡。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の南寄りに壁を掘り込んで構築されていた。燃焼部の幅は40cm、奥行きまでの長さは86cm。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 南東コーナーより土師器の坏が出土。覆土からは土師器の坏・甕が出土している。

時 期 6世紀後半。

118号住居跡 (①第323回②第321回, P.L.315・354)

位 置 Nm-75グリッドにおいて検出。

形 状 長辺約4.2m、短辺約4.1mの方形。

方 位 N-72° - E。

覆 土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約38cmで床面。

床 面 平坦であり、やや堅く締まる。面積は15.2㎡。床は粘質土である。

周 溝 検出できなかった。

竈 竈を2つ検出した。両竈とも壁を掘り込んで構築されていた。竈1は、東壁の中央で検出。燃烧部の幅は18cm、奥行きまでの長さは94cmであった。竈2は、東壁の南寄りに検出。燃烧部の幅は26cm、奥行きまでの長さは100cm。竈2は竈1に比べ残存状態は不良であった。竈1は竈2より新しいと考えられる。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 竈1前部に土師器の甕2点、竈1と竈2との間の壁際に土師器の坏1点が出土した。

時 期 6世紀後半。

119号住居跡 (①第322回②第322回, P.L.315・355)

位 置 Nn・No-75にかけて検出。

形 状 竈周辺のみ検出。他は調査区外となるため全容は不明である。

方 位 N-87° - E。

覆 土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築されていた。

壁 高 住居跡確認面より約40~42cmで床面。

床 面 ほぼ平坦である。面積は現状で1.4㎡。

周 溝 不明。

竈 壁を掘り込んで構築されていた。燃烧部の幅は38cm、奥行きまでの長さは106cmであった。

柱 穴 不明。

貯蔵穴 不明。

遺 物 竈前部周辺に土師器の甕4点、須恵器1点が出土した。

時 期 7世紀前半。

120号住居跡 (①第324回②第323回, P.L.316・354)

位 置 Nj・Nk-75グリッドにかけて検出。

形 状 長辺約2.6m、短辺(検出範囲)約1.5mの方形を呈すると思われる。北側半分が調査区外となるため全容は不明である。

方 位 N-72° - E。

覆 土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層である。

壁 高 住居跡確認面より約10cmで床面。

床 面 ほぼ平坦である。面積は現状で3.3㎡。

周 溝 検出できなかった。

竈 東壁を掘り込んで構築されていた。燃烧部の検出範囲の幅は約64cm、奥行きまでの長さは64cm。竈の北部分1/4は調査区外である。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 長径57cm、短径52cmの楕円形を呈する。

遺 物 竈から灰軸陶器の埴1点が出土した。覆土からは須恵器の坏・埴を出土している。

時 期 10世紀前半。

121号住居跡 (①第324回②第324回, P.L.316・354)

位 置 Nl-75・76、Nm-76グリッドにかけて検出。

形 状 長辺約5.5m、短辺約3.8mの長方形を呈する。

方 位 N-82° - E。

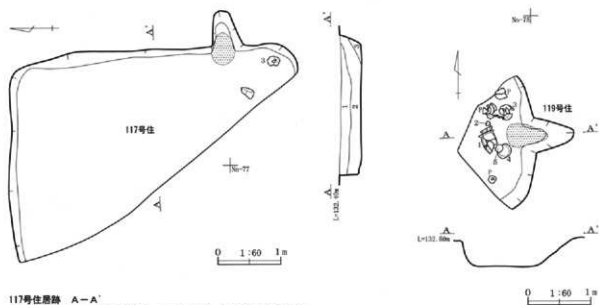
覆 土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は1層である。

壁 高 住居跡確認面より約8~12cmで床面。

床 面 ほぼ平坦である。面積は19.0㎡。

周 溝 検出できなかった。

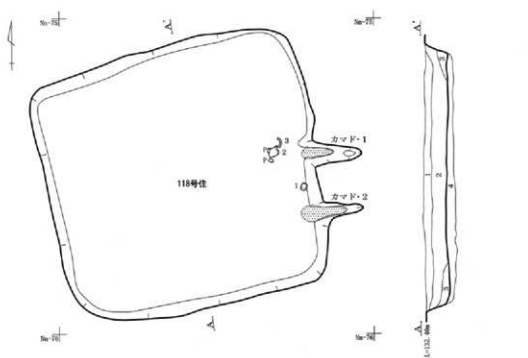
第7章 V区 検出の遺構



117号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA。灰白色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロックを含む。
- 3 灰褐色土層 軟らかくて粘性あり。

第322図 117号住居跡・119号住居跡



118号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロック、炭化物を含む。
- 3 黒褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土粒子を含む。
- 4 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロックを多量に含む。

第323図 118号住居跡

(1) 竪穴住居跡



120号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。焼土粒子、黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかい。焼土粒子を多量に、炭化物粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土、炭化物を含む。
- 4 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。炭を多量に含む。

貯蔵穴 B-B'

- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。
- 2 暗褐色土層 非常に軟らかい。炭化物を含む。

竈 東壁の南寄りに壁を掘り込んで構築されていた。燃焼部の幅は28cm、奥行きまでの長さは検出範囲で55cm。竈の先端部を122号住居によって壊されている。

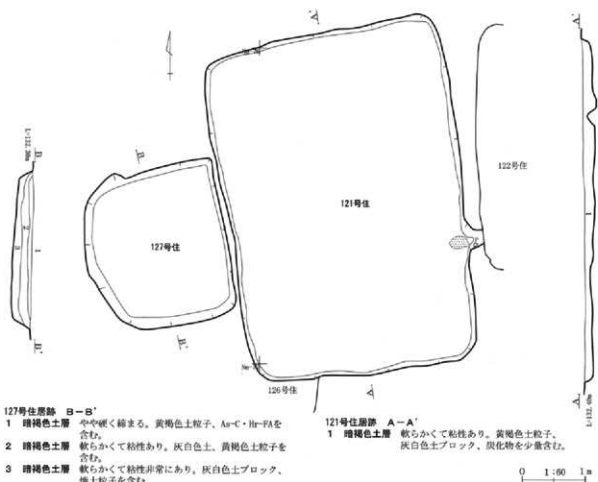
柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 遺物の出土はほとんどない。覆土から土師器の坏を出土している。

時期 9世紀か。

備考 122号住居に壊されている。



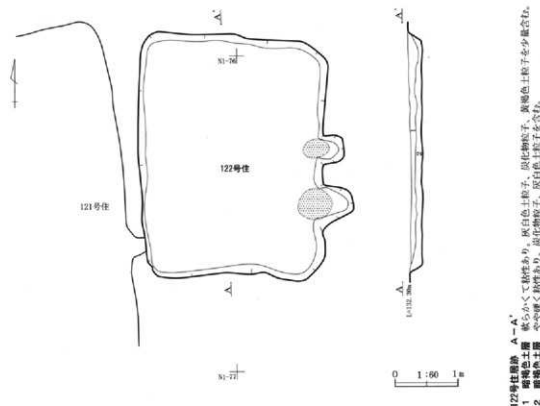
127号住居跡 B-B'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土粒子、As-C・Hr-FAを含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土、黄褐色土粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロック、焼土粒子を含む。

121号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒子、灰白色土ブロック、炭化物を少量含む。

第324図 120号住居跡・121号住居跡・127号住居跡



122号住居跡 A-A'
 破らかくて粘性あり、灰白色土粒子、炭化物粒子、黄褐色土粒子を少量含む。
 1 暗褐色土層
 2 暗褐色土層
 中や疎く粘性あり、炭化物粒子、灰白色土粒子を含む。

第325図 122号住居跡

127号住居跡 (①第324図、P.L.319)

- 位置 Nm-76グリッドにおいて検出。
- 形状 長辺2.5m、短辺2.2mの不定形を呈する。
- 方位 不明。
- 壁高 住居跡確認面より約28~30cmで床面。
- 床面 ほぼ平坦である。面積は4.2㎡。
- 周溝 検出できなかった。
- 竈 検出できなかった。
- 柱穴 検出できなかった。
- 貯蔵穴 検出できなかった。
- 遺物 出土なし。
- 時期 不明。住居跡とはならないかもしれない。

122号住居跡 (①第325図②第324図、P.L.316・354)

- 位置 Nk-NI-75・76グリッドにかけて検出。
- 形状 長辺約3.8m、短辺約2.9mの方形。
- 方位 N-95°-E。
- 覆土 暗褐色土層を掘り込んで堅穴住居は構築さ

れ、そこに堆積した覆土は2層に分かれた。

- 壁高 住居跡確認面より約20cmで床面。
- 床面 平坦である。面積は10.1㎡。
- 周溝 検出できなかった。

竈 竈を2つ検出した。両方とも東壁を掘り込んで構築されていた。竈1は、東壁の南寄りに検出された。燃焼部の幅は50cm、奥行きまでの長さは88cm。竈2は、東壁の中央に検出された。燃焼部の幅は28cm、奥行きまでの長さは64cm。新旧は不明である。

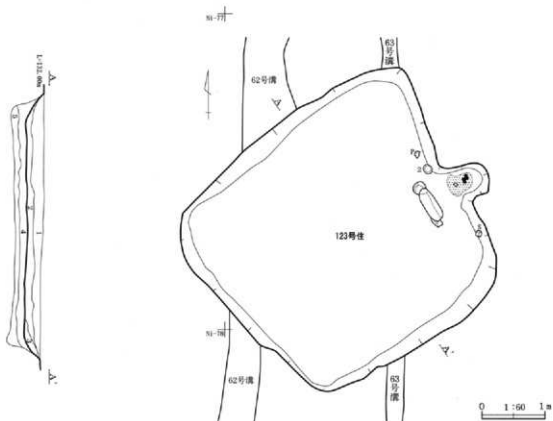
柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 遺物の出土はほとんどない。覆土から須恵器の蓋1点が出土した。

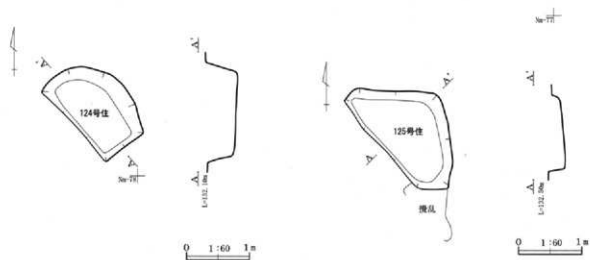
時期 9世紀。

備考 121号住居を壊している。



123号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土粒子、灰白色土ブロックを含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロック、植土粒子、炭化物粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土粒子を含む。
- 4 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロック、黄褐色土粒子を含む。
- 5 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性非常にあり。灰白色土ブロック、黒色土ブロック、炭化物粒子を含む。



第326図 123号住居跡-124号住居跡-125号住居跡

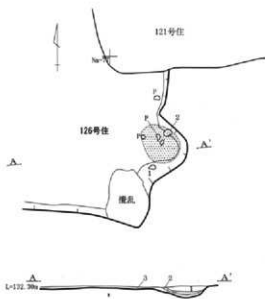
123号住居跡 (①第326図②第325図, P.L.317・355)

- 位置 Nh-77・78、Ni-77グリッドにかけて検出。
 形状 東壁3.9m、北壁4.6mの北東部分の張り出す隅丸台形を呈する。
 方位 N-50°-E。
 覆土 暗褐色土層を掘り込んで壁穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は5層に分かれた。
 壁高 住居跡確認面より約24~30cmで床面。
 床面 はほぼ平坦である。面積は13.9m²。床面は粘性のある土壌である。
 周溝 検出できなかった。
 竈 東壁の中央に検出された。壁を掘り込んで構築されていた。燃焼部の幅は60cm、奥行きまでの長さは66cmであった。竈前部に構築材の礫が出土した。
 柱穴 検出できなかった。
 貯蔵穴 検出できなかった。
 遺物 竈から土師器の坏1点が出土。覆土からは

- 土師器の坏、須恵器の皿が出土している。
 時期 9世紀。
 備考 62・63号溝を壊している。

124号住居跡 (①第326図②第326図, P.L.318・355)

- 位置 Nm-77グリッドにおいて検出。
 形状 コーナー部を除き他は調査区外となるため全容は不明である。
 方位 不明。
 覆土 暗褐色土層を掘り込んでいる。
 壁高 住居跡確認面より約50cmで床面に達する。
 床面 平坦である。
 周溝 検出できなかった。
 竈 不明。
 柱穴 不明。
 貯蔵穴 不明。
 遺物 土師器の坏1点が出土した。
 時期 古墳時代後期か。



126号住居跡 A-A'

- 1 明褐色土層 硬く締まる。焼土、灰白色土粒子を含む。
- 2 灰層 軟らかい。灰白色土粒子を含む。
- 3 明褐色土層 硬く締まる。焼土、黄白色土粒子を含む。



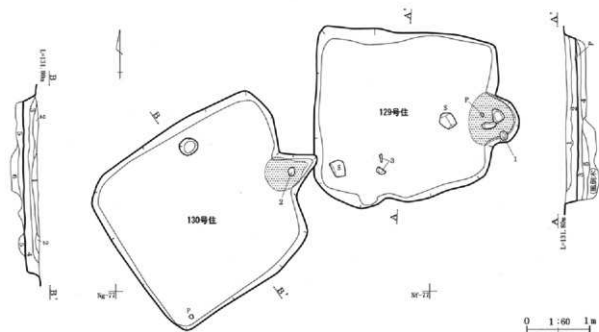
第327図 126号住居跡

125号住跡 (①第326図, P.L.318)

- 位置 Nm-77グリッドにおいて検出。
 形状 コーナー部を除き他は調査区外となるため全容は不明である。
 方位 不明。
 覆土 暗褐色土層を掘り込んでいる。
 壁高 住居跡確認面より約14~26cmで床面。
 床面 北に向かってやや上がっている。
 周溝 検出できなかった。
 竈 不明。
 柱穴 不明。
 貯蔵穴 検出できなかった。
 遺物 出土遺物はなかった。
 時期 不明。

126号住居跡 (①第327図②第327図, P.L.319・356)

- 位置 Ni・Nm-77グリッドにかけて検出。
 形状 西側を削平され、北側を121号住居により壊され、竈部分とその周辺のみを検出となった。



130号住居跡 B-B'

- 1 暗褐色土層 As・C・Hr-FA, 灰白色土ブロックを多量を含む。やや硬く締まり。As・C・Hr-FAを多量に、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロックを含む。
- 3 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性非常にあり。灰白色土ブロックを含む。
- 4 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロックを含む。
- 5 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土粒子を含む。
- 6 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロックを含む。

129号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。As・C・Hr-FAを少量。黄褐色土粒子、灰白色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。炭土粒子、炭化物粒子、灰白色土粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロックを含む。
- 4 暗褐色土層 軟らかくて粘性にあり。灰白色土ブロックを含む。

第328図 129号住居跡・130号住居跡

方位 N-96°-E。

覆土 わずかに焼土粒を含んだ暗褐色土で埋まる。

壁高 住居跡確認面より約4~6cmで床面。

床面 ほとんど削平されていた。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁に検出された。燃焼部の幅は80cm、奥行きまでの長さは70cmであった。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 竈から須恵器の坏・皿が出土している。

時期 9世紀。

備考 121号住に壊される。

129号住居跡 (①第328図②第330図, P.L.320・356)

位置 Ne・Nf-76グリッドにかけて検出。

形状 長辺約2.9m、短辺約2.4~2.8mの南壁が不規則に張り出した方形状を呈する。

方位 N-93°-E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約16~18cmで床面。

床面 ほぼ平坦である。面積は6.7㎡。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の中央に検出された。壁を掘り込んで構築されていた。燃焼部の幅は84cm、奥行きまでの長さは80cm。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 竈と住居中央部からそれぞれ土師器の坏が出土した。覆土からは土師器の坏・堿が出土している。

時期 8世紀後半。

130号住居跡 (①第328図②第331図、P.L.320・356)

位置 Nf-76・77グリッドにかけて検出。

形状 長辺約2.8~3.2m、短辺約2.9mの東壁の北部分が張り出した台形を呈する。

方位 N-56°-E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は6層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約20cmで床面に達する。

床面 ほぼ平坦である。面積は7.3㎡。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の中央に検出された。壁を掘り込んで構築されていた。燃焼部の幅は60cm、奥行きまでの長さは90cm。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 竈から土師器の甕が出土した。覆土からは土師器の坏を出土している。

時期 6世紀後半~7世紀前半。

131号住居跡 (①第329図②第332図、P.L.321・322・356・357)

位置 Ni-76・77グリッドにかけて検出。

形状 長辺約2.8m、短辺約2.1mの隅丸長方形を呈する。

方位 N-114°-E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は2層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約10~16cmで床面に達する。

床面 ほぼ平坦である。面積は5.2㎡。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の南寄りに検出された。壁を掘り込んで構築されていた。燃焼部の幅は40cm、奥行きまでの長さは40cmであった。竈の両脇・竈前部より構築材に使用した石が出土した。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 竈から須恵器の塊、竈前部・南東コーナーより須恵器の坏、南壁付近より須恵器の坏を出土した。覆土からは土師器の甕、須恵器の塊を出土している。

時期 9世紀後半。

備考 133号住居を壊し、134号住居に壊されている。

133号住居跡 (①第329図②第334図、P.L.322・357)

位置 Ni・Nj-77グリッドにかけて検出。

形状 長辺約4.3m、短辺(検出範囲)約2.6mの隅丸長方形を呈すると思われる。北側を131号住居と134号住居に壊されていたため、全容は不明である。

方位 N-93°-E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は5層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約18~26cmで床面に達する。

床面 ほぼ平坦である。面積は現状で8.9㎡。床下土坑1基を検出した。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁を掘り込んで構築されていた。燃焼部の幅は68cm、奥行きまでの長さは116cm。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 竈との周辺から土師器の甕が出土した。

時期 8世紀。

備考 131号住居と134号住居に壊されている。

134号住居跡 (①第329図②第335図、P.L.322・357)

位置 Ni・Nj-76・77グリッドにかけて検出。

形状 長辺約3.7~4.1m、短辺は約3.1mの北壁が張り出した方形を呈する。

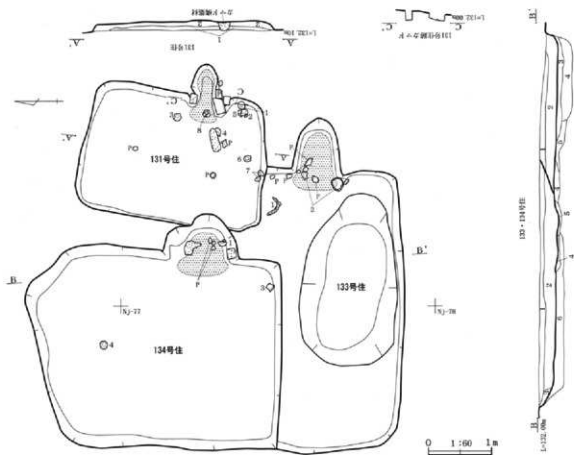
方位 N-93°-E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は6層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約18~26cmで床面に達する。北壁は床から緩やかに立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。面積は10.4㎡。

(1) 竪穴住居跡



131号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。黄褐色土粒子、焼土粒子を少量含む。

133号住居跡 B-B'

- 1 暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FA、灰白色土粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。黄褐色土粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土粒子、炭化物粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土粒子、炭化物粒子を少量含む。土層よりも明るい色調。
- 5 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性非常にあり。灰白色土ブロックを少量含む。

134号住居跡 B-B'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。黄褐色土粒子、灰白色土粒子を少量含む。
- 3 灰褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土粒子を含む。
- 4 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土粒子、焼土粒子を少量含む。
- 5 灰褐色土層 焼土を含む。
- 6 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロックを含む。

第329図 131号住居跡・133号住居跡・134号住居跡

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の南寄りに壁を掘り込んで構築されていた。燃焼部の幅は100cm、奥行きまでの長さは100cmであった。竈両側に構築材である石を検出した。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 竈から須恵器の坏、南東コーナーから須恵器の埴、住居中央部から須恵器の皿が出土してい

る。

時期 9世紀後半～10世紀前半。

備考 133号住と131号住を壊している。

135号住居跡 (①第330図②第336・337図、P.L.323・367・358)

位置 Nc・Nd-78・79グリッドにかけて検出。

形状 長辺約3.9～4.2m、短辺約3.3～3.9mの不定形状を呈する。2軒重複の可能性が考えられる。

方位 N-71°-E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は10層に分かれた。上の2層が135号住居の覆土と考えられる。それより下層は別の住居の覆土と考えられる。

壁高 住居跡確認面より約12~18cmで床面に達する。

床面 ほぼ平坦である。面積は13.0㎡。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁を掘り込んで構築されていた。燃焼部の幅は46cm、奥行きまでの長さは100cmであった。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 南東コーナーに須恵器の坏2点、壺2点、埴、皿それぞれ1点ずつ、中央と竈の北側から土師器の坏が出土した。

時期 9世紀後半。

備考 住居2軒の重複と思われる。

136号住居跡 (①第331図②第336図、P.L.323-358)

位置 Na-Nb-78~79グリッドにかけて検出。

形状 長辺約5.2m、短辺約5.0mの方形を呈する。

東コーナーは調査区外となる。

方位 N-36°-W。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は6層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約40cmで床面に達する。

床面 やや堅く締まり、平坦である。面積は現状

で21.4㎡。粘性のある土壌で床を貼っている。

周溝 検出できなかった。

竈 北壁の中央を掘り込んで構築されていた。燃焼部の幅は36cm、奥行きまでの長さは120cmであった。

柱穴 柱穴4基を検出した。ピット1の深さは9cm、2は27cm、3は30cm、4は28cmである。

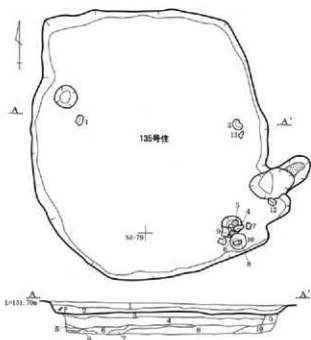
貯蔵穴 北東コーナーに検出した。長径40cm、短径30cmの楕円形を呈する。

遺物 竈前部から土師器の甕が出土した。

時期 7世紀前半。

137号住居跡 (①第332図②第339図、P.L.324)

位置 Nc-76・77グリッドにかけて検出。

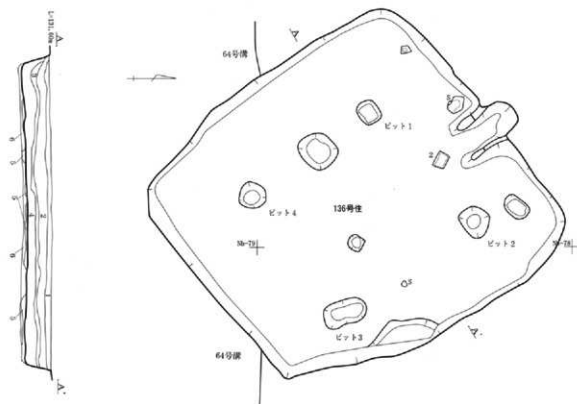


135号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Br-Faを多量に、黄褐色土粒子、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子、黄褐色土粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Br-Fa、灰白色土粒子、焼土粒子を含む。
- 4 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土粒子、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 5 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。
- 6 暗褐色土層 硬く締まり粘性あり。焼土粒子、灰白色土を少量含む。
- 7 茶褐色土層 硬く締まる。焼土粒子、黄褐色土粒子を含む。
- 8 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土粒子、焼土粒子を少量含む。
- 9 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロックを含む。
- 10 暗褐色土層 硬く締まり粘性あり。灰白色土粒子を含む。

0 1:60 1m

第330図 135号住居跡



136号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As・C・Itr・FAを多量に、黄褐色土粒子、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、灰白色土粒子を含む。
- 3 褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土を多量に、炭化物粒子、灰白色土ブロックを含む。
- 4 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。焼土粒子、灰白色土ブロックを少量含む。
- 5 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロック、As・C・Itr・FA、炭化物粒子を含む。
- 6 灰褐色土層 硬く締まり粘性非常にあり。

0 1:60 1m

第331図 136号住居跡

形状 長辺約3.8m、短辺約3.4mの方形を呈する。

方位 N-66°-E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は2層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約28~34cmで床面に達する。

床面 平坦である。面積は10.8㎡。

周溝 検出できなかった。

炉 長径68cm、短径44cm、深さ6~12cmの楕円形を呈する。

柱穴 ビット6基を検出した。ビット1~4が主柱穴になる。ビット1の深さは34cm、ビット2は21cm、ビット3は24cm、ビット4は23cmである。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 覆土から打製石斧1点が出土した。

時期 古墳時代前期か。

139号住居跡 (①第333図②第341図、P.L.325・359)

位置 Ng・Nh-78・79グリッドにかけて検出。

形状 長辺約4.6~4.8m、短辺約4.1~4.4mの北壁の一部が不定型に張り出す台形状を呈する。113号住により南西コーナーが壊される。

方位 N-96°-E。

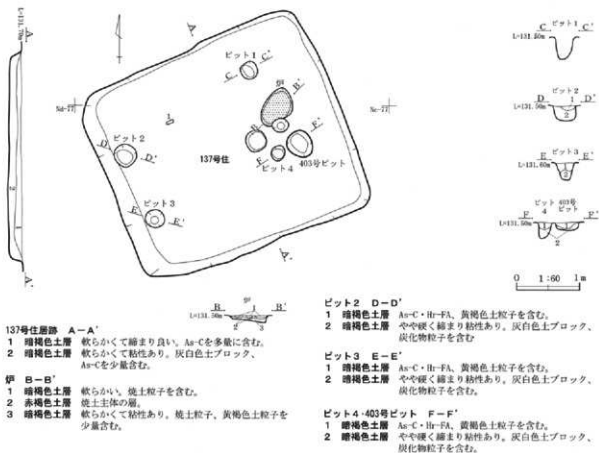
覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は10層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約28~34cmで床面。

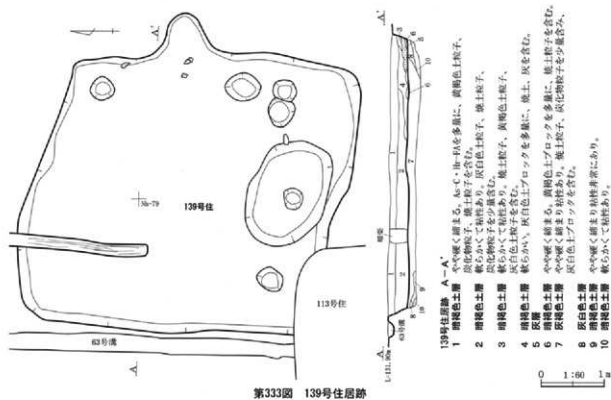
床面 やや堅く締まり、平坦である。面積は現状で18.9㎡。床下土坑1基を検出した。

周溝 検出できなかった。

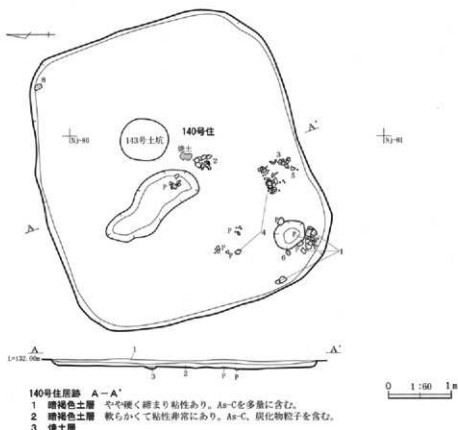
竈 東壁の中央部を掘り込んで構築されている。



第332図 137号住居跡



第333図 139号住居跡



第334図 140号住居跡

た。燃焼部の幅は66cm、奥行きまでの長さは50cm。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 覆土から土師器の坏・甕、須恵器の蓋、灰華陶器の皿が出土している。

時 期 8世紀前半。

備 考 113号住に壊される。

140号住居跡 (①第334図②第342・343図、P.L.325・359)

位 置 Ni・Nj-79・80グリッドにかけて検出。

形 状 長辺約4.7m、短辺約4.2mの隅丸長方形を呈する。

方 位 不明。

覆 土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は3層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約10~12cmで床面に達する。

床 面 平坦である。面積は10.8㎡。床下土坑1基を検出した。

周 溝 検出できなかった。

炉 明瞭に検出できなかった。しかし床面中央部にわずかな焼土の分布があった。これが炉になる可能性がある。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 土師器台付甕が南西コーナーから2点、中央部から2点、南壁付近から2点出土した。

時 期 4世紀末~5世紀初頭。

141号住居跡 (①第335図②第344図、P.L.326・359)

位 置 Ne・Nf-79・80グリッドにかけて検出。

形 状 長辺約6.4m、短辺約6.0mの隅丸方形を呈する。

方 位 N-76° - E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は16層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約38cmで床面に達する。

床面 平坦である。面積は34.2㎡。床面は粘性のある土壌である。

周溝 全周している。幅17～30cm、深さ5～10cmである。西壁から20cm内側に周溝1条を検出した。幅は、14～27cm。

竈 東壁の南寄りを掘り込んで構築されていた。165号土坑により竈先端部を壊されてる。全容を確認できなかった。燃焼部の幅は60cm、検出範囲の奥行きまでの長さは80cmであった。

柱穴 ビット4基を検出した。ビット1の深さは30cm、ビット2の深さは34cm、ビット3の深さは24cm、ビット4の深さは29cmであった。

貯蔵穴 南東コーナーに検出した。長径90cm、短径62cm、深さ36cmの円形を呈している。

遺物 中央部から土師器の坏を出土した。覆土からは土師器の坏・甕、須恵器の甕が出土している。

時期 7世紀前半。

備考 165号土坑に壊されている。

142号住居跡 (①第336図第345図、P.L.326・327・360)

位置 Nc・Nd-79・80グリッドにかけて検出。

形状 長辺約3.8m～4.6m、短辺約3.8～4.5mの西壁のやや広い隅丸台形を呈する。

方位 N-71°-E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は13層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約30～38cmで床面に達する。

床面 ほほ平坦である。面積は15.9㎡。床下土坑3基を検出した。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の南寄りを掘り込んで構築されていた。燃焼部の幅は40cm、奥行きまでの長さは100cmであった。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 東コーナーに検出した。長径50cm、短径30cmの楕円形を呈する。

遺物 東コーナー周辺から土師器の坏・小甕を出土した。覆土からは土師器の坏・甕が出土している。

時期 8世紀後半～9世紀初頭。

備考 156号住と152号住を壊している。145号住居は欠番となり、本住居の一部である。

152号住居跡 (①第336図第358図、P.L.327・332・363)

位置 Nc・Nd-80グリッドにかけて検出。

形状 南東コーナー部以外は、142号住と156号住に壊されており、全容は不明である。

方位 不明。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は3層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約18cmで床面に達する。

床面 ほほ平坦である。面積は現状で2.5㎡。

周溝 検出できなかった。

竈 検出できなかった。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 東壁周辺より須恵器の坏が出土した。

時期 不明。

備考 142号住に壊される。

156号住居跡 (①第336図、P.L.327)

位置 Nd-79・80にかけて検出。

形状 東側半分が142号住に壊されており、全容は、不明である。

方位 不明。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約30cmで床面に達する。

床面 ほほ平坦である。面積は現状で6.1㎡。

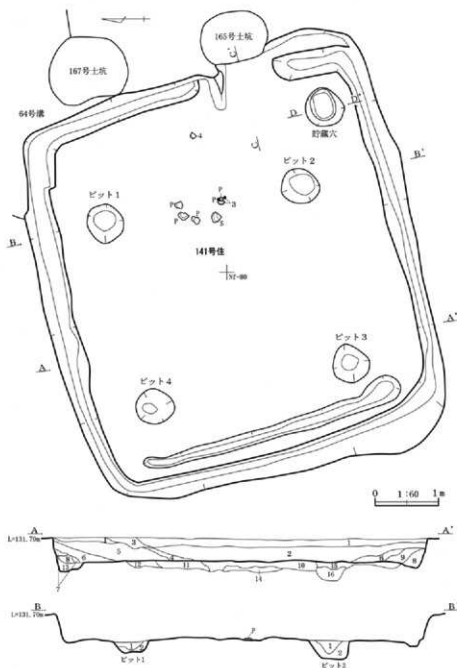
周溝 検出できなかった。

竈 検出できなかった。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

(1) 竪穴住居跡

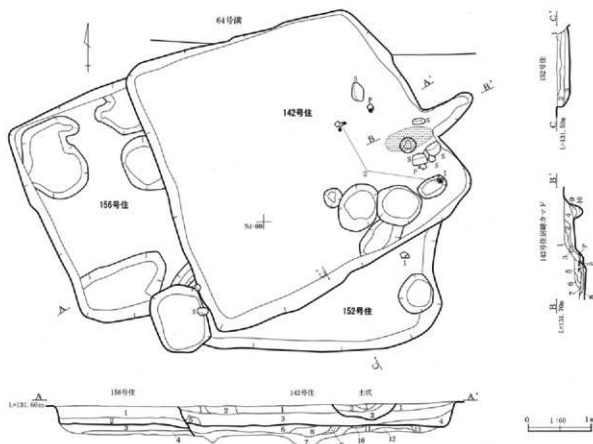


- カマド C-C'
- 1 暗褐色土層
 - 2 暗褐色土層
 - 3 灰層
 - 4 灰褐色土層
 - 5 灰白色土層

- ピット1, 2 B-B'
- 1 暗褐色土層
 - 2 暗褐色土層
 - 3 灰褐色土層
 - 4 暗褐色土層
- 貯蔵穴 D-D'
- 1 暗褐色土層
 - 2 暗褐色土層
 - 3 灰褐色土層
 - 4 暗褐色土層

- 141号住居跡 A-A'
- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。AsC・Br-FA。炭化物粒子、黄褐色土粒子を含む。
 - 2 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。黄褐色土ブロック、炭化物粒子、焼土粒子を含む。
 - 3 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性非常にあり。黄褐色土粒子を含む。
 - 4 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性非常にあり。黄褐色土粒子を少量含む。
 - 5 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒子、灰白色土粒子、炭化物粒子、焼土粒子を含む。
 - 6 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土粒子を含む。
 - 7 黒色粘質土 壁の崩れ。
 - 8 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロックを少量含む。
 - 9 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土粒子、炭化物粒子を含む。
 - 10 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロック、炭化物粒子、焼土粒子を含む。
 - 11 灰褐色土層 やや硬く粘性あり。灰白色土ブロックを多量を含む。
 - 12 灰褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土ブロックを多量を含む。
 - 13 灰褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土を多量を含む。
 - 14 灰褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロックを多量を含む。
 - 15 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性非常にあり。灰白色土ブロックを多量を含む。
 - 16 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロックを含む。

第335図 141号住居跡



142・156号住居跡 A-A'

142号住居跡

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As・C・Hr-FA、黄褐色土粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まる。炭化物粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロックを少量含む。
- 4 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。炭化物粒子、灰白色土粒子を含む。
- 5 灰白色土層 壁の崩れ。
- 6 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒子、焼土粒子を含む。
- 7 灰褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロックを含む。
- 8 暗褐色土層 軟らかく、灰白色土ブロック、灰、焼土を多量に含む。
- 9 灰層
- 10 灰褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロックを含む。
- 11 灰褐色土層 やや硬く締まり粘性非常にあり。灰白色土ブロックを含む。
- 12 灰褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。
- 13 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土ブロックを少量含む。

156号住居跡

- 1 暗褐色土層
 - 2 暗褐色土層 やや硬く締まる。As・C・Hr-FA、黄褐色土粒子、炭化物粒子を含む。
 - 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロック、黄褐色土粒子を少量含む。
 - 4 灰褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土を多量に含む。
- 土坑
- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土粒子を含む。
 - 2 灰白色土層 やや硬く締まる。灰白色土と暗褐色土の混土。
 - 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロックを含む。

142号住居跡カマド B-B'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土粒子を多量に、焼土粒子を含む。
- 2 赤褐色土層 やや硬く締まる。焼土を多量に灰を含む。
- 3 灰層
- 4 暗褐色土層 やや硬く粘性あり。焼土粒子、灰白色土粒子を含む。
- 5 灰白色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 6 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、灰白色土粒子を含む。
- 7 灰層
- 8 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。
- 9 暗褐色土層 やや硬く締まる。As・C・Hr-FA、黄褐色土粒子を少量含む。
- 10 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子を含む。

152号住居跡 C-C'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As・C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まる。As・C・Hr-FA、焼土粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 やや硬く締まる。焼土ブロック・焼土粒子を含む。

第336図 142号住居跡・152号住居跡・156号住居跡

遺物 遺物の出土はほとんどなかった。

時期 不明。

備考 142号住に壊されている。

143号住居跡 (①第337図②第345図、P.L.327・360)

位置 Nk・Ni-78・79グリッドにかけて検出。

形状 長辺4.1m、短辺3.8mの不定形。

方位 N-91°-E。

覆土 焼土粒子・炭化物を含んだ暗褐色土層で埋まる。

壁高 住居跡確認面より約6cmで床面に達する。

床面 やや凹凸がある。面積は12.7m²。南東部に焼土・灰が分布している。

周溝 検出できなかった。

竈 検出できなかった。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 北東コーナーから須恵器の短頸壺が出土した。

時期 不明。

144号住居跡 (①第338図②第346・347図、P.L.328・360)

位置 Nh・Ni-81・82グリッドにかけて検出。

形状 長辺約3.8m、短辺約3.5mの方形を呈する。

方位 不明。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は3層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約22cmで床面に達する。

床面 ほぼ平坦である。面積は10.8m²。

周溝 検出できなかった。

竈 不明。

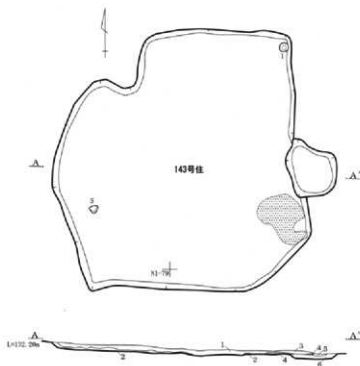
柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 覆土から須恵器の壺が出土した。

時期 9世紀。

備考 65・66号溝により壊されている。

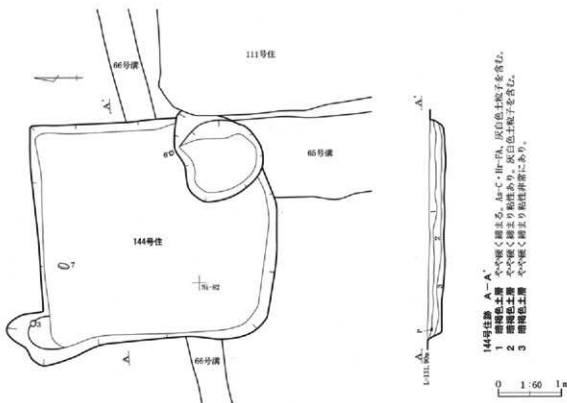


143号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。炭化物粒子、黄褐色土粒子を少量含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。
- 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子、黄褐色土粒子を含む。
- 4 灰層
- 5 焼土層
- 6 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土、灰、黄褐色土粒子を含む。

0 1:60 1m

第337図 143号住居跡



第338図 144号住居跡

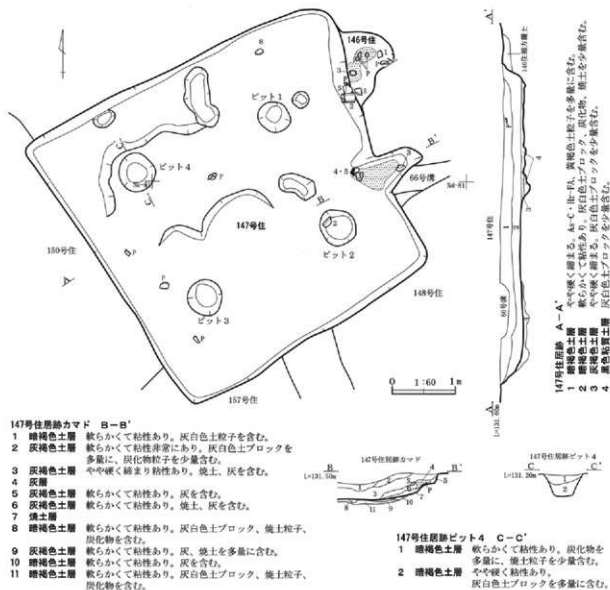
146号住居跡 (①第339図2番348・349図、P.L.328・360)

位置 Nd-80グリッドにおいて検出。
形状 不明。
方位 不明。
覆土 焼土粒子や炭化物を含んだ暗褐色土により埋まる。
壁高 住居跡確認面より約6cmで床面に達する。
床面 ほほ平坦である。
周溝 検出できなかった。
竈 形状は不明である。
柱穴 検出できなかった。
貯蔵穴 検出できなかった。
遺物 須恵器の壺、丸瓦が出土した。
時期 不明。
備考 147号住に壊されている。

147号住居跡 (①第339図2番350・351図、P.L.329・361)

位置 Nd・Ne-80・81グリッドにかけて検出。
形状 長辺約5.0m、短辺約4.5mの方形を呈する。

方位 N-56°-E。
覆土 暗褐色土層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。
壁高 住居跡確認面より約30cmで床面に達する。
床面 ほほ平坦である。面積は21.5㎡。
周溝 検出できなかった。
竈 東壁の南寄り掘り込んで構築されていた。燃焼部の幅は52cm、奥行きまでの長さは102cm。
柱穴 ビット4基を検出した。ビット1の深さは24cm、ビット2は25cm、ビット3は33cm、ビット4は33cmである。
貯蔵穴 検出できなかった。
遺物 竈から土師器の壺3点、ビット2から土師器の壺1点が出土した。覆土からは土師器の坏、須恵器の蓋が出土している。
時期 8世紀後半。
備考 146号住を壊している。



第339図 146号住居跡-147号住居跡

148号住居跡 (①第340図②第352図、P.L.330・361)

位置 Nc・Nd-80~82グリッドにかけて検出。
 形状 長辺約5.9~6.3m、短辺約6.0mの方形を呈する。147号住により北西コーナーを壊されていた。
 方位 N-73°-E。
 覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は12層に分かれた。
 壁高 住居跡確認面より約32cmで床面に達する。
 床面 ほほ平坦である。面積は30.7m²。
 周溝 竪の北側東壁と南壁の中央から西壁沿いに検出した。幅は9~15cm、深さは5cmである。
 竪 東壁の南寄り掘り込んで構築されていた。

た。燃焼部の幅は40cm、奥行きまでの長さは140cmであった。

柱穴 ビット4基を検出した。ビット1の深さは17cm、2は11cm、3は24cm、4は27cmである。

貯蔵穴 検出できなかった。

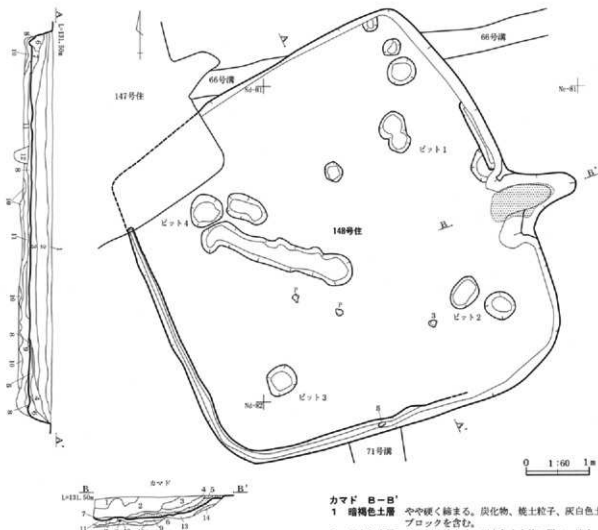
遺物 中央部から須恵器の塊を検出した。覆土からは土師器の坏・甕が出土している。

時期 6世紀後半~7世紀初頭。

備考 147号住に壊されている。

149号住居跡 (①第341図②第353・354図、P.L.331・361・362)

位置 Mt・Na-79・80グリッドにかけて検出。



148号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まる。焼土粒子を多量に、灰白色土粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、灰白色土ブロックを含む。
- 4 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロック、炭化物を含む。
- 5 炭化物層 軟らかくて粘性非常にあり。炭化物、灰白色土粒子を含む。
- 6 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。
- 7 黒褐色土層 黒色粘質土と暗褐色土の混土。
- 8 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、灰白色土ブロック、焼土粒子、炭化物粒子を含む。(張り床)
- 9 暗褐色土層 やや硬く粘性あり。灰白色土ブロックを含む。
- 10 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。
- 11 灰褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロックを含む。
- 12 灰褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロックを多量に含む。

カマド B-B'

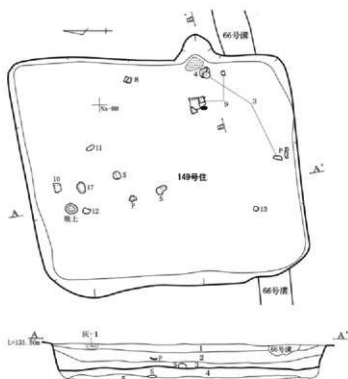
- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。炭化物、焼土粒子、灰白色土ブロックを含む。
- 2 灰白色土層 やや硬く締まる。灰白色土主体の層で、焼土、炭化物を含む。
- 3 灰褐色土層 やや硬く締まる。粘性あり。焼土粒子、灰白色土ブロックを含む。
- 4 焼土層 灰を含む。
- 5 灰白色土層 焼土、灰を含む。
- 6 灰層
- 7 灰白色土層 硬く締まる。灰、焼土を含む。
- 8 灰褐色土層 やや硬く粘性非常にあり。灰白色土、炭化物粒子を含む。
- 9 褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。焼土、灰を多量に含む。
- 10 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 11 灰褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロック、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 12 灰褐色土層 やや硬く粘性あり。灰白色土、焼土粒子を含む。
- 13 暗褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土、焼土粒子、灰を含む。
- 14 灰褐色土層 軟らかく、灰を多量に焼土粒子を含む。

第340図 148号住居跡

形状 長辺約4.4m、短辺約3.8mの方形を呈する。
 方位 N-83°-E。
 覆土 暗褐色土層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は5層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約36~42cmで床面に連する。
 床面 ほほ平坦である。面積は14.2m²。
 周溝 検出できなかった。

(1) 竪穴住居跡



149号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As・C・Hr・FA、灰白色土粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土粒子、炭化物粒子を少量含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子、灰白色土粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰褐色土ブロック、炭化物粒子、焼土粒子を含む。
- 5 灰褐色土層 やや硬く締まり粘性非常にあり。灰褐色土ブロック、炭化物粒子、焼土粒子を少量含む。

第341図 149号住居跡

竈 東壁の南寄りを持ち込んで構築されていた。燃燒部の幅は42cm、奥行きまでの長さは58cmであった。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 竈周辺から土師器の甕・坏・鉢が出土した。覆土からは、土師器の坏・台付甕、須恵器の埴を出土している。

時期 8世紀前半。

備考 66号溝によって壊されている。

150号住居跡 (①第342図②第355・356図、P.L.331・362)

位置 Ne・Nf-80~82グリッドにかけて検出。

形状 長辺約6.0m、短辺約5.8mの正方形を呈する。147号住に東コーナー部を壊される。

方位 N-48°-E。

覆土 暗褐色土層を持ち込んで竪穴住居は構築さ



カマド B-B'

- 1 赤褐色土層 やや硬く締まる。焼土、灰白色土を多量に含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まる。焼土粒子、灰白色土粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、灰白色土粒子を含む。
- 4 赤褐色土層 焼土主体の層。
- 5 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、灰白色土粒子を含む。
- 6 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土粒子、焼土粒子を含む。
- 7 赤褐色土層 焼土を主体に灰を含む。
- 8 灰層
- 9 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土、灰を含む。
- 10 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。
- 11 灰層
- 12 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子、灰白色土粒子を含む。

れ、そこに堆積した覆土は15層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約20~34cmで床面に達する。

床面 ほぼ平坦である。面積は、30.9m²。

周溝 全周している。幅約16~30cm、深さ約5cmである。

竈 東壁の南寄りに痕跡を残している。147号住居に壊されている。

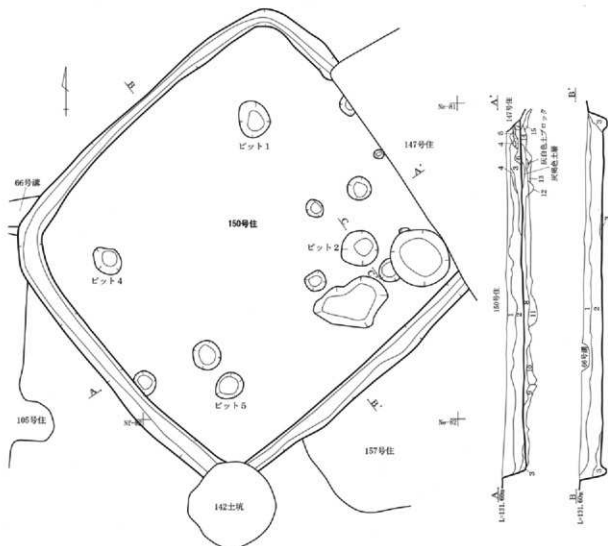
柱穴 ビット4基を検出した。ビット1の深さは41cm、2は22cm、3は29cm、4は29cm、5は18cmである。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 覆土から土師器の坏6点、高坏1点、須恵器の高坏3点などが出土している。

時期 6世紀後半

備考 147号住と66号溝に壊され、105号住と157号住を壊している。



- 150号住居跡 A-A' B-B'
- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土ブロック、焼土粒子を含む。
 - 2 黒褐色土層 軟らかい。焼土、炭化物を多量に、灰白色土ブロックを少量含む。
 - 3 灰褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。炭化物、焼土を多量に含む。
 - 4 炭化物層
 - 5 灰層
 - 6 赤褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土を多量に、灰を含む。
 - 7 灰色土層 カマド構造物。
 - 8 灰褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロックを少量含む。
 - 9 灰褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロックを少量含む。
 - 10 灰褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。
 - 11 灰褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロックを少量含む。
 - 12 灰褐色土層 やや硬く締まる。焼土、灰を含む。
 - 13 灰褐色土層 やや硬く締まり粘性非常にあり。
 - 14 灰褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロックを含む。
 - 15 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。焼土粒子、灰白色土粒子を含む。

- ビット2 C-C'
- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。炭化物、焼土を多量に含む。
 - 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。炭化物、焼土を含む。

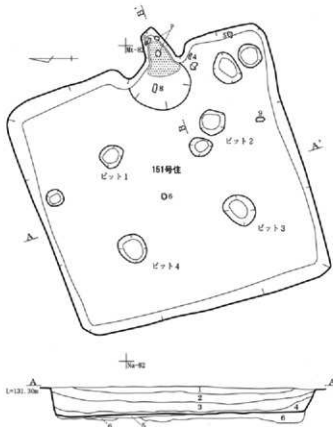
第342図 150号住居跡

151号住居跡 (①第343図②第357図、P.L.332・363)

位置 Ms-82、Mt-81・82グリッドにかけて検出。
 形状 長辺約4.3m、短辺約4.0mの方形を呈する。
 方位 N-73°-E。
 覆土 暗褐色土層を掘り込んで堅穴住居は構築さ

れ、そこに堆積した覆土は6層に分かれた。
 壁高 住居跡確認面より約36~42cmで床面に達する。
 床面 ほゞ平坦である。面積は14.8m²。
 周溝 検出できなかった。

(1) 竪穴住居跡



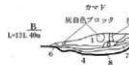
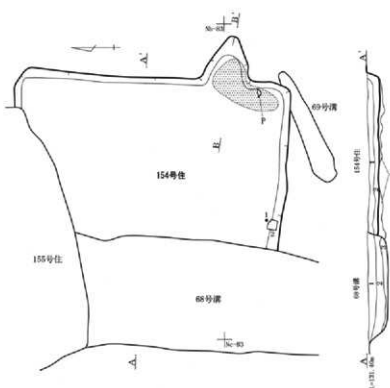
カマド B-B'

- 1 褐灰色土層 軟らかくてボソボソしている。炭化物、灰が混じる。
- 2 黄褐色土層 カマド構築材の凝土。
- 3 灰層
- 4 灰褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土、焼土粒子、灰を含む。
- 5 褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土、灰を多量に含む。
- 6 灰褐色粘質土層 灰白色土ブロックを含む。

151号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Rr-FA、黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒子、灰白色土粒子を少量含む。
- 3 灰褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロックを含む。
- 4 暗褐色土層 軟らかくて締まり、粘性あり。灰白色土ブロックを含む。
- 5 灰褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロックを含む。
- 6 灰褐色粘質土層 灰白色土ブロックを多量に含む。

第343図 151号住居跡



カマド B-B'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 焼土層 灰を含む。
- 3 灰層
- 4 灰褐色土層 やや硬くて粘性あり。灰白色土ブロックを含む。
- 5 灰白色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土を中心に焼土を含む。
- 6 暗褐色土層 軟らかく締まる。粘性あり。
- 7 灰褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰を多量に、焼土を含む。
- 8 暗褐色土層 軟らかく締まり、粘性非常にあり。炭化物粒子、焼土粒子を含む。

154号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Rr-FA、灰白色土粒子、炭化物粒子、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロック、焼土粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 硬く締まり粘性非常にあり。

第344図 154号住居跡

竈 東壁のやや南寄りを掘り込んで構築されていた。燃焼部の幅は30cm、奥行きまでの長さは78cmである。

柱 穴 8基のビットを検出した。うち4基が主柱穴と考えられる。

貯蔵穴 ビット1の深さは11cm、2は9cm、3は35cm、4は22cmである。

遺 物 竈周辺から土師器の坏、住居中央から須恵器の埴が出土した。覆土からは土師器の坏4点と土師器の甕が出土している。

時 期 7世紀前半。

154号住居跡 (①第344図②第358図、P.L.333・363)

位 置 Nb-82・83グリッドにかけて検出。

形 状 長辺約4.4m、短辺(検出範囲)約2.6mの長方形を呈するものと思われる。住居北西部を155号住居により壊され、西部を68号溝に壊されていたため、その全形は不明である。

方 位 N-95°-E。

覆 土 暗褐色土層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は3層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約20cmで床面に達する。

床 面 ほほ平坦である。面積は現状9.3㎡。

周 溝 検出できなかった。

竈 東壁の南寄りを掘り込んで構築されていた。燃焼部の幅は58cm、奥行きまでの長さは96cmである。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 南壁付近より土師器の坏が出土した。

時 期 9世紀。

備 考 155号住、68号溝によって壊されている。

155号住居跡 (①第345図②第359図、P.L.334・363)

位 置 Nb・Nc-81・82グリッドにかけて検出。

形 状 長辺約4.3m、短辺は東壁で約3.6m、西壁で約3.2mの方形を呈する。

方 位 N-65°-E。

覆 土 暗褐色土層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約40cmで床面に達する。

床 面 ほほ平坦である。面積は、12.7㎡。

周 溝 検出できなかった。

竈 東壁の中央部を掘り込んで構築されていた。燃焼部の幅は66cm、奥行きまでの長さは156cmである。

柱 穴 ビット3基を検出した。柱穴になるかどうかは不明である。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 竈周辺から土師器の甕が出土した。覆土からは土師器の坏と須恵器の埴が出土している。

時 期 10世紀。

備 考 68号溝に壊されている。

157号住居跡 (①第346図、P.L.335)

位 置 Nd・Ne-81・82グリッドにかけて検出。

形 状 長辺約5.1m、短辺(検出範囲)約3.1mの隅丸方形を呈すると思われる。住居北西部を147号住居と150号住居により壊されていたため全容は不明である。

方 位 不明。

覆 土 暗褐色土層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は2層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約14cmで床面に達する。

床 面 ほほ平坦である。面積は現状で、10.9㎡。

周 溝 検出できなかった。

竈 検出できなかった。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 検出できなかった。

時 期 不明(150号住居より古い)。

備 考 147号住と150号住によって壊されている。

158号住居跡 (①第347図②第360図、P.L.335・364)

位 置 Nd・Ne-83・84グリッドにかけて検出。

形 状 長辺約3.5m、短辺約3.2mの方形を呈する。

(1) 竪穴住居跡



カマド B-B'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FAを少量含む。
- 2 灰白色土層 やや硬く締まる。灰白色土主体の層。
- 3 灰白色土層 やや硬く締まり粘性あり。焼土ブロックを少量含む。
- 4 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、灰白色土ブロックを含む。
- 5 焼土層 灰白色土を含む。
- 6 暗褐色土層 やや硬く締まる。焼土粒子、灰白色土ブロックを含む。
- 7 灰層 焼土を含む。
- 8 焼土層
- 9 灰褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。

155号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。焼土粒子、灰白色土粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかく、黄褐色土粒子を少量含む。
- 4 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロック、炭化物粒子を含む。
- 5 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。
- 6 暗褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土ブロック、焼土粒子を含む。
- 7 灰白色土層 やや硬く締まり粘性あり。

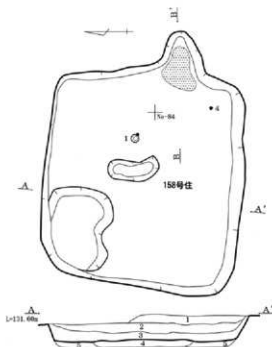
第345図 155号住居跡



157号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土粒子を多量に含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-Cを多量に含む。

第346図 157号住居跡



カマド B-B'

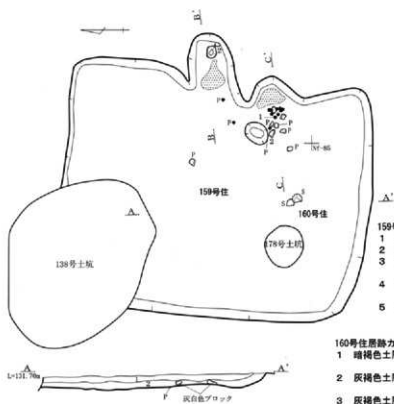
- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、灰白色土粒子、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土ブロックを多量に含む。
- 3 灰褐色土層 灰白色土を多量に含み、焼土粒子を含む。
- 4 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロック、焼土粒子を含む。
- 5 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。白色粒子、焼土粒子を含む。
- 6 焼土層
- 7 灰層
- 8 暗褐色土層 軟らかい、灰と焼土を含む。
- 9 暗褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土ブロックを少量含む。

158号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FAを多量に、黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロック、炭化物を含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロック、黄褐色土粒子を含む。
- 4 灰褐色粘質土層 灰白色土ブロックを含む。
- 5 灰白色土層

0 1:60 1m

第347図 158号住居跡



159号住居跡カマド B-B'

- 1 灰層 硬く締まる。焼土を含む。
- 2 焼土層
- 3 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FAを多量に含む。
- 4 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FAを多量に、焼土粒子を少量含む。
- 5 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒子を少量含む。

160号住居跡カマド C-C'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 灰褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土ブロック、焼土ブロックを含む。
- 3 灰褐色土層 やや硬く締まる。焼土ブロック、灰白色土ブロックを含む。
- 4 焼土層 灰を含む。
- 5 灰層 焼土を含む。
- 6 暗褐色土層 やや硬く締まる。焼土粒子を少量含む。
- 7 焼土層 灰白色土ブロックを含む。

160号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土粒子、焼土粒子、炭化物粒子を含む。

0 1:60 1m

第348図 159号住居跡・160号住居跡

方位 N-97° - E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は5層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約40cmで床面に達する。

床面 ほほ平坦である。面積は9.3㎡。床下土坑2基を検出した。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の南寄りを掘り込んで構築されていた。燃焼部の幅は50cm、奥行きまでの長さは90cmである。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 住居中央部から土師器の坏が出土した。覆土からは土師器の甕・台付甕が出土している。

時期 7世紀後半。

159号住居跡 (①第348図2第361図、P.L.336・364)

位置 Ne・Nf-84・85グリッドにかけて検出。

形状 160号住居と重複しており、全容は不明である。

方位 N-96° - E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、160号住居の覆土とは、明瞭に分層できなかった。

壁高 住居跡確認面より約20cmで床面に達する。

床面 ほほ平坦である。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁を掘り込んで構築されていた。燃焼部の幅は50cm、奥行きまでの長さは90cmである。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 覆土から土師器の坏が出土した。

時期 9世紀。

備考 160号住より古い。

160号住居跡 (①第348図2第362図、P.L.336・364)

位置 Ne・Nf-84・85グリッドにかけて検出。

形状 159号住居と重複しており、全容は不明である。

方位 N-96° - E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は2層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約20cmで床面に達する。

床面 ほほ平坦である。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁を掘り込んで構築されていた。燃焼部の幅は50cm、奥行きまでの長さは40cmである。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 竈周辺から土師器の甕が出土した。

時期 9世紀後半。

備考 159号住より新しい。

161号住居跡 (①第349図2第363図、P.L.336・364)

位置 Mt-84・85、Na-84グリッドにかけて検出。

形状 長辺約3.4m、短辺約3.3mのほぼ正方形を呈する。

方位 N-71° - E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約30cmで床面に達する。

床面 凹凸がある。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の南寄りを掘り込んで構築されていた。燃焼部の幅は62cm、奥行きまでの長さは80cmである。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 覆土からは土師器の坏、須恵器の埴・坏が出土している。

時期 7～8世紀。

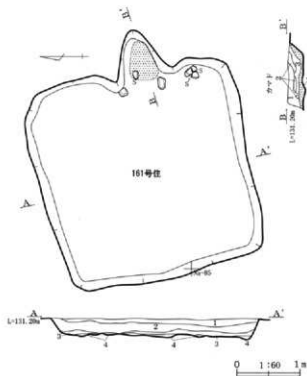
162号住居跡 (①第350図2第364図、P.L.337・364)

位置 Nf-85グリッドにおいて検出。

形状 不明。

方位 不明。

覆土 焼土粒子、炭化物を含む暗褐色土で埋まる。



161号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土粒子、焼土粒子、黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロック、焼土粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 やや硬く締まる。焼土粒子、灰白色土粒子を含む。
- 4 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。焼土粒子を含む。

カマド B-B'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。焼土粒子、灰白色土粒子を含む。
- 2 灰白色土層 軟らかくて粘性あり。焼土、炭化物を少量含む。
- 3 褐色土層 やや硬い。焼土、灰白色土を多量に含む。
- 4 灰層 焼土を含む。

第349図 161号住居跡



第350図 162号住居跡

壁 高 不明

床面 不明。

周溝 不明。

竈 東壁を掘り込んで構築されていた。燃烧部の幅は100cm、奥行きまでの長さは90cmである。

柱穴 不明。

貯蔵穴 不明。

遺物 土師器の甕、須恵器の壺が出土した。

時期 8世紀。

163号住居跡 (①第351図②第365図、P.L.337・364)

位置 Na・Nb-84・85グリッドにかけて検出。

形状 長辺約5.2m、短辺は北壁で約3.1m、南壁で約3.3mの長方形を呈する。

方位 N-92°-E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は8層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約10cmで床面に達する。

床面 やや堅く締まり、焼土や灰が分布する。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の中央を掘り込んで構築されていた。燃烧部の幅は78cm、奥行きまでの長さは82cmである。左右の袖部分に袖構築材を検出した。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 竈から土師器の坏2点、南東コーナーから土師器の坏、須恵器の坏、中央部から土師器の甕、須恵器の坏が出土した。

時期 9世紀後半。

164号住居跡 (①第352図②第366図、P.L.337・365)

位置 Mr・Ms-82・83グリッドにかけて検出。

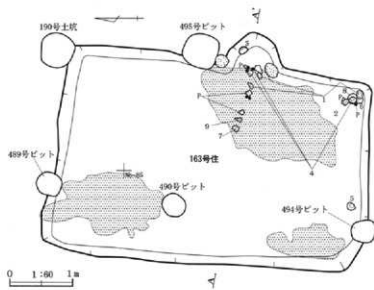
形状 長辺約3.7m、短辺約3.5mの長方形を呈する。

方位 N-85°-E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は5層に分かれた。

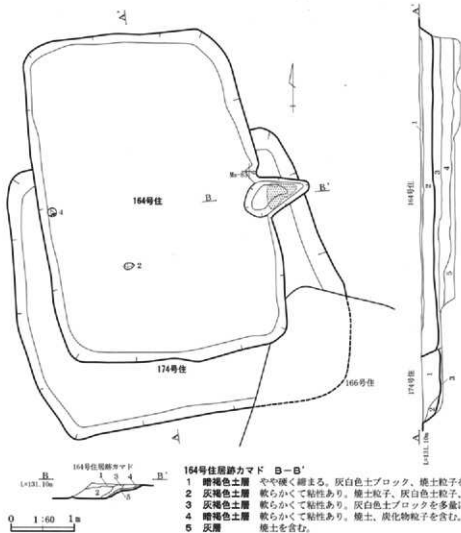
壁高 住居跡確認面より約26cmで床面に達する。

(1) 竪穴住居跡



第351図 163号住居跡

- 163号住居跡 A-A'
- 1 暗褐色土層 硬く締まる。As・C・Hr-Iaを多量に、黄褐色土粒子、炭化物粒子、焼土粒子を含む。
 - 2 暗褐色土層 軟らかく、粘性あり。焼土粒子、焼土を少量含む。
 - 3 灰層 軟らかく、粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。
 - 4 暗褐色土層 軟らかく、粘性あり。炭化物粒子、焼土粒子を少量含む。
 - 5 暗褐色土層 軟らかく、粘性あり。焼土、炭化物を含む。
 - 6 焼土層 軟らかく、粘性あり。焼土粒子を含む。
 - 7 暗褐色土層 軟らかく、粘性あり。As・C・Hr-FA、黒色土ブロック、やや硬く締まる。As・C・Hr-Ia、焼土粒子を含む。
 - 8 暗褐色土層 焼土粒子を含む。



第352図 164号住居跡・174号住居跡

- 164号住居跡 A-A'
- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土粒子を含む。
 - 2 暗褐色土層 軟らかく、粘性あり。灰白色土粒子、炭化物粒子を含む。
 - 3 暗褐色土層 軟らかく、粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。
 - 4 暗褐色土層 軟らかく、粘性あり。炭化物粒子、焼土粒子、灰白色土ブロックを含む。
 - 5 灰褐色粘質土層
- 174号住居跡 A-A'
- 1 暗褐色土層 硬く締まる。黄褐色土粒子を含む。
 - 2 暗褐色土層 軟らかく、粘性あり。炭化物粒子を含む。
 - 3 黒褐色土層 軟らかく、粘性あり。焼土粒子、灰白色土粒子を含む。

- 164号住居跡力マド B-B'
- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土ブロック、焼土粒子を含む。
 - 2 暗褐色土層 軟らかく、粘性あり。焼土粒子、灰白色土粒子、炭化物粒子を含む。
 - 3 暗褐色土層 軟らかく、粘性あり。灰白色土ブロックを多量に、焼土、炭化物粒子を含む。
 - 4 暗褐色土層 軟らかく、粘性あり。焼土、炭化物粒子を含む。
 - 5 灰層 焼土を含む。

床面 ほぼ平坦である。面積は16.0㎡。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の中央部を掘り込んで構築されていた。燃焼部の幅は54cm、奥行きまでの長さは110cmである。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 住居中央から土師器の坏、西壁付近から須恵器の蓋が出土した。

時期 8世紀後半。

備考 174号住居を壊している。

174号住居跡 (①第352図、P.L.339)

位置 Mr・Ms-82・83グリッドにかけて検出。

形状 長辺約5.0m、短辺約4.4mの方形を呈する。

住居のほとんどを164号住居によって壊されている。

方位 不明。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は3層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約22～28cmで床面に達する。

床面 ほぼ平坦である。面積は現状6.0㎡。

周溝 検出できなかった。

竈 検出できなかった。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 出土していない。

時期 不明 (164号住居より古い)

165号住居跡 (①第353図2第367図、P.L.338・365)

位置 Nc・Nd-83・84グリッドにかけて検出。

形状 不明。

方位 不明。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は3層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約10cmで床面に達する。

床面 ほぼ平坦である。

周溝 検出できなかった。

炉 床面に焼土の堆積が認められた。炉に該当するか。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 中央部から須恵器の坏が出土した。

時期 不明。

166号住居跡 (①第354図2第368・369図、P.L.338・365)

位置 Mr・Ms-83・84グリッドにかけて検出。

形状 長辺約4.6m、短辺約3.3mの長方形を呈すると思われる。住居南西部分1/4を172号住居によって壊されている。

方位 N-111°-E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は7層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約10cmで床面に達する。

床面 ほぼ平坦であるが、北がやや高くなっている。面積は0.67㎡。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の中央を掘り込んで構築されていた。燃焼部の幅は50cm、奥行きまでの長さは50cmである。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 竈から須恵器の坏2点、手捏ね土器1点、北東コーナーと北壁から須恵器の坏それぞれ1点が出土した。

時期 9世紀末から10世紀初頭。

備考 172号住居に壊される。174号住居を壊している。

167号住居跡 (①第355図2第370図、P.L.339・365・366)

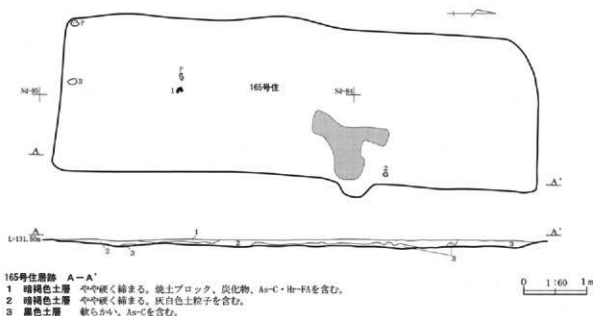
位置 Mt・Na-82・83グリッドにかけて検出。

形状 長辺約3.9m、短辺(検出範囲)約2.8mの隅丸方形を呈すると思われる。西側を170、171号住居によって壊されているため、全容は不明である。

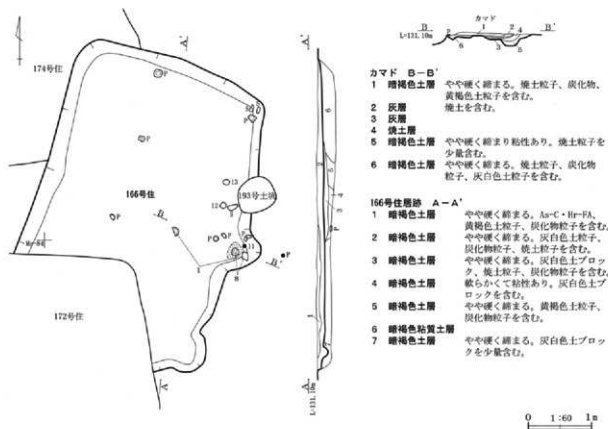
方位 N-95°-E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで堅穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は3層に分かれた。

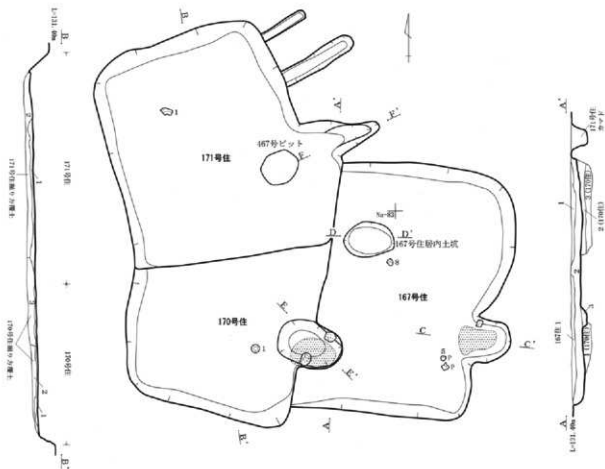
壁高 住居跡確認面より約20cmで床面に達する。



第353図 165号住居跡



第354図 166号住居跡



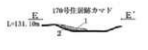
170-171号住居跡 B-B'

170号住居跡

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。炭化物粒子、焼土粒子、灰白色土粒子を含む。
- 2 灰白色粘質土層 黒色土、灰白色土の混土。
- 3 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土を多量に含む。

171号住居跡

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。炭化物粒子、焼土粒子、灰白色土粒子を含む。
- 2 暗褐色粘質土層 灰白色土ブロックを多量に含む。



167号住居跡カマド C-C'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Iir-AF、炭化物、焼土を含む。
- 2 焼土層 灰を含む。
- 3 暗褐色土層 やや硬く締まる。焼土粒子、炭化物粒子、灰白色土粒子を含む。
- 4 灰層
- 5 暗褐色土層 やや硬く締まる。焼土、灰を含む。
- 6 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子を含む。

167号住居内土坑 D-D'

- 1 灰褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土粒子を含む。
- 2 黒褐色粘質土層 灰白色土ブロックを含む。
- 3 灰白色粘質土層

167号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。焼土粒子、炭化物粒子、灰白色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土粒子、炭化物粒子、焼土粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 やや硬く締まる。焼土粒子、炭化物粒子を少量含む。

170号住居跡カマド E-E'

- 1 灰層
- 2 暗褐色土層 茶褐色土粒子、灰を含む。

171号住居跡カマド F-F'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土粒子、焼土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかい。焼土粒子、黄褐色土粒子を含む。
- 3 灰層 焼土を含む。
- 4 暗褐色土層 やや硬く締まる。焼土粒子と黄褐色土粒子を含む。



第355図 167号住居跡・170号住居跡・171号住居跡

床面 ほぼ平坦である。面積は現状で9.4㎡。床下土坑1基を検出した。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の南寄りを掘り込んで構築されていた。燃焼部の幅は60cm、奥行きまでの長さは82cmである。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 竈周辺から須恵器の壺、中央部から須恵器の壺が出土。覆土からは土師器の坏、須恵器の坏、土師器の甕が出土した。

時期 8世紀後半。

備考 170、171号住に壊されている。

170号住居跡 (①第355図②第371図、P.L.339・366)

位置 Na-83グリッドにおいて検出。

形状 長辺約3.0m、短辺(検出範囲)約2.9mの隅丸方形を呈すると思われる。北側を171号住に壊されているため全容は不明である。

方位 N-115° - E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は3層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約20cmで床面に達する。

床面 ほぼ平坦である。面積は現状で6.5㎡。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁を掘り込んで構築されていた。燃焼部の幅は70cm、奥行きまでの長さは104cmである。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 竈周辺から土師器の坏が出土した。

時期 7世紀後半。

備考 171号住に壊され、167号住を壊している

171号住居跡 (①第355図②第371図、P.L.339・366)

位置 Na-82・83グリッドにかけて検出。

形状 長辺(検出範囲)約3.7m、短辺約3.0mの隅丸長方形を呈する。

方位 N-70° - E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は2層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約12~14cm

で床面に達する。

床面 ほぼ平坦である。面積は、10.0㎡。

周溝 検出できなかった。

竈 東壁の南寄りを掘り込んで構築されていた。

燃焼部の幅は30cm、奥行きまでの長さは98cmである。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 中央部から土師器の甕が出土した。

時期 7世紀後半。

備考 167号住と170号住を壊している。

172号住居跡 (①第356図②第372図、P.L.339・366)

位置 Mr・Ms-84・85グリッドにかけて検出。

形状 住居の大半が173号住居と重複するため、その全容は不明である。

方位 不明。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築され、そこに堆積した覆土は3層に分かれた。

壁高 住居跡確認面より約28cmで床面に達する。

床面 平坦であるが、踏み跡まりが弱い。

周溝 検出できなかった。

竈 検出できなかった。

柱穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺物 出土遺物はほとんどない。

時期 不明。

備考 173号住に壊されている。

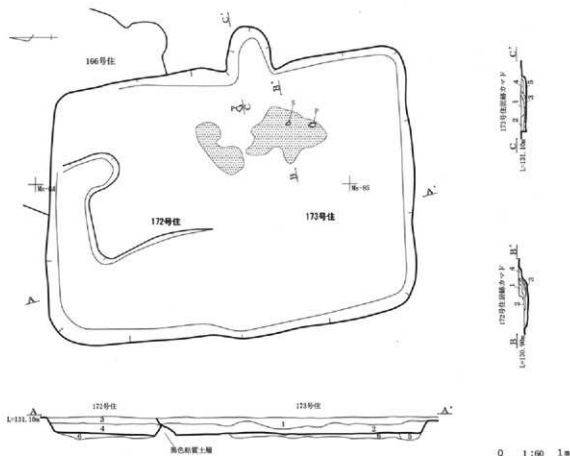
173号住居跡 (①第356図②第372図、P.L.339・366)

位置 Mr・Ms-84・85グリッドにかけて検出。

形状 長辺約4.4m、短辺(検出範囲)約4.3mの方形を呈する。

方位 N-97° - E。

覆土 暗褐色土層を掘り込んで竪穴住居は構築さ



172・173号住居跡 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。炭化物、焼土粒子、灰白色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 上層より暗い色調。やや硬く締まる。炭化物、焼土粒子、灰白色土粒を含む。
- 3 暗褐色土層 やや硬く締まる。炭化物、焼土粒子、灰白色土粒子を含む。
- 4 暗褐色土層 やや硬く粘性あり。灰白色土粒子、焼土粒子を含む。
- 5 灰褐色土層 軟らかくて粘性あり。
- 6 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。

172号住居跡カマド B-B'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。焼土粒子、黄褐色土粒子を少量含む。
- 2 焼土層
- 3 灰層
- 4 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子を含む。

173号住居跡カマド C-C'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。焼土、灰を少量含む。
- 2 焼土層 灰を含む。
- 3 灰層 焼土を少量含む。
- 4 暗褐色土層 灰、焼土を含む。
- 5 暗褐色土層 軟らかい。焼土粒子、灰を少量含む。

第356図 172号住居跡・173号住居跡

れ、そこに堆積した覆土は4層に分かれた。

壁 高 住居跡確認面より約24～28cmで床面に達する。

床 面 平坦であるが踏み締まりが弱い。竈の周辺に焼土が分布している。

周 溝 検出できなかった。

竈 東壁のやや南寄りを掘り込んで構築されていた。燃焼部の幅は52cm、奥行きまでの長さは96cmである。

柱 穴 検出できなかった。

貯蔵穴 検出できなかった。

遺 物 覆土から土師器の坏・甕、須恵器の坏・高坏、灰釉陶器の埴が出土している。

時 期 9世紀。

備 考 172号住を壊している。

(2) 掘立柱建物跡・土坑・ピット

2号・3号掘立柱建物跡は、当初個別の土坑として調査をした。しかし調査の進展にともない、これらの土坑は掘立柱建物跡を構成することが判明した。

(2) 掘立柱建物跡・土坑・ピット

掘立柱建物跡

土坑・竪穴

番号	位置	形状	長径×短径×深さ(cm)	出土遺物(朱鳥軌遺物の点数)	備考	遺構図版	遺物図版	写真図版
137	Nf・Ng-84	楕円形	75×68×16		377号ピットと重複	第360図		342
138	Nf-84	楕円形	282×214×61	土師器片29・須恵器片5・陶磁器5		360		342
139	3号掘立	楕円形	115×100×30			338・339		340・341
140	3号掘立	楕円形	110×75×30			338・339		340・341
141	3号掘立	円形	95×110×23	土師器片1		338・339	第373図	340・341
142	3号掘立	不定形	140×135×40	土師器片3		338・339		340・341
143	Ni・Nj-80	楕円形	78×66×40	土師器片2・須恵器片1		360		342
144	Nk-75	楕円形	54×37×32	土師器片1・須恵器片2	380ピットに接近	360		342
145	Nk-75	楕円形	85×62×11	土師器片2		360		342
146	Nk-76	楕円形	50×45×51	土師器片2		361		342
147	Nl-75	楕円形	52×42×26	土師器片4		361		342
148	Nl-75	楕円形	50×46×39			361		342
149	Ni・Nk-75	楕円形	104×91×6		150号土坑と重複	361		343
150	Nj-75	楕円形	113×59×14	須恵器片1・石田川片2	149号土坑と重複	361		343
151	Nl-77	長方形	96×52×14	土師器片5	381号ピットに接近	361		343
152	Nd-77	楕円形	68×62×17	土師器片1・須恵器片1		361		343
153	Nd-77	円形	50×45×15	土師器片1		361		343
154	Nc-77	円形	85×75×15	土師器片5	386号ピットに接近	361		343
155	Nf-78	円形	81×71×20			361		343
156	Ni-77	楕円形	111×92×12	土師器片9		362		343
157	Ne-76	円形	104×104×43			362		343
158	Ne-76	楕円形	56×47×51			362		343
159	Ne-76	楕円形	62×54×47		411号ピットに接近	362		343
160	Ne・Nf-78	楕円形	89×74×24			362		343
161	Nc-80	ほぼ円形	60×54×27		421号ピットに接近	362		344
162	Nc-79	楕円形	54×50×15		426号ピットに接近	362		344
163	Ng-79	円形	52×50×30	須恵器片2		362		344
164	Nb-80	楕円形	107×65×18			362	373	344・366
165	2号掘立	楕円形	104×80×72	須恵器片2		357		329
166	2号掘立	楕円形	106×80×72			357		329
167	2号掘立	楕円形	123×100×80			357		
168	Mt-81	円形	68×61×20		446号ピットに接近	362		344
169	3号掘立	楕円形	115×87×70			338・339		340・344
170	3号掘立	楕円形	95×80×40	土師器片1・須恵器片1・縄文土器片1		338・339		340・344
171	3号掘立	楕円形	110×110×62			338・339		340・344
172	3号掘立	ほぼ円形	100×95×60			338・339		340・345
173	3号掘立	ほぼ円形	95×95×80	土師器片4		338・339		340・345
174	Nc-80・81	楕円形	58×57×64	土師器片1		362		345
175	2号掘立	楕円形	91×90×90	土師器片1		357		341
176	Nb-83	楕円形	110×99×19	須恵器片4	69号溝に接近	363		
177	Ne-83	楕円形	61×55×9			363		
178	Nf-84	楕円形	71×61×27	土師器片2		363		336
179	Nb-83	楕円形	124×105×25	土師器片21・須恵器片1・石田川片1	68号溝と重複	363		
180	Nb-80	円形	56×55×36			363		
181	Ng-85	円形	64×62×15			363		345
182	Na-83	楕円形	108×101×31			363		345
183	Na-85	円形	57×55×10			363		345
184	Na-85	円形	62×60×22			363		345
185	Nb-83	円形	99×96×10			363		345
186	Nb-83	長方形	173×97×9	土師器片8		363		345
187	Nc-84	楕円形	65×65×16	石田川片1		363		346
188	Mt-83・84	楕円形	65×35×15		188号土坑に接近	364		
189	Mt-83・84	楕円形	55×51×11		188号土坑に接近	364		
190	Na-84	円形	55×52×44	須恵器片1		364		337
191	Me-84	方形	105×98×15			364		346
192	Me-85	楕円形	99×60×4	土師器片1		364		
193	Mr-83	楕円形	60×52×15			364		
194	Mj・Mr-85	楕円形	114×78×14	土師器片10・須恵器片3	195号土坑と重複	364		346
195	Mj・Mr-85	楕円形	75×72×30		194号土坑と重複	364		346

第7章 V区 検出の遺構

土坑一覧表

番号	位置	形状	長さ×幅×深さ(cm)	出土遺物(未掲載遺物の点数)	備考	遺構図取	遺物図取	写真図取
196	Ms・Mt 85	楕円形	92×80×26			83364図		346
197	Ng 84	楕円形	90×63×14		106号住居と重複	364		346
198	Mp・Mq 85	長方形	461×196×14					

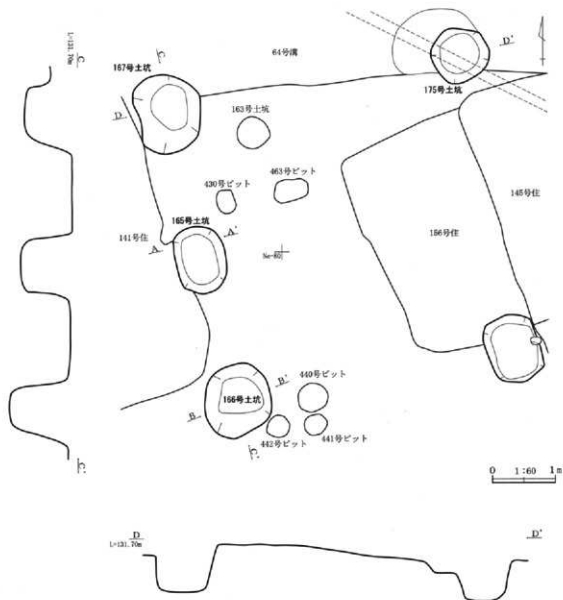
ピット一覧表

番号	位置	形状	長さ×幅×深さ(cm)	出土遺物(未掲載遺物の点数)	備考	遺構図取	遺物図取	写真図取
377	Nf・Ng 84	円形	36×32×16		137号土坑と重複	W360図		347
378	Nk-75	円形	38×38×26			365		347
379	Np-75	円形	35×32×24		380号ピットに接近	365		347
380	Np-75	円形	32×30×33	土師器片2・須恵器片1・縄文土器片1		365		347
381	Np-75	円形	32×28×37			365		347
382	Np-75	楕円形	26×20×20			365		347
383	Np-75	円形	24×24×17	土師器片2		365		347
384	Np-75	楕円形	42×30×8	土師器片1・石田川片2	385号ピットに接近	365		347
385	Np-75	楕円形	57×32×17		380号ピットに接近	365		347
386	Np-75	円形	31×29×15		147号土坑に接近	361		347
387	Np-75	円形	37×37×36			365		347
388	Nk-75	楕円形	28×27×12					347
389	Nk-76	楕円形	37×35×33			365		347
390	Nk-75	楕円形	34×27×29		144号土坑に接近	390		347
391	Nl-77	円形	30×27×17		151号土坑に接近	361		347
392	Nd-77	円形	25×24×20			366		347
393	Nd-77	円形	40×39×20			366		347
396	Nc-77	楕円形	26×22×25					347
397	Nc・Nd-77	楕円形	40×35×15	土師器片2	152号土坑に接近	361		347
398	Nd-77	楕円形	44×36×16		152号土坑に接近	361		347
399	Nc-77	円形	35×35×34	土師器片3		365		347
400	Nc-77	円形	40×37×30	土師器片1・須恵器片3		365		347
401	Nc・Nd-77	円形	39×32×11			365		347
403	Nc-76	円形	44×39×14		137号住居内	332		347
404	Nd-77	円形	35×35×18			366		347
405	Nd-77	円形	40×40×40			366		347
406	Nd-76・77	楕円形	31×25×15			366		347
407	Nd-76	円形	38×37×15			366		347
408	Nd-76	円形	38×35×25			366		347
409	Nc・Nd-76	円形	35×34×26			366		324
410	Nd-76	楕円形	50×43×16			366		347
411	Ne-76	円形	39×34×29		169号土坑に接近	362		347
412	Nf・Ng 77	円形	43×43×23	須恵器片1		366		347
413	Nd-76	楕円形	49×47×54			366		347
414	Nb-78	円形	47×46×51			366		325
415	Ne-77	円形	45×43×45			367		348
416	Nf-78	楕円形	34×30×34	須恵器片1		367		347
417	Ne-77	円形	50×50×35	土師器片4	141号住居に接近	367		325
418	Ng-79	円形	22×22×22	土師器片5・須恵器片1		367		348
419	Ne-76	楕円形	47×40×51	土師器片4		367		348
420	Ne-76	円形	41×41×50			367		348
421	Nc-80	楕円形	26×23×17		161号土坑に接近	362		348
422	Nc-80	楕円形	32×27×18			367		348
423	Nc-80	円形	35×34×22			367		348
424	Nc-80	楕円形	32×30×30			367		348
425	Nc-80	楕円形	25×23×30			367		348
426	Nc-79	楕円形	42×35×32		162号土坑に接近	362		348
427	Nb・Nc-79	円形	36×36×29			367		348
428	Nb-79	円形	30×26×34			367		348
429	Nb-79	円形	30×30×34			367		348
430	Ng-79	楕円形	37×29×25			367		348
431	Nk-77	円形	21×21×9			368		348
432	Nk-77	円形	31×29×25			368		348
433	Nk-77	楕円形	32×27×25			368		348
434	Nk・Nl-77	円形	26×23×29			368		348
435	Nk-77	楕円形	46×39×28	土師器片2		368		348
436	Nk-77	円形	41×40×25			368		348
437	Nk-77	円形	42×41×26	土師器片2・石田川片4		368		348

(2) 掘立柱建物跡・土坑・ピット

ピット一覧表

番号	位置	形状	長さ×幅×深さ(cm)	出土遺物(未掲載遺物の点数)	備考	遺構図版	遺物図版	写真図版
438	Nf-78	円形	48×42×23			第358図		348
439	Na・Nb-80	楕円形	44×34×44			368		348
440	Nd-80	円形	47×45×47			368		329
441	Nd-80	円形	37×31×44			368		329
442	Nd・Ne-80	円形	39×35×44	土師器片 2		368		329
443	Nb-81	楕円形	43×43×30	土師器片 3・石田川片 1		368		348
444	Nb-81	円形	22×22×34			368		348
445	Na-80	円形	45×42×24			368		348
446	Mt-81	円形	30×30×15		168号土坑に接近	362		348
447	Nf-84・Ng-83	楕円形	49×38×10	土師器片 1		369		349
448	Nf-84	円形	32×32×36			369		349
449	Ne-83	楕円形	30×25×15	土師器片 2・石田川片 2		36・369		340
450	Ne-83	楕円形	30×25×7	土師器片 1		368		
451	Ne-83	円形	30×29×12	土師器片 2		369		340
452	Ne・Nf-83	円形	29×25×13	土師器片 2	170号土坑と接近	369		344・349
453	Nd-83	楕円形	40×32×26	土師器片 2		369		
454	Ne-82	楕円形	35×35×45	土師器片 1		369		349
455	Ne・Nf-82/83	円形	40×37×18			369		349
456	Ne・Nf-82	円形	37×37×38	土師器片 5		369		349
457	Nf-82	楕円形	30×24×16	土師器片 3		369		349
458	Nf-84	楕円形	26×25×15			368		349
459	Nf-82	楕円形	32×32×20	土師器片 1・縄文土器片 1	169号土坑に接近	369		349
460	Nf-82	楕円形	40×39×16	土師器片 4		369		349
461	Nf-82	楕円形	22×22×12		169号土坑に接近	369		349
462	Nf-82	楕円形	22×20×10		172号土坑と重複	369		349
463	Nf・Ng-79	楕円形	57×35×25			367		349
464	Na-81・82	楕円形	35×35×24			370		349
465	Na-82	楕円形	32×27×19			370		349
466	Na-81・82	楕円形	51×35×35	土師器片 1		370		349
467	Na-82	楕円形	57×55×49	土師器片 8・須恵器片 5		370		349
468	Nd-85	楕円形	61×45×14		469号ピットと重複	370		
469	Nd-85	楕円形	20×19×10			370		
470	Ne-83	楕円形	61×44×11	土師器片10・須恵器片 5		370		
471	Nc-83	楕円形	36×32×33			370		
472	Nf-85	方形	72×57×10			371		349
473	Nf・Ng-85	円形	26×26×23			371		349
474	Nf-84・85	円形	27×26×25			371		349
475	Nf-84	方形	34×34×25			371		349
476	Ng-84	楕円形	23×21×25			371		349
477	Nf・Ng-84	円形	28×28×26			371		349
478	Nf-84	楕円形	57×32×36			371		349
479	Nd-84	楕円形	34×34×8			370		
480	Ng-84	円形	34×32×22			364		349
481	Nd-84	円形	30×27×15			370		
482	Nd-85	楕円形	37×35×24			371		
483	Nd-85	隅丸方形	26×21×18			370		
484	Nd-85	楕円形	38×22×15			370		
485	Nd-85	隅丸方形	50×48×25			370		
486	Na-85	楕円形	50×45×18			371		349
487	Nd-84	円形	35×35×23			371		349
488	Nc-85	円形	41×39×12			371		
489	Nb-84	隅丸方形	40×35×29	土師器片 3		371		337
490	Nb-85	円形	39×37×21			371		337
491	Ms・Mt-84	楕円形	56×28×21			371		349
492	Ms-84	楕円形	45×37×10			371		349
493	Mr-84	楕円形	39×34×24			372		
494	Nb-85	隅丸方形	40×35×29	須恵器片 2		372		
495	Na-84	隅丸方形	55×55×9	土師器片 1		372	第373図	366
496	Nr-83	楕円形	50×35×17	土師器片 1		372		
497	Mt-83	楕円形	32×23×25			372		

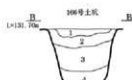
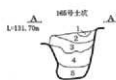


165号土坑 A-A'

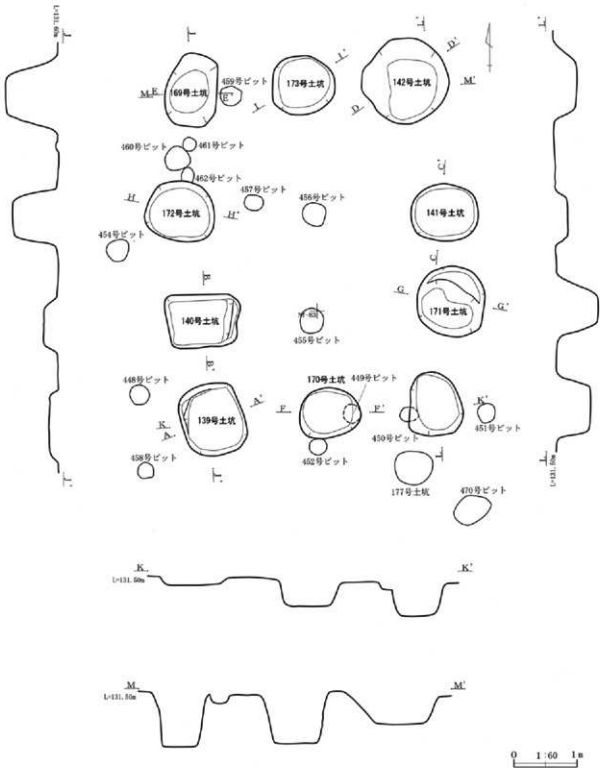
- 1 灰白色土ブロック層
- 2 暗褐色土層 軟らかく締まる。灰白色土ブロック、炭化物粒子、炭土粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロックを多量に含む。
- 4 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロック、炭土粒子、炭化物粒子を含む。
- 5 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロック、炭化物粒子を含む。

166号土坑 B-B'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロックを多量に含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロックを含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかく締まり粘性あり。上層より暗い色調。灰白色土ブロックを多量に含む。
- 4 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロックを多量に含む。



第357図 2号掘立柱建物跡



第356図 3号掘立柱建物跡(1)

第7章 V区 検出の遺構



139号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロックを多量に含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土ブロックを少量含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロックを多量に含む。



140号土坑 B-B'

- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロックを多量に含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土ブロックを少量含む。



141号土坑 C-C'

- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロックを多量に含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土ブロックを少量含む。



142号土坑 D-D'

- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土ブロックを含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性非常にあり。灰白色土ブロックを少量含む。



169号土坑 E-E'

- 1 暗褐色土層 硬く締まる。白色土粒子、黄褐色土ブロックを含む。
- 2 褐灰色土層 硬く締まり粘性あり。黄褐色土ブロックと粘性のある黒色土の混土。

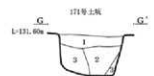


170号土坑-449号ピット F-F'

- 1 暗褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FA、褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。
- 3 黒褐色土層 粘性あり。黄褐色土ブロックを含む。

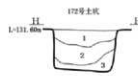
449号ピット

- 1 明褐色土層 硬く締まる。As-C・Hr-FAを含む。



171号土坑 G-G'

- 1 暗褐色土層 硬く締まる。黄褐色土ブロック、灰白色土を含む。
- 2 暗褐色土層 粘性あり。黄白色土ブロックを多量に含む。
- 3 暗褐色砂質土層 軟らかい。



172号土坑 H-H'

- 1 暗褐色土層 硬く締まる。灰白色土、As-C・Hr-FA、黄白色土ブロックを含む。
- 2 暗褐色土層 やや軟らかい。黄白色土ブロックを含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロックを含む。

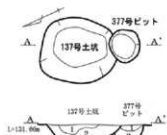


173号土坑 I-I'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、灰白色土粒子、炭化物粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロックを多量に含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土粒子を含む。
- 4 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロックを少量含む。
- 5 暗褐色土層 軟らかく締まり粘性あり。灰白色土ブロックを多量に含む。
- 6 暗褐色土層 軟らかくて締まりよい。粘性非常にあり。

第359図 3号掘立柱建物跡(2)

(2) 掘立柱建物跡・土坑・ピット



137号土坑-377号ピット A-A'

137号土坑

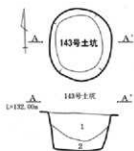
1 暗褐色土層 軟らかい、黄褐色土粒子、礫石を少量含む。

2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり、黄褐色土粒子を含む。

377号ピット

1 灰褐色土層 軟らかくて粘性あり、黄褐色土粒子を含む。

2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。



143号土坑 A-A'

1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロック、

黄褐色土粒子を少量含む。

2 暗褐色土層 やや硬く細まり粘性非常にあり。

灰白色土ブロックを含む。



144号土坑 A-A'

1 暗褐色土層 軟らかくて締まる。

黄褐色土粒子、埴土粒子を含む。

2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。

黄褐色土粒子、灰白色土粒子を含む。

390号ピット B-B'

1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。

灰白色土粒子を含む。

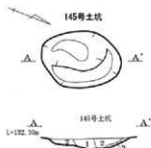


138号土坑 A-A'

1 灰褐色土層 軟らかい、砂利を含む。

2 灰褐色粘質土層

3 灰色粘質土層



145号土坑 A-A'

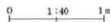
1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。埴土粒子、灰白色土

粒子を含む。

2 暗褐色土層 軟らかくて締まる。灰白色土粒子、埴土

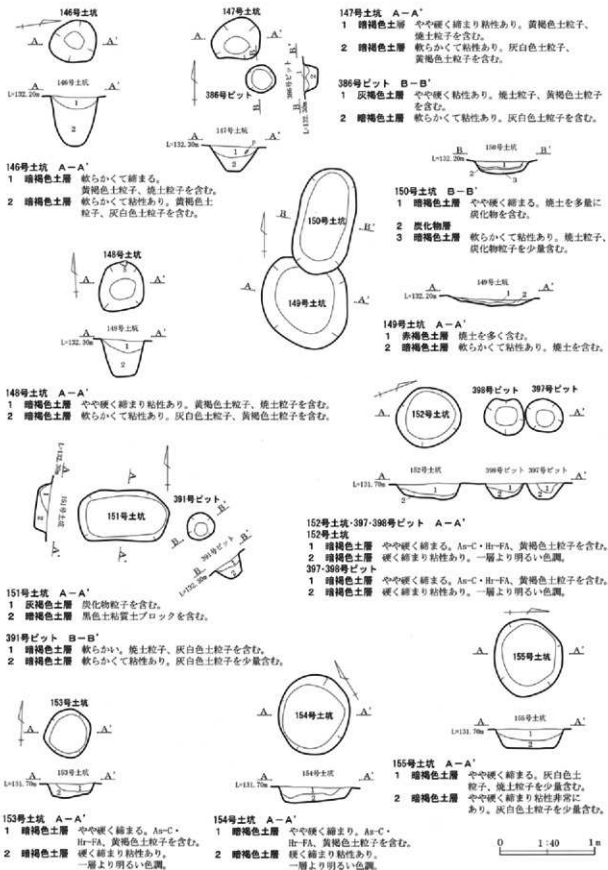
粒子を含む。

3 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土粒子を含む。



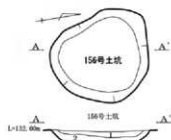
第360図 137-138-143-145号土坑、377-390号ピット

第7章 V区 検出の遺構



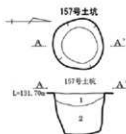
第361図 146～155号土坑、386・391・397・398号ピット

(2) 掘立柱建物跡・土坑・ピット



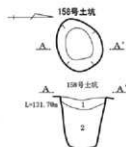
156号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。焼土ブロックを多量に炭化物、灰を少量含む。
2 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。焼土粒子を少量含む。



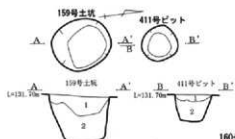
157号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土層 軟らかい。炭化物粒子、灰白色土ブロックを含む。
2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。焼土粒子、炭化物粒子を含む。



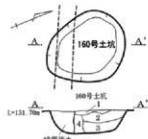
158号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土層 軟らかい。灰白色土ブロック、炭化物粒子、焼土粒子を含む。
2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土粒子を少量含む。



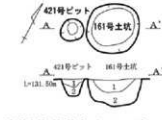
159号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土ブロック、黄褐色土粒子を含む。
2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土粒子を少量含む。



160号土坑 A-A'

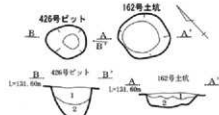
- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C-Hr-Fa、黄褐色土粒子を含む。
2 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C-Hr-Fa、黄褐色土粒子を含む。
3 暗褐色土層 やや硬く締まる。白色粒子を少量含む。
4 灰白色土層 軟らかくて粘性非常にあり。



161号土坑 A-A'

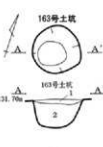
- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロック含む。
2 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土ブロックを含む。
421号ピット やや硬く締まり。黄褐色土粒子を含む。
2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。

- 411号ピット B-B'
1 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土粒子、炭化物粒子を含む。
2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒子を含む。



162号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロックを含む。
2 暗褐色土層 硬く粘性あり。黄褐色土粒子、炭化物粒子を少量含む。



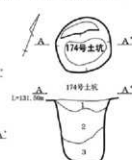
163号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C-Hr-Faを多量に、黄褐色土粒子、炭化物粒子を含む。
2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロック、炭化物粒子を少量含む。



164号土坑 A-A'

- 1 黒褐色土層 炭化物、焼土を多量に含む。(炭化物層)
2 褐色土層 炭化物を多量に焼土粒子を含む。
3 炭化物層 炭化物を主体に焼土を含む。
4 茶褐色土層 炭化物、焼土を含む。



168号土坑 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C-Hr-Fa、灰白色土粒子、炭化物粒子、焼土粒子を含む。
2 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性非常にあり。黄褐色土粒子、焼土粒子を極少量含む。

426号ピット B-B'

- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土ブロックを含む。
2 暗褐色土層 硬く粘性あり。黄褐色土粒子、炭化物粒子を少量含む。

168号土坑 A-A'

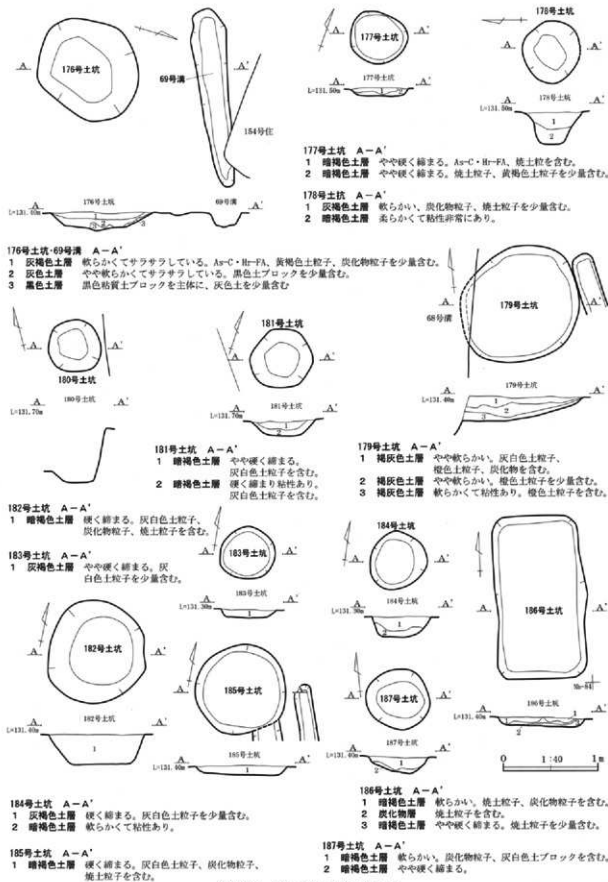
- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C-Hr-Fa、灰白色土粒子、炭化物粒子、焼土粒子を含む。
2 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性非常にあり。黄褐色土粒子、焼土粒子を極少量含む。

446号ピット B-B'

- 1 灰褐色土層 軟らかい。灰白色土ブロックを含む。
2 黒褐色土層 軟らかくて粘性あり。

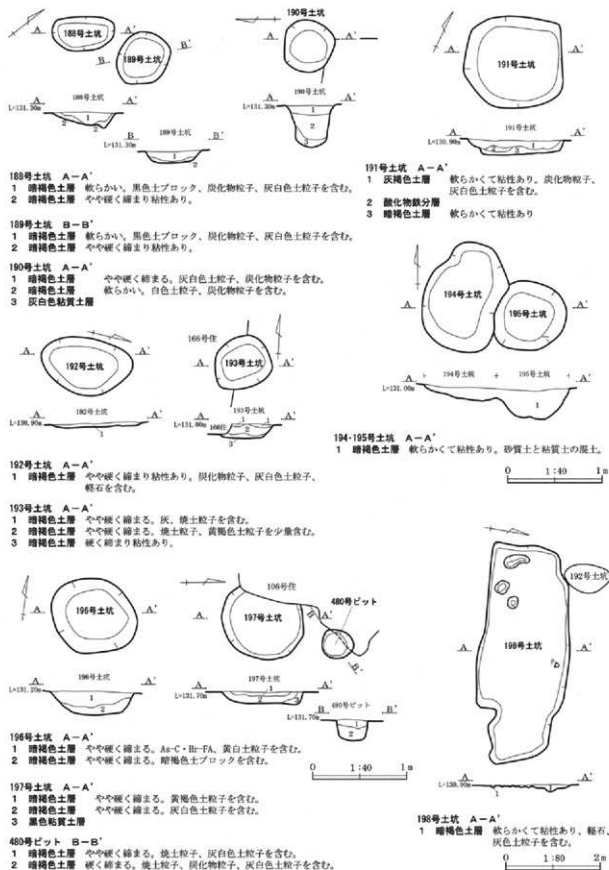
第362図 156~164・168・174号土坑、411・421・426・446号ピット

0 1:40 1m



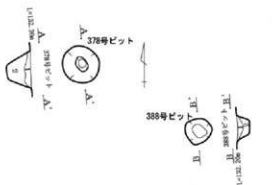
第363図 176~187号土坑、69号溝

(2) 掘立柱建物跡・土坑・ピット



第364図 188～198号土坑、480号ピット

第7章 V区 検出の遺構



376号ビット A-A'

- 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒子、As-C・Hr-FAを少量含む。
- 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。

389号ビット B-B'

- 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土粒子を含む。
- 暗褐色土層 1層より暗い色調。黄褐色土粒子を含む。



383号ビット A-A'

- 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒子、As-C・Hr-FAを少量含む。
- 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。

384-385号ビット B-B'

- 灰褐色土層 やや硬く粘性あり。焼土粒子、黄褐色土粒子を含む。
- 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。灰白色土粒子を含む。

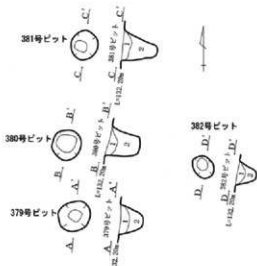


387号ビット A-A'

- 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土粒子を含む。
- 暗褐色土層 1層より暗い色調。黄褐色土粒子を含む。

389号ビット

- 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土粒子を含む。(上層)
- 暗褐色土層 1層より暗い色調。黄褐色土粒子を含む。(下層)



379号ビット A-A'

- 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒子、As-C・Hr-FAを少量含む。
- 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。

380号ビット B-B'

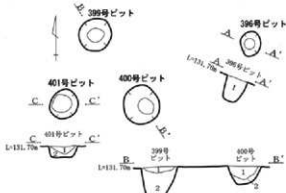
- 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒子、As-C・Hr-FAを少量含む。
- 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。

381号ビット C-C'

- 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒子、As-C・Hr-FAを少量含む。
- 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。

382号ビット D-D'

- 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒子、As-C・Hr-FAを少量含む。
- 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。



396号ビット A-A'

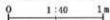
- 暗褐色土層 やや硬く締まり。炭化物粒子を含む。

399-400号ビット B-B'

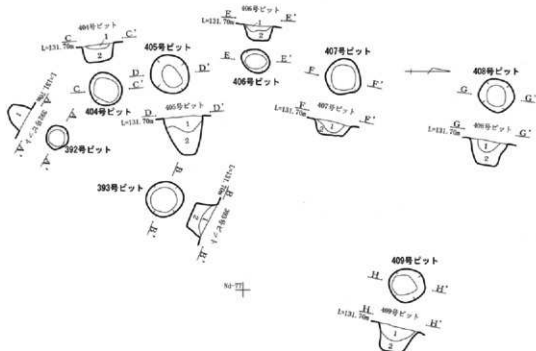
- 暗褐色土層 As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。
- 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。白色土ブロック、炭化物粒子を含む。

401号ビット C-C'

- 暗褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土ブロックを含む。
- 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。黄褐色土粒子を含む。



第365図 378~385-387-389-396-399~401号ビット



392号ピット A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。炭化物粒子を含む。

393号ピット B-B'

- 1 暗褐色土層 As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。
2 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色ブロック、炭化物粒子を含む。

404号ピット C-C'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。
2 暗褐色土層 1層より軟らかい。黄褐色土粒子を含む。

405号ピット D-D'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。
2 暗褐色土層 1層より軟らかい。黄褐色土粒子を含む。

406号ピット E-E'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土粒子を少量含む。
2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒子を含む。

407号ピット F-F'

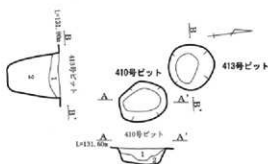
- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。
2 暗褐色土層 1層より軟らかい。黄褐色土粒子を含む。

408号ピット G-G'

- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土粒子を少量含む。
2 暗褐色土層 やや硬く締まる。黄褐色土粒子を含む。

409号ピット H-H'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。炭化物粒子、As-C・Hr-FAを少量含む。
2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒子を含む。

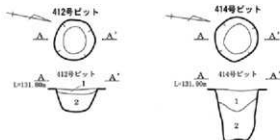


410号ピット A-A'

- 1 暗褐色土層 軟らかい。炭化物粒子、灰白色土粒子を少量含む。
2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。

413号ピット B-B'

- 1 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。灰白色土粒子、焼土粒子、炭化物粒子を含む。
2 暗褐色土層 上層より軟らかい。軟らかくて粘性あり。



412号ピット A-A'

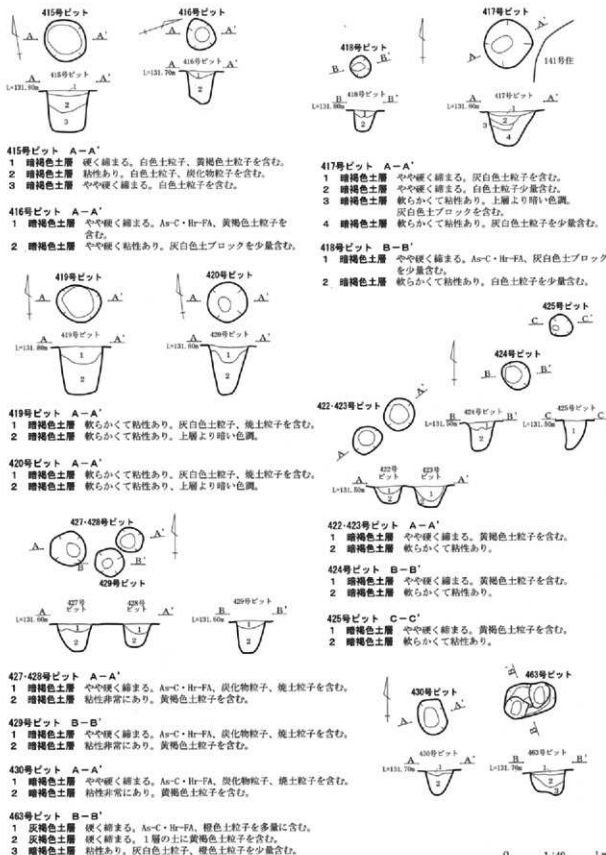
- 1 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土粒子、炭化物粒子を含む。
2 暗褐色土層 軟らかくて粘性あり。黄褐色土粒子を含む。

414号ピット A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。灰白色土、炭化物粒子、焼土粒子を少量含む。
2 暗褐色土層 やや硬く粘性非常にあり。

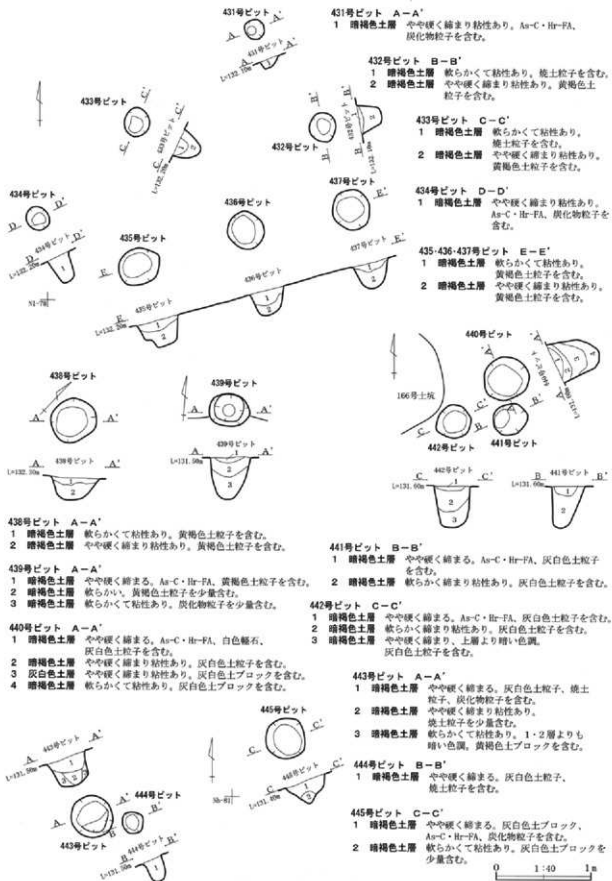
0 1:40 1m

第7章 V区 検出の遺構

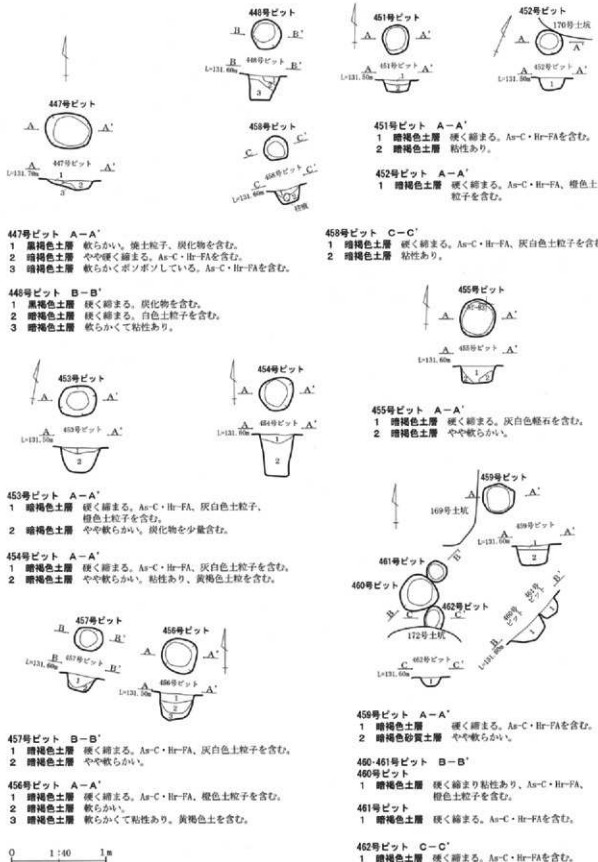


第367図 415~420・422~425・427~430・463号ピット

(2) 掘立柱建物跡・土坑・ピット

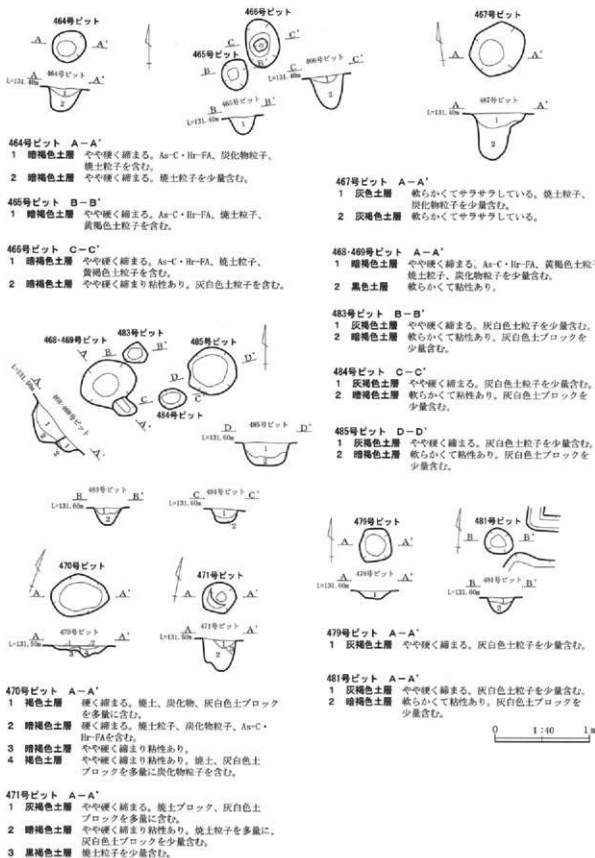


第368図 431～445号ピット

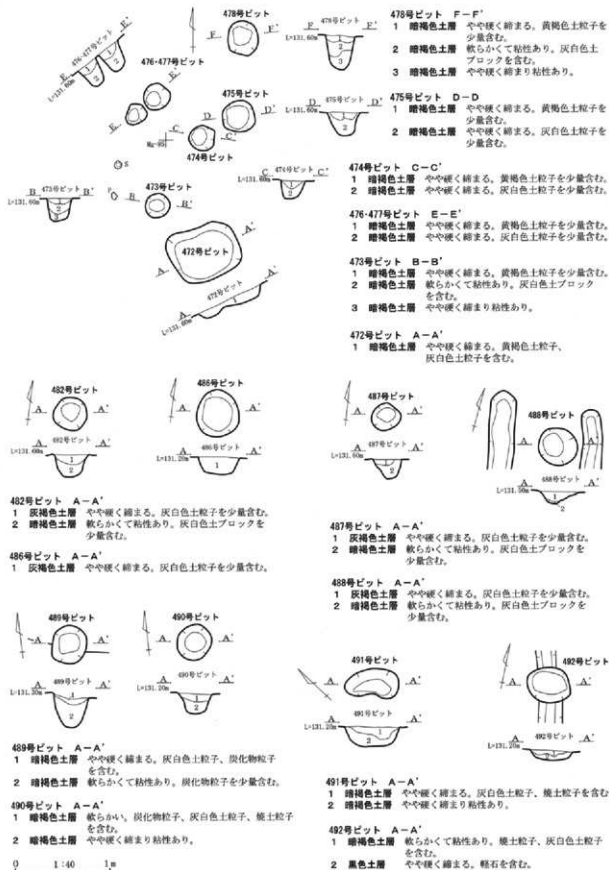


第369図 447・448・451～457・459～462号ビット

(2) 掘立柱建物跡・土坑・ピット



第370図 464~471・479~481・483~485号ピット



第371図 472~478-482-486~492号ビット

(2) 掘立柱建物跡・土坑・ピット



493号ピット A-A'

- 1 増褐色土層 やや硬く締まる。炭化物粒子、灰白色土粒子を含む。
- 2 増褐色土層 やや硬く締まる。炭化物粒子、焼土粒子、灰白色土粒子を含む。

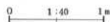
496号ピット A-A'

- 1 増褐色土層 やや硬く締まる。焼土粒子、炭化物粒子、灰白色土粒子を含む。
- 2 増褐色土層 やや硬く締まる。灰白色土粒子を含む。
- 3 増褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。



497号ピット A-A'

- 1 増褐色土層 やや硬く締まる。As-C・Br-FAを含む。
- 2 増褐色土層 軟から。黄褐色土粒子を含む。



第372図 493～497号ピット

2号掘立柱建物跡 (①第357図、P.L.329・341)

位置 Nd・Ne-79・80グリッドにかけて検出。

形状 方形。

規模 西側の柱間は約2.5mである。柱穴の径は約91～123cm、深さ約72～90cmである。

所見 当初、柱穴を土坑として調査を始めた。覆土は4～5層に分かれた。出土遺物は土師器・須恵器片など極少量である。

3号掘立柱建物跡 (①第358・359図②第373図、P.L.340・341・

344・345・366)

位置 Ne・Nf-82・83グリッドにかけて検出。

形状 長方形。

規模 柱間は約1.5～2mである。柱穴の径は約95～140cm、深さ約23～80cmである。ただし、139

～142号土坑は完掘されていない。実際は、他の柱穴と同様な深さがあったものと思われる。

所見 出土遺物は土師器・須恵器片など極少量。

土坑 (①第360～364図②第373図、P.L.335・337-342～346・366)

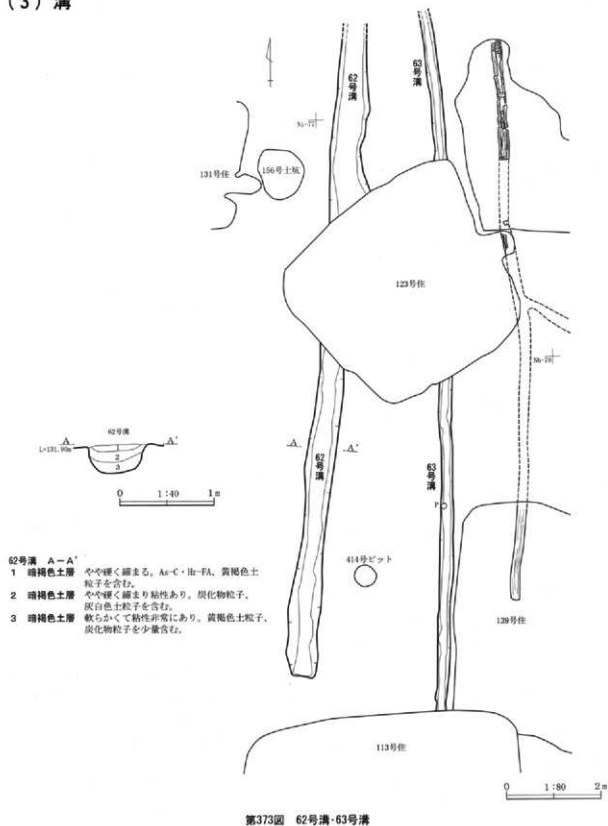
V区から検出した番号の付された土坑は、計62基である。しかし、139～142号、169～173号の計9基は、3号掘立柱建物跡となり、また165～167・175号の計4基は、2号掘立柱建物跡となる。したがって計49基が土坑と確定できるものである。

ピット (①第360～362・364～372図②第373図、P.L.324・325・

329・337・340・344・347～349・366)

ピットは総計118基を検出した。

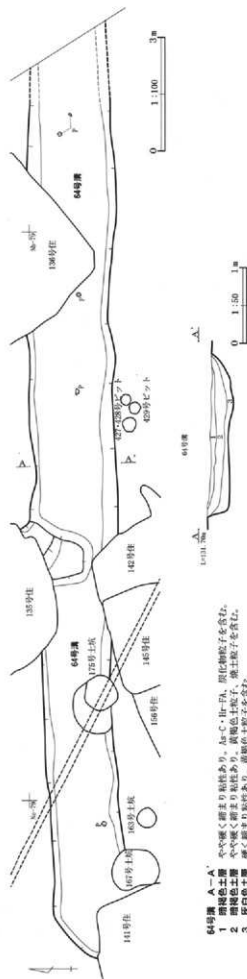
(3) 溝



62号溝 A-A'

- 1 暗褐色土層 やや硬く締まる。Ac-C・Hr-FA、黄褐色土粒子を含む。
- 2 暗褐色土層 やや硬く締まり粘性あり。炭化物粒子、灰白色土粒子を含む。
- 3 暗褐色土層 軟らかくて粘性非常にあり。黄褐色土粒子、炭化物粒子を少量含む。

第373図 62号溝・63号溝

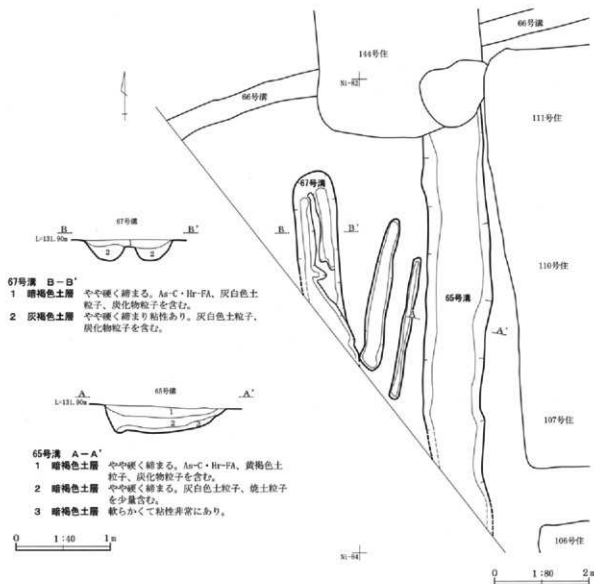


第374図 64号溝

- 64号溝 A-A'
 1 暗褐色土層 中々硬く細まり粘性あり。灰・C・Hr-FA。炭化植物子を含む。
 2 暗褐色土層 中々硬く細まり粘性あり。黄褐色土灰子、炭土灰子を含む。
 3 灰白色土層 硬く細まり粘性あり。黄褐色土灰子を含む。

溝一覧表

番号	位置	長さ×幅×深さ(m)	出土遺物(非埋藏遺物の点数)	備考	遺構区画番号	遺構区画番号(実真区画)
62	Ns-76-Hr-79	14.0×0.4~0.8×0.3			第374区画	350・366
63	Ns-76-Hr-79	14.9×0.2~0.3×0.10			373	374
64	Ns-79-Nr-79	24.0×1.9~2.3×0.3			374	375
65	Ns-82-Ns-83	50.0×1.1~1.3×0.29			375	376
66	Ns-81-Nr-82	47.2×0.4~0.5×0.21			376	378
67	Ns-82-Ns-83	3.5×0.9~0.82×0.08			375	351
68	Ns-80-Ns-86	31.5×6.08~2.4×0.4			379	376
69	Ns-83	1.9×0.4~0.2×0.13			363	333
70	Ns-60-Ns-81	5.0×0.8~1.2×0.4			377	
71	Ns-82-Ns-86	21.9×0.7~3.8×0.2			379	376
72	Ns-66-Ns-65	8.3×0.4~0.5×0.6			378	367



第375図 65号溝・67号溝

(1) N-10° ~ 20° -W 走向の溝

66号溝 (①第376図②第376図, P L.328・367) は、調査区中央で検出された。幅50cm、深さ10cmである。東西に調査区を横切る。走向と位置から36号溝につながるものと思われる。出土遺物は無い。時期は、14号溝・36号溝と同一のものと考えれば、15世紀である。

(2) N-70° ~ 80° -E 走向の溝

該当する溝の検出は無し。

(3) 直角方向に曲がる溝

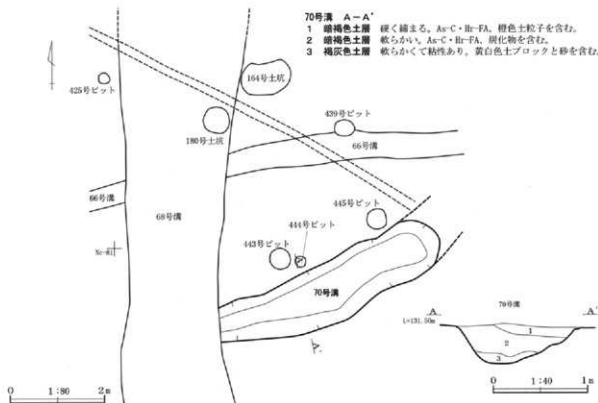
該当する溝の検出は無し。

(4) その他の方向の溝

64号溝 (①第374図②第375図, P L.350・366) 位置: 調査区中央。幅210cm。深さ25cm。検出された長さ12m。出土遺物: 無し。時期: 不明。走向: N-85° - E。

65号溝 (①第375図②第376図, P L.350・367) 位置: 調査区南西。幅120cm。深さ25cm。検出された長さ7.8m。出土遺物: 無し。時期: 不明。走向: N-0° - E。

67号溝 (①第375図, P L.351) 位置: 調査区南西。幅100cm。深さ20cm。検出された長さ3m。出



第377図 70号溝

区だけの検出ではあるが、36号溝と方向も形態も似ており、同様の機能を持つものと考えられる。Ⅱ区では飛行場造成で削平され、またⅤ区では近世～近代にかけての時間の流れの中で、その痕跡がとどまらなかったものと思われる。

この2つの溝にそれぞれ南北走向の溝が接続する。14号溝には、10・19号溝が接続し、52号溝には39・42・56号溝が接続する。しかし、52号溝に接続している39・42号溝が36号溝を壊していることから、52号溝のグループの方が新しいと考えられる。つまり15世紀中に少なくとも3回掘り直されていることになる。最初が36号溝であり、次が52A号溝そして52B号溝となる。52A・B号溝は、かなり近い時期と考えられる。

(3) 14・36・66号溝

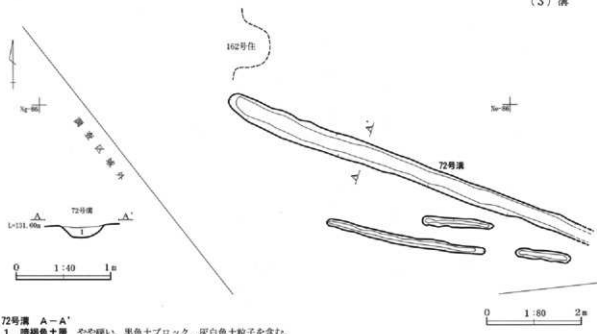
Ⅵ-2区では、部分的にAs-B（浅間B軽石）が残っている部分があった。36号溝の一部はそこで確認された。14号溝は、36号溝と同じ溝であるが確認面の高さは近代の開発で削平されてしまい、溝の深

さは浅くなっている。本来の形に近いのは、Ⅵ-2区東側の部分であろう。幅1.6m、深さ1.2mの薬研堀である。

調査区全体の地形は、南東に緩やかに傾斜している。図面で見ると14号溝・36号溝は、やや北東方向になっていて、等高線に沿うように緩やかに西側を下っている。この溝はⅡ区・Ⅵ区・Ⅴ区を直線を通る。検出された長さは、約150mである。つまり、この溝は、西から東へと水を流すために作られた水路と考えられよう。この水路はⅡ区で3つの溝に接続している。

Ⅱ区には2つの溜池がある。溜池にはそれぞれ溝があり、その溝で水を14・36号溝に流し、さらに14号溝を通して水を東側へ流すと考えられる。

19号溝は、その北上したところに石の集積がある。それは溜池の役割をしていたものと考えられる。その北にある少しばかり不定型な38号溝がある。この溝も水の流れた痕跡がある。また、さらにその北の調査区には38号溝の痕跡はなくなるものの、1号溜



72号溝 A-A'

1 暗褐色土層 やや硬い。黒色土ブロック、灰白色土粒子を含む。

第378図 72号溝

池が存在する。この1号溜池の時期は、出土遺物から中世と考えられ、この溜池に接続している1・2・3号溝も水路であることは間違いない。

(4) 52A・B号溝

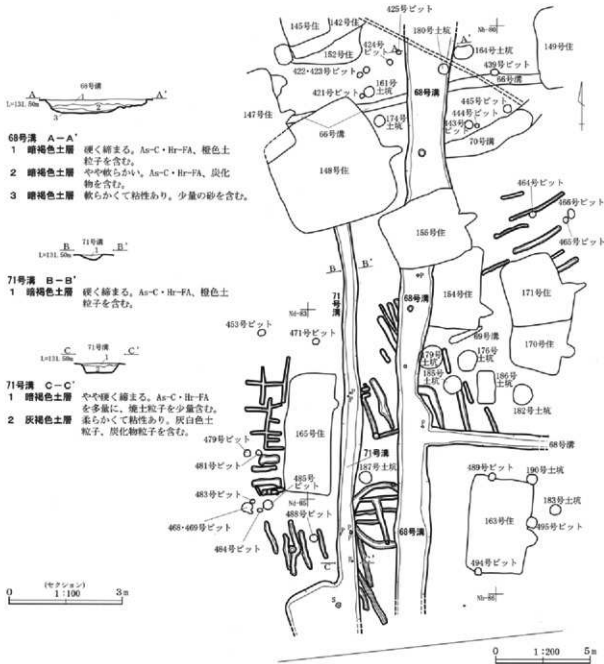
36号溝よりも南で検出された。また、走向は36号溝と同方向であり、時期も離れていないものと思われる。36号溝同様に直行する。北から流れ込んでいる溝も同じく垂直に接続している。検出面が低いいため、形状ははっきりしていない。溝が2条重なっているためか、36号溝と比べ、その幅は広い。また、出土している遺物の時期差もほとんど無く、石臼や茶臼等にも同様に出土している。

52A・B号溝は、底の部分に鉄分の沈着が強く残っており、それが堅く固まっていた。その上に砂礫が溜まり、その砂礫に混じり石臼や茶臼の破片や土器片等が多く散乱していた。

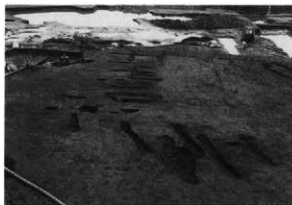
36号溝と違いⅥ区にもⅦ区にもそのつながりを示す溝の痕跡は検出できなかった。形態と方向から見て、当然Ⅵ区とⅦ区にはあったはずである。両区は確認面がⅥ区と比較するとやや低く、既に削平されていたものであろう。しかし、52A・B号溝は、36号溝と同系統の溝であり、水路としての役割を担っていたものと想像される。

Ⅵ区では、3条の溝が52A・B号溝に流れ込んでいることが確認されている。東側にある溝はどれも北側から流れ込んではいらぬものの全容は検出できなかった。42号溝は、北側から全て検出することができた。42号溝は北側で西に直角に曲がり、ある区画を作っている。57号溝で南の区画を作り、50号溝で東を区画している。ここに囲われた区画が屋敷の区画であることは内部にビット群があることより示されている。ただし時間的な制約もあり、ビットの構成は掘立建物の概要を確認するまでには至っていない。

また、この区画された溝のあり方も北東側の角の部分では、明確には検出できなかった。42号溝と50号溝との交点が調査区の端に当たり西に進んでいくのか、それとも北に行くのか確認できなかった。水路との併用による区画溝では、今までに発掘された事例でゆくと、屋敷を囲む水路は、高い方向から低い方向に作られるから、ここでは北側に延びてゆくものと推測される。また、ここで唯一52A・B号溝に続くのは42号溝しかない。42号溝が水路を兼ねた区画溝であり、50号溝と57号溝は一方が止まってしまっていることから、この両溝は、水路というよりは区画溝と考えられる。



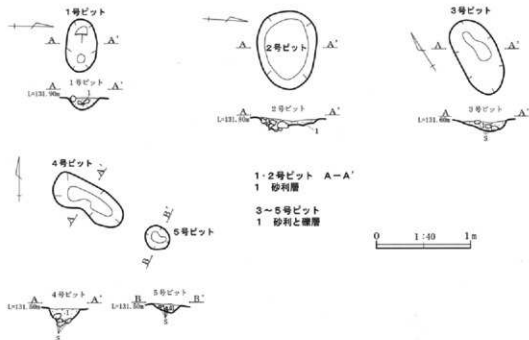
第379図 68号溝・71号溝



第8章
Ⅳ区 検出の遺構



第380図 Ⅰ面全体図 (1/400)



第381図 1～5号ピット

Ⅳ区の調査面積は、2,390㎡である。農道を除いたⅣ-1区が174㎡、Ⅳ-2区が2164㎡であった。そして現水田面を掘削し、新たに検出した面を1面(①第380図、P L.368)として調査を始めた。

(1) 1面検出のピット (①第381図、P L.369)

1面は昭和18(1943)年の飛行場造成面であり、5個のピットと3基の排水路を検出した。ピットの構築時期は、昭和18年以降から戦後にかけてのものと思われる。ピットの覆土は砂利と石混じりである。各ピットの規模は次のとおりである。

(2) 1面検出の排水路 (①第382図、P L.368～370)

3基の排水路は、Ⅲ区で調査した3号(用)水路に接続するものであるが、Ⅳ-1区で検出した1基は、Ⅲ区1面の2号排水路が延長したものである。これらのことから、北西から南東方向に走行するコ

ンクリート管を埋設した3号(用)水路に接続する土管を使用した排水路は、計5基の検出となる。

1号排水路(①第382図②第378図、P L.368～370)は、上幅1.05～1.7m、下幅0.3～0.5m、深さ約0.8m、南北に走行し長さ11.5mを検出した。19本の土管を埋設しているが、それは底面に石を敷き、その上に配置したものである。そして砂利と石で埋め、さらに掘削した飛行場の造成土で埋め戻されている。

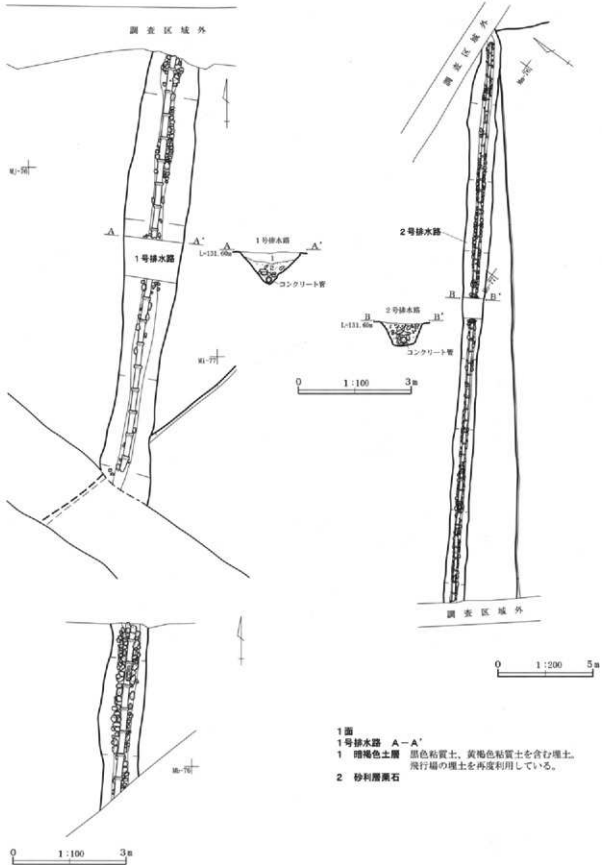
2号排水路(①第382図②第378図、P L.368～370)は、1号排水路と同規模である。南西から北東にかけて走行し長さ30.5mを検出した。49本の土管を埋設している。Ⅳ-1区で検出の排水路は、上幅0.9～1.2m、下幅0.4mで8本の土管を埋設している。

飛行場造成土(①384図)は、Ⅳ-2区の水路埋設箇所の土層を中心に厚さ1.2mを確認した。

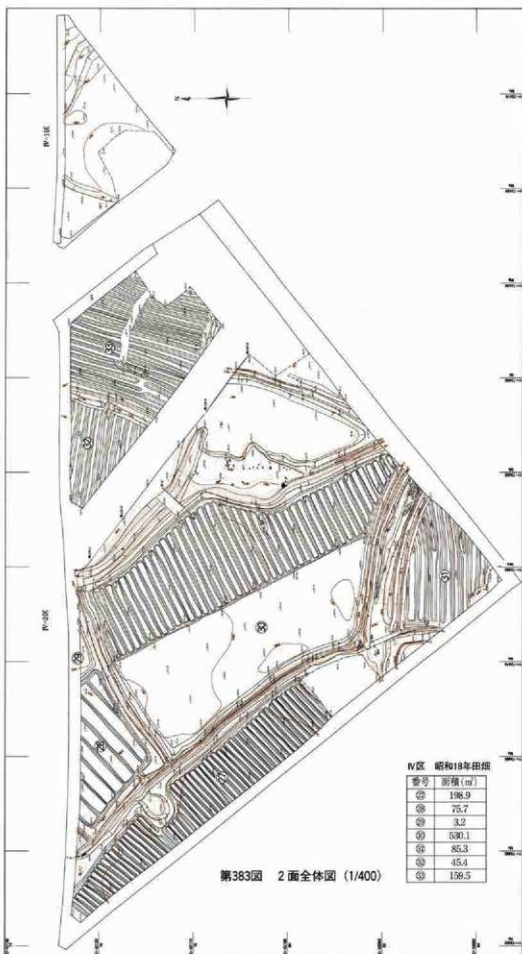
ピット一覧表

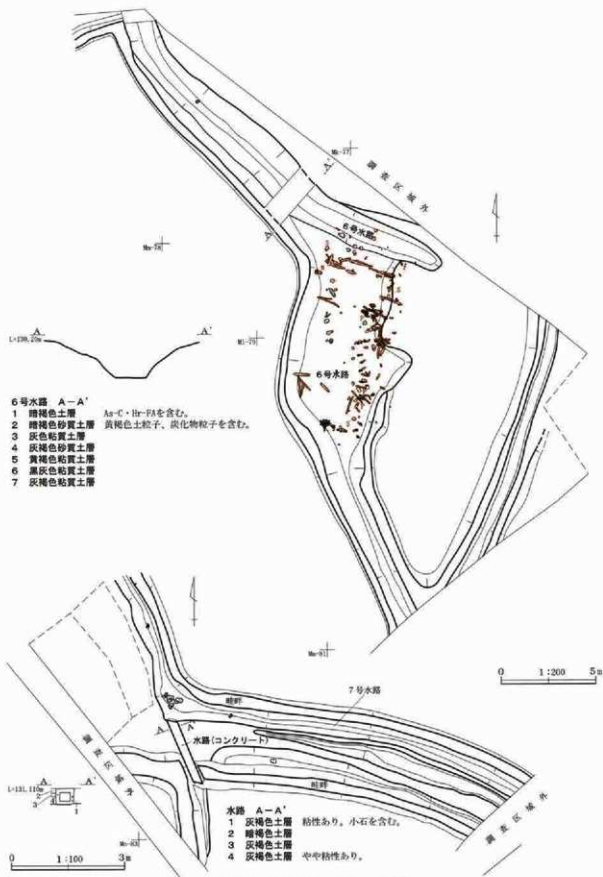
番号	位置	形状	長さ×短径×深さ(cm)	出土遺物(未掲載遺物の点数)	備考	遺構図版	遺物図版	写真図版
1	Mr-75	楕円形	56×30×12			第381図		369
2	Mq-76・77	楕円形	82×62×12	土師器片1・軟質陶器片1		381		369
3	Mn・Mo-79	楕円形	86×40×10			381		369
4	Ml-79	楕円形	82×30×18			381		369
5	Ml-79	楕円形	24×24×10			381		369

(2) 1面・排水路



第382図 1・2号排水路





第385図 6号水路・コンクリート水路

(3) 2面・水路 (①第383図、P.L.369・370)

飛行場設定直前の田畑と水路を検出した。

6号水路 (①第385図②第379・380図、P.L.368・370) は、上幅1.7~6.5m、下幅0.2~5m、深さ0.63~1.3mである。調査区の北から蛇行しながら南に走行し長さ35mを検出した。覆土中から土管・瓦・茶碗・下駄・ガラスビン・明治15年の一銭などが出土している。水路底面には杭が残っていた。

7号水路 (①第385・387図、P.L.369) は、幅0.4

~1.5m、深さ0.5mである。調査区の北西から南東方向へ長さ約32m走行し、さらに東南東へ約20mを検出した。現農道下で6号水路と合流するものと思われる。

2面を掘削した後、3面(As-B層の流れ込み層が一部に堆積)に至る中間から10~16号水路を検出した。(①第386~388図②第380・381図、P.L.370) この中には15・16号水路のように竹を使用した暗渠も含まれている。

排水路一覧表

番号	位置	長さ×幅×深さ(m)	出土遺物	備考	遺構図版	遺物図版	写真図版
1	Mi-75~Mi-77	(上) 11.5×1.06~1.7×0.8 (下) 11.5×0.3~0.5×0.8	コンクリート管		第382図	第378図	369・370
2	Mi-75~Mi-78	(上) 30.5×0.9~1.2×1.2 (下) 30.5×0.4×1.2	コンクリート管		382	378	369・370

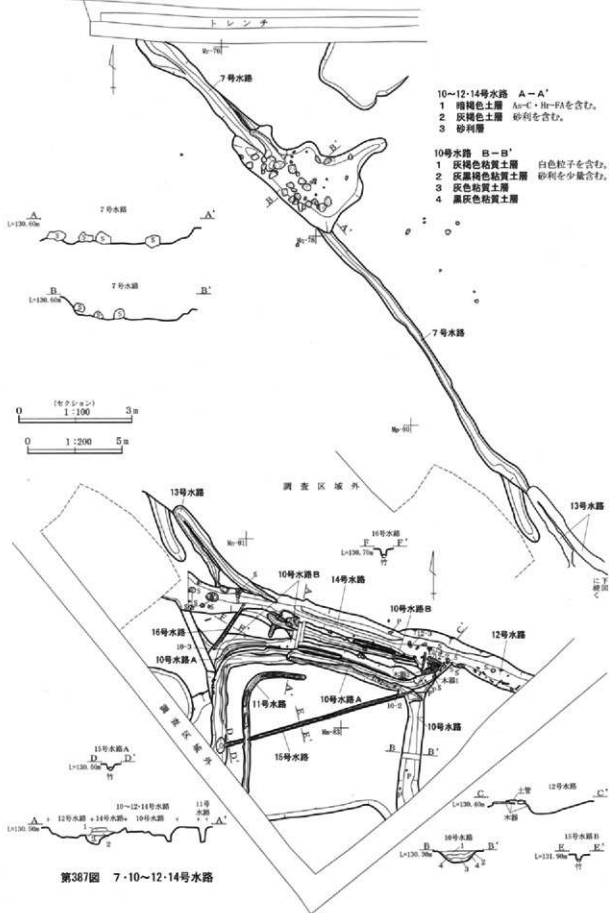
水路一覧表

番号	位置	長さ×幅×深さ(m)	出土遺物	備考	遺構図版	遺物図版	写真図版
6	Mm-75~Mj-81	42.5×2.5~7.0×1.0	土管・ガラスビンなど		第385図	取付・380図	368・370
7	Mr-75~Mn-81	48.0×0.4~1.5×0.5			385・387		
10	Mn-82~Mi-83	21.3×0.8~1.6×0.4	磁石・古銭		387・388	380	370
11	Mi-82~Mn-83	8.8×0.3~0.4×0.4			387・388		
12	Mn-81~Mk-82	18.5×1.3~2.0×0.4	木製品		387・388	380	370
13	Mn-80~Mm-81	7.5×0.9~1.5×	磁石		388	381	370
14	Mm-81~Mi-82	8.0×0.4~0.6×0.5	ガラスビンなど		387	381	370
15	Mi-82~Mn-83	10.4×0.2×0.2			388		
16	Mn-81~Mn-82	3.0×0.1×0.2			388		

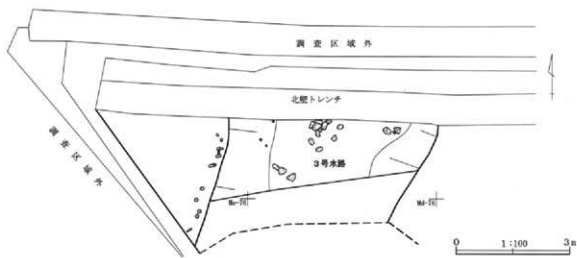
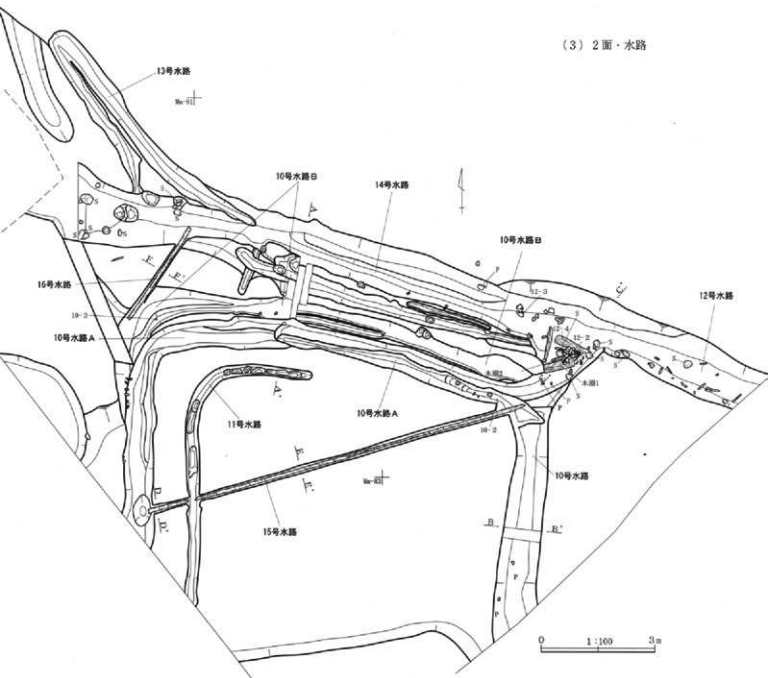


第386図 2~3面全体図 (1/800)

第8章 IV区 検出の遺構



第367図 7・10~12-14号水路



第388図 3・10~16号水路

第9章 自然科学分析

(1) 棟高辻久保遺跡の土層とテフラ

株式会社 古環境研究所

1. はじめに

群馬県域に分布する後期更新世以降に形成された地層の中には、赤城、榛名、浅間など北関東地方とその周辺、火山、中部や中国さらには九州地方などの火山に由来するテフラ（火山砕屑物、いわゆる火山灰）が多く認められる（たとえば新井, 1962, 1979, 町田・新井, 1992, 早田, 1992など）。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている示標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっていく。

そこで、年代が不明な土層や遺物が検出された棟高辻久保遺跡においても、地質調査を行い土層層序を記載するとともに、テフラ検出分析や屈折率測定を行って示標テフラの層位を把握し、土層や遺構の年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象となった地点は、西側北西壁、西壁、南壁埋没谷部の3地点である。

2. 土層層序

(1) 北西壁

北西壁では、下位より灰色軽石を多く含む灰色砂質土（層厚9cm, 軽石の最大径2mm）、灰白色軽石混じり灰褐色土（層厚9cm, 軽石の最大径7mm）、灰色土（層厚12cm）が認められる（図1）。さらに上位には、1943（昭和18）年の飛行場建設に伴うと考えられている盛土層（層厚38cm）が認められる。この盛土層の上位には、1948（昭和23）～1949（昭和24）年に行われた土地整備の際に形成された灰褐色作土（層厚20cm）が認められる。

飛行場建設に伴うと推定されている盛土層には、黄灰色凝灰質砂のプロックからなる土層や、灰色軽石を含む暗褐色土などが認められる。この直下からは、水田遺構が検出されている。

(2) 西壁

西壁では、下位より暗灰色粘質土（層厚5cm以上）、成層したテフラ層（層厚6.7cm）、灰色細粒軽石を多く含む灰色砂質土（層厚16cm, 軽石の最大径2mm）、灰白色軽石を含む灰褐色土（層厚9cm, 軽石の最大径7mm）、灰色土（層厚11cm）が認められる（図2）。灰色土の上位には水田遺構が認められ、飛行場建設に伴うと推定されている盛土により覆

われている。

これらのうち、成層したテフラ層は、下位より青灰色細粒火山灰層（層厚0.2cm）、黄色粗粒火山灰層（層厚0.4cm）、青灰色細粒火山灰層（層厚0.1cm）、褐色粗粒軽石（最大径17mm）を含む黄灰色細粒軽石層（層厚1cm, 軽石の最大径2mm）、桃灰色細粒軽石層（層厚2cm, 軽石の最大径2mm）、黄灰色細粒軽石層（層厚3cm, 軽石の最大径2mm）からなる。このテフラ層は、その層相から1108（天仁元）年に浅間火山から噴出した浅間火山Bテフラ（As-B；荒牧, 1968, 新井, 1979）に同定される。

(3) 南壁埋没谷部

南壁埋没谷部では、下位より灰褐色砂層（層厚15cm以上）、灰色シルト層（層厚5cm）、褐灰色砂層（層厚10cm）、灰色シルト層（層厚22cm）、灰色粘質土（層厚13cm）、暗灰色粘質土（層厚16cm）、灰色軽石層（層厚7cm, 軽石の最大径9mm）、灰色軽石に富む黒褐色泥炭層（層厚8cm, 軽石の最大径4mm）、黒褐色泥炭層（層厚3cm）、青灰色シルト層（層厚0.2cm）、黒褐色泥炭層（層厚0.1cm）、成層したテフラ層（層厚6cm）、青灰色シルト層（層厚17cm）、層理が発達した灰色砂層（層厚5cm）、桃灰色粗粒火山灰層（層厚3cm）、桃灰色シルト層（層厚3cm）、層理が発達した灰色砂層（層厚12cm）、白色軽石混じり灰色粘質土（層厚15cm, 軽石の最大径12mm）、暗灰色粘質土（層厚4cm）が認められる（図3）。

これらの土層のうち、上位の灰色シルト層以下の水成層は、いずれも非常に粒度がそろっており、比較的固結している。本遺跡の位置などを合わせて考慮すると、これらの水成層は、扇状地堆積物の最上部にあり総土砂層（早田, 1990）に続く堆積物と推定される。また成層したテフラ層は、下部の桃褐色細粒火山灰層（層厚2cm）と上部の成層した灰色砂質細粒火山灰層（層厚4cm）からなる。上位の層理が発達した灰色砂層を切って溝が構築されており、この溝は黒色土（層厚6cm以上）により埋没している。また最上位の暗灰色粘質土はAs-Bにより覆われている。

3. テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

テフラの特徴とその降灰層序を把握するために、上述3地点において採取された試料のうち、14点を対象にテフラ検出分析を行った。分析の手順は次の通りである。

- 1) 試料10gを秤量。
- 2) 超音波洗浄により混分を除去。
- 3) 80℃で恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下で観察し、テフラ粒子の量や特徴を把握。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表1に示す。北壁では、試料9から試料4にかけてと試料2に、比較的発泡の良い淡褐色軽石(最大径2.5mm)が含まれている。この軽石の斑品には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。また試料8と試料6には、さほど発泡の良いくない白色軽石(最大径3.1mm)が含まれている。この軽石の斑品には、角閃石や斜方輝石が含まれている。さらに試料4から試料7にかけての試料では、よく発泡しわずかに灰色がかった白色軽石(最大径2.3mm)がごく少量認められる。この軽石は繊維束状に発泡し、光沢をもつ。軽石の斑品には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。軽石の産状から、ここでは試料7付近にわずかに灰色がかった白色軽石の降灰層のある可能性が考えられる。

西壁では、試料2および試料1に、比較的発泡の良い淡褐色軽石(最大径2.2mm)が比較的多く含まれている。この軽石の斑品には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。ほかに、さほど発泡の良いくない白色軽石(最大径2.4mm)も少量含まれている。この軽石の斑品には、角閃石や斜方輝石が認められる。さらに、試料1には、よく発泡しわずかに灰色がかった白色軽石(最大径2.3mm)がごく少量認められる。この軽石は繊維束状に発泡し、光沢をもつ。軽石の斑品には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。軽石の産状から、ここでは試料1付近にわずかに灰色がかった白色軽石の降灰層のある可能性が考えられる。

南壁埋没谷の試料3からは、灰白色軽石(最大径8.7mm)がとくに多く検出される。この軽石はスポンジ状に比較的よく発泡しており、斑品に斜方輝石や単斜輝石が認められる。試料2には、軽石は認められなかったものの、斑品に角閃石が認められる。さらに試料1には、さほど発泡の良いくない白色軽石(最大径1.8mm)が少量含まれている。この軽石の斑品には、角閃石や斜方輝石が認められる。

4. 屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法

テフラ層、テフラの降灰層、さらに特徴的なテフラ粒子が認められた試料のうち、北壁の試料7と試料2、西壁の試料2、南壁埋没谷の試料5の4点について、温度一定型屈折率測定法(新井, 1972・1993)により屈折率の測定を行った。

(2) 測定結果

屈折率測定の結果を表2に示す。北壁の試料7に含まれる火山ガラス(n)の屈折率は、1.516-1.521である。重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石のほか、少量の角閃石が含まれている。斜方輝石(γ)の屈折率は、1.708-1.710である。北壁の試料2に含まれる火山ガラス(n)の屈折率は、1.520

1.532(modal range:1.525-1.531)である。重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石のほか、少量の角閃石が含まれている。斜方輝石(γ)の屈折率は、1.707-1.710である。西壁の試料2に含まれる火山ガラス(n)の屈折率は、1.513-1.520である。重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石のほか、ごく少量の角閃石が含まれている。斜方輝石(γ)の屈折率は、1.706-1.710である。南壁埋没谷の試料3に含まれる火山ガラス(n)の屈折率は、1.515-1.520である。重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石が含まれている。斜方輝石(γ)の屈折率は、1.706-1.710である。

5. 考察

テフラ検出分析により検出された軽石のうち、スポンジ状に比較的よく発泡した灰白色軽石は、その特徴から4世紀中葉*に浅間火山から噴出した浅間C軽石(As-C;新井, 1979)に由来すると考えられる。産状や含まれるテフラの特徴から、南壁埋没谷部の試料3のテフラ層はAs-Cに同定される。

また、さほど発泡が良くなく、斑品に角閃石を含む白色軽石は、6世紀初頭に標名火山から噴出した標名二ツ岳流川テフラ(Hr-FA;新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992)に由来する可能性が非常に高い。層相を合わせて考慮すると、南壁の成層したテフラ層と、青灰色シルトや灰色砂層を挟んで上位にある桃灰色粗粒火山灰層は、Hr-FAに同定される。この地点では、Hr-FA堆積途中と堆積後にHr-FAに伴う火山泥流(早田, 1989)が堆積したようである。またHr-FAの堆積前にも、洪水堆積物(青灰色シルト層)の堆積が認められる。

比較的よく発泡した淡褐色軽石は、その特徴からAs-Bに同定される。さらに、わずかに灰色がかった白色軽石は、その特徴から1783[天明3]年に浅間火山から噴出した浅間A軽石(As-A;寛政, 1968, 新井, 1979)に由来すると考えられる。

北壁では、試料7付近にAs-Aの降灰層があるようで、1943(昭和18)年に造成されたと推定されている盛土の層位と矛盾しない。盛り土の試料2に含まれる軽石の多くはAs-Bに由来しており、ほかにAs-CやHr-FAなどに由来するテフラ粒子が混在しているようである。また、盛土の中にブロック状に含まれる黄色や黄灰色の凝灰質砂層には、古墳時代以降の特徴的なテフラ粒子は含まれておらず、層相を合わせると層状地溝層に由来すると考えられる。

西壁で検出された水田遺構の層位は、As-Bの直下にある。またここでも、1943(昭和18)年に造成されたと推定されている盛土の低位から、わずかながらAs-Aに由来する軽石がごく少量検出された。南壁埋没谷で検出された溝の層位は、Hr-FAの上位で、As-Bの低位にある。

6. 小結

樺太久保遺跡において、地質調査、テフラ検出分析、屈折率測定を行った。その結果、下位より浅間C軽石 (As-C, 4世紀中葉*)、洪水堆積物、樺名二ツ岳沢川テフラ (Hr-FA, 6世紀初頭) とそれに伴う火山泥流堆積物、浅間Bテフラ (As-B, 1108年)、浅間A軽石 (As-A, 1783年) などを認めることができた。

* 現在では4世紀を遡るとする説が有力になっているようである (たとえば、若狭, 2000)。しかし、具体的な年代観が示された研究報告例はまだない。現段階においては「3世紀後半」あるいは「3世紀前半」と考えておくのが妥当なのかも知れないが、土器をもとにした考古学的な年代観の変更については、考古学研究者による明確な記載を待ちたい。

表1 テフラ検出分析結果

地点	試料	軽石の量	軽石の色調	軽石の最大径
北壁	1	-	-	-
	2	++	淡褐>灰白	2.5, 3, 4
	3	-	-	-
	4	++	淡褐>(灰)白	1.7, 3, 9
	5	++	淡褐>(灰)白	1.4, 3, 1
	6	++	淡褐>灰白,(灰)白	1.3, 3, 1, 2, 1
	7	++	淡褐>灰白,(灰)白	2.0, 2.4, 2.1
	8	+	淡褐>白	2.0, 1.1
	9	++	淡褐	1.9
西壁	1	++	淡褐>白,(灰)白	2.1, 2.4, 2.3
	2	++	淡褐>灰白, 白	2.2, 2.3, 1.8
南壁 (埋没部)	1	+	白	1.8
	2	-	-	-
	3	++++	灰白	8.7

++++: とくに多い, +++: 多い, ++: 中程度, +: 少ない, -: 認められない。最大径の単位は, mm。

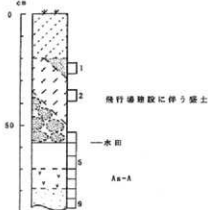


図1 北壁の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

文献

- 新井研夫 (1972) 斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定—テフラクロノロジーの基礎的研究, 第四紀研究, 11, p.254-269.
- 新井研夫 (1979) 関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層, 考古学ジャーナル, no.53, p.41-52.
- 新井研夫 (1993) 温度一定型屈折率測定法, 日本第四紀学会編「第四紀試料分析法—研究対象別分析法」, p.138-148.
- 寛政重雄 (1968) 浅間火山の地質, 地質研専報, no.45, 65p.
- 町田 洋・新井研夫 (1992) 火山灰アトラス, 東京大学出版会, 276p.
- 坂口 一 (1986) 樺名二ツ岳起源FA・FP層下の土師器と須恵器, 群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」, p.103-119.
- 早田 勉 (1989) 6世紀における樺名火山の2回の噴火とその災害, 第四紀研究, 27, p.297-312.
- 早田 勉 (1990) 群馬県の自然と風土, 群馬県史通史編, 1, p.37-129.
- 若狭 敏 (2000) 群馬の粘土土器が終るとき, かみつけの里博物館編「人が動く・土器も動く—古墳が成立する頃の土器の交流」, p.41-43.

表2 屈折率測定結果

地点	試料	火山ガラス (a)	重鉱物	斜方輝石 (γ)
北壁	2	1.519-1.523 (1.519-1.521)	opa+opa, (ha)	1.707-1.710
	7	1.518-1.521	opa+opa, (ha)	1.709-1.710
西壁	2	1.513-1.519	opa+opa, (ha)	1.706-1.710
	3	1.519-1.522	opa+opa	1.709-1.710

屈折率の測定は, 温度一定型測定法 (新井, 1972, 1993) による。測定率の[]は, actual rangeを示す。opa: 斜方輝石, opa: 斜方輝石, ha: 角閃石。[]は, 量が少ないことを示す。

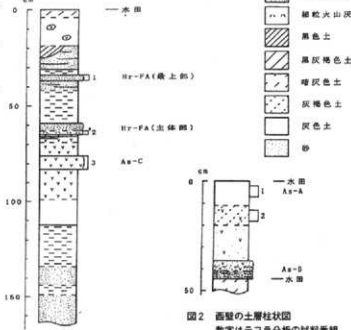


図2 西壁の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

(2) 横高辻久保遺跡におけるプラント・オパール分析

(2) 横高辻久保遺跡におけるプラント・オパール分析

株式会社 古環境研究所

1. はじめに

植物遺体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸(SiO₂)が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石(プラント・オパール)となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査が可能である(杉山, 2000)。

2. 試料

試料は、Ⅲ区北西壁、西壁、南壁(埋没谷部)の3地点から採取された計15点である。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

3. 分析法

プラント・オパールの抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法(藤原, 1976)をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料を105℃で24時間乾燥(絶乾)
- 2) 試料約1gに対し直径約40 μ mのガラスビーズを約0.02g添加(電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量)
- 3) 電気灰化法(550℃・6時間)による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射(300W・42KHz・10分間)による分散
- 5) 沈底法による20 μ m以下の微粒子除去
- 6) 封入剤(オイキット)中に分散してプレパレート作成
- 7) 検鏡・計数

同定は、イネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールをおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパレート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中のプラント・オパール個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数(機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位:10-5g)をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。イネ(赤米)の換算係数は2.94(種実重は1.03)、ヒエ属(ヒエ)は8.40、ヨシ属(ヨシ)は6.31、ススキ属(ススキ)は1.24、タケ草科(ネザサ節)は0.48である。

4. 分析結果

水田跡(稲作跡)の検討が主目的であることから、同定お

よび定量はイネ、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型、タケ草科の主要な5分類群に限定した。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1および図1に示した。写真図版に主要な分類群の顕微鏡写真を示す。

5. 考察

(1) 水田跡の検討

水田跡(稲作跡)の検証や探査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが試料1gあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している。ただし、密度が3,000個/g程度でも水田遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。

1) 北壁

現表土(試料1)からAs-A直下層(試料4)までの層率について分析を行った。その結果、すべての試料からイネが検出された。このうち、試料1については比較的最近の水田耕作に由来するものと考えられる。1943年(昭和18年)とされる盛土直下層(水田検出、試料2)では密度が5,200個/gと高い値であり、As-A混層(試料3)とAs-A直下層(試料4)でも3,000個/gと比較的高い値である。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

2) 西壁

1943年(昭和18年)とされる盛土直下層(試料1)からAs-B直下層(試料4)までの層率について分析を行った。その結果、すべての試料からイネが検出された。このうち、盛土直下層(水田検出、試料1)、As-A直下層(試料2)、As-B直下層(試料3)では密度が4,500-5,200個/gと高い値であり、As-B直下層(水田検出、試料4)でも3,000個/gと比較的高い値である。したがって、これらの層では、稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

3) 南壁(埋没谷)

As-B直下層(水田検出、試料1)からAs-C直下層(試料6)までの層率について分析を行った。その結果、As-B直下層(試料1)とその下位層(試料2、3)からイネが検出された。このうち、As-B直下層(試料1)とその下層(試料2)では密度が4,500個/gと比較的高い値である。したがって、これらの層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。試料3では、密度が1,500個/gと比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が遅かったこと、洪水などによって耕作土が流出したこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、および上層や他所からの混入などが

(2) 棟高辻久保遺跡におけるプラント・オパール分析

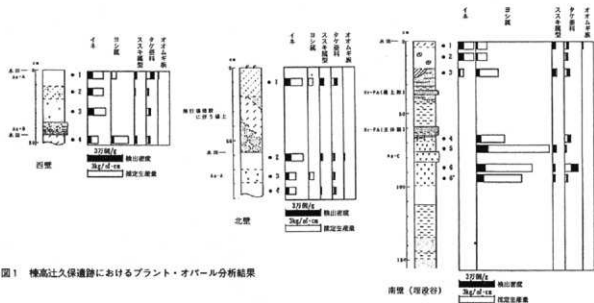
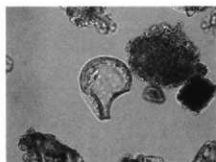
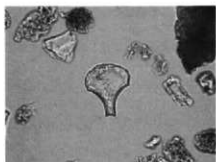


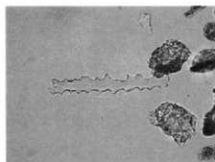
図1 棟高辻久保遺跡におけるプラント・オパール分析結果



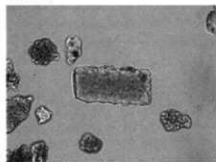
イネ
西壁 1



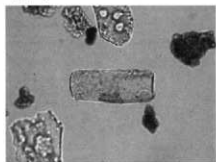
イネ
西壁 3



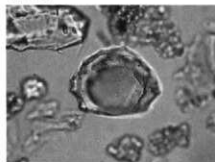
オオムギ族(穎の表皮細胞)
西壁 1



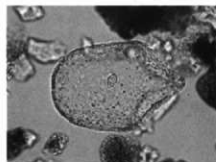
キビ族型
西壁 3



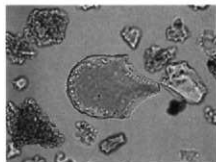
キビ族型
南壁 4



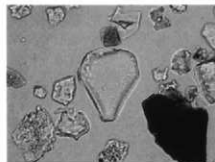
ジュズダマ属型
南壁 5



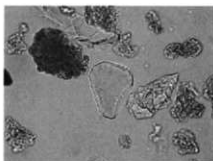
ヨシ属
北壁 1



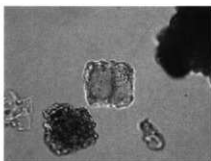
ヨシ属
南壁 6



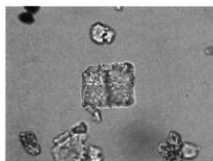
ススキ属型
北壁 1



ススキ属型
南壁 6



ネザサ属型
南壁 2



ネザサ属型
南壁 6

(3) 樺高辻久保遺跡出土土製品製の樹種

パリオ・サーヴェイ株式会社

はじめに

樺高辻久保遺跡は、樺名山南東麓の相馬ヶ原扇状地上に位置する。早田・能登(1990)によれば、この扇状地は後期更新世後半に相馬山の一部が崩壊した岩屑なだれ後に山麓に形成したものとされる。ただし、早田・能登(1990)の付図では本遺跡周辺には扇状地を隔切る谷は表示されていないが、発掘調査の結果では南北に伸びる小谷が認められている。谷部では、奈良～平安時代の住居跡や水田跡等が検出されている。また、当地点は、旧日本陸軍前線飛行場が建設された場所であることから、トロッコの枕木跡や埋立て前の水田跡等や第二次世界大戦中の飛行場関連の遺物や生活道具・医薬品類などが確認されている。

本報告では、昭和の水田跡に伴う水路や暗渠等から出土している木材、および、木製の生活道具(下駄・曲物)等の木質遺物の樹種同定を行い、木材の用材選択に関する資料を得る。

1. 試料

試料は、出土した木製品40点(試料番号1~40)である。各木製品から5mm角程度の木片を採取して試料とした。

2. 方法

剃刀の刃を用いて木口(横断面)・径目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の徒手切片を製作し、ガム・クロラール(飽水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液)で封入し、プレパラートを製作する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で観察・同定する。

3. 結果

樹種同定結果を表1に示す。木製品は、針葉樹4種類(マ

ツ属復雑管束亜属・モミ属・スギ・ヒノキ)と広葉樹4種類(ハンノキ属ハンノキ亜属・アサダ・クリ・ケヤキ)に同定された。各種類の主な解剖学的特徴を以下に記す。

・マツ属単維管束亜属(*Pinus subgen. Haploxyylon*) マツ科
軸方向組織は仮道管を主とし、早材部から晩材部への移行は緩やかで、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道および水平樹脂道が認められる。分野壁孔は窓状となり、1分野に1個。放射仮道管内壁は滑らか。放射組織は単列、1~15細胞高。

・モミ属(*Abies*) マツ科
事項方向組織は仮道管のみで構成され、早材部から晩材部への移行は比較的緩やかで、晩材部の幅は狭い。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は粗く、じょう状末端壁が認められる。分野壁孔はスギ型で、1分野に1~4個。放射組織は単列、1~20細胞高。

・スギ(*Cryptomeria japonica* (L.f.) D. Don) スギ科スギ属
軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成され、仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞がほぼ晩材部に限って認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔はスギ型で、1分野に2~4個。放射組織は単列、1~15細胞高。

・ヒノキ(*Chamaecyparis obtusa* (Sieb. et Zucc.) Endlicher) ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成され、仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか〜やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は早材部の終わりから晩材部にかけて認められるが、顕著ではない。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔はヒノキ型〜トウヒ型で、1分野に1~3個。放射組織は単列、1~15細胞高。

・ハンノキ属ハンノキ亜属(*Alnus subgen. Alnus*) カバノキ科

散孔材で、管孔は単独または2~4個が放射方向に複合して散在し、分布密度は高い。道管は階段穿孔孔を有し、微孔は対列状に配列する。放射組織は同性、単列、1~30細胞高。板目面では明確ではないが、木口面で集合放射組織が認められる。

(3) 棟高丈久保遺跡出土木製品の樹種

・アサダ (*Ostrya japonica* Sarg.) カバノキ科アサダ属

散孔材で、管孔は単独または放射方向に2~4個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減する。道管は単穿孔を有し、壺孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1~3細胞幅、1~30細胞高。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔周囲は1~4列、孔間で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壺孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~15細胞高。

・ケヤキ (*Zelkova serrata* (Thunb.) Makino) ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔周囲は1~4列、孔間で急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合し接線・斜方向の紋様をなす。道管は単穿孔を有し、壺孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性直型、1~10細胞幅、1~60細胞高。放射組織の上下縁辺部を中心に結晶細胞が認められる。

4. 考察

棟高丈久保遺跡の出土木材は、排水路の杭や板材等の土木材と、下駄や曲物等の木製品とに大別される。土木材では、複雑管束亜属(ニヨウマツ類)とクリが多く、他にアサダが1点認められる。複雑管束亜属は、松脂を多く含み、比較的耐水性が高い。また、クリは、強度や耐朽性に優れた材質を有する。いずれも土木材としては適材といえる。遺構毎の樹種同定結果を見ると、2号水路の杭では、マツ属複雑管束亜属・クリ・アサダの3種類が混在している。一方、8号排水路の杭はすべて複雑管束亜属、10号排水路の板は全点がクリに同定され、特定の種類ののみが認められている。とくに10号排水路では複雑管束亜属よりも加工が困難なクリが板材に利用されており、さらに1号土坑においてもクリと複雑管束亜属が杭や板に利用されている。したがって、枕材・板材といった用材による樹種の選択性は認められないものの、遺構毎に木材利用の違いが認められるといえる。このことは、遺構の用途や構築時に入手された木材の違いを反映している可能性がある。

木製品では、曲物の底板?にスギとモミ属、側板にヒノキ、下駄にスギとハンノキ亜属、滑車?にケヤキが認められた。

農商務省山林局(1912)によれば、曲物に利用する木材としてスギ、ヒノキ、モミの3種類が挙げられており、スギを主としてヒノキなどは高価なためにあまり用いられないとされる。このことは、今回の樹種同定結果と調和的である。これらの種類は、木理が通直で加工が容易であり、特に割裂性を利用して薄い板を得ることができるため、こうした材質が木材利用の背景と考えられる。

今回、分析を行った下駄は、いずれも台と歯を一本でつくる連歯下駄であった。下駄の分類については、市田(1992)によれば、試料番号5がI-1-A類、試料番号4と6がI-5-B類となる。台表の形状は、試料番号5が丸みを帯びた長方形、試料番号4と6が楕円形である。水取りは、試料番号4が台表が椀目となる水取りで、試料番号5と6は台表が椀目となる水取りである。I-1-A類の下駄については、東京都でも多くの樹種同定が行われているが、針葉樹と広葉樹が混在し、様々な樹種が確認されている(高橋, 1995; 松葉, 1997a, 1997b; バリノ・サーヴェイ株式会社, 1997)。これらの樹種の違いは、利用者の身分や年齢、性別や利用目的等を反映している可能性が指摘されている(田中, 1990; 高橋, 1995; バリノ・サーヴェイ株式会社, 1997)。今回の場合もその可能性があるが、さらに分析例を蓄積し検討したい。

I-5-B類は、「のめり」があることから、つまりまで地面を付けて歩きやすくなるように設計されており、江戸時代中期以降に出現するとされる(伏田, 2002)。試料番号4・6の2点は、いずれもスギであることから、スギが選択的に

表1 樹種同定結果

遺構/部位	遺構	物上層序	用途	樹種
1	1区	10号土坑	木造	放射組織? スギ
2	1区	10号土坑	木造	放射組織 ヒノキ
3	1区	10号土坑	木造	放射組織 ヒノキ
4	1区	6号水路	木造	下駄 スギ
5	1区	1号土坑	木造	ハンノキ属ハンノキ亜属
6	1区	2号水路	木造	下駄 スギ
7	1区	1号土坑	木造	滑車? ケヤキ
8	1区	1号土坑	木造	放射組織? モミ属
9	1区	2号水路	木造	マツ属複雑管束亜属
10	1区	2号水路	木造	クリ
11	1区	2号水路	木造	ケヤキ
12	1区	3号水路	木造	クリ
13	1区	8号水路	木造	クリ
14	1区	8号水路	木造	マツ属複雑管束亜属
15	1区	8号水路	木造	クリ
16	1区	8号水路	木造	マツ属複雑管束亜属
17	1区	8号水路	木造	クリ
18	1区	8号水路	木造	マツ属複雑管束亜属
19	1区	8号水路	木造	クリ
20	1区	8号水路	木造	マツ属複雑管束亜属
21	1区	8号水路	木造	クリ
22	1区	8号水路	木造	マツ属複雑管束亜属
23	1区	8号水路	木造	クリ
24	1区	10号水路	木造	椀材 クリ
25	1区	10号水路	木造	椀材 クリ
26	1区	10号水路	木造	椀材 クリ
27	1区	10号水路	木造	椀材 クリ
28	1区	10号水路	木造	椀材 クリ
29	1区	10号水路	木造	椀材 クリ
30	1区	12号水路	木造-1	木造
31	1区	1号土坑	木造	クリ
32	1区	1号土坑	木造	クリ
33	1区	1号土坑	木造	クリ
34	1区	1号土坑	木造	クリ
35	1区	1号土坑	木造	クリ
36	1区	1号土坑	木造	クリ
37	1区	1号土坑	木造	クリ
38	1区	1号土坑	木造	クリ
39	1区	9号水路	木造	クリ
40	1区	5号水路	木造	クリ

第9章 自然科学分析

利用されていた可能性がある。

清事に使用されているケヤキは、重複で強度が高く、耐久性も比較的高い。使用時の摩擦や重量などに耐えうる木材としてケヤキが選択された可能性がある。

今回分析を行った橋高辻久保遺跡から出土した木製品については、当該期の出土例や分析事例が少ない。そのため、今後は同時期の木材利用に関する資料を蓄積し、改めて評価したいと考える。

引用文献

- 伏田雅哉 (2002) 下駄 神のはきもの (ものと人間の文化史104), 295p., 法政大学出版局。
 市田京子 (1992) 江戸時代の下駄。江戸遺跡研究会第5回大会 考古学と江戸文化 発表要旨, p.237-255。
 松葉礼子 (1997a) 溜池遺跡出土木製品の樹種同定。『一地下鉄7号線溜池・駒込間遺跡発掘調査報告書7-2-1 溜池遺跡

第II分冊』, p.1-30, 帝都高速度交通営団・地下鉄7号線溜池・駒込間遺跡調査会。

松葉礼子 (1997b) 江東橋二丁目遺跡出土木製品の樹種同定。『東京都墨田区江東橋二丁目遺跡 一生計職業能力開発促進センター建設に伴う緊急発掘調査報告書-』, p.331-338, 雇用促進事業団・墨田区江東橋二丁目遺跡調査会。

農産物産山形局編 (1912) 木材ノ工藝的利用, 1306p., 大日本山林會。

パリノ・サーヴェイ株式会社 (1997) 木製品の用材と製作方法。

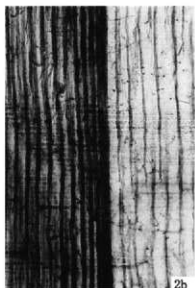
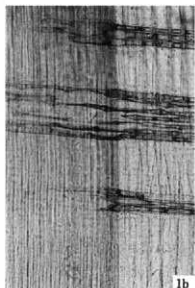
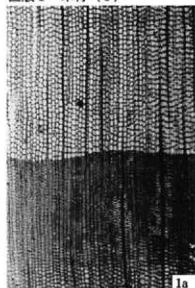
『東京都渋谷区 千駄ヶ谷五丁目遺跡 一新宿南口RCビル (高島屋タイムズスクエアほか) の建設事業に伴う緊急発掘調査報告書- 本文 編 (第1分冊)』, p.326-366, 千駄ヶ谷五丁目遺跡調査会。

早田 勉・鹿堂 健 (1990) 前橋台地と広瀬川低地帯, 群馬県史編さん委員会編『群馬県史 通史編1 原始古代1』, p.98-110, 群馬県。

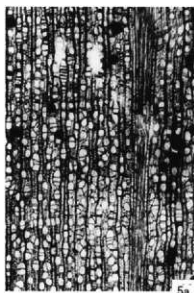
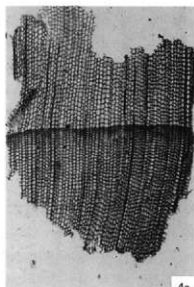
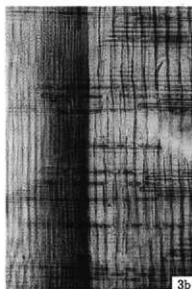
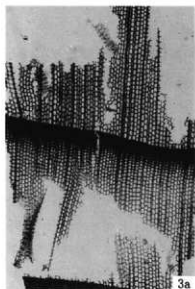
高橋 敦 (1995) 木製品の樹種について。『飯田町遺跡』, p.419-420, 飯田町遺跡調査会。

田中真貴 (1990) 木製品。『白鷺2』, p.134-144, 都立学校遺跡調査会。

図版1 木材(1)



(3) 榎高辻久保遺跡出土木製品の樹種

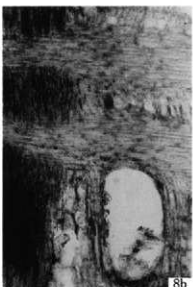
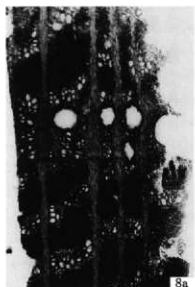
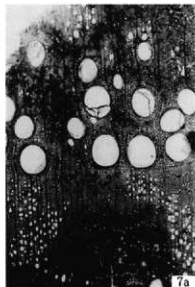
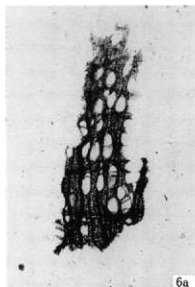


1. マツ属複維管束亜属 (試料番号22)
 2. モミ属 (試料番号8)
 3. スギ (試料番号1)

4. ヒノキ (試料番号2)
 5. ハンノキ属ハンノキ亜属 (試料番号5)
 a: 木口, b: 柀目, c: 板目

200 μ m: a

200 μ m: b, c



6. アサダ (試料番号11)

7. クリ (試料番号27)

8. ケヤキ (試料番号7)

a : 木口, b : 柀目, c : 板目

200 μ m : a

200 μ m : b, c

(4) 樽高辻久保遺跡の火山灰分析

軽石の最大径11mm)、灰色軽石混じり暗灰褐色土(層厚12cm, 軽石の最大径13mm)が認められる(図2)。

(4) 樽高辻久保遺跡の火山灰分析

株式会社 古環境研究所

1. はじめに

群馬県中央部とその周辺に分布する後期更新世以降に形成された地層の中には、赤城、榛名、浅間など北関東地方とその周辺の火山、中部地方や中国地方さらには九州地方などの火山に由来するテフラ(火山砕屑物、いわゆる火山灰)が多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。

そこで、年代が不明な竪穴住居跡が検出された樽高辻久保遺跡においても、地質調査を行い土層層序を記載するとともに、テフラ検出分析と屈折率測定を行って指標テフラの層位を把握し、遺構の層位や年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象となった竪穴住居跡は、VI区検出の79号住居跡と82号住居跡である。

2. 土層の層序

(1) 79号住居跡中・西部

79号住居跡中・西部では、床面の上位に、下位より灰色軽石層(層厚9cm, 軽石の最大径11mm)、灰色軽石を多く含む暗灰褐色土(層厚18cm, 軽石の最大径6mm)、灰色軽石混じり黒灰色土(層厚19cm, 軽石の最大径8mm)、灰色軽石を比較的多く含む暗灰色土(層厚20cm, 軽石の最大径7mm)、成層したテフラ層(層厚10.1cm)、白色粗粒火山灰混じり暗灰色土(層厚9cm)、白色粗粒火山灰を比較的多く含む灰色土(層厚7cm)が認められる(図1)。

これらのうち、成層したテフラ層は、下位より褐色細粒火山灰層(層厚3cm)、逆級化構造をもつ灰色粗粒火山灰層(層厚1.2cm)、灰色細粒火山灰層(層厚1.1cm)、灰色粗粒火山灰層(層厚0.2cm)、灰色細粒火山灰層(層厚0.6cm)、かすかに成層した黄灰色砂質粗粒火山灰層(層厚4cm)からなる。

なお、壁面に近い西部では床面の上位で灰色軽石層の下位に、下位より暗褐色土(層厚9cm)と黒灰褐色土(層厚10cm)の堆積が認められた。

(2) 79号住居跡東部

壁面に近い79号住居跡東部では、床面の上位に下位より黄色シルトブロック混じり灰色土(層厚4cm)、褐色土(層厚3cm)、暗灰褐色土(層厚11cm)、灰色軽石層(層厚8cm, 軽石の最大径19mm)、灰色土混じり灰色軽石層(層厚7cm,

(3) 82号住居跡中央部

82号住居跡中央部では、床面の上位に、下位より灰色軽石層(層厚7cm, 軽石の最大径10mm)、灰色軽石に富む暗灰色土(層厚14cm, 軽石の最大径9mm)、灰色軽石混じり黒灰色土(層厚15cm, 軽石の最大径9mm)、灰色軽石を比較的多く含む暗灰色土(層厚14cm, 軽石の最大径13mm)、灰色土(層厚2cm)、成層したテフラ層(層厚7.6cm)、灰色土(層厚4cm)、白色粗粒火山灰混じり灰色土(層厚7cm)が認められる(図3)。これらのうち、成層したテフラ層は、下位より褐色細粒火山灰層(層厚2cm)、逆級化構造をもつ灰色粗粒火山灰層(層厚1.8cm)、灰色細粒火山灰層(層厚0.8cm)、かすかに成層した灰色砂質粗粒火山灰層(層厚7cm)からなる。

(4) 82号住居跡東部

壁面に近い82号住居跡東部では、床面の上位に、下位より黒灰褐色土(層厚8cm)、黄色シルトブロック混じり暗灰褐色土(層厚6cm)、黒褐色土(層厚5cm)、灰色軽石層(層厚6cm, 軽石の最大径23mm)、灰色土や砂を含む灰色軽石層(層厚6cm, 軽石の最大径11mm)、灰色軽石に富む暗灰色土(層厚15cm, 軽石の最大径12mm)が認められる(図4)。

3. テフラ検出分析

(1) 分析検出と分析方法

テフラの特徴とその降灰層準を把握するために、79号住居跡中・西部および東部と82号住居跡の中央部および東部の4地点において、基本的に厚さ5cmごとに設定採取された試料のうち、31点を対象にテフラ検出分析を行った。分析の手順は次の通りである。

- 1) 試料10gを秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80℃で恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下で観察し、テフラ粒子の量や特徴を把握。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を、表1に示す。79号住居跡中・西部では、試料4を除くいずれの試料からもスポンジ状に比較的良く発泡した灰白色軽石(最大径15.2mm)が検出された。この軽石は、軽石層の試料19に多く含まれている。軽石の坩堝には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。試料23や試料21にも、この軽石が少量認められる。また試料4には、細粒の白色軽石(最大径1.8mm)が少量含まれている。この

軽石の産品としては、角閃石や斜方輝石が認められる。さらに試料3や試料1には、さほど発泡が良くない白色軽石（最大径2.1mm）が認められる。この軽石の産品にも、角閃石や斜方輝石が認められる。この軽石は、試料1により多く認められる。なおこの地点では、試料11より上位の試料で角閃石が認められる。

79号住居跡の東部では、試料3や試料1にスポンジ状に比較的良く発泡した灰白色軽石（最大径9.9mm）がとくに多く含まれている。この軽石の産品には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。

82号住居跡の中央部では、試料3を除くいずれの試料からもスポンジ状に比較的良く発泡した灰白色軽石（最大径13.9mm）が検出された。この軽石は、軽石層の試料15にとくに多く含まれている。軽石の産品には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。また試料3には、細粒の白色軽石（最大径1.3mm）が少量含まれている。この軽石の産品としては、角閃石や斜方輝石が認められる。さらに、試料3や試料1には、さほど発泡が良くない白色軽石（最大径2.1mm）が認められる。この軽石の産品にも、角閃石や斜方輝石が認められる。この軽石は、上位の試料1により多く認められる。

82号住居跡の東部では、試料6と試料3より上位で、スポンジ状に比較的良く発泡した灰白色軽石（最大径9.9mm）が認められる。軽石層である試料2にとくに多くの軽石が含まれている。この軽石の産品には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。

4. 屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法

79号住居跡中・西部において、灰色軽石層の下位にある試料23、灰色軽石層（試料19）、角閃石が検出しはじめる試料11、成層したテフラ層（試料4）、白色粗粒火山灰が比較的多く含まれる試料1の5点について、温度一定型屈折率測定法（新井、1972・1983）によりテフラ粒子の屈折率測定を行った。

(2) 測定結果

屈折率測定の結果を、表2に示す。試料23、19、11に含まれる火山ガラスの屈折率（ n ）は、いずれも1.515-1.520である。重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石が含まれている。斜方輝石の屈折率（ γ ）は、1.706-1.710である。試料4には、重鉱物として斜方輝石や角閃石のほか、少量の単斜輝石が認められる。斜方輝石（ γ ）と角閃石（ n_2 ）の屈折率は、1.706-1.710と1.672-1.680（modal range: 1.672-1.677）である。試料1に含まれる火山ガラスの屈折率（ n ）は、1.502-1.503である。重鉱物としては、斜方輝石のほか角閃石や単斜輝石が認められる。斜方輝石（ γ ）と角閃石（ n_2 ）の屈折率は、

各々1.706-1.710と1.672-1.677である。

5. 考察

79号住居跡中・西部の灰色軽石層（試料19）は、層相、含まれる軽石の岩相、重鉱物の組合せ、さらに火山ガラスや斜方輝石の屈折率などから、4世紀中葉*に浅間火山から噴出した浅間C軽石（As-C；荒牧、1968、新井、1979）と考えられる。また79号住居跡中央部の成層したテフラ層（試料4）は、層相や含まれる軽石の岩相、重鉱物の組合せ、さらに火山ガラス、斜方輝石、角閃石の屈折率などから、6世紀初頭に標名火山から噴出した標名二ツ岳洪川テフラ（Hr-FA；新井、1979、坂口、1986、早田、1989、町田・新井、1992）に同定される。したがって、ほかの地点で認められた灰色軽石層と成層した火山灰層についても、各々As-CとHr-FAに同定される。以上のことから、79号住居跡および82号住居跡ともに、As-Cより下位にあると考えられる。

なお79号住居跡中・西部や82号住居跡東部では、As-Cに同定される灰色軽石層の下位からAs-C起源と考えられる軽石が検出された。しかしながらその量は少なく、細粒で、何らかの作用により上位より混入した可能性が高いと思われる。これらの住居跡の中央部では、床面直上にAs-Cが認められるもの、壁面のそばではより下位の土層が認められる。またAs-Cより下位の構造物の存在を示すような堆積構造がAs-Cに認められないことも合わせて考慮すると、これらの住居跡の廃棄時期については、As-C降灰をかなり遡る可能性も指摘されるのかも知れない。

79号住居跡中・西部の試料1に含まれる軽石については、Hr-FAの可能性もあるもの、層位や角閃石の屈折率などから、6世紀中葉に標名火山から噴出した標名伊香保二ツ岳軽石（Hr-FP；新井、1962、坂口、1986、早田、1989）に由来する可能性が考えられる。

6. まとめ

標高江久保遺跡において地質調査、テフラ検出分析、屈折率測定を行った。その結果、浅間C軽石（As-C、4世紀中葉*）、標名二ツ岳洪川テフラ（Hr-FA、6世紀初葉）のほか、標名有馬火山灰（Hr-AA、5世紀）や標名二ツ岳伊香保テフラ（Hr-FP、6世紀中葉）に由来する可能性のあるテフラを検出することができた。本遺跡で検出された79号住居跡や82号住居跡については、As-Cより下位にある可能性が高いと推定される。

*1 現在では4世紀を遡るとする説が有力になっているようである（たとえば、若狭、2000）。しかし、具体的な年代観が示された研究報告例はまだない。現段階においては「3世紀後半」あるいは「3世紀終末」としておくのが妥当な

(5) 榑高辻久保遺跡出土人骨

植崎修一郎

はじめに

榑高辻久保遺跡は、群馬県高崎市引間町及び同榑高町に所在する。西毛広域幹線建設に伴う発掘調査が、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団により平成12(2000)年～平成15(2003)年にかけて行われた。本遺跡は、0区～Ⅷ区まで、8区に分けて調査されたが、その内、Ⅴ区及びⅥ区から中世の人骨が出土したので以下に記載する。なお、99号土坑出土人骨の歯の計測は藤田の方法(藤田, 1949)に従った。

1. Ⅴ区出土人骨

Ⅴ区では、164号土坑から、人骨が出土した。

(1) 164号土坑出土火葬人骨

164号土坑は、長径107cm×短径65cm×深さ18cmの楕円形土坑である。本土坑から、約5mm～2cmの大きさの人骨破片が約100片出土している。副葬品は検出されていない。歯根片及び四肢骨片が出土しているが、すべて熱を受けている火葬人骨である。火葬人骨の色は白色を呈しており、高い温度で焼成されたことが推定される。残念ながら、わずかな部位しか出土していないため、被火葬者の性別及び死亡年齢等は不明である。

2. Ⅵ区出土人骨

Ⅵ区では、55号土坑・56号土坑・57号土坑・80号土坑・99号土坑から人骨が出土した。

(1) 55号土坑出土火葬人骨

①人骨の出土状況

55号土坑は、長径102cm×短径57cm×深さ10cm～15cmの隅丸長方形土坑である。西側に突出部を持つ、中世の典型的な火葬跡である。

②人骨の出土部位

人骨の頭蓋骨片及び四肢骨片が細片化した状態で出土している。しかしながら、明確に同定できる部位は歯の歯根のみである。

③副葬品

土師器片及び須恵器片が出土している。

④被火葬者の個体数

出土火葬人骨には、明らかな重複部位が認められないため、被火葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑤被火葬者の性別

出土火葬人骨の出土量が少ないため、被火葬者の性別は不明である。

⑥被火葬者の死亡年齢

出土火葬人骨の出土量が少ないため、被火葬者の死亡年齢は不明であるが、歯の歯根がある程度残存しているため成人であると推定される。

(2) 56号土坑出土火葬人骨

①人骨の出土状況

56号土坑は、長径150cm×短径83cm×深さ17cm～24cmの楕円形土坑である。西側に突出部を持つ、中世の典型的な火葬跡である。

②人骨の出土部位

頭蓋骨片・四肢骨片が多数出土している。

③副葬品

土師器片及び須恵器片が出土している。

④被火葬者の個体数

出土火葬人骨には、明らかな重複部位が認められないため、被火葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑤被火葬者の性別

火葬の際の熱による収縮を考慮しても、上腕骨や脛骨の大きさが小さいため、被火葬者の性別は女性であると推定される。

⑥被火葬者の死亡年齢

死亡年齢推定の指標となる部位が出土していないが、歯の歯根がある程度残存しているため、被火葬者の死亡年齢は成人であると推定される。

(3) 57号土坑出土火葬人骨

①人骨の出土状況

57号土坑は、長径107cm×短径45cm×深さ7cmの隅丸長方形土坑である。東側に突出部を持つ、中世の典型的な火葬跡である。

②人骨の出土部位

人骨の頭蓋骨片・歯根・大腿骨片等が出土している。

③副葬品

土師器片が出土している。

④被火葬者の個体数

出土火葬人骨には、明らかな重複部位が認められないため、被火葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑤被火葬者の性別

火葬の際の熱による収縮を考慮しても、頭蓋骨片や大腿骨片は、厚さが薄かったり小さいため、被火葬者の性別は女性であると推定される。

⑥被火葬者の死亡年齢

死亡年齢推定の指標となる部位が出土していないが、歯の歯根がある程度残存しているため、被火葬者の死亡年齢は成人であると推定される。

(4) 80号土坑出土火葬人骨

人骨は、直径68cm×深さ53cmの円形土坑から出土している。

(5) 横高辻久保遺跡出土人骨

る。80号土坑の覆土から、約5mm~2cmの大きさの破片が13片出土している。そのほとんどが頭蓋骨片であり、すべて熱を受けている火葬人骨である。火葬人骨の色は白色から灰色を呈しており、ある程度高い温度で焼成されたことが推定される。残念ながら、わずかな部位しか出土していないため、被火葬者の性別及び死亡年齢等は不明であるが、火葬による取締を考慮しても頭蓋骨の厚さが薄いため、女性である可能性が高い。

(5) 99号土坑出土人骨

①人骨の出土状況

人骨は、長径106cm×短径83cm×深さ15cmの楕円形土坑から出土している。

②人骨の出土部位

歯の歯冠部のみ出土している。

③副葬品

土師器片及び須恵器片が出土している。

④被葬者の頭位及び埋葬形態

歯が土坑の北側から検出されているため、被葬者の頭位は北であると推定される。埋葬形態は、歯しか出土していないため不明であるが、屈葬で埋葬されたと推定される。

⑤被葬者の個体数

出土歯には、重複部位が認められないため、被葬者の個体数は1個体であると推定される。

⑥被葬者の性別

歯の歯冠計測値が比較的大きいため、被葬者の性別は男性であると推定される。

⑦被葬者の死亡年齢

歯の咬耗度を観察すると、象牙質が点状に露出する程度であるので、被葬者の死亡年齢は約30歳代であると推定される。

考 察

V区164号土坑・V区55号・56号・57号・80号土坑より、火葬人骨が出土した。V区164号土坑及びV区80号土坑では検出されなかったが、V区55号・56号・57号土坑の3基の土坑では、土坑が南北に掘られ、その東側か西側に突出部が認められた。この突出部は煙道であり火をつける焚き口であると推定されている。4基共、出土人骨の量が少ないため、これらの遺構は火葬跡であり火葬墓ではないと推定される。恐らく、東日本タイプの葬法で、ほとんどの人骨を取骨したのであろう。また、火葬人骨の色は明灰色から白色を呈しているため、火葬の際の温度は約900℃以上であろう。さらに、火葬人骨には亀裂・ゆがみ・ねじれが認められるので、白骨化させたものを火葬したのではなく、死体をそのまま火葬に付したと推定される。

まとめ

横高辻久保遺跡のV区及びV区から、中世人骨が出土した。これらのまとめを、以下の表1に、また99号土坑出土人骨の歯冠計測値を表2に示した。

引用文献

- 藤田恒太郎 1949 歯の計測標準について、「人類学雑誌」、61:1-6.
 横田和良 1969 歯の大きさの性差について、「人類学雑誌」、67:151-163.
 MATSUMURA, Hirofumi 1995 A microevolutional history of the Japanese people as viewed from dental morphology, National Science Museum monographs No.9, National Science Museum

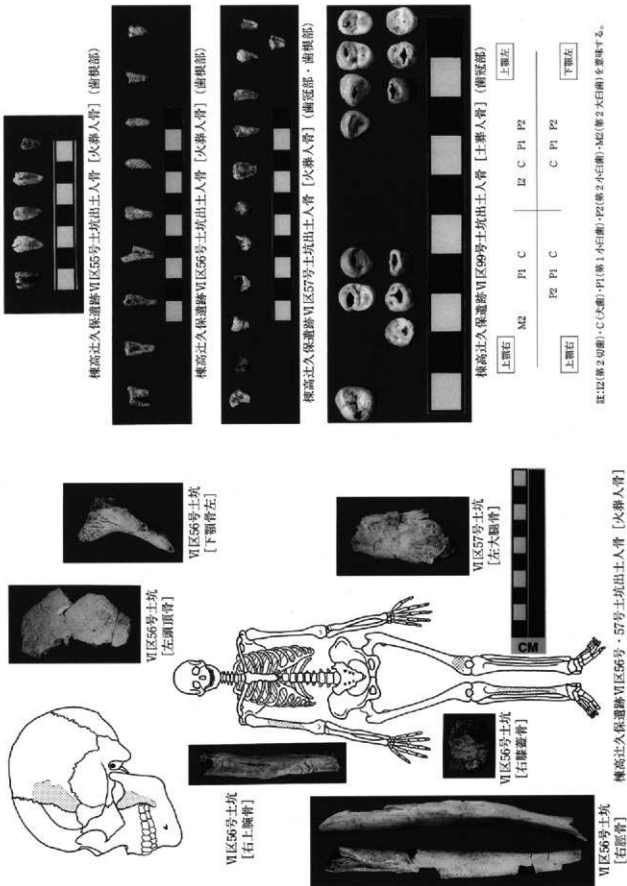
表1. 横高辻久保遺跡出土人骨まとめ

区名	土坑番号	個体数	性別	死亡年齢	備考
V区	164号土坑	1個体	不明	不明	火葬人骨
	55号土坑	1個体	不明	成人	火葬人骨
	56号土坑	1個体	女性	成人	火葬人骨
VI区	57号土坑	1個体	女性	成人	火葬人骨
	80号土坑	1個体	女性?	不明	火葬人骨
	99号土坑	1個体	男性	約30歳代	土葬人骨

表2. 横高辻久保遺跡出土人骨歯冠計測値及び比較値

歯種	項目	本遺跡 VR99号土坑		中世時代人 *		江戸時代人 *		現代人 **		
		右	左	♂	♀	♂	♀	♂	♀	
上	I2	MD	—	7.2	6.98	6.85	7.16	6.97	7.13	7.05
		BL	—	7.7	6.55	6.26	6.74	6.33	6.62	6.51
	C	MD	7.9	7.8	7.96	7.43	8.01	7.60	7.94	7.71
		BL	8.8	8.7	8.50	7.94	8.66	8.03	8.52	8.13
	P1	MD	7.2	7.4	7.25	7.02	7.41	7.23	7.38	7.37
		BL	9.9	10.0	9.46	9.03	9.67	9.33	9.59	9.43
顎	P2	MD	—	6.5	6.87	6.69	7.00	6.82	7.02	6.94
		BL	—	9.6	9.39	8.88	9.35	9.26	9.41	9.23
	M2	MD	8.9	—	9.65	9.42	9.88	9.48	9.91	9.74
		BL	11.3	—	11.72	11.19	12.00	11.52	11.85	11.31
	F	MD	6.8	6.8	6.88	6.55	7.06	6.69	7.07	6.68
		BL	破損	破損	7.82	7.53	8.04	7.39	8.14	7.50
P1	MD	7.2	7.3	7.07	6.96	7.32	7.05	7.31	7.19	
	BL	7.9	8.0	8.10	7.72	8.34	7.89	8.06	7.77	
顎	P2	MD	7.4	7.4	7.12	7.00	7.45	7.12	7.42	7.29
		BL	8.7	8.7	8.49	8.06	8.68	8.30	8.53	8.26

- 注1. 計測値の単位は、すべて、「mm」である。
 注2. 歯種は、I2 (第2切歯)・C (犬歯)・P1 (第1小臼歯)・P2 (第2小臼歯)・M2 (第2大臼歯) を意味する。
 注3. 計測項目はMD (歯冠近遠心径)・BL (歯冠唇舌径) を表す。
 注4. 「破損」は、歯冠が破損しており計測ができなかったことを示す。
 注5. 「*」は、MATSUMURA (1995) より引用。
 注6. 「**」は、横田 (1969) より引用。



註: I2(第2切歯)・C(犬歯)・P1(第1小臼歯)・P2(第2小臼歯)・M2(第2大臼歯)を意味する。

(6) 榎高辻久保遺跡出土獣骨

(6) 榎高辻久保遺跡出土獣骨

植崎修一郎

はじめに

榎高辻久保遺跡は、群馬県高崎市引町及び同様高町に所在する。西毛広域幹線建設に伴う発掘調査が、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団により平成12(2000)年～平成15(2003)年にかけて行われた。本遺跡より、獣骨が出土したので以下に報告する。本遺跡は、0区～Ⅷ区まで、8区に分けて調査されたため、本報告もそれに従って区別に記載する。

本遺跡からは、獣骨が多数出土したが、そのほとんどが、馬(ウマ) [*Equus caballus*] か牛(ウシ) [*Bos taurus*] の骨である。群馬県出土獣骨の内、(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団の報告書を調べたデータベースが作成されているが、そのほとんどは馬(ウマ) か牛(ウシ) であることが判明しており、その点で本遺跡も群馬県の中で典型的な遺跡である(植崎, 2005)。出土獣骨は、破損しているものが多く歯種の同定が限られたものが多いために、記載可能な獣骨は少ない。なお、馬(ウマ) 及び牛(ウシ) の性別推定は、馬の場合犬歯の有無で、牛の場合寛骨で可能であるが、本遺跡出土獣骨で性別推定が可能な個体は無かった。出土獣骨の記載獣骨リストを表2に、記載獣骨計測値を表3に、すべての出土獣骨リストを表4に掲載したので参照されたい。

なお、出土獣骨は清浄後、できる限りの接着復元を行い、観察・計測・写真撮影を行った。また、出土獣骨の計測は、フォン・デン・ドリッシュ [von den DRIESCH] (1976) に従った。

1.0 区出土獣骨

0区では、61号住居・110号土坑・46号溝・47号溝の4つの遺構及び、遺構確認面・覆土から獣骨が出土している。この内、61号住居・47号溝・遺構確認面出土獣骨を記載する。

(1) 61号住居出土獣骨 [P3] (平安時代以降)

61号住居から、牛(ウシ) の下顎左M3 (第3大白歯) が出土した。同一個体の骨であると推定される。どちらも、咬耗はほとんど認められないため、未歯の骨であると推定される。牛の場合、M3は約2歳で萌出するとされているため、死亡年齢は、約2歳以下であると推定される。中型牛である。

(2) 110号土坑出土獣骨 (平安時代以降)

110号土坑から、猪(ニホンイノシシ) [*Sus scrofa*] か豚(ブタ) の下顎右P2 (第2小臼歯) が1本出土した。しかし、この骨1本では、ニホンイノシシかブタかの判定は不可能で

ある。歯には咬耗が認められるため、死亡年齢は成体であると推定される。

(3) 47号溝出土獣骨 [No.15・31・32・39] (平安時代～中世)
0区47号溝から、牛(ウシ) の上顎左M2 (第2大白歯) [No.15]・馬(ウマ) の下顎右M2 (第2大白歯) [No.31]・ウマの下顎左M1とM2 (第1及び第2大白歯) [No.32]・牛(ウシ) の下顎左M3 (第3大白歯) [No.39]が出土した。牛の場合、どちらも中型牛で死亡年齢はそれぞれ成体[No.15]と約2歳[No.39]であると推定される。馬の場合、大厩馬～中型馬で、歯冠高から死亡年齢はそれぞれ成体[No.31]と約5歳[No.32]の幼駒馬であると推定される。

(4) 遺構確認面出土獣骨 (平安時代以降)

遺構確認面から、馬(ウマ) の上顎左P4 (第4小臼歯) が出土した。中型馬である。死亡年齢は、約4歳より若い個体の幼駒馬であると推定される。

2.Ⅰ区出土獣骨

Ⅰ区では、22号住居・31号住居・56号住居・10号土坑・6号溝・34号溝の6つの遺構及び、グリッド上げで獣骨が出土している。この内、56号住居・10号土坑出土獣骨を記載する。

(1) 56号住居出土獣骨 [No.2・14・16・骨1] (平安時代以降)

56号住居床面から、馬(ウマ) の骨が18に分けて取り上げられている。出土状況から、同一個体であると推定される。中型馬である。同定された馬歯は、上顎右M3 (第3大白歯) [No.14]・上顎左M1・M2・M3 (第1・2・3大白歯) [骨1]・下顎右P2 (第2小臼歯) [No.16]及び同M2 (第2大白歯) [No.2]である。死亡年齢は、計測値の歯冠高から幅をもたせて、約10歳～11歳であると推定される。獣医学の分野では、6歳～15・16歳は牡駒馬に分類される。

(2) 10号土坑出土獣骨 (古代以降)

10号土坑から、牛(ウシ) の下顎左M3 (第3大白歯) が出土した。中型牛である。咬耗がかなり進んでおり、老齢に近い牡駒牛であると推定される。

3.Ⅱ区出土獣骨

Ⅱ区では、124号ビット・1号水路・S18水田(昭和18年の水田)の3つの遺構及び、グリッド上げで獣骨が出土している。この内、124号ビット・1号水路・S18水田・Kg-82グリッド出土獣骨を記載する。

(1) 124号ビット出土獣骨 (中世以降)

124号ビットから、馬(ウマ) の下顎右P3 (第3小臼歯) が出土した。小型馬である。歯冠高から、死亡年齢は約6歳の牡駒馬であると推定される。

(2) 1号水路出土獣骨 [P-269・覆土・下層ベルト内] (近世

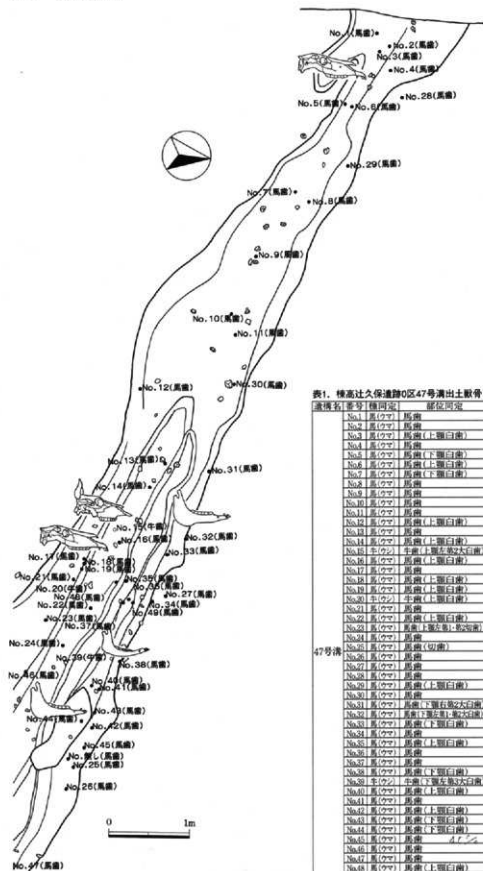


図1 榑高辻久保遺跡0区47号溝出土獣骨出土位置 (馬及び牛の頭蓋骨及び下顎骨は推定位置)

【●：馬骨、○牛骨】

表1. 榑高辻久保遺跡0区47号溝出土獣骨リスト

遺物番号	番号	種別	部位	同定	保存状態	出土層	年月日	備考
No.1	馬(ウマ)	馬歯	破片	2003.6.6				
No.2	馬(ウマ)	馬歯	破片	2003.6.6				
No.3	馬(ウマ)	馬歯(上顎臼歯)	破片	2003.6.6				
No.4	馬(ウマ)	馬歯	破片	2003.6.6				
No.5	馬(ウマ)	馬歯(下顎臼歯)	破片	2003.6.6				
No.6	馬(ウマ)	馬歯(上顎臼歯)	破片	2003.6.6				
No.7	馬(ウマ)	馬歯(下顎臼歯)	破片	2003.6.6				
No.8	馬(ウマ)	馬歯	破片	2003.6.6				
No.9	馬(ウマ)	馬歯	破片	2003.6.6				
No.10	馬(ウマ)	馬歯	破片	2003.6.6				
No.11	馬(ウマ)	馬歯	破片	2003.6.6				
No.12	馬(ウマ)	馬歯(上顎臼歯)	破片	2003.6.6				
No.13	馬(ウマ)	馬歯(上顎臼歯)	破片	2003.6.6				
No.14	牛(ウシ)	牛歯(上顎臼歯)	破片	2003.6.6				
No.15	牛(ウシ)	牛歯(上顎臼歯)	破片	2003.6.6				
No.16	牛(ウシ)	牛歯(上顎臼歯)	破片	2003.6.6				
No.17	牛(ウシ)	牛歯(上顎臼歯)	破片	2003.6.6				
No.18	牛(ウシ)	牛歯(上顎臼歯)	破片	2003.6.6				
No.19	牛(ウシ)	牛歯(上顎臼歯)	破片	2003.6.6				
No.20	牛(ウシ)	牛歯(上顎臼歯)	破片	2003.6.6				
No.21	馬(ウマ)	馬歯	破片	2003.6.6				
No.22	馬(ウマ)	馬歯(上顎臼歯)	破片	2003.6.6				
No.23	馬(ウマ)	馬歯(上顎臼歯)	破片	2003.6.6				
No.24	馬(ウマ)	馬歯	破片	2003.6.6				
No.25	馬(ウマ)	馬歯(切歯)	破片	2003.6.6				
No.26	馬(ウマ)	馬歯	破片	2003.6.6				
No.27	馬(ウマ)	馬歯	破片	2003.6.6				
No.28	馬(ウマ)	馬歯	破片	2003.6.6				
No.29	馬(ウマ)	馬歯(上顎臼歯)	破片	2003.6.10				
No.30	馬(ウマ)	馬歯	破片	2003.6.10				
No.31	馬(ウマ)	馬歯(上顎臼歯)	破片	2003.6.10				
No.32	馬(ウマ)	馬歯(上顎臼歯)	破片	2003.6.10				
No.33	馬(ウマ)	馬歯(上顎臼歯)	破片	2003.6.10				
No.34	馬(ウマ)	馬歯	破片	2003.6.10				
No.35	馬(ウマ)	馬歯(上顎臼歯)	破片	2003.6.10				
No.36	馬(ウマ)	馬歯	破片	2003.6.10				
No.37	馬(ウマ)	馬歯	破片	2003.6.10				
No.38	馬(ウマ)	馬歯(下顎臼歯)	破片	2003.6.10				
No.39	馬(ウマ)	馬歯	破片	2003.6.10				
No.40	馬(ウマ)	馬歯(上顎臼歯)	破片	2003.6.10				
No.41	馬(ウマ)	馬歯	破片	2003.6.10				
No.42	馬(ウマ)	馬歯(上顎臼歯)	破片	2003.6.10				
No.43	馬(ウマ)	馬歯(下顎臼歯)	破片	2003.6.10				
No.44	馬(ウマ)	馬歯(下顎臼歯)	破片	2003.6.10				
No.45	馬(ウマ)	馬歯	破片	2003.6.10				
No.46	馬(ウマ)	馬歯	破片	2003.6.10				
No.47	馬(ウマ)	馬歯	破片	2003.6.10				
No.48	馬(ウマ)	馬歯(下顎臼歯)	破片	2003.6.10				
No.49	馬(ウマ)	馬歯(下顎臼歯)	破片	2003.6.10				
—	馬(ウマ)	馬歯(上顎臼歯)	破片	—				

以降)

1号水路から、馬(ウマ)の歯及び不明骨が9に分けて取り上げられている。同定された馬歯は、上顎左右M2(第2大白歯)・下顎右M1(第1大白歯)[P-269]・下顎左P2(第2小臼歯)[下層ベルト内]である。この内、下顎歯の2本は、同一個体の小型馬であると推定される。死亡年齢は、歯冠高から、上顎歯は約9歳・下顎歯は約10歳の牡馬であると推定される。死亡年齢にずれがあるが、同定された4本共に歯が小さく小型であり、色も似通っているため、同一個体の可能性もある。

(3) S18水田出土獣骨[No.12](1943年)

S18水田から、馬(ウマ)の下顎右P3(第3小臼歯)[No.12]が出土した。中型馬である。歯冠高から、死亡年齢は約6歳の牡馬であると推定される。

(4) Kg-82グリッド出土獣骨(古代以降)

Kg-82グリッド4面から、馬(ウマ)の上顎右M3(第3大白歯)が出土した。大型馬である可能性が高い。歯冠高から、死亡年齢は約6歳の牡馬であると推定される。

4. III区出土獣骨

III区では、5号水路の遺構及び覆土から獣骨が出土している。この内、5号水路・2面覆土・3面覆土出土獣骨を記載する。

(1) 5号水路出土獣骨(近代)

5号水路覆土から、馬(ウマ)の下顎右P4(第4小臼歯)が出土した。馬歯の色は、黒色を呈しており、長い間、水に浸かった状態であったことが推定される。大型馬である。歯冠高から、死亡年齢は約5歳の幼駒馬であると推定される。

(2) 2面覆土出土獣骨(近代)

2面覆土から、馬(ウマ)の上顎右M3(第3大白歯)が出土した。大型馬である可能性が高い。歯冠高から、死亡年齢は約10歳の牡馬であると推定される。

(3) 3面覆土出土獣骨(近代)

3面覆土から、馬(ウマ)の上顎左M1(第1大白歯)が出土した。小型馬である可能性が高い。歯冠高から、死亡年齢は約7歳の牡馬であると推定される。

5. IV区出土獣骨

IV区では、2・3面の間からのみ獣骨が出土しているので、2・3面の間出土獣骨を記載する。

(1) 2・3面の間出土獣骨(中世以降)

2・3面の間から、馬(ウマ)の上顎左M2(第2大白歯)が出土した。大型馬である。歯冠高から、死亡年齢は約5歳～6歳の幼駒馬～牡馬であると推定される。

6. V区出土獣骨

V区では、148号住居の遺構から獣骨が出土している。しかしながら、カマド掘り方覆土からの出土であり、焼骨の一部である。人骨が無いことは間違いないが、種の同定及び部位の同定は不可能であった。恐らく、調理された獣骨であると推定される。

7. VI区出土獣骨

VI区では、54号住居・71号住居・89号住居・91号住居・14号溝・15号溝・40号溝・44号溝・52号溝の9の遺構及び、覆土から獣骨が出土している。この内、52号溝出土獣骨を記載する。

(1) 52号溝出土獣骨[P-22・P-46・P-47・P-49](15世紀)

52号溝から、馬(ウマ)の骨(P-45)及び歯が7つに分けて取り上げられている。同定された部位は、上顎右M2(第2大白歯)[P-22]・下顎左P4(第4小臼歯)[P-46]・下顎左P3(第3小臼歯)[P-47]・下顎右P4(第4小臼歯)[P-49]である。大型馬(p-22)と中型馬(p-22以外)である。死亡年齢は、歯冠高より、それぞれ、約9歳[P-22]・約7歳[P-46]・約9歳[P-47]・約7歳[P-49]の牡馬であると推定される。

8. VII区出土獣骨

VII区では、31号土坑・8号溝・10号溝・11号溝・19号溝・20号溝の6の遺構及び、試掘トレンチから獣骨が出土している。この内、11号溝出土獣骨を記載する。

(1) 11号溝出土獣骨(中世以降)

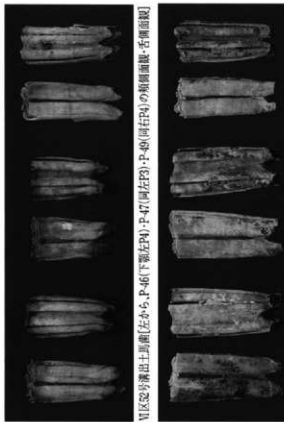
11号溝覆土から、馬(ウマ)の歯が3本出土している。歯種は、下顎右P3(第3小臼歯)・下顎左P3(第3小臼歯)・下顎左M1(第1大白歯)である。大型馬である。死亡年齢は、歯冠高より、それぞれ、約5歳～6歳(下顎右P3)と約6歳(下顎左M1)の幼駒馬と牡馬であると推定される。これら、3本の馬歯は、色や形も似通っているため、恐らく同一個体であると推定される。

考 察

横高江久保遺跡の0区～VII区から、主に馬及び牛の歯が多数出土した。これらの獣骨の所属年代は様々であるが、皮革生産や骨角加工に使用した馬牛馬を解体後に処理した例や祈雨祭祀や井戸を埋める際の祭祀のために殉殺した例であると推定される。

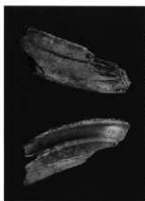
ま と め

横高江久保遺跡の0区～VII区から、多数の獣骨が出土した。しかしながら、ほとんどが馬か牛の歯であり、破損しているものも多いため、記載できたのは出土獣骨の一部である。表2に出土獣骨を、表3に記載獣骨の計測値を、すべての

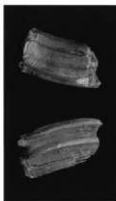


V区52号溝出土馬歯[左から、P-46(下顎左P4)、P-47(同左P3)、P-49(同左P4)の頬側面観・舌側面観]

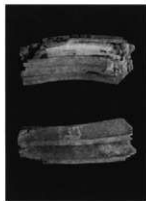
III区11号溝(覆土)出土馬歯[左から、それぞれ下顎右P3・同左P3・下顎左M1の頬側面観・舌側面観]



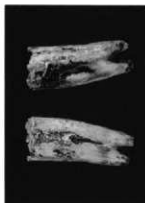
II区Kg-85G(4面)出土馬歯[上顎右M3]



III区2面(覆土)出土馬歯[上顎右M3]



V区2・3面の同出土馬歯[上顎左M2]



II区S-18水田(No.12)出土馬歯[下顎右P3]



III区5面水郷(覆土)出土馬歯[下顎右P4]



III区3面(覆土)出土馬歯[上顎左M1]



VI区52号溝(P-22)出土馬歯[上顎右M2]



右側面観

左側面観

図2 棟高辻久保遺跡出土馬歯出土部位図



右側面観

左側面観

図3 棟高辻久保遺跡出土牛歯出土部位図

報告書抄録

書名ふりがな	むなだかつじくほいせき
書名	棟高辻久保遺跡
副書名	一般県道前橋・足門線バイパス(西毛広域幹線道路)建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	3
シリーズ名	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	366
編著者名	菊池 実/橋崎修一郎
編集機関	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20060310
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橋町下箱田784-2
遺跡名ふりがな	むなだかつじくほいせき
遺跡名	棟高辻久保遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんたかさきしひきままち・むなだかまち
遺跡所在地	群馬県高崎市引間町・棟高町(旧群馬県群馬郡群馬町大字引間・棟高)
市町村コード	10345
遺跡番号	
北緯(日本測地系)	362309
東経(日本測地系)	1390052
北緯(世界測地系)	362321
東経(世界測地系)	1390040
調査期間	20000401-20030630
調査面積	35116
調査原因	道路建設工事
種別	集落/田畑/その他
主な時代	縄文/弥生・古墳/奈良平安/中近世/近現代
遺跡概要	集落-弥生・古墳・奈良平安-住居跡226+土坑295+ピット743+溝125+堀立柱建物8+嬰穴状遺構1/中近世・近代-田畑+排水路17+溜池2+石組み暗渠/縄文-配石土坑1
特記事項	旧陸軍前橋飛行場跡地



財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
調査報告書第366集

棟高辻久保遺跡

一般国道前橋・足門線バイパス（西毛広域幹線道路）
建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第3集

第一分冊 本文・遺構図版編

平成18(2006)年3月1日 印刷

平成18(2006)年3月10日 発行

発行／編集 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県流川市北横町下箱田784番地の2

電話0279(82)2511 (代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／上武印刷株式会社